

北斗市

館野6遺跡(2)

－高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書－

第2分冊

Ⅲ－2・3 遺構出土の遺物

平成28年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

北斗市

館野6遺跡(2)

－高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書－

第2分冊

Ⅲ－2・3 遺構出土の遺物

平成28年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

第2分冊（本文Ⅲ－2・3）目次

目次・挿図目次・表目次

Ⅲ 遺構の調査と出土遺物（遺構は盛土遺構以外のものをさす I章参照）	1
2 遺構出土の土器・土製品	1
(1) 竪穴住居	1
(2) 土坑	89
(3) Tピット	89
(4) 焼土	89
(5) 集石	94
(6) 遺物集中	94
3 遺構出土の石器・石製品	98
(1) 竪穴住居	98
(2) 土坑	144
(3) Tピット	144
(4) 焼土	144
(5) 集石	148
(6) 遺物集中	148
4 表	150

第2分冊（本文Ⅲ－2・3）挿図目次

図Ⅲ－2－1 遺構出土土器 H18(1～7)	2	図Ⅲ－2－18 遺構出土土器 H26(1・2)	19
図Ⅲ－2－2 遺構出土土器 H19(1～6)	3	図Ⅲ－2－19 遺構出土土器 H26(3)	20
図Ⅲ－2－3 遺構出土土器 H20(1～4)	4	図Ⅲ－2－20 遺構出土土器 H26(4～6)	21
図Ⅲ－2－4 遺構出土土器 H20(5～14)	5	図Ⅲ－2－21 遺構出土土器 H27(1～8)	23
図Ⅲ－2－5 遺構出土土器 H20(15～21)	6	図Ⅲ－2－22 遺構出土土器 H28(1～11)	24
図Ⅲ－2－6 遺構出土土器 H21(1～5)	7	図Ⅲ－2－23 遺構出土土器 H29(1～4)	25
図Ⅲ－2－7 遺構出土土器 H21(6～9)	8	図Ⅲ－2－24 遺構出土土器 H29(5～8)	26
図Ⅲ－2－8 遺構出土土器 H21(10・11)	9	図Ⅲ－2－25 遺構出土土器 H29(9～12)	27
図Ⅲ－2－9 遺構出土土器 H21(12～20)	10	図Ⅲ－2－26 遺構出土土器 H29(13～16)	28
図Ⅲ－2－10 遺構出土土器 H21(21～28)	11	図Ⅲ－2－27 遺構出土土器 H29(17～24)	29
図Ⅲ－2－11 遺構出土土器 H21(29～35)	12	図Ⅲ－2－28 遺構出土土器 H29(25～29)	31
図Ⅲ－2－12 遺構出土土器 H21(36～40)	13	図Ⅲ－2－29 遺構出土土器 H29(30～33)	32
図Ⅲ－2－13 遺構出土土器 H22(1～6)	14	図Ⅲ－2－30 遺構出土土器 H29(34～37)	33
図Ⅲ－2－14 遺構出土土器 H23(1～6)	15	図Ⅲ－2－31 遺構出土土器 H29(38～50)	34
図Ⅲ－2－15 遺構出土土器 H23(7～21)	16	図Ⅲ－2－32 遺構出土土器 H30(1)・H31(1～7)・ H32(1～3)・H33(1～3)	35
図Ⅲ－2－16 遺構出土土器 H24(1～11)	17	図Ⅲ－2－33 遺構出土土器 H34(1～5)	37
図Ⅲ－2－17 遺構出土土器 H25(1～10)	18		

図Ⅲ-2-34	遺構出土土器	H35(1~8)	……………	38	図Ⅲ-2-69	遺構出土土器	H58(20~23)・H59(1)	……………	83
図Ⅲ-2-35	遺構出土土器	H36(1~5)	……………	39	図Ⅲ-2-70	遺構出土土器	H60(1~7)	……………	85
図Ⅲ-2-36	遺構出土土器	H36(6~12)	……………	40	図Ⅲ-2-71	遺構出土土器	H62(1~7)・H63(1・2)	……………	86
図Ⅲ-2-37	遺構出土土器	H37(1~2)	……………	41	図Ⅲ-2-72	遺構出土土器	H64(1~3)・H65(1~3)・ H66(1・2)・H67(1)	……………	88
図Ⅲ-2-38	遺構出土土器	H38(1~5)	……………	43	図Ⅲ-2-73	遺構出土土器	P45(1・2)・P47(1)	……………	90
図Ⅲ-2-39	遺構出土土器	H38(6~9)	……………	44	図Ⅲ-2-74	遺構出土土器	P54(1)・P55(1)・ P56(1~4)	……………	91
図Ⅲ-2-40	遺構出土土器	H38(10~12)	……………	45	図Ⅲ-2-75	遺構出土土器	P60(1)・TP7(1~3)・ S5(1)	……………	92
図Ⅲ-2-41	遺構出土土器	H38(13~20)	……………	46	図Ⅲ-2-76	遺構出土土器	F65(1・2)	……………	93
図Ⅲ-2-42	遺構出土土器	H39(1~5)	……………	50	図Ⅲ-2-77	遺構出土土器	F82(1~9)	……………	95
図Ⅲ-2-43	遺構出土土器	H39(6~15)	……………	51	図Ⅲ-2-78	遺構出土土器	F82(10~20)	……………	96
図Ⅲ-2-44	遺構出土土器	H39(16~19)	……………	52	図Ⅲ-2-79	遺構出土土器	F82(21~25)	……………	97
図Ⅲ-2-45	遺構出土土器	H39(20~23)	……………	53	図Ⅲ-2-80	遺構出土土器	F82(26~33)	……………	98
図Ⅲ-2-46	遺構出土土器	H39(24~27)	……………	54	図Ⅲ-3-1	遺構出土土器	H18(1~6)	……………	99
図Ⅲ-2-47	遺構出土土器	H39(28~33)	……………	55	図Ⅲ-3-2	遺構出土土器	H18(7~12)	……………	100
図Ⅲ-2-48	遺構出土土器	H39(34~41)	……………	56	図Ⅲ-3-3	遺構出土土器	H18掘り上げ土(1~6)	……………	101
図Ⅲ-2-49	遺構出土土器	H39(42~47)	……………	57	図Ⅲ-3-4	遺構出土土器	H19(1~13)	……………	102
図Ⅲ-2-50	遺構出土土器	H39(48~51)	……………	58	図Ⅲ-3-5	遺構出土土器	H19(14~18)・ H20(1~3)	……………	103
図Ⅲ-2-51	遺構出土土器	H39(52~55)	……………	59	図Ⅲ-3-6	遺構出土土器	H21(1~7)・H23(1)	……………	105
図Ⅲ-2-52	遺構出土土器	H39(56~62)	……………	60	図Ⅲ-3-7	遺構出土土器	H23(2~10)	……………	106
図Ⅲ-2-53	遺構出土土器	H39(63~65)・ H40(1・2)	……………	62	図Ⅲ-3-8	遺構出土土器	H24(1~4)・H25(1~4)	……………	108
図Ⅲ-2-54	遺構出土土器	H41(1~3)	……………	63	図Ⅲ-3-9	遺構出土土器	H25(5~7)・H26(1~5)	……………	109
図Ⅲ-2-55	遺構出土土器	H41(4~7)	……………	64	図Ⅲ-3-10	遺構出土土器	H26(6~9)・H27(1~5)	……………	110
図Ⅲ-2-56	遺構出土土器	H41(8~13)	……………	65	図Ⅲ-3-11	遺構出土土器	H27(6~8)・H28(1・2)	……………	111
図Ⅲ-2-57	遺構出土土器	H42(1・2)・H43(1~3)・ H44(1・2)・H45(1・2)	……………	66	図Ⅲ-3-12	遺構出土土器	H28(3~11)	……………	112
図Ⅲ-2-58	遺構出土土器	H46(1~9)	……………	68	図Ⅲ-3-13	遺構出土土器	H28(12~15)	……………	113
図Ⅲ-2-59	遺構出土土器	H47(1・2)・H48(1・2)・ H49(1)・H50(1)・H51(1~8)	……………	69	図Ⅲ-3-14	遺構出土土器	H29(1~11)	……………	115
図Ⅲ-2-60	遺構出土土器	H52(1・2)・H53(1~3)・ H54(1~3)・H55(1~3)	……………	71					
図Ⅲ-2-61	遺構出土土器	H56(1~5)	……………	72					
図Ⅲ-2-62	遺構出土土器	H56(6)・H57(1~3)	……………	73					
図Ⅲ-2-63	遺構出土土器	H57(4~7)	……………	75					
図Ⅲ-2-64	遺構出土土器	H58(1~4)	……………	78					
図Ⅲ-2-65	遺構出土土器	H58(5・6)	……………	79					
図Ⅲ-2-66	遺構出土土器	H58(7~10)	……………	80					
図Ⅲ-2-67	遺構出土土器	H58(11~14)	……………	81					
図Ⅲ-2-68	遺構出土土器	H58(15~19)	……………	82					

図Ⅲ-3-15 遺構出土石器 H29(12~16) ……	116	図Ⅲ-3-30 遺構出土石器 H52(4~8)・H53(1・2)	133
図Ⅲ-3-16 遺構出土石器 H30(1~8) ……	117	……………	
図Ⅲ-3-17 遺構出土石器 H31(1~5) ……	118	図Ⅲ-3-31 遺構出土石器 H54(1~5) ……	135
図Ⅲ-3-18 遺構出土石器 H31(6~10)・H32(1)		図Ⅲ-3-32 遺構出土石器 H55(1~5)・H56(1~3)	
……………	119	……………	136
図Ⅲ-3-19 遺構出土石器 H33(1~7) ……	120	図Ⅲ-3-33 遺構出土石器 H57(1~3)・H58(1~7)	
図Ⅲ-3-20 遺構出土石器 H34(1~6)・H35(1・2)		……………	137
……………	122	図Ⅲ-3-34 遺構出土石器 H60(1~7) ……	138
図Ⅲ-3-21 遺構出土石器 H35(3)・H36(1~3)・		図Ⅲ-3-35 遺構出土石器 H62(1~5)・H63(1)	
H37(1~6) ……	123	……………	140
図Ⅲ-3-22 遺構出土石器 H37(7~14)・H38(1)		図Ⅲ-3-36 遺構出土石器 H64(1~4)・H65(1)・	
……………	124	H66(1・2) ……	141
図Ⅲ-3-23 遺構出土石器 H38(2~5)・H39(1~12)		図Ⅲ-3-37 遺構出土石器 H66(3~5)・H67(1~5)	
……………	125	……………	142
図Ⅲ-3-24 遺構出土石器 H39(13~16) ……	126	図Ⅲ-3-38 遺構出土石器 H67(6~11) ……	143
図Ⅲ-3-25 遺構出土石器 H39(17~20)・H40(1)		図Ⅲ-3-39 遺構出土石器 P43(1~17)・	
……………	127	P51(1~3)・P55(1~4) ……	145
図Ⅲ-3-26 遺構出土石器 H41(1~7) ……	129	図Ⅲ-3-40 遺構出土石器 P56(1~7) ……	146
図Ⅲ-3-27 遺構出土石器 H43(1~3)・H44(1~3)		……………	147
……………	130	図Ⅲ-3-41 遺構出土石器 P56(8~16) ……	147
図Ⅲ-3-28 遺構出土石器 H45(1・2)・H46(1)・		図Ⅲ-3-42 遺構出土石器 P56(17~19) ……	148
H49(1)・H51(1~4) ……	131	……………	
図Ⅲ-3-29 遺構出土石器 H51(5~8)・H52(1~3)		図Ⅲ-3-43 遺構出土石器 F79(1~3)・	
……………	132	F82(1~3)・S5(1) ……	149

第2分冊（本文Ⅲ-2・3）表目次

表Ⅲ-4 遺構出土掲載復元土器一覧 ……	150
表Ⅲ-5 遺構出土掲載復元土器接合破片一覧 ……	159
表Ⅲ-6 遺構出土掲載土器破片拓影化一覧 ……	163
表Ⅲ-7 遺構出土石器一覧 ……	171

2 遺構出土の土器・土製品

この項に掲載した土器はいずれも縄文時代の土器である。詳細は「観察表（表Ⅲ－4 遺構掲載復元土器一覧）」に記した。出土位置がわかるものについては第1分冊第Ⅲ章1項の遺構図で「掲載番号1の土器・土製品」ならば「土1」のように示した。復元個体については「観察表（表Ⅲ－4 遺構掲載復元土器一覧）」と別に「接合状況・未接合だが同一個体と思われる破片一覧（表Ⅲ－5 遺構掲載復元土器接合破片一覧）」を示した。復元に至らなかったもので、破片資料を拓影図化したものについては、両者をまとめた体裁の別表（表Ⅲ－6 遺構掲載土器破片拓影化一覧）に示した。当調査範囲において地文の縄文の撚りが複雑な縄文土器が多いため拓本による拓影図を多用した。従って復元個体か否かは図上ではわかりにくい側面を持つ。表Ⅲ－4 復元土器一覧にない個体は表Ⅲ－6に掲載されている。

本文中でNo付きで示された数字はそれぞれの遺構について遺物出土位置を現場で記録した点取り番号である。特に記載が無いものは掲載番号である。No数字の後に（ ）付きで掲載番号を示している場合もある。遺物番号とあるのは遺物収集帳（遺物台帳）上の記録番号である。

(1) 竪穴住居

H18：床面直上とベンチ直上から同一個体の円筒下層d2式が出土している。1～5は覆土1層出土である。1、2は中期前半の土器、3～5は前期後半の土器である。

1は隆帯区画内に半截竹管によりC字型の刺突列が充填される。2は口縁の残存部からいずれも中期前葉、円筒上層a式と考える。1は最初、円筒上層c式の可能性を考えたが、段階H58-1・2と並行する円筒上層a式の最新ものとした。縦区画が横方向に連続する。これが口縁部に上下2段配される。

5は多軸絡条体地文の胴部破片の縁辺を丁寧に擦って円形に成形している。中央に穿孔を持つ。再生土製品と称したものである。3は結束第一種羽状縄文が縦方向に連続してはしる土器である。口縁部文様帯にも結束第一種羽状縄文が2段巡る。4は結束第二種羽状縄文が横回転したものを帯状に3段持つ。いずれも口縁部文様帯の幅が広い。

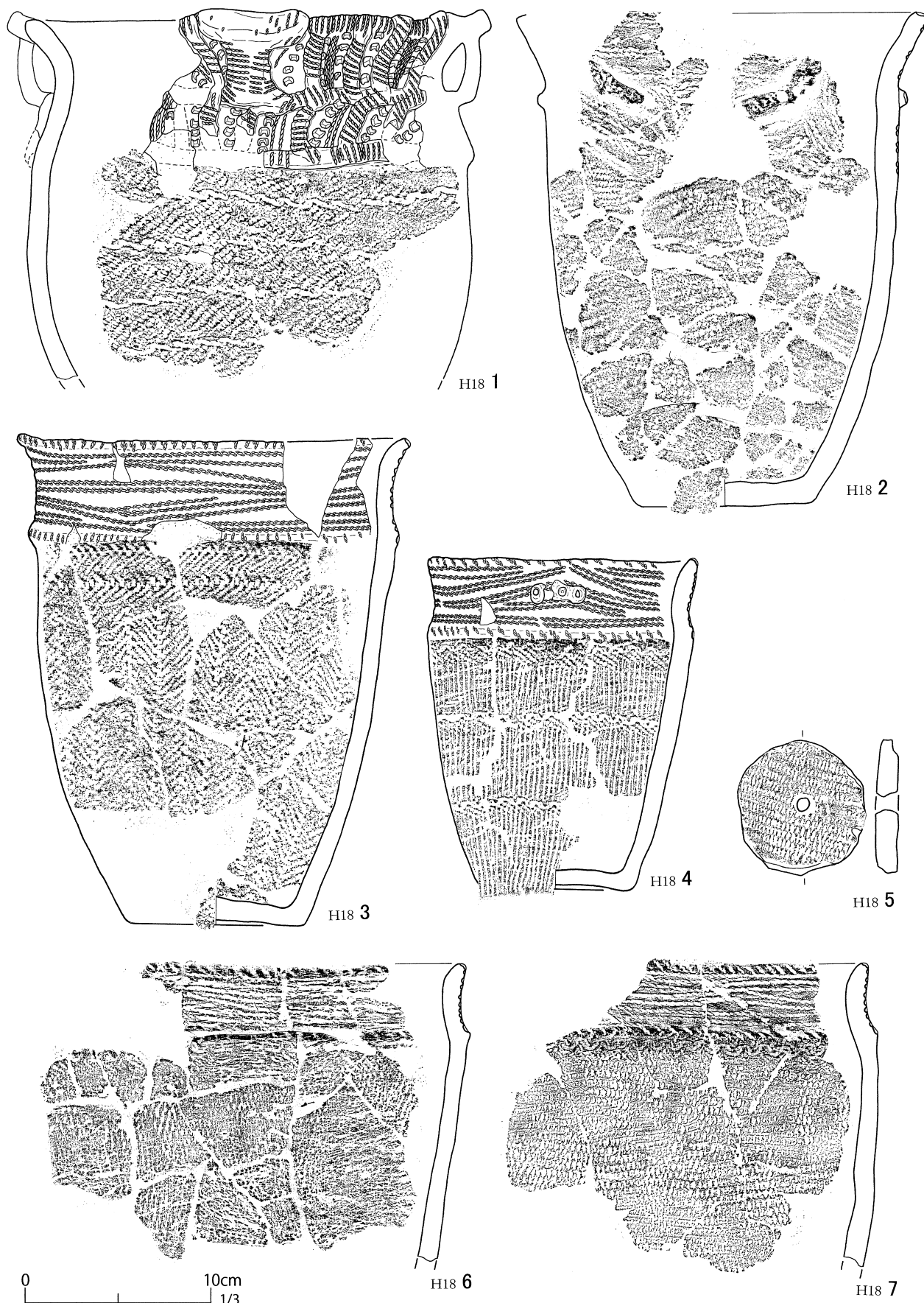
6は床面、7はベンチ上から出土した土器である。いずれも円筒下層d式土器で、同一個体と考える。ベンチと床面で出土土器が共通する事となる。

H19：覆土1層と覆土2層いずれも同一個体のまとまりは無かった。縄文時代前期後半円筒下層b式から円筒下層d2式、さらに一部は中期円筒上層a式まで出土している。また円筒下層b式については磨滅が著しい破片ばかりである。

覆土2層で円筒下層d2式の同一個体のまとまり4が出土している。2は覆土1層、1・3・4は覆土2層からの出土、5は覆土1層と2層出土のものが接合した。2・3は再生土製品である。2は円筒下層d式、3は円筒下層b式の土器片である。1は中期初頭の口縁部破片である。4・5は円筒下層d2式土器である。いずれも口縁部文様帯の幅が広い。5は半截竹管による連続刺突を持ち、4は口縁部文様帯直下に結束第一種羽状縄文が回転する。

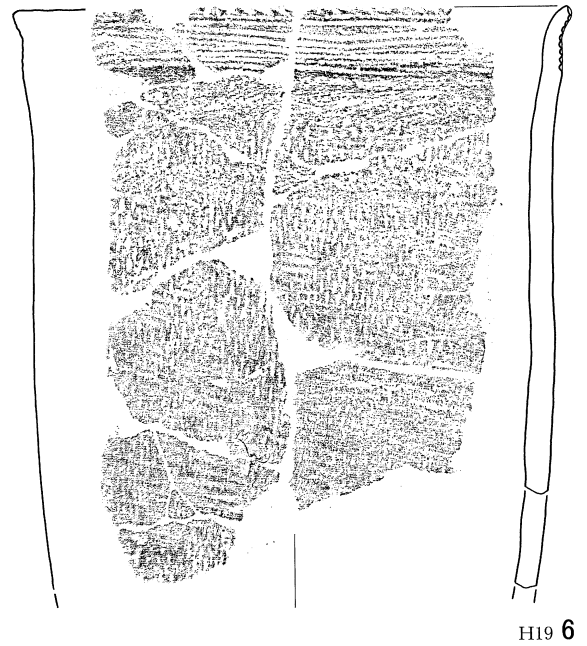
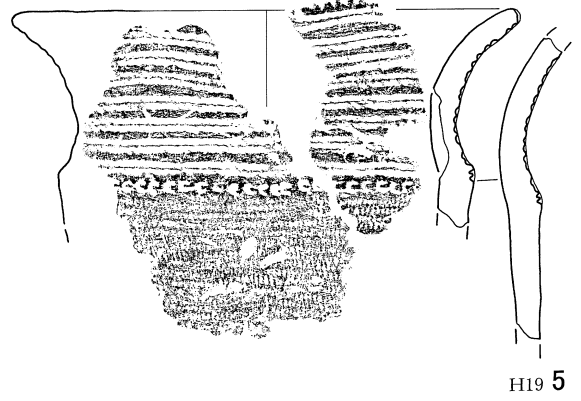
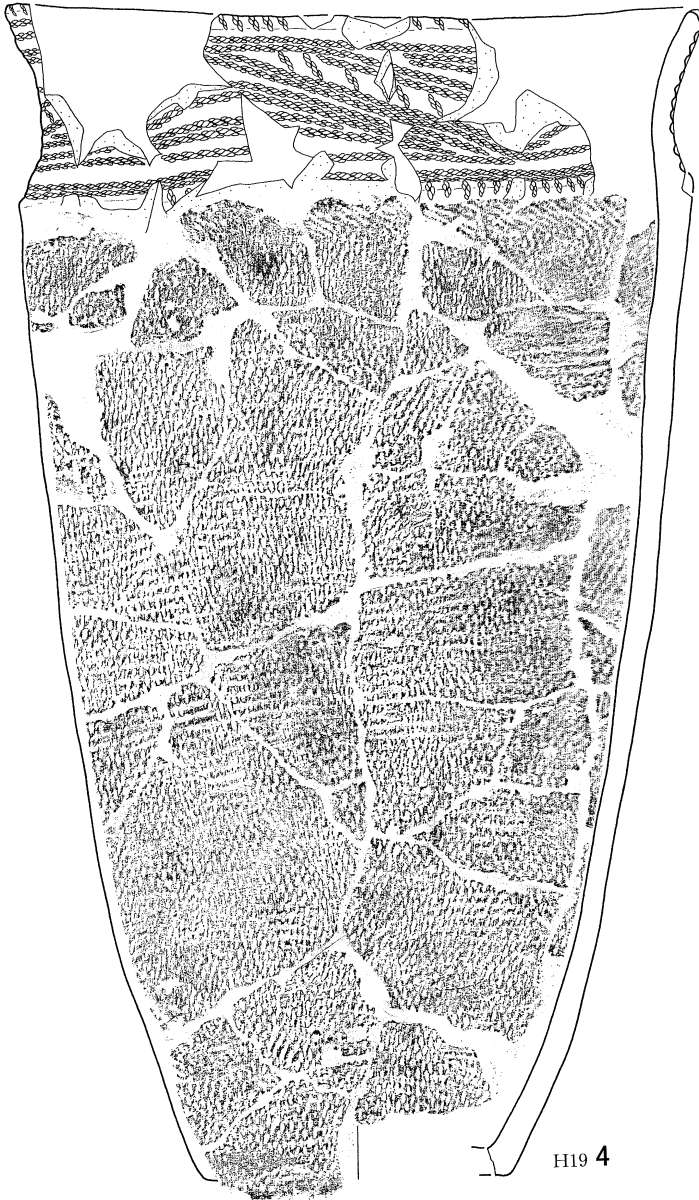
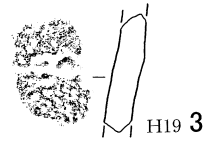
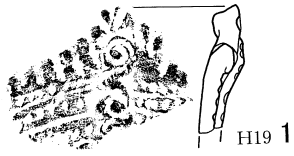
6は床面出土である。口縁部文様帯の幅が狭く、円筒下層d2式最古段階あるいはd1式最新段階と考える。

H18



図Ⅲ-2-1 遺構出土土器 H18(1~7)

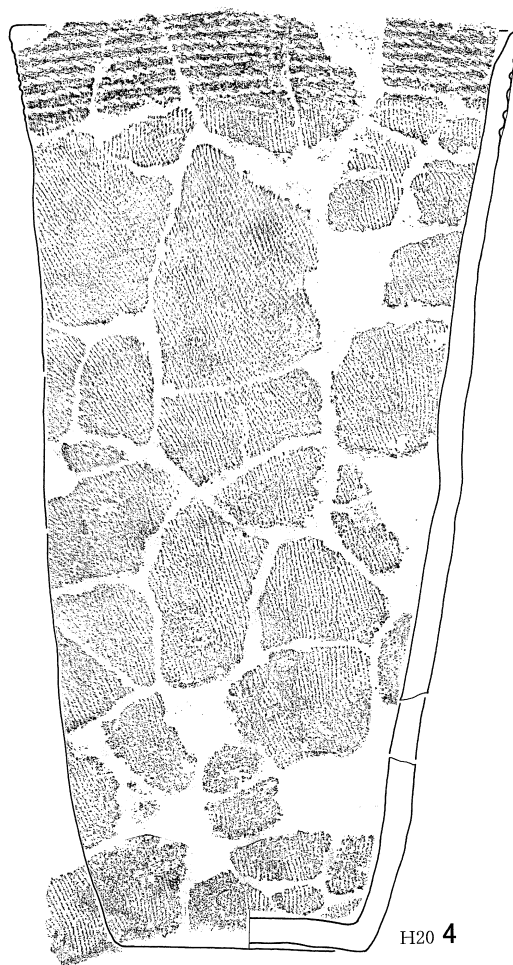
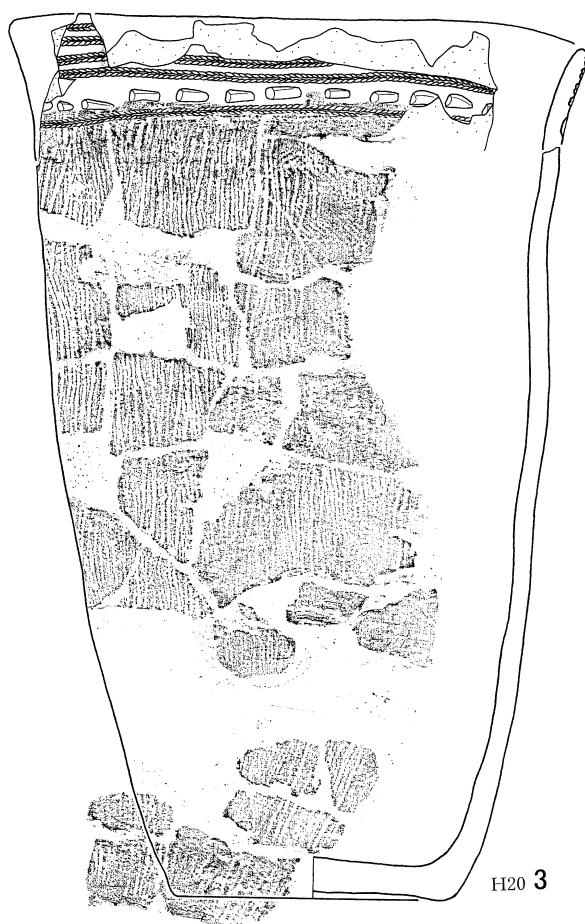
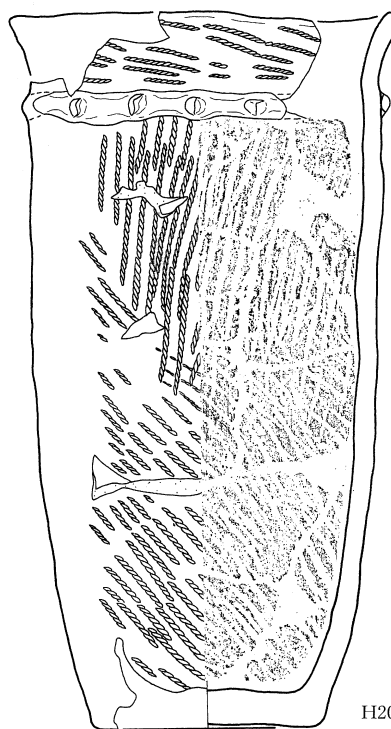
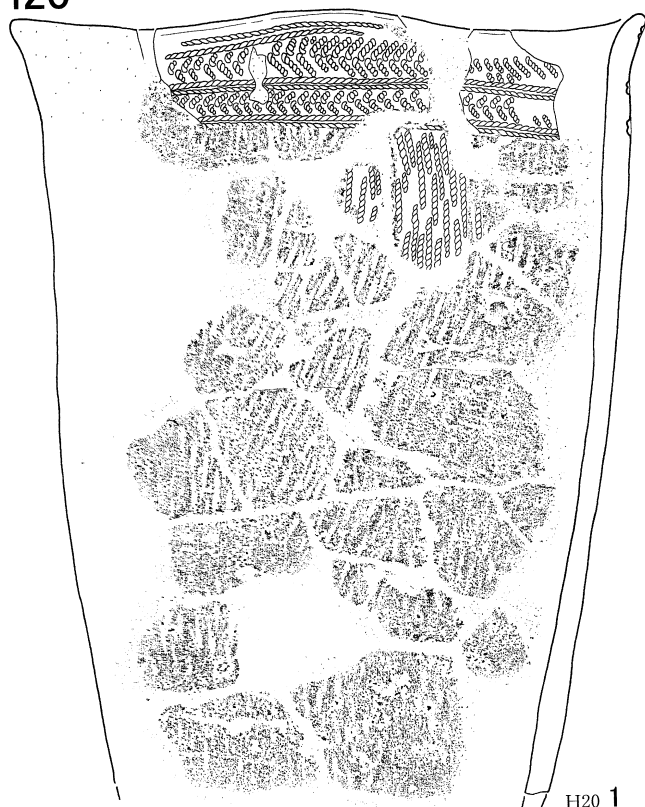
H19



0 10cm
1/3

図Ⅲ-2-2 遺構出土土器 H19(1~6)

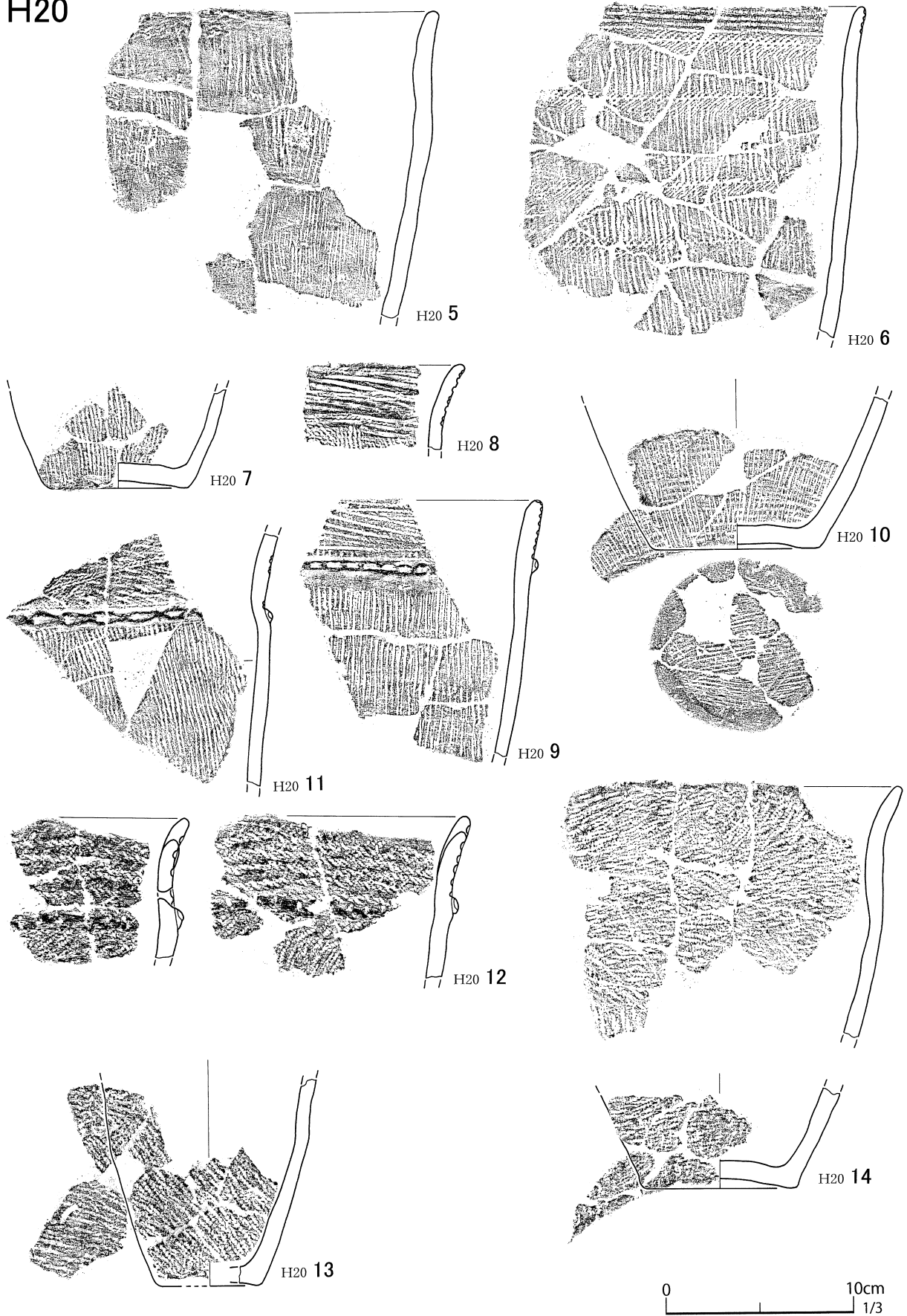
H20



0 10cm
1/3

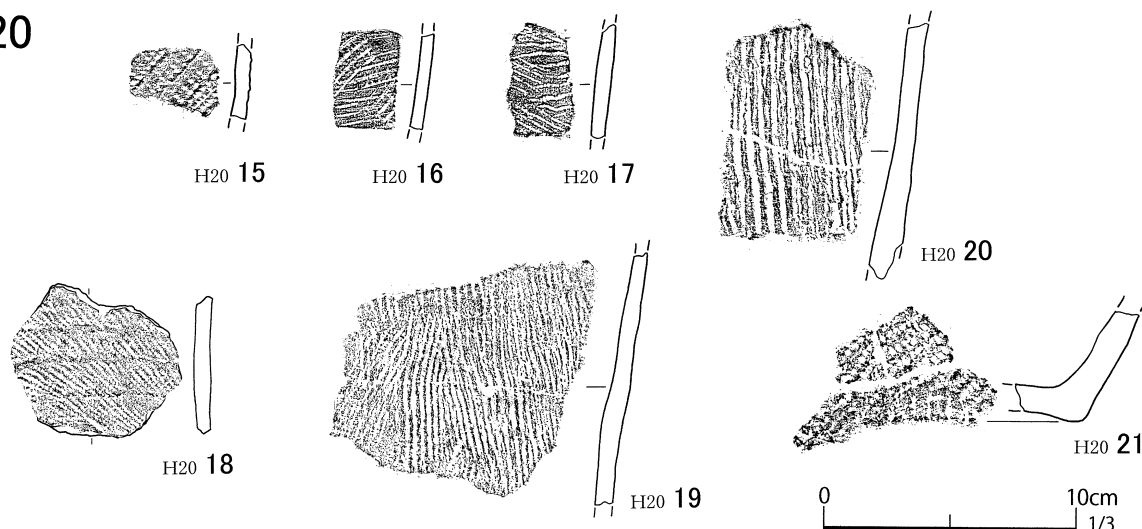
図Ⅲ-2-3 遺構出土土器 H20(1~4)

H20



図Ⅲ-2-4 遺構出土土器 H20(5~14)

H20



図Ⅲ-2-5 遺構出土土器 H20(15~21)

H20：床面の点取りどうしは接合しなかった。復元土器1～4は住居廃絶後の窪みの中央部から出土した。円筒下層b2式から円筒下層d1式にかけての時期であった。

1・3は円筒下層d1式古段階、2は円筒下層b2式、4は円筒下層c式である。いずれもベルトやトレンチといった住居廃絶後、窪みだった場所に廃棄されたものである。拓影図資料についても同様に円筒下層c式から下層d1式までのものが目立つ(5～14)。M4盛土を掘り込んでいる家であり、1・3・4は明らかにM4盛土より新しい。覆土は盛土を掘り返した土の流入土であって縄文時代早期(15～18)から、円筒下層c式(8)、円筒下層d1式(5～7・9・10)までの土器が入り込む。床面からは円筒下層b2～c式(20・21)の破片が出土している。

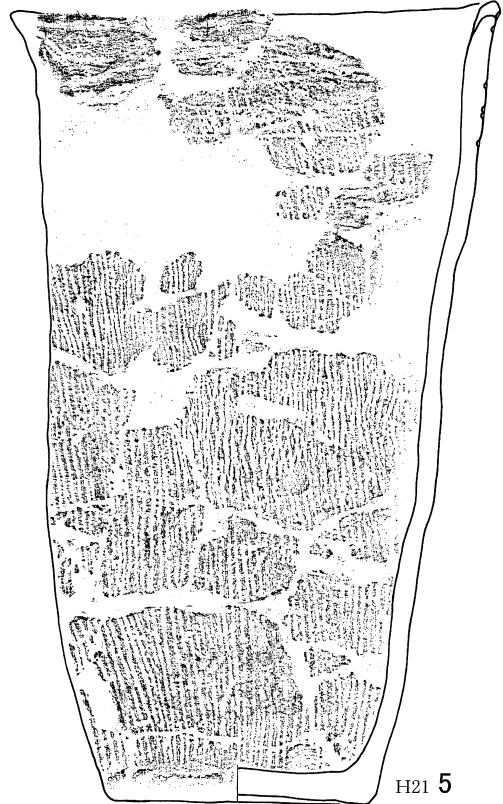
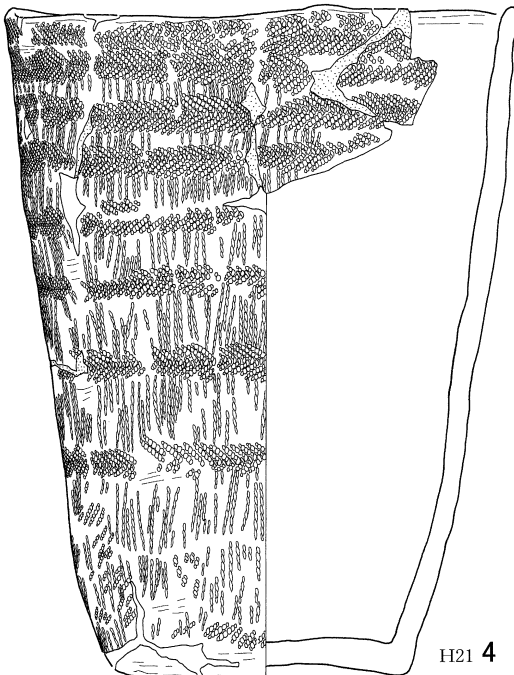
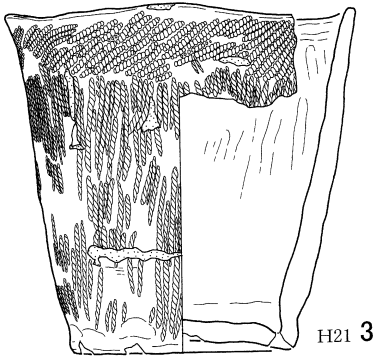
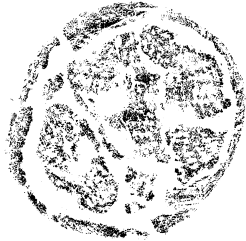
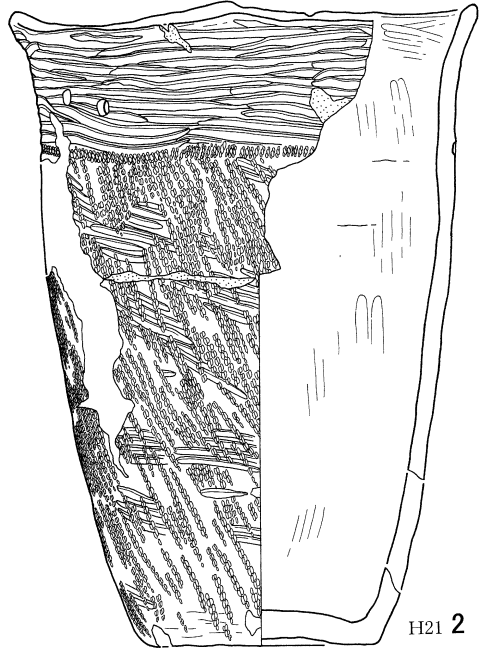
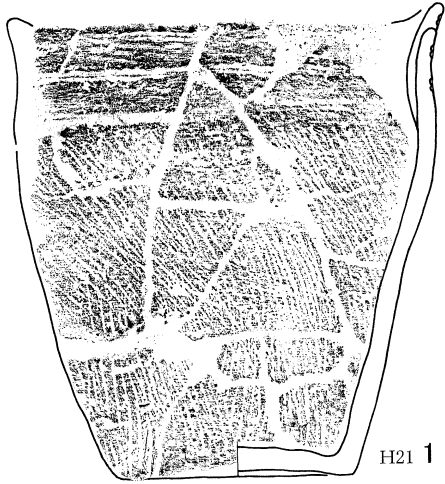
H21：円筒下層c式に限りなく近い下層d1式(1・2・5)が出土するが、残存率は良好ではない。H29に比べると円筒下層c式に近い円筒下層d1式が多い7(HP-11・14ほか出土)・3(覆土7層出土)7層を中心として円筒下層d1式がまとまっている(4～7・10・11)。ここからはH39と接合したH39-53の破片も出土している。より下位の9層から円筒下層d1式古段階である8も出土する。点取り番号No.31は6である。胎土に砂粒が多い点で他の円筒下層d1式と異なっている。RL縄自縄自巻縄文が縦走する。撚りが他のものと比較してゆるい。

7層北側から出土の復元個体3は円筒下層d1式古段階古。7層東側から出土の復元個体6・10は円筒下層d1式古段階古。7層北側と7層東側が接合した、復元個体4・11は円筒下層d1式古段階古。7層北側と7層東側、HP-11・14とも接合したものは、復元個体7で円筒下層d1式古段階古。7層南側から出土の復元個体1・2・5は円筒下層d1式最古段階。7層中央復元H39-53(H39-点取り番号No.27・28・33・34と接合)H21覆土中には菱形を基調とする直線構成の文様がある円筒下層d1式として、復元出来なかった26があるのみ。「円筒下層d1式古段階古」とした、H29覆土下位とH21はほぼ同じ時期である。

覆土9層の8、覆土7層南側からは1・2・5など円筒下層d1式最古段階のものが出土しているが、残存状態が悪い。このころの盛土を掘りこんで逆に流入してきた可能性がある。覆土7層北側を中心に出土した3・4・6・7・9～11は円筒下層d1式古段階古である。

12～14・16・17・26は覆土東側上位から出土した。12は焼成粘土塊である。13・14・16・17・26は円筒下層d1式である。26は中央から東側にかけて覆土上位からの出土である。13のように明瞭な隆帯による口縁部文様帯を区画する個体は調査範囲内では少ない。14の口縁部文様帯には結束第一種羽状縄文の対向がみられる。26は山形文が鋸歯状に連続する。菱形文風である。いずれも円筒

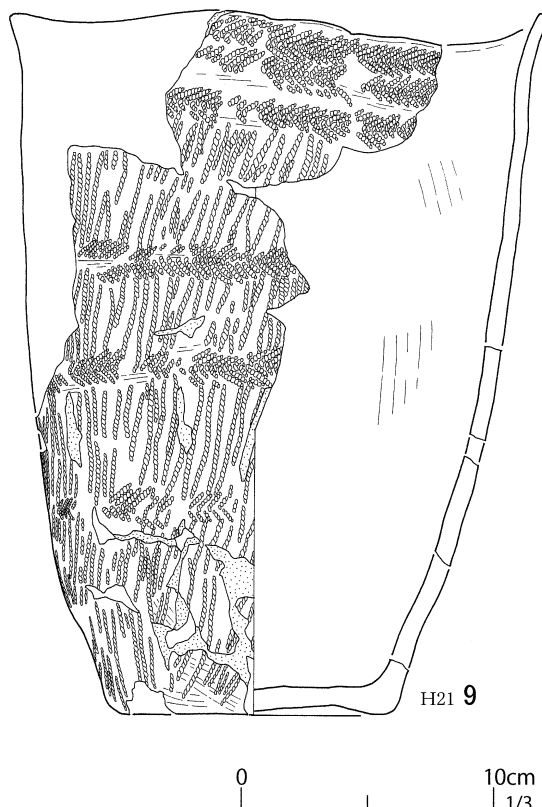
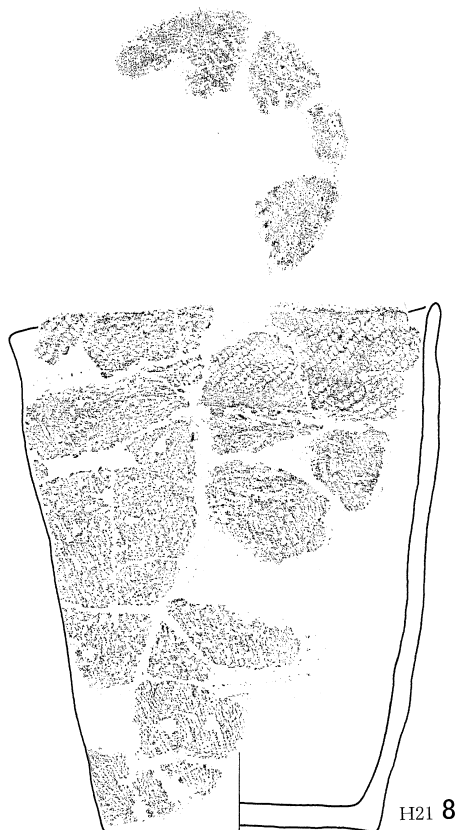
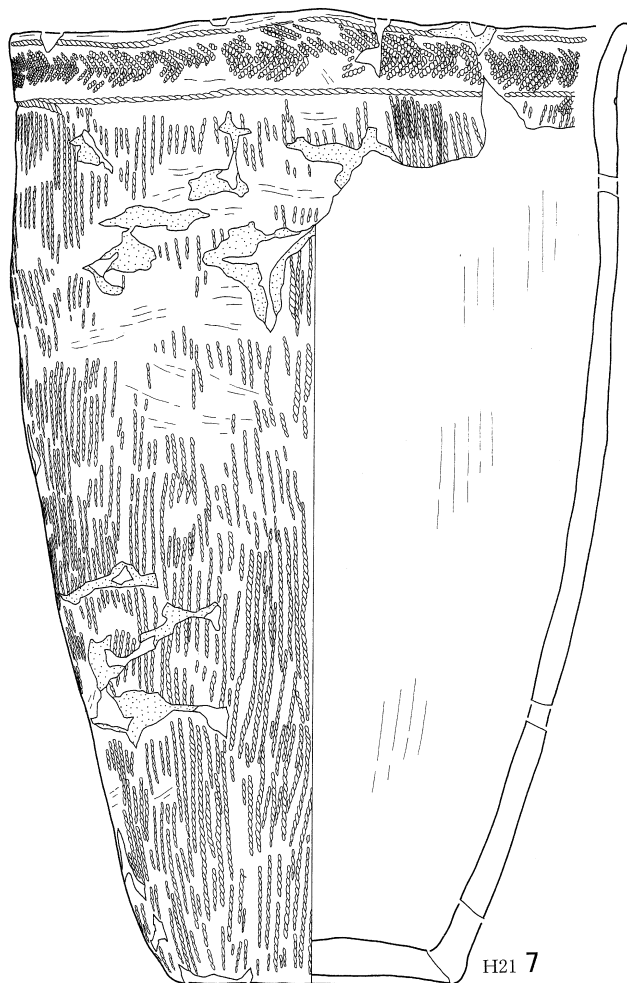
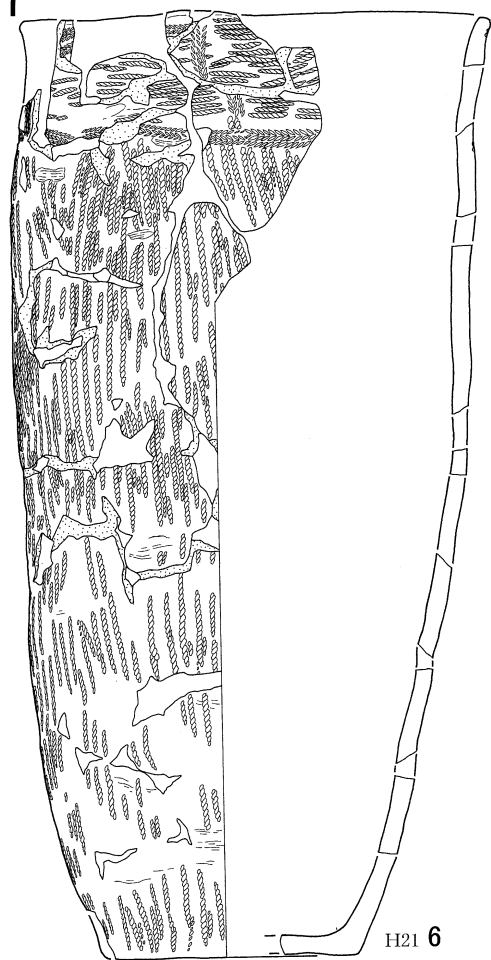
H21



0 10cm
1/3

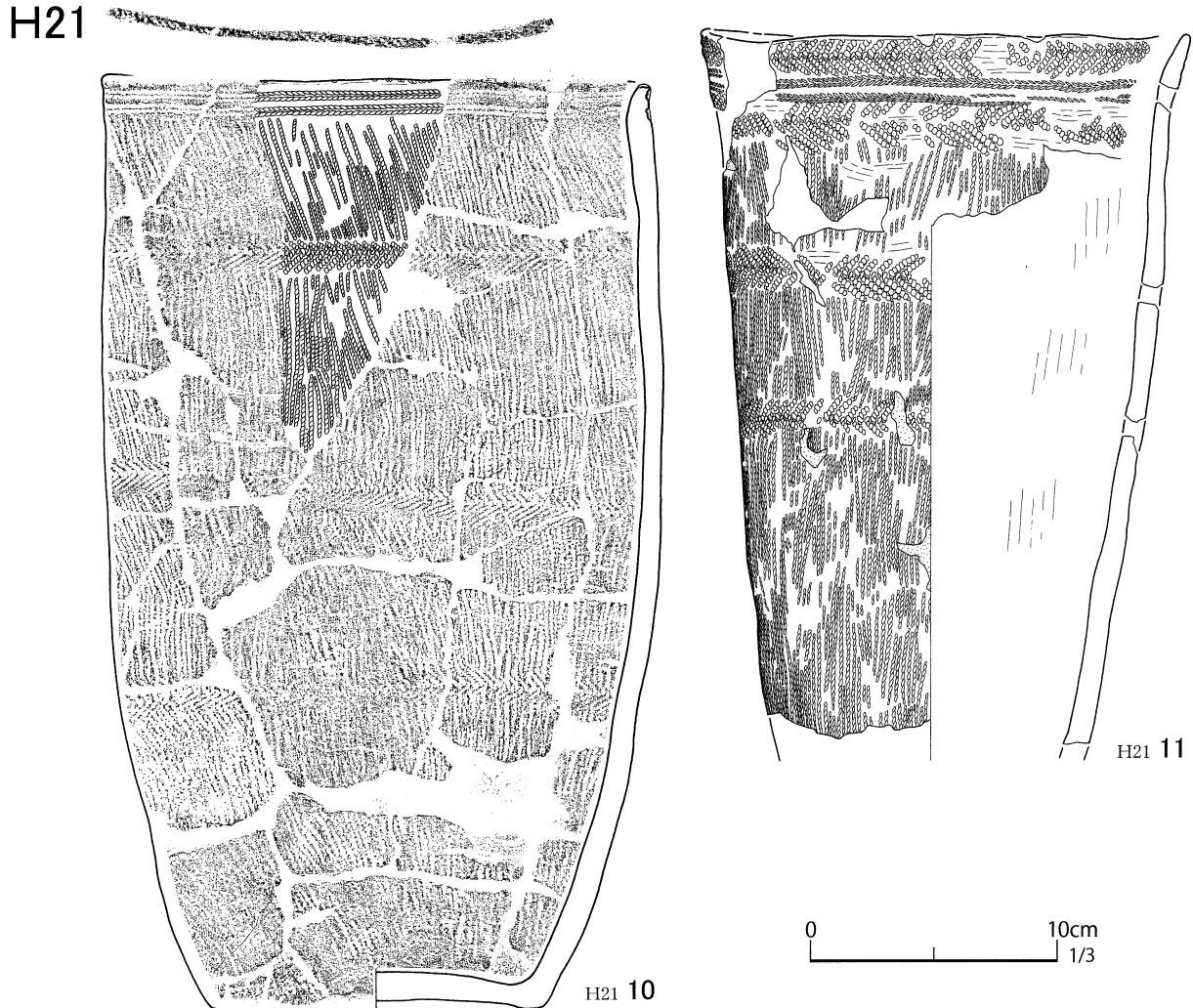
図 III-2-6 遺構出土土器 H21 (1~5)

H21



0 10cm
1/3

図Ⅲ-2-7 遺構出土土器 H21(6~9)



図Ⅲ-2-8 遺構出土土器 H21(10・11)

下層 b 式起源で円筒下層 c 式にかけて盛行した文様に由来する。

15・18・19 は覆土東側壁際から出土した土器片である。15・18 は円筒下層 d1 式、19 は円筒下層 c 式である。地文が合摺りと、古い傾向が残る。肩部で口縁部文様帯を区画するタイプは調査区内では少ない。18 は二対の補修孔を持ち、縁辺を四角く成形した、再生土製品の一種という可能性がある。

20・22～25・28 は覆土東側下位から出土した。20 は東側上位のものと接合した円筒下層 d1 式、28 は円筒下層 c 式、22～25 は焼成粘土塊である。

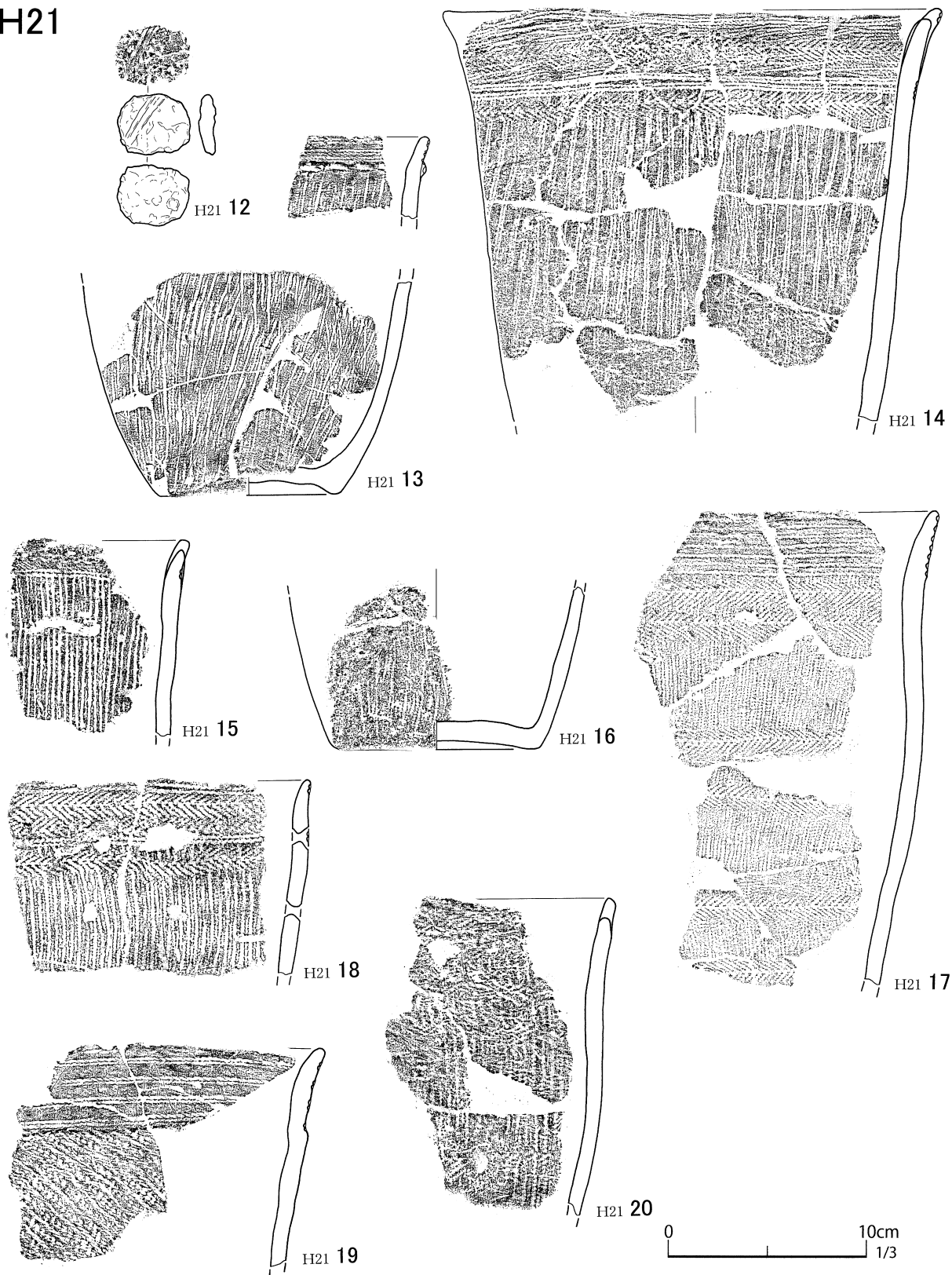
21・27・30・33 は覆土 7 層から出土した。30・33 は覆土 7 層上位からの出土である。30 は円筒下層 b2～c 式期の胴部片を加工したものである。縁辺を打ち欠きと擦り切りによって円形に成形し、ほぼ中央に穿孔する。21・27・33 は円筒下層 d1 式である。21 は、覆土 9 層をはじめとして広範囲に破片が散らばっていた。33 は筒型の深鉢で、一段階前の器形を思わせたが、文様は円筒下層 d1 式のそれである。破片数は多かったが、胴部と口縁部の接点はなかった。

29 は覆土下位から出土した。円筒下層 b 式の底部際破片を成形した再生土製品の可能性がある。

32・36 は覆土 9 層から出土した。32 は円筒下層 d1 式である。36 は円筒下層 b2 式の古段階のものである。縄文地文。隆帯で口縁部を区画する。

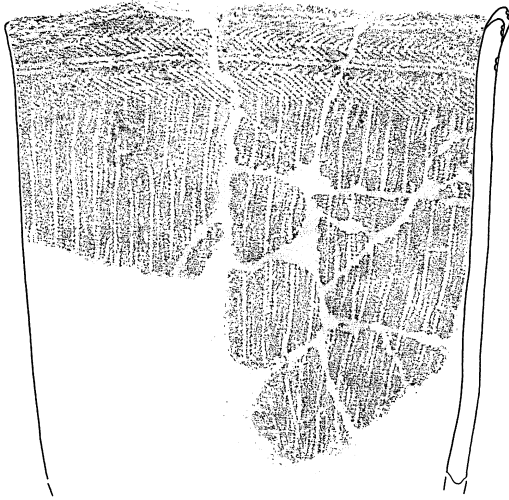
31・35 は覆土上位南側から出土した。34 は覆土上位から出土した。38 は覆土西側から出土した。37・39 は覆土からの出土である。A トレンチからの出土なので住居中央部分である。いずれも円筒

H21



図Ⅲ-2-9 遺構出土土器 H21(12~20)

H21



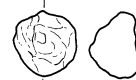
H21 21



H21 22



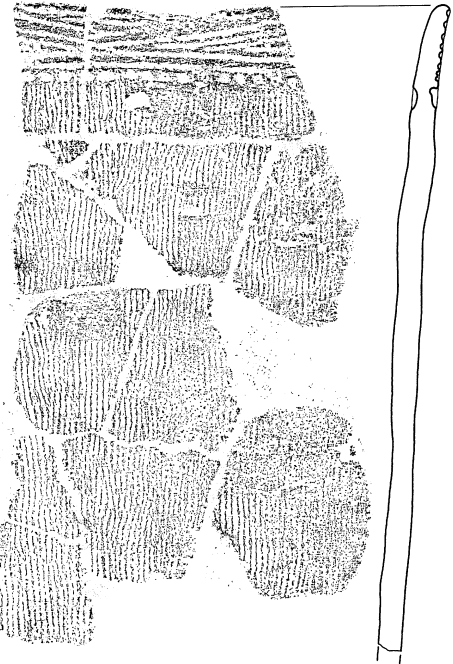
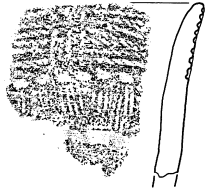
H21 23



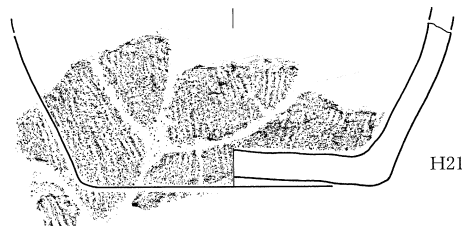
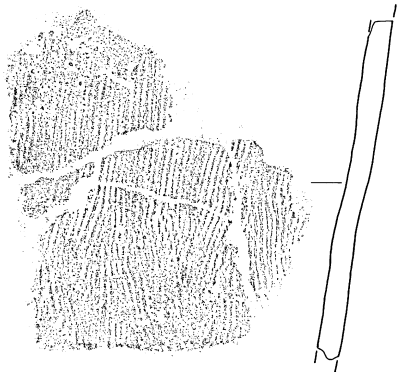
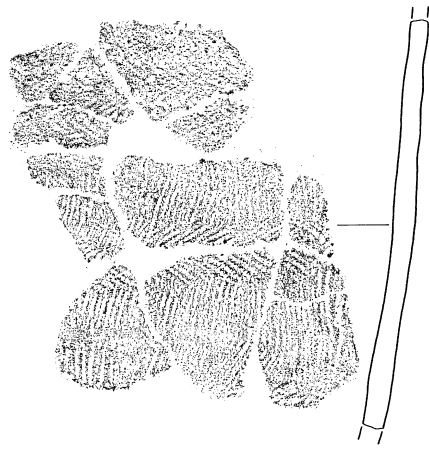
H21 24



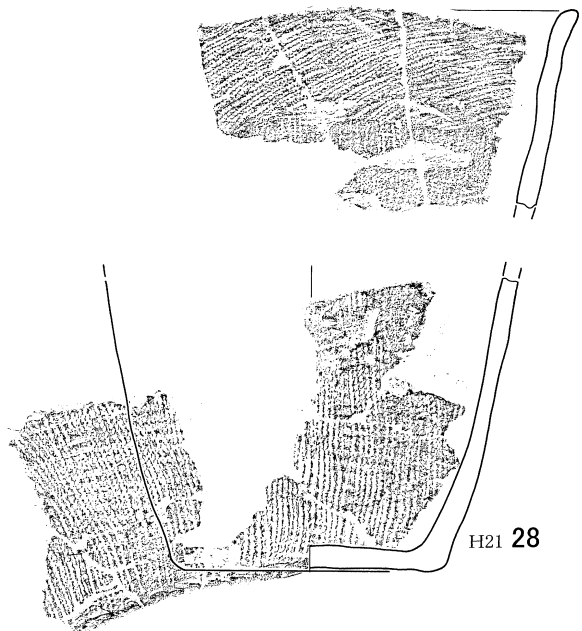
H21 25



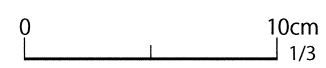
H21 26



H21 27

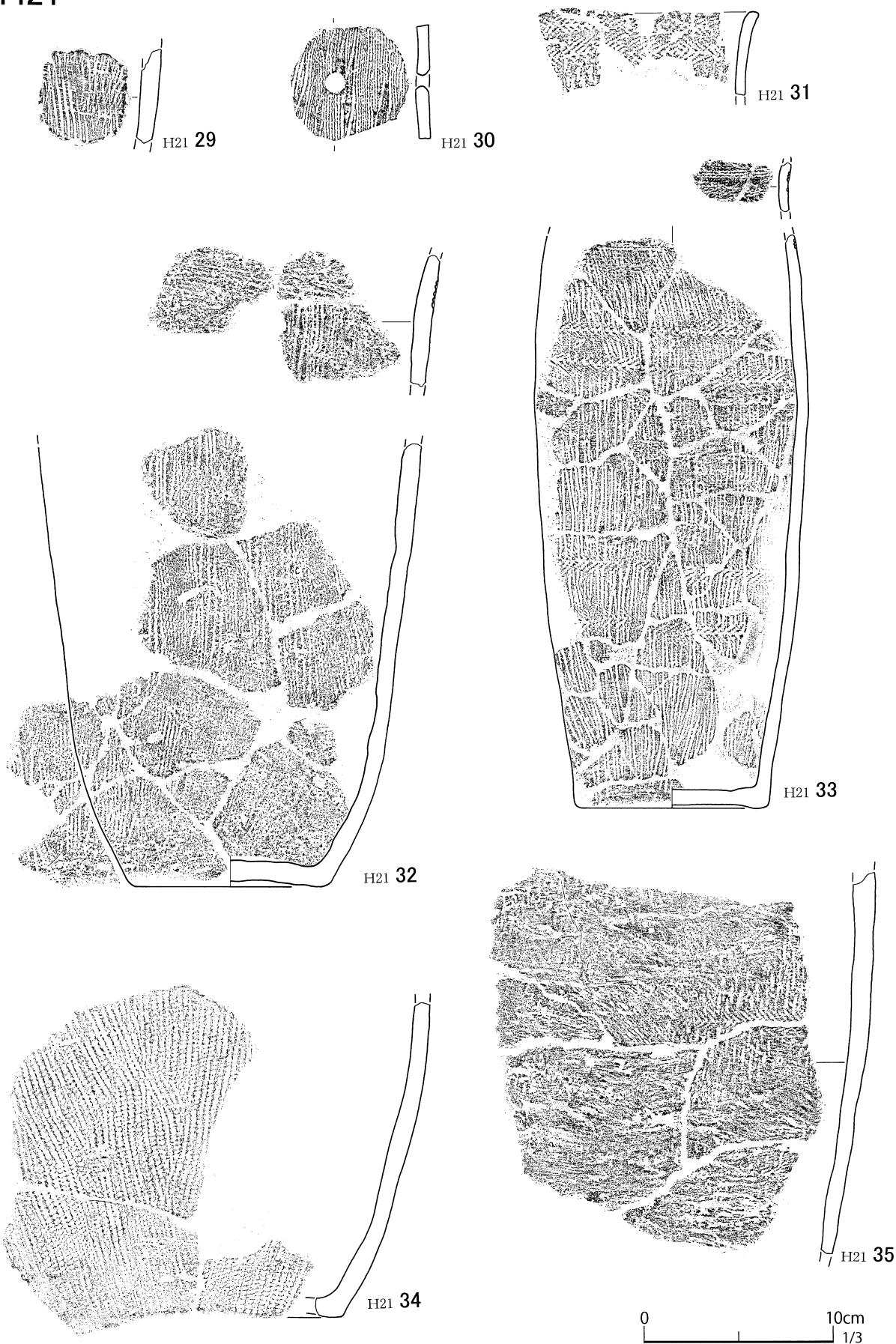


H21 28



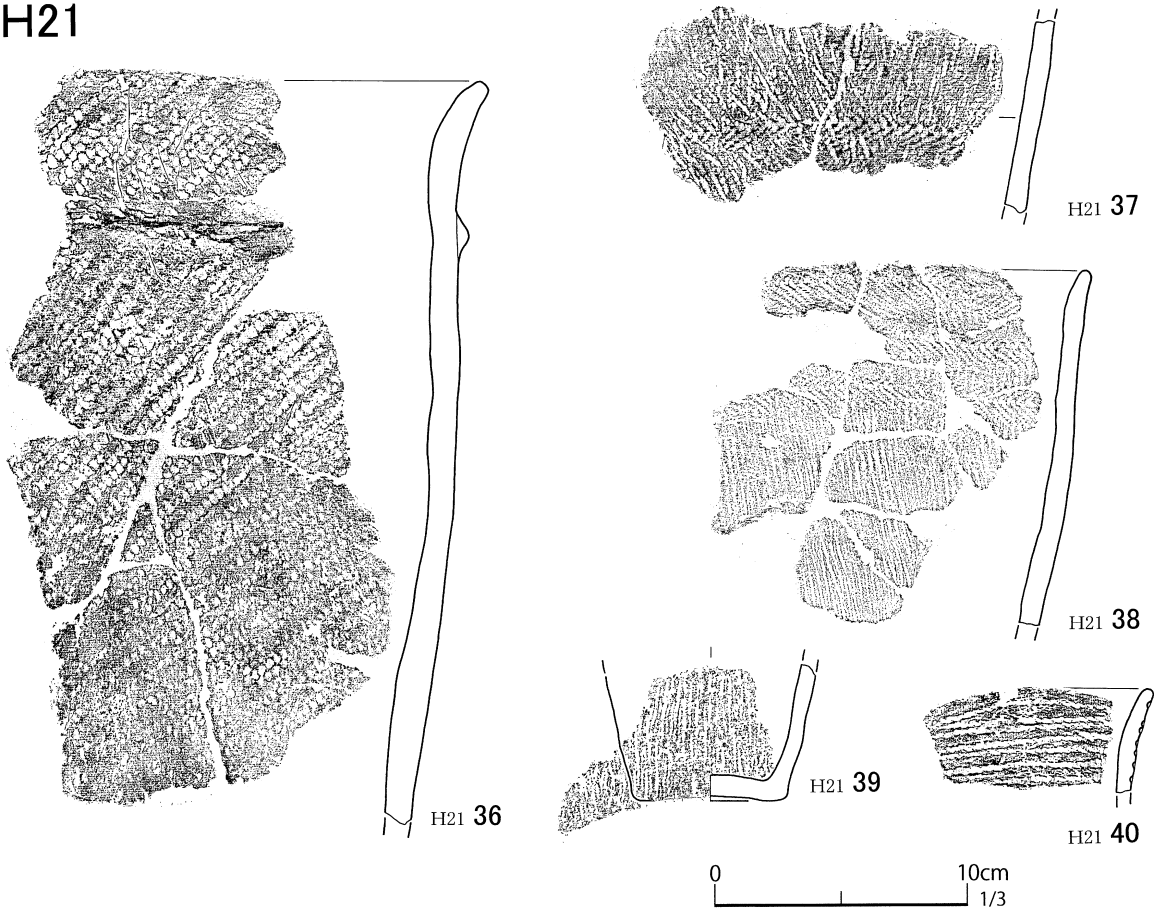
図III-2-10 遺構出土土器 H21 (21~28)

H21



図Ⅲ-2-11 遺構出土土器 H21 (29~35)

H21



図Ⅲ-2-12 遺構出土土器 H21 (36~40)

下層 d1 式である。

40 は床面から出土した円筒下層 c 式の口縁部破片である。縄線で加飾する。

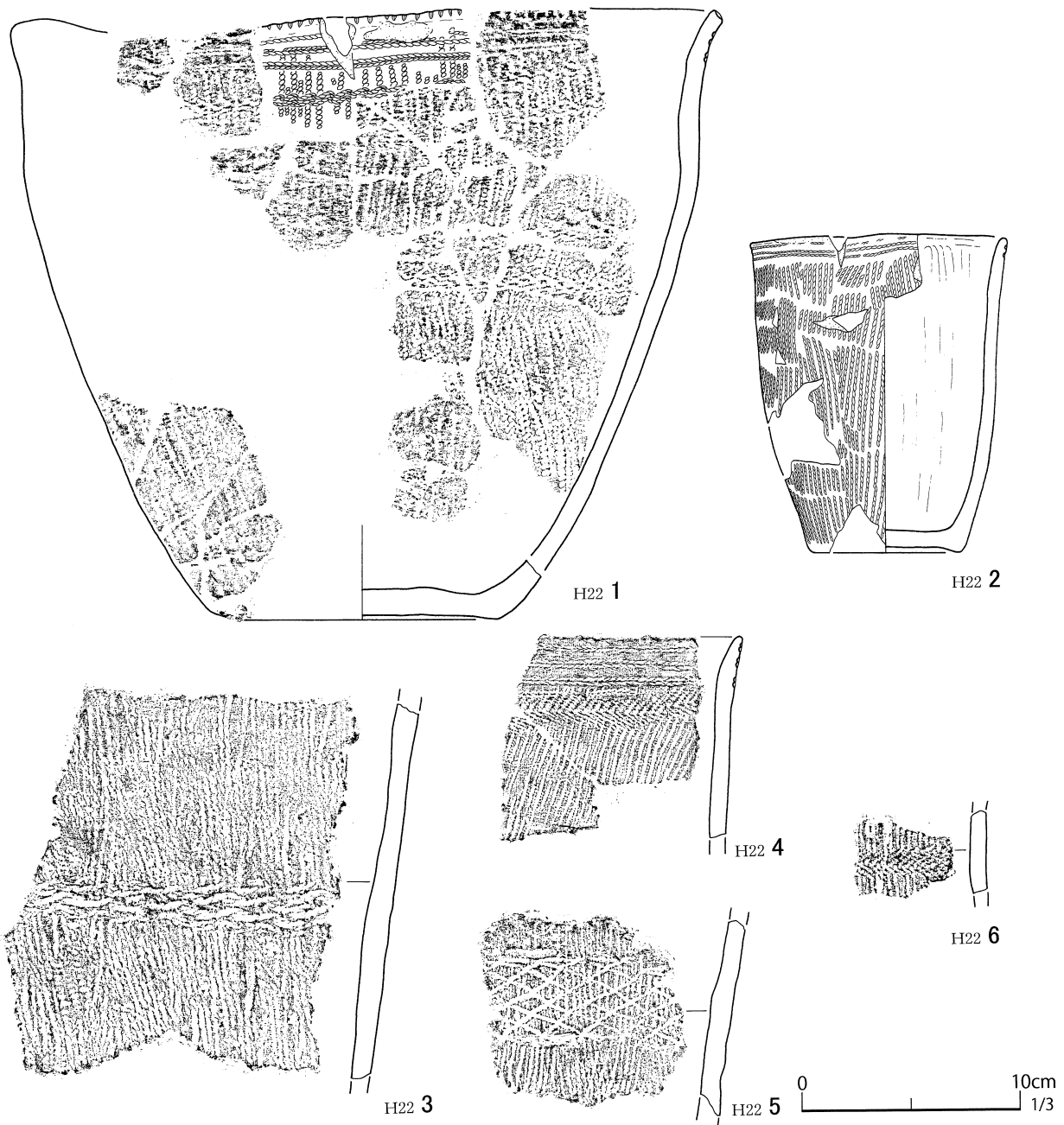
H22：覆土下位から、円筒下層 d1 式古段階（1・2）および HP-2 から、円筒下層 d1 式（6）が出土している。1 は覆土 5 層からまとまって出土した。円筒下層 d1 式で磨滅が著しい。他個体と比較して、器高に比べて径が大きい。2 は覆土東側からまとまって出土した。円筒下層 d1 式で小型の深鉢である。

3・5 は覆土中から出土した円筒下層 b 式の破片である。いずれも胴部中央に帯状の文様帯を持つ。3 は結節回転、5 は単軸絡条体第 5 類横回転。4・6 は円筒下層 d1 式である。4 は覆土の西側から出土し、古段階の可能性はある。6 は付属遺構 HP-22 覆土中から出土した胴部破片である。

H23：1・5・6 は覆土中から出土した円筒下層 d 式土器である。1 は円筒下層 d1 式の小型深鉢。点取り No.1 は円筒下層 d1 式の複数個体の破片によって構成されているが、このうちに混じていた。5 は円筒下層 d2 式で点取り No.3 である。器壁が厚く、肩部が明瞭に張り出す。6 は覆土 3 層から出土した円筒下層 d 式で、結節の帯が胴部中央を巡ることから古手のものだが、幅広い口縁部文様帯を持つ。調査区内でまとまって出土した円筒下層 d1 式よりは新しいあるいは、異系統の土器である。点取り No.3 である。

2・3 は IV 群 a 類土器である。2 は小型深鉢で、口縁部の形態から、涌元式～トリサキ式に並行す

H22



図Ⅲ-2-13 遺構出土土器 H22(1~6)

る。十腰内式由来の沈線文を持たない。3は高台状の脚である。

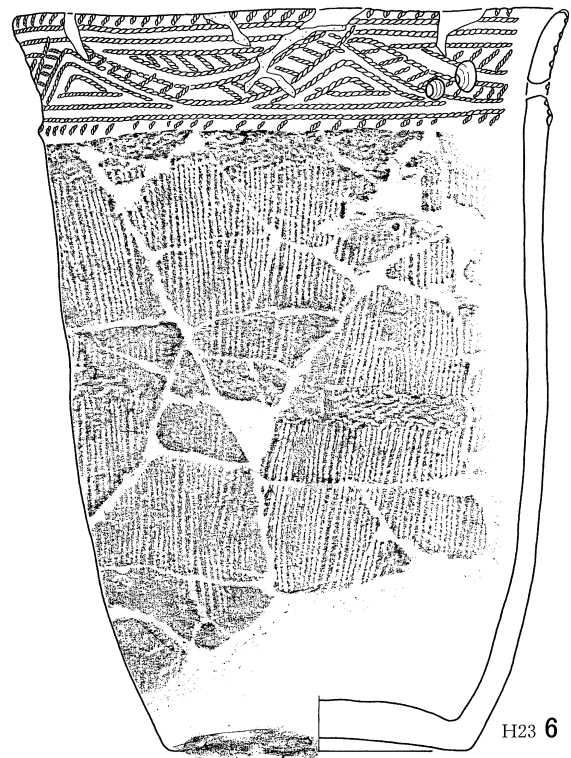
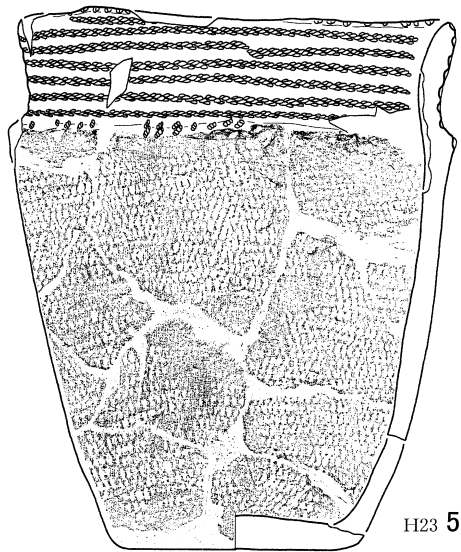
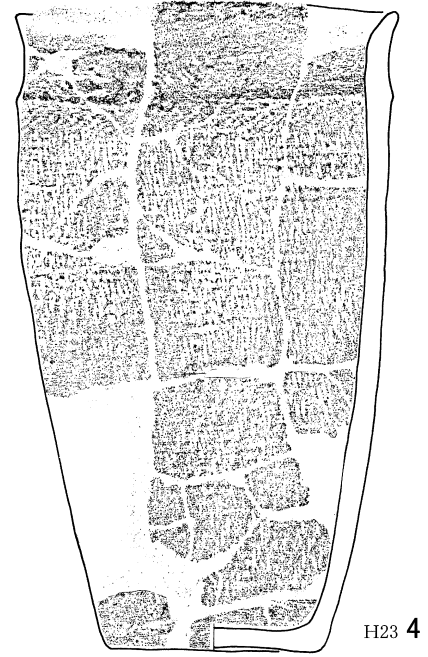
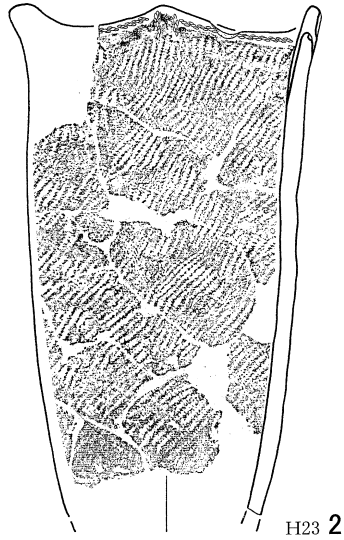
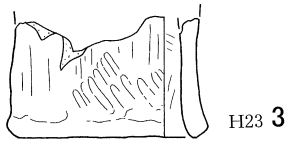
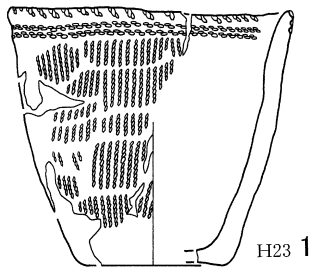
4は覆土2層から出土した円筒下層d1式、円筒下層c式に近い古手のもので磨滅が著しい。点取りNo.2である。多軸絡条体地文を持つ。

7・8・11は点取りNo.1あるいはNo.2に混在していた円筒下層d1式である。7はNo.1、8はNo.2、11はNo.1とNo.2両方の遺物が接合した。

9・12・13は覆土出土点取りNo.3に混在していた。9は円筒下層d1式、12・13は下層d2式の可能性がある。9は胴下半部破片である。12は焼成以前の穿孔を持つ。13は底部から胴部にかけての破片である。

10は覆土出土の焼成粘土塊であり、繊維を含む事から円筒下層式の胎土と共通する。

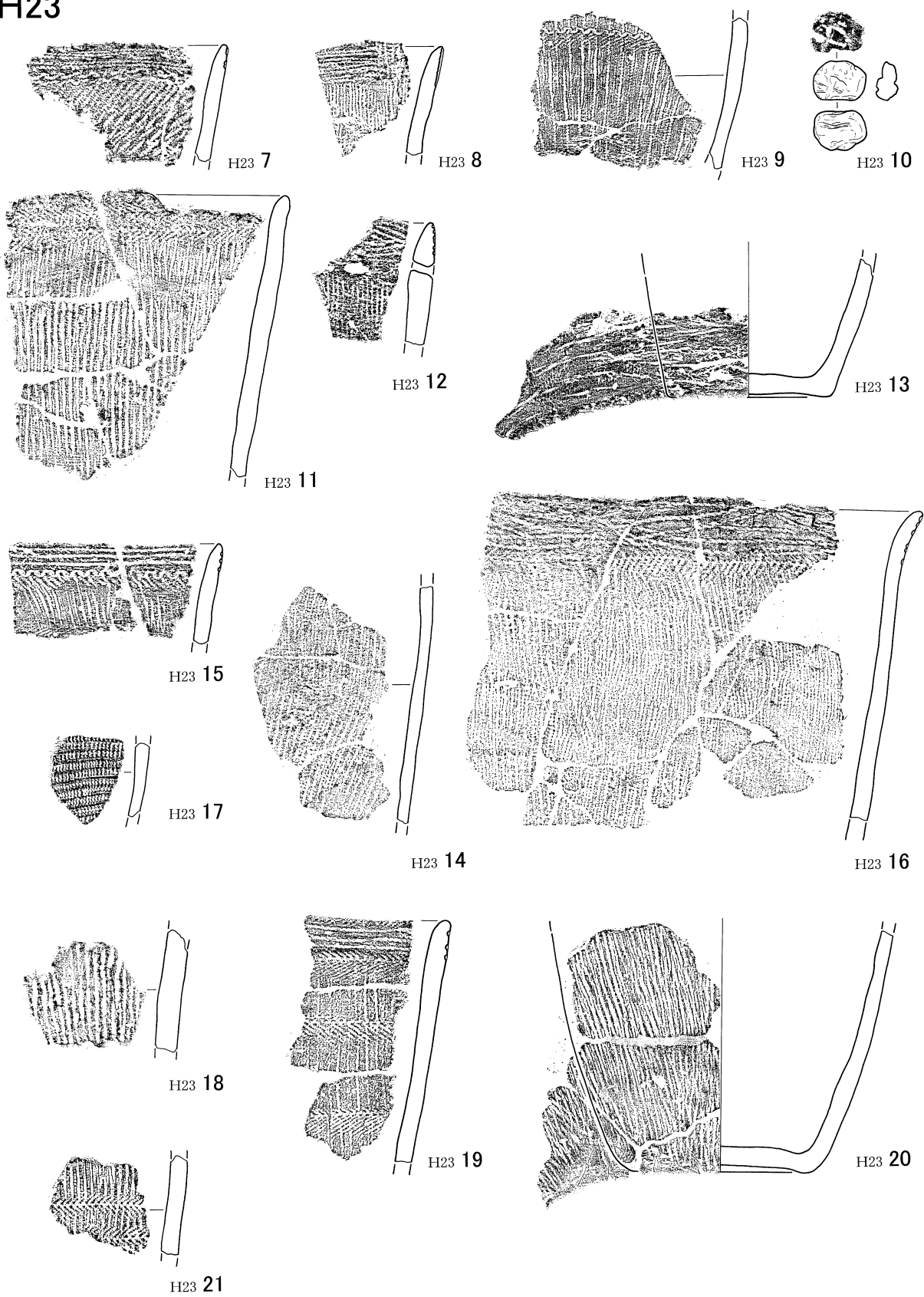
H23



0 10cm
1/3

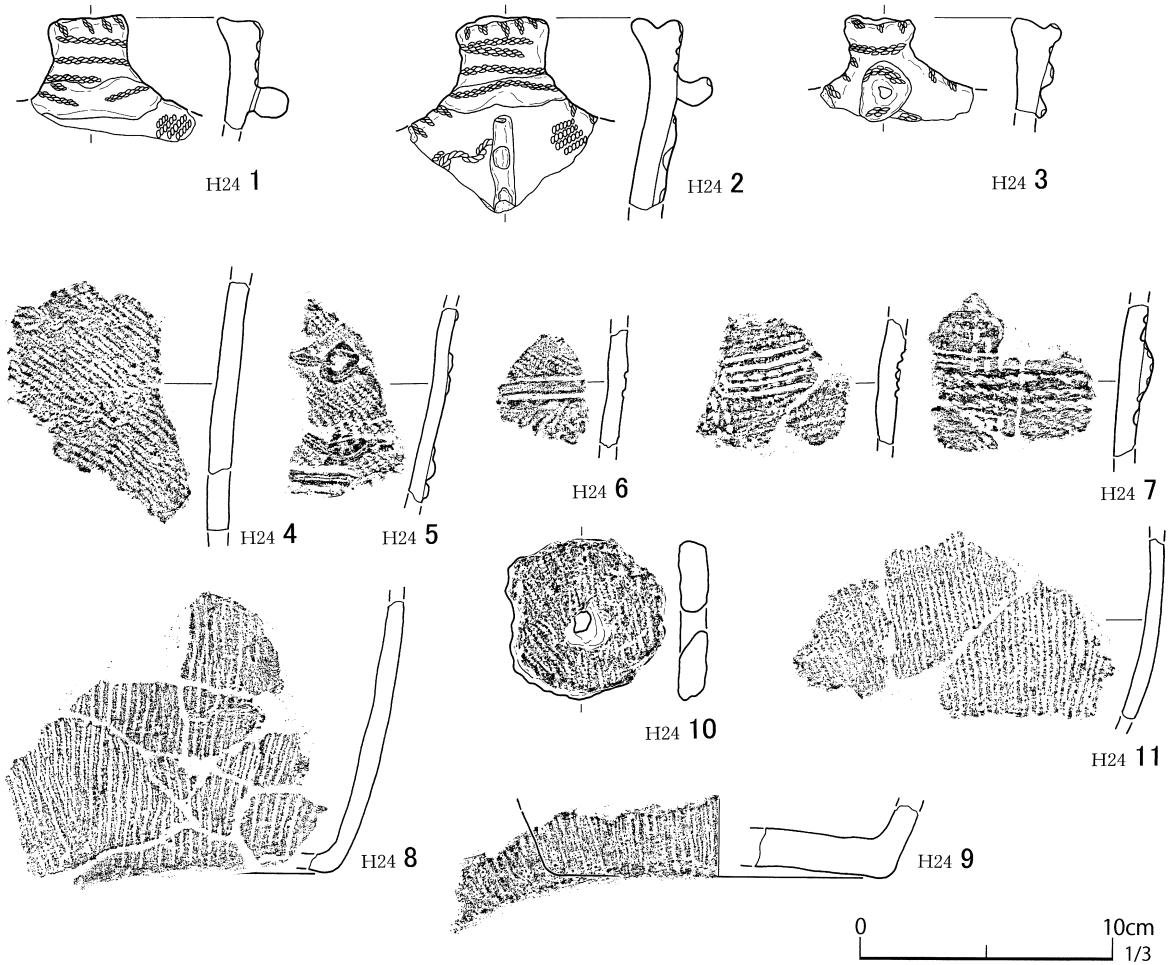
図Ⅲ-2-14 遺構出土土器 H23(1~6)

H23



図Ⅲ-2-15 遺構出土土器 H23(7~21)

H24



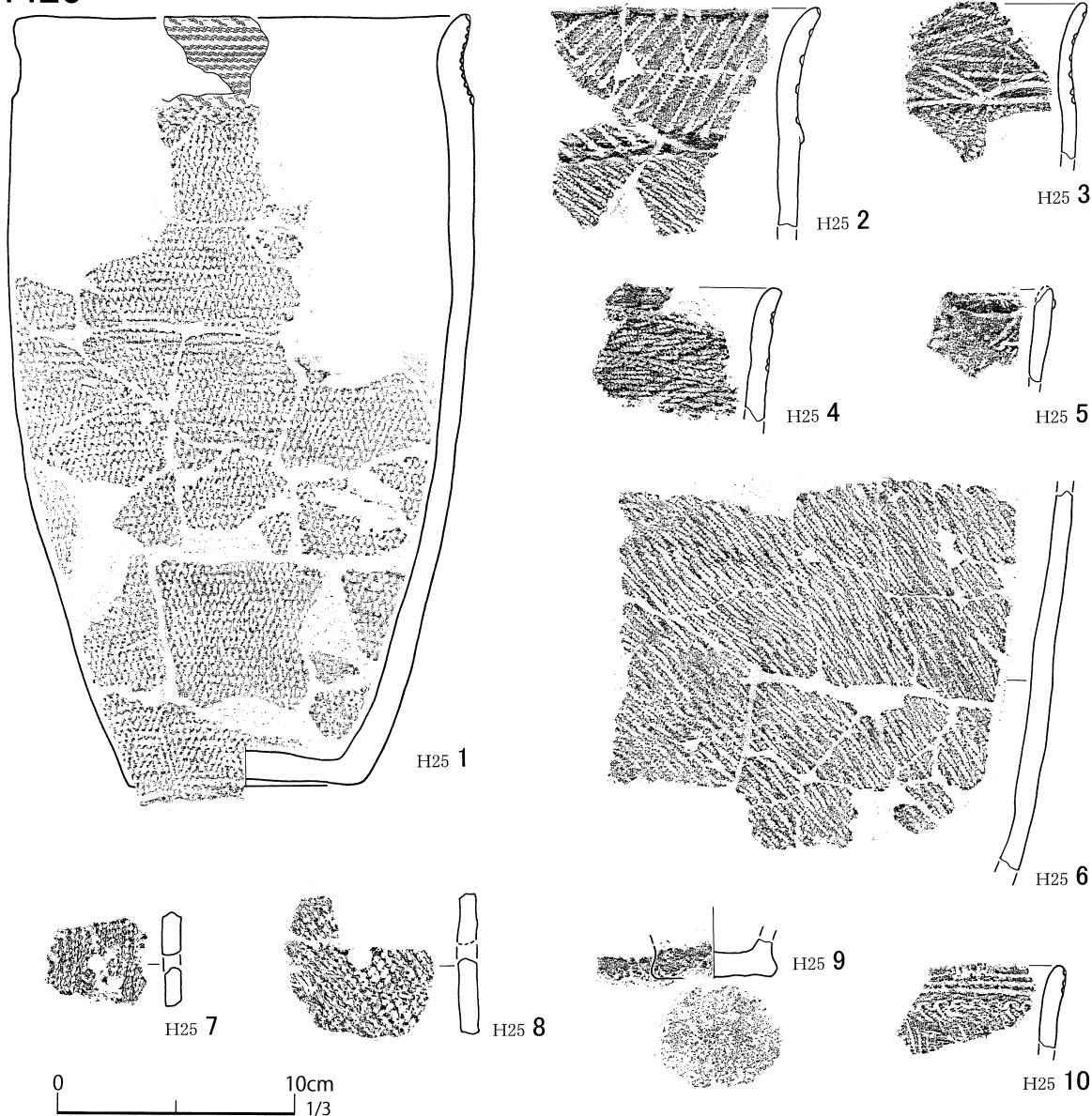
図Ⅲ-2-16 遺構出土土器 H24(1~11)

14・16は点取りNo.4から抽出した円筒下層d1式である。

17~20は覆土からの出土である。19・20は円筒下層d1式である。17は縄文時代早期コッタロ式ないしは中茶路式である。18は円筒下層b式である。21は付属遺構HP-2の覆土から出土した円筒下層d1式土器である。

H24：1は床面出土のものでサイベ沢Ⅶ式である。2~4・6は覆土2層出土遺物で、サイベ沢Ⅶ式である。5は覆土1層と覆土2層出土遺物が接合したもので、円筒上層d式である。7は覆土1層と覆土2層で同一個体片が出土した。Ⅲ群b類大安在B式である。8・9は覆土2層出土遺物で、円筒下層d1式である。10は覆土2層出土で、円筒下層b式から円筒下層c式にかけての土器胴部片である。縁辺を打ち欠き、中央に穿孔がある。11は床面遺物と覆土2層出土遺物が接合した。円筒下層b式後半である。

H25



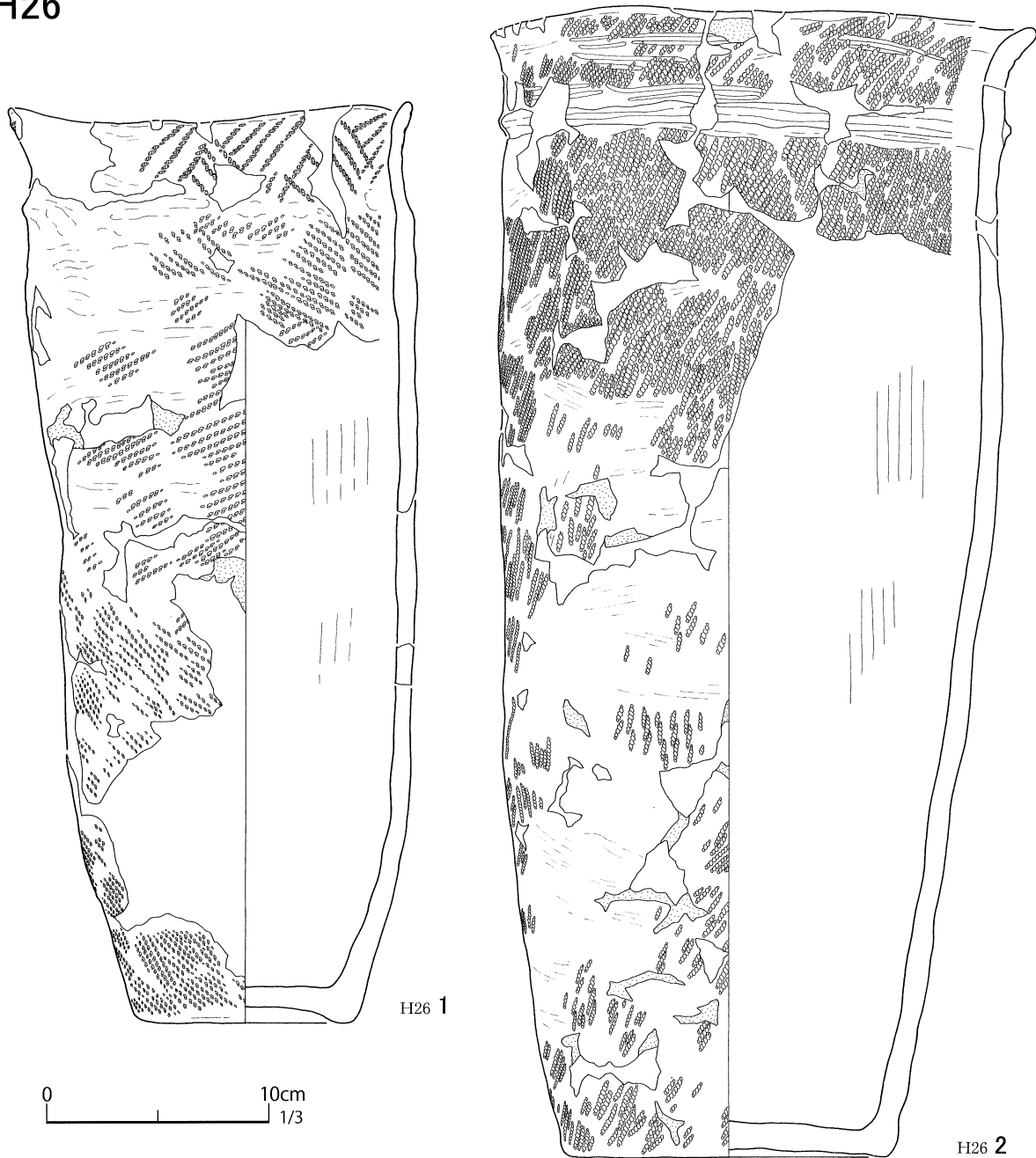
図Ⅲ-2-17 遺構出土土器 H25(1~10)

H25：1は覆土1層から出土した。円筒下層d2式である。2は覆土1層と覆土2層出土のものが接合した。円筒下層c式である。3・4は覆土1層出土である。円筒下層c式である。5は覆土1層からの出土で、サイベ沢Ⅶ式の口縁部破片である。6は覆土2層出土である。円筒下層c式である。

7は覆土2層出土である。円筒下層b式から円筒下層c式の胴部破片である。縁辺を打ち欠いて中央に穿孔する。再生土製品に関連するものとした。8は付属遺構HP-2覆土出土である。円筒下層b式の胴部破片である。縁辺を打ち欠いて中央に穿孔する。再生土製品に関連するものとした。

10は床面出土である。円筒下層d1式の口縁部破片である。9は付属遺構HF-1覆土3層出土である。平底で小型の底部である。円筒下層d1式かⅢ群a類土器の可能性はある。

H26

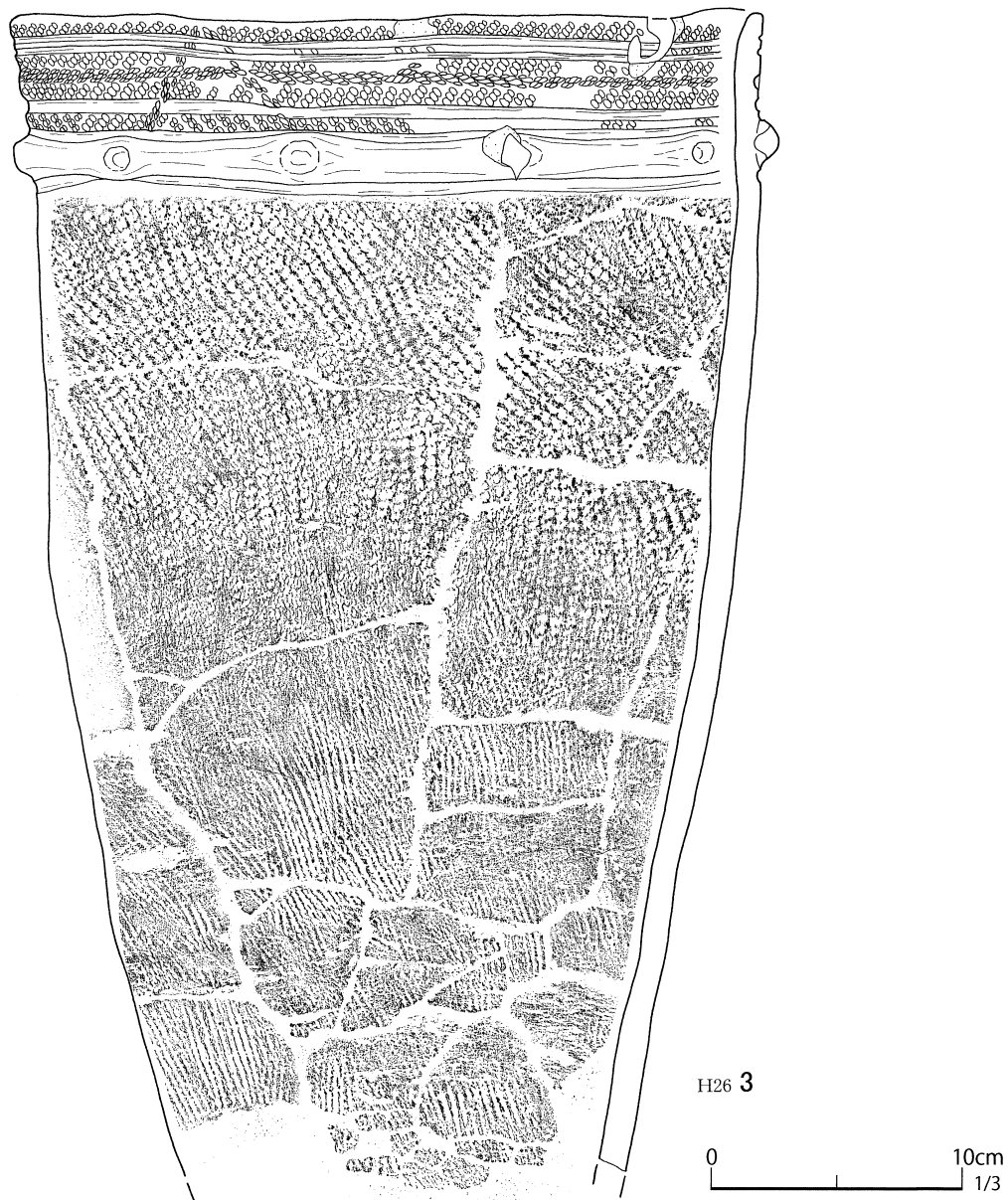


図Ⅲ-2-18 遺構出土土器 H26(1・2)

H26：床面から円筒下層b式から下層c式にかけての土器が出土している。第三章1項 遺構の調査でも述べたが、調査後に写真と図面で検討したところ床面よりやや高い位置でまとまって出土しており、「覆土2層廃棄層出土遺物」である。同じH26廃絶後の窪みから出土したM6-2点取り土器群もこのH26覆土2層のもので、同じまとまりであった。これらのうち復元できた、その場で潰れていた土器群 {H26床面出土3~6と、M6-2点取り遺物1(点取りNo.1)と2(点取りNo.2)}は円筒下層c式古段階とでもいべきまとまりである。沈線と隆帯によって口縁部区画を加飾する。

H26廃絶後、44Y区で取り上げられたM6-2出土遺物はM6に掘り込まれたH26竪穴住居の廃絶後に、その窪みに廃棄された遺物群である。上位は焼土を伴う「H26内廃棄層出土遺物」下位は「H26覆土2層廃棄遺物」後者で、M6から振替可能だったものは先述の点取りされた二個体の土器である。同時に現地で点取りNo.3とした石器はM6盛土関連遺物として石器掲載番号635(第3分冊)

H26

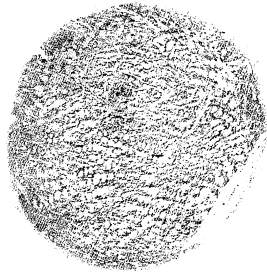
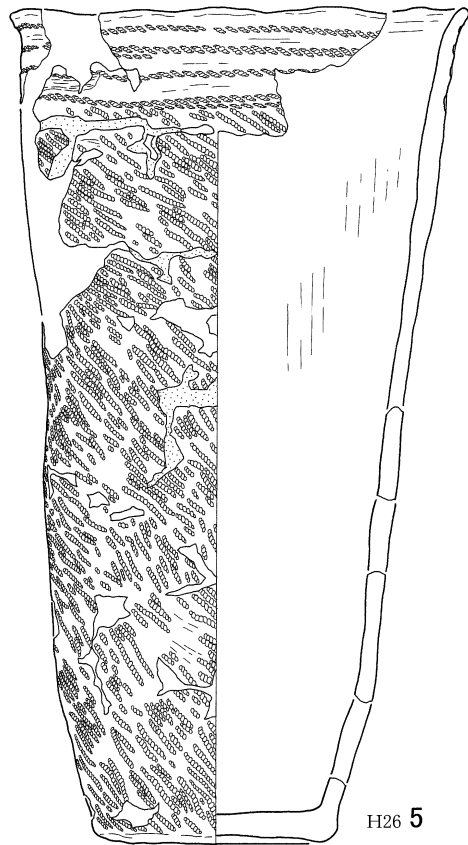
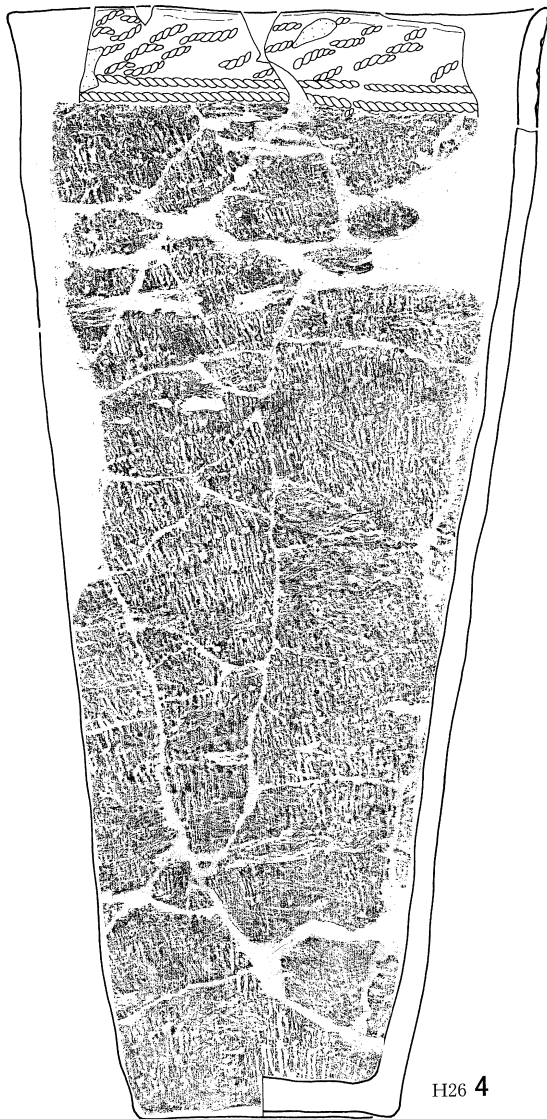


図Ⅲ-2-19 遺構出土土器 H26(3)

として図化した。これは上の「H26 内廃棄層遺物」と考察した時点で図版を作成したためである。調査時にH26 廃絶後に堆積した44Y区の土層出土遺物はM6-2出土として記録した。そのため机上の操作でこれらをH26 廃棄層出土遺物とH26 覆土2層出土遺物に振り分けることは不可能であった。

隆帯で口縁部文様帯を区画する2・3がある。隆帯が明瞭な3は上に連続刺突を持つ。2は隆帯の直上直下に沈線文を施す。口縁部文様帯に、4は結節回転文を持ち、1は複数の縄線を鋸歯状に配する。3は縄線で鋸歯状文の一部を施す。さらに3・4が地文に単軸絡条体回転地文を持つ。3は胴部上半が縦走縄文下半が絡条体地文。4は単軸絡条体4類か6A類か判然としなかったが6A類の可能性が高い。器形的には、1・2に対し3・4・5はゆるく胴部中央から外反する筒形である。5が共伴するなど、器形や胎土を考慮すると時間軸的には時期的には一段階古い円筒下層b2～c式に並行すると考える。しかし1～6は円筒下層c式土器の様相が強い土器のまとまりとした。そこで特に「円筒下層c式古段階」とした。

H26



0 10cm 1/3

図Ⅲ-2-20 遺構出土土器 H26(4~6)

H27：1は床面出土のものである。円筒下層c式である。波頂部から垂下する擦痕が明瞭である。2は円筒下層b2～c式、口縁部に水平方向に走る縄線が複数段施される。6は円筒下層b2式新段階である。覆土2層出土である。5・8は覆土1層出土である。5は焼成粘土塊である。8は円筒下層d1式である。口縁部に結束第一種羽状縄文が二段施される。

4・7は覆土2層出土である。円筒下層c式である。4は口縁部文様帯の幅が狭く、隆帯上に刺突が連続する。7は器壁が薄く、単軸絡条体地文が密である。円筒下層d1式に近い新しい時期のものである。3は覆土2層出土である。円筒上層a式である。

H28：1・2は覆土出土の円筒下層d1式である。1は覆土3層、2は覆土1層の出土である。

3・5・6・10は覆土1層出土である。3は焼成粘土塊である。5・6は円筒下層2式新段階の土器底部と考える。10は円筒下層bから下層c式の底板部の破片である。縁辺を打ち欠き、中央付近に穿孔する。

4は床面出土である。円筒下層c式である。8は覆土2層出土である。縄文時代早期の土器である。7・9・11は覆土3層出土である。7は円筒下層d1式並行の土器底部と考える。9は円筒下層d1式である。縄線による平行線文を口縁に持ち、刺突列で区画する。H21-26という可能性が高い。11は9と類似した文様構成だが、文様帯が幅広く、胎土の砂粒が少ない。円筒下層c式と考える

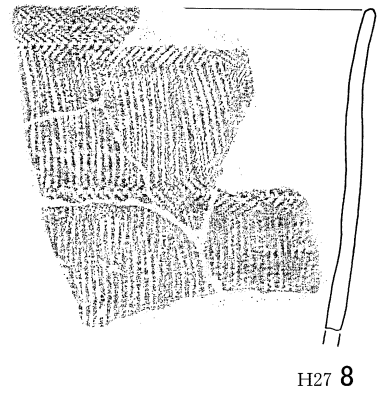
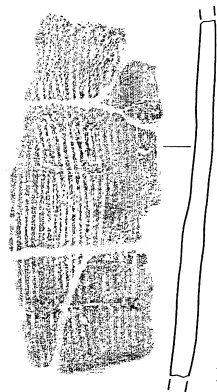
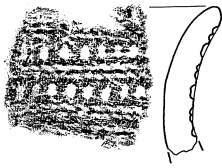
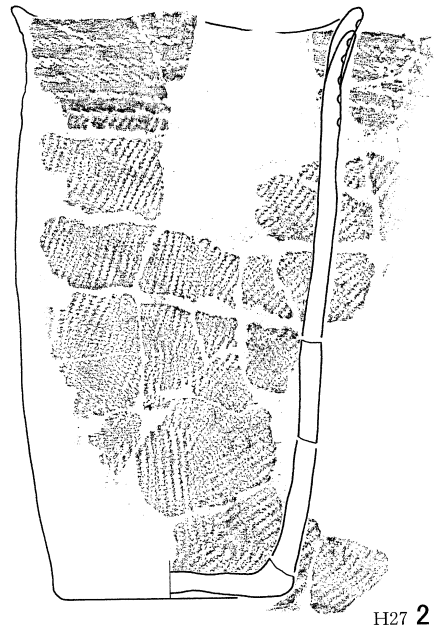
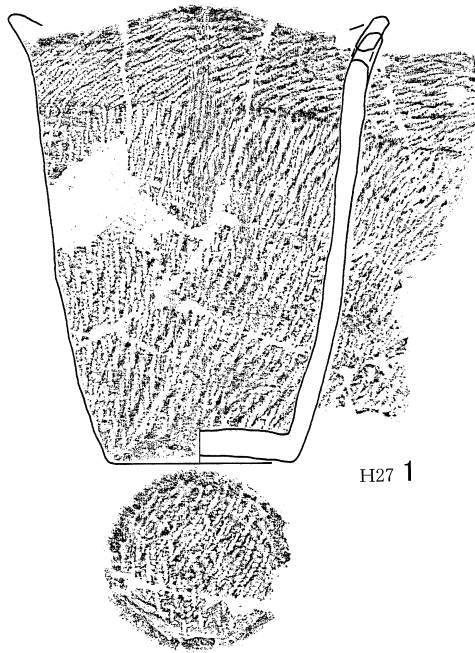
H29：竪穴住居廃絶直後の廃棄としては25が覆土下位No.18と60Q区M2-2出土遺物との接合である。廃絶直後の家の遺物と5m離れた斜面際の遺物が接合した。

1～11・13・14・17は円筒下層d1式古段階新。25～37・38・40は円筒下層d1式古段階古。12・15・16・18～23・41・42・44～46・49は円筒下層d1式。24は円筒下層d2式、43は円筒下層c式、47・48は円筒下層b式、50は焼成粘土塊である。

1～18・22・23は覆土上位出土である。

1は点取りNo.30である。単軸絡条体とふたつの結節回転による多段の帯。縄線による口縁部文様。2は点取りNo.4である。自縄自巻とふたつの結節回転による多段の帯。頸部には押し引きが巡る。矢羽縄線による口縁部文様。連続刺突があり、押し引き風である。3は点取りNo.1である。単軸絡条体と結束第一種羽状縄文で多段の帯。結束第一種羽状縄文回転による口縁部文様。4は点取りNo.14である。自縄自巻と結束第一種羽状縄文による多段の帯。口縁部文様帯には縄線による波状文と鋸歯状文の組み合わせ。頸部には連続した円形刺突を持つ隆帯。5は点取りNo.12である。覆土上位No.9や11と接合している。自縄自巻地文。縄線による口縁部文様。6は点取りNo.5である。覆土上位No.4と接合している。小型深鉢、単軸絡条体地文。縄線による口縁部文様。7は点取りNo.5である。自縄自巻地文である。縄線による口縁部文様でところどころ縄線により縦区画。8は点取りNo.13である。覆土上位No.9と接合している。四単位と思われるゆるやかな波頂部を持ち、自縄自巻地文である。縄線による口縁部文様。9は点取りNo.30である。自縄自巻地文。縄線による口縁部文様。10は点取りNo.3である。自縄自巻地文。口唇に爪による刺突、口縁には押し引きが連続する。矢羽縄線による口縁部文様。11は点取りNo.2である。口縁部文様帯には、矢羽縄線によって直線的な山形の連続を施す。自縄自巻地文。矢羽縄線による菱形基調と思われる縄線文。水の影響か、脱色して変形著しい。12は点取りNo.10である。自縄自巻に、結束第一種羽状縄文により多段の帯。胴下半から底部にかけて残存。13は点取りNo.6である。縄文を縦走させる地文。結束第一種羽状縄文を二段口縁部に施す。14は点取りNo.8である。同一個体の可能性がある遺物が覆土下位点取りNo.21に混在していた。口縁部文様帯は複数本のL縄線による曲線構成の文様。自縄自巻を縦走する地文。15は点取りNo.32である。自

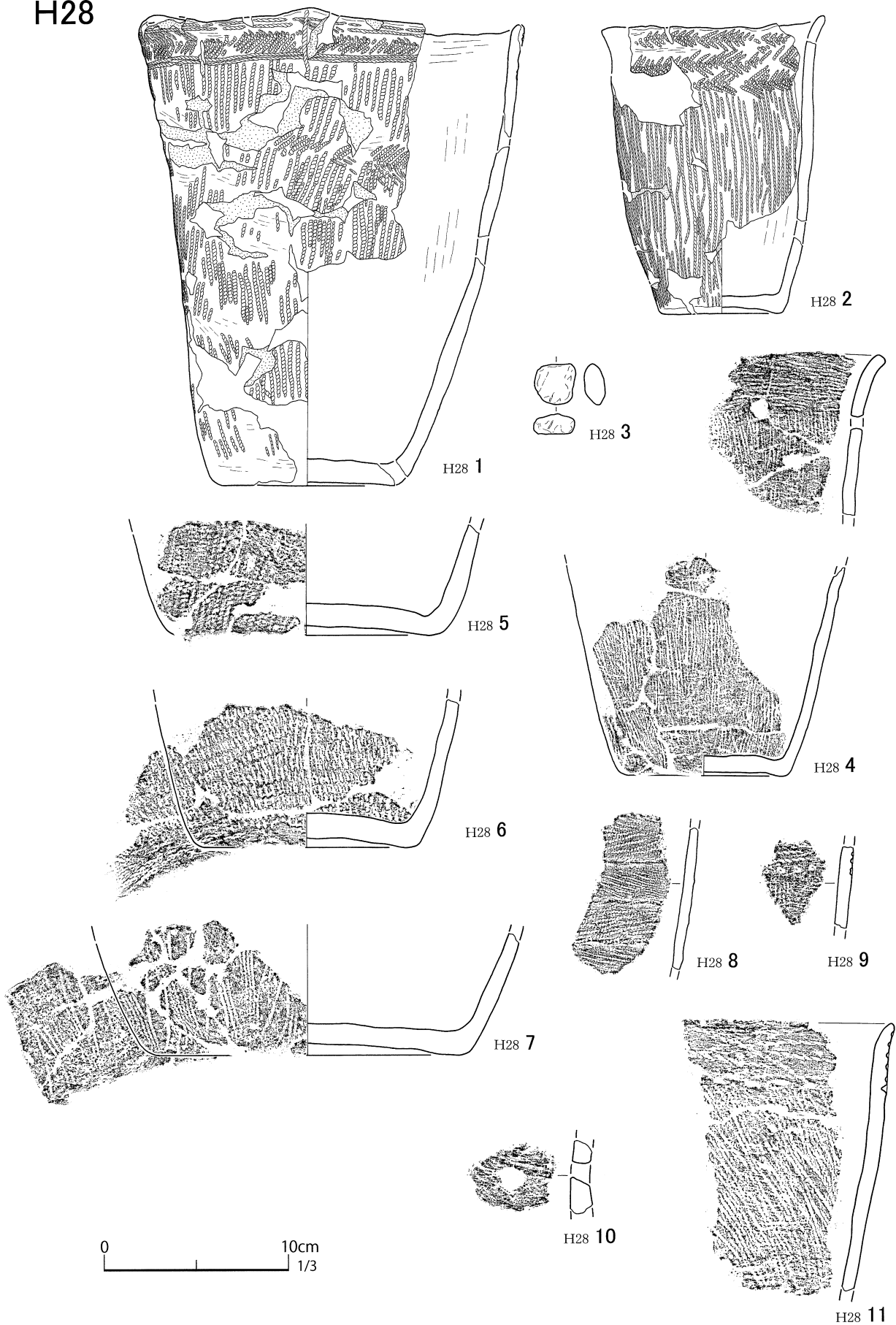
H27



0 10cm 1/3

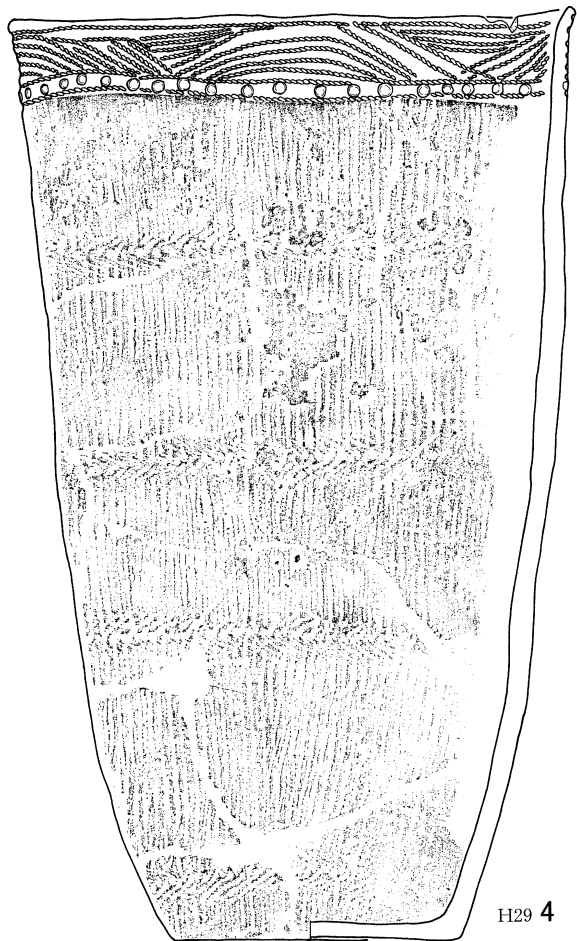
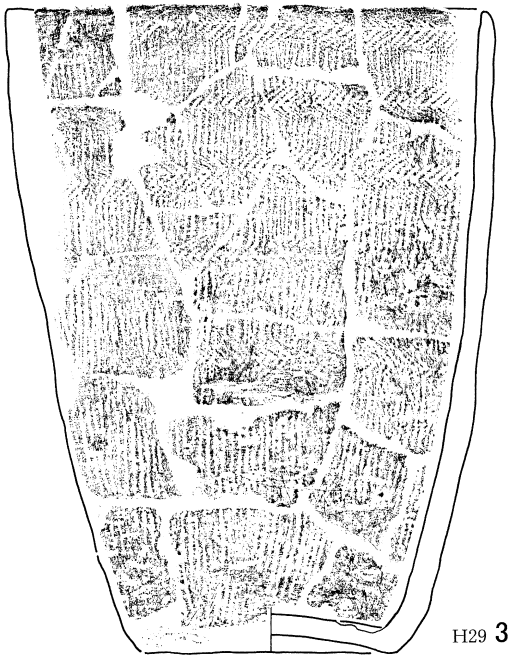
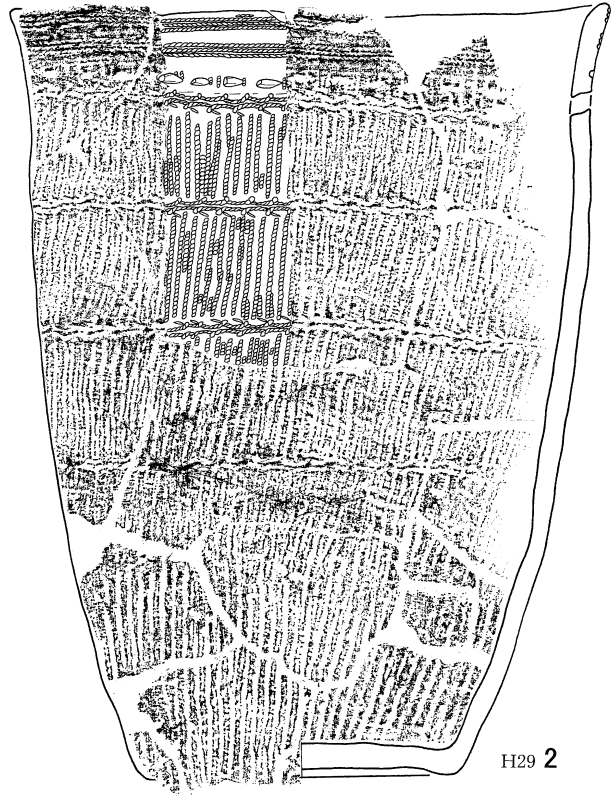
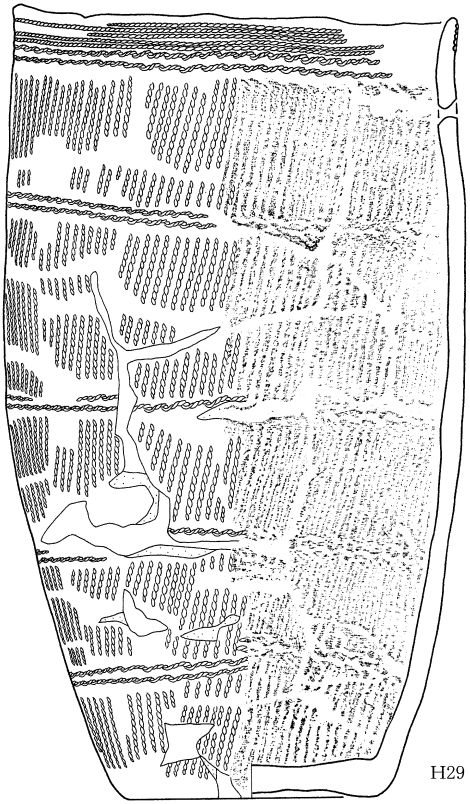
図 III-2-21 遺構出土土器 H27(1~8)

H28



図Ⅲ-2-22 遺構出土土器 H28(1~11)

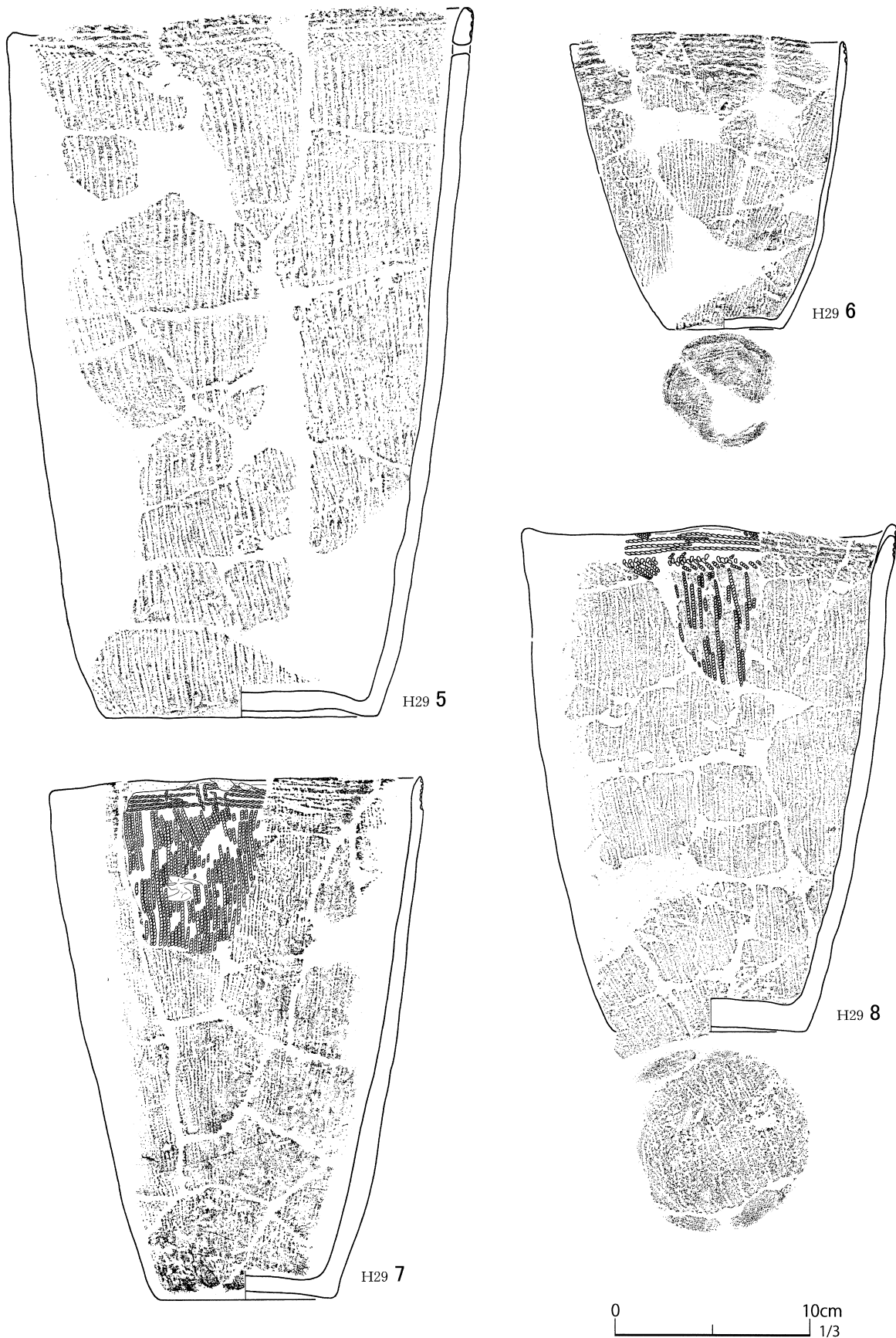
H29



0 10cm 1/3

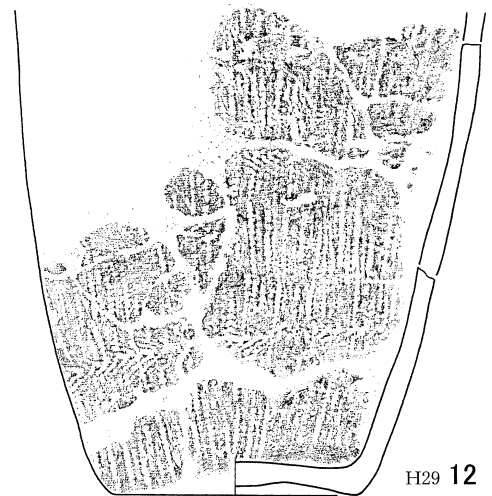
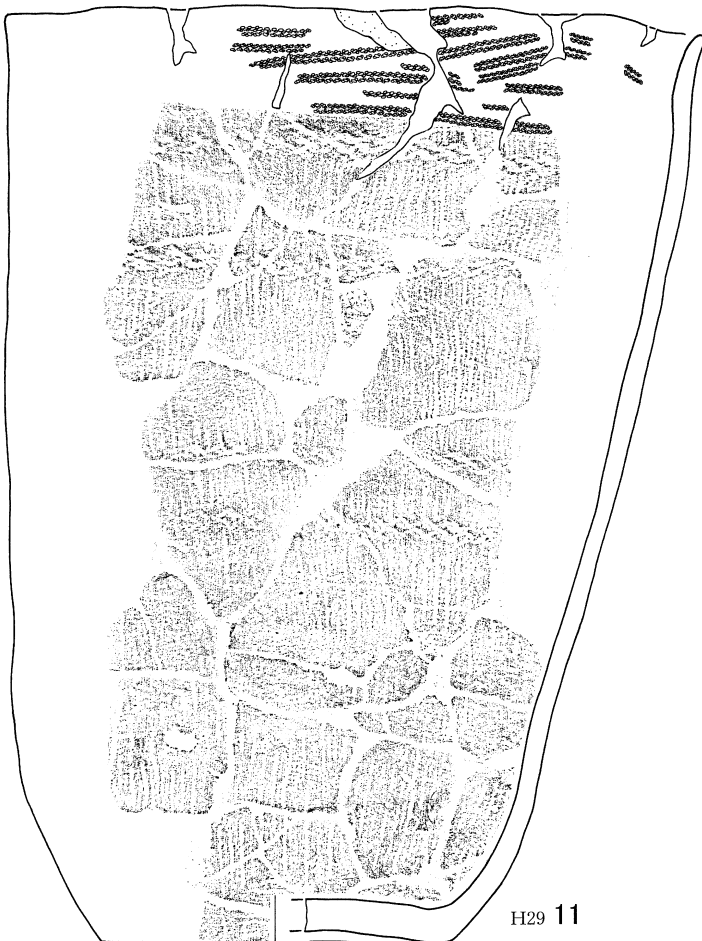
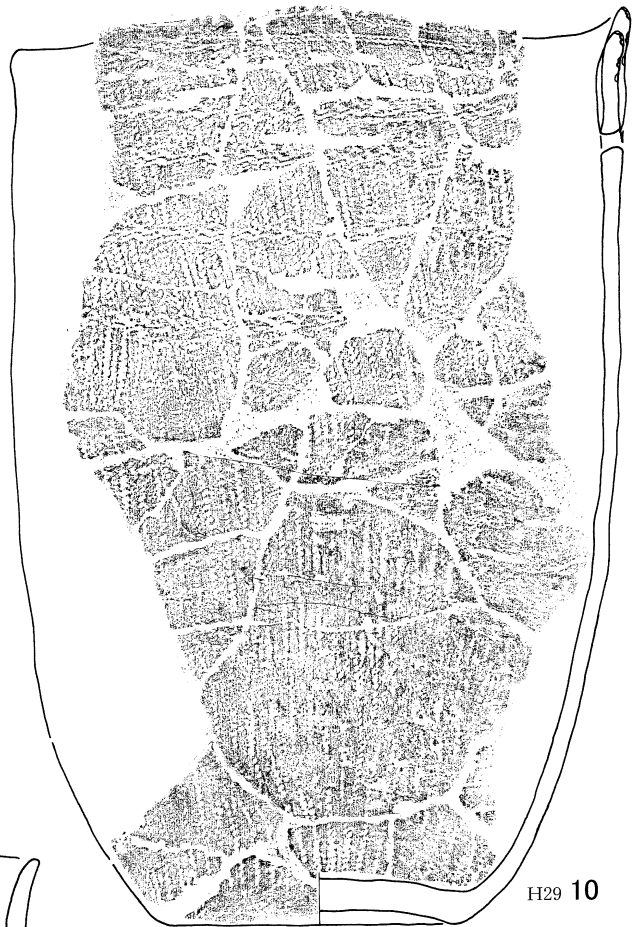
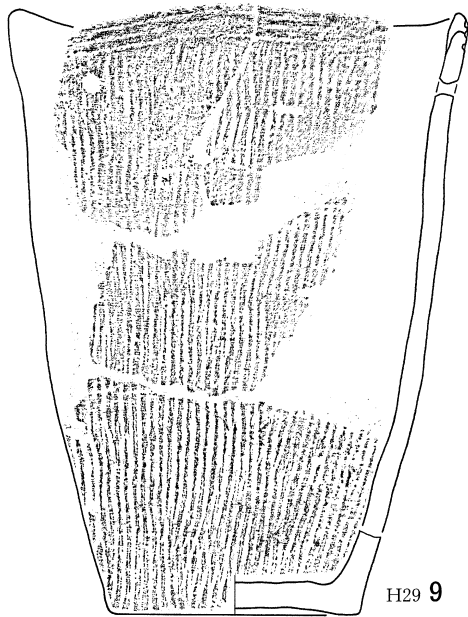
図Ⅲ-2-23 遺構出土土器 H29(1~4)

H29



図Ⅲ-2-24 遺構出土土器 H29(5~8)

H29



0 10cm 1/3

図Ⅲ-2-25 遺構出土土器 H29(9~12)

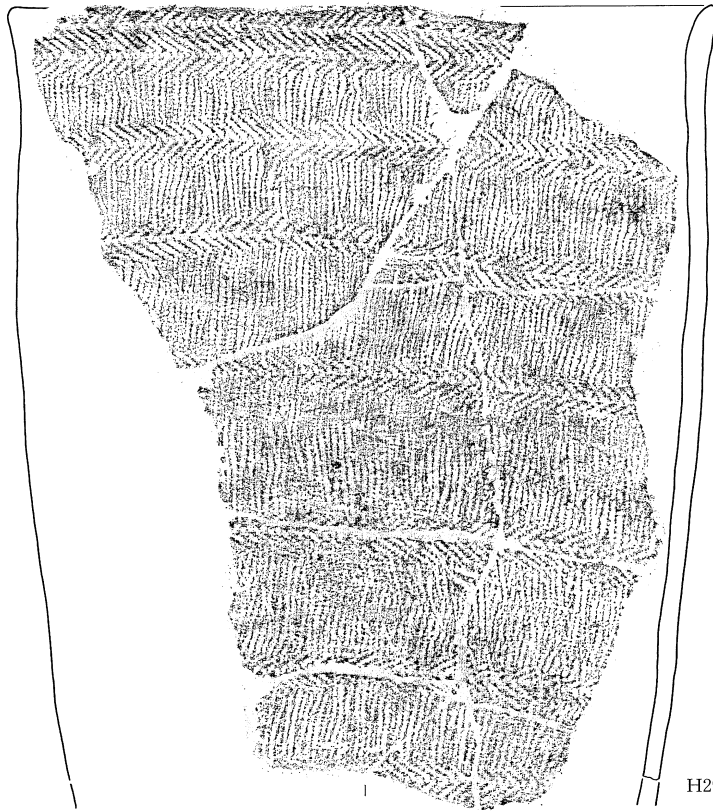
H29



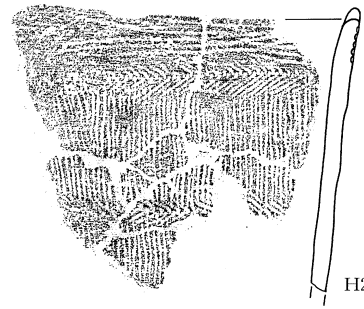
図Ⅲ-2-26 遺構出土土器 H29(13~16)

縄自巻地文の胴下半から底部にかけて残存。16は点取りNo.7である。単軸絡条体地文を底面にも有する。胴下半から底部にかけて残存。17は点取りNo.9である。自縄自巻地文に結束第一種羽状縄文で多段の帯。結束第一種羽状縄文による口縁部文様。その直下には逆回転でもう1段施す。18は点

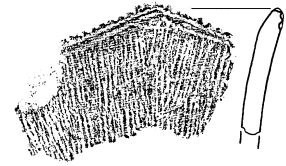
H29



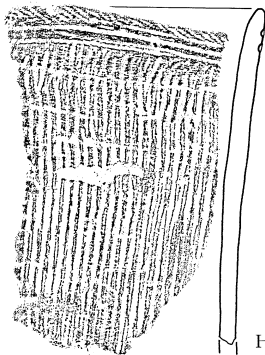
H29 17



H29 18



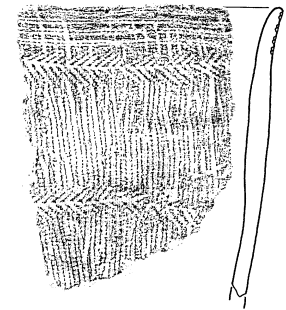
H29 19



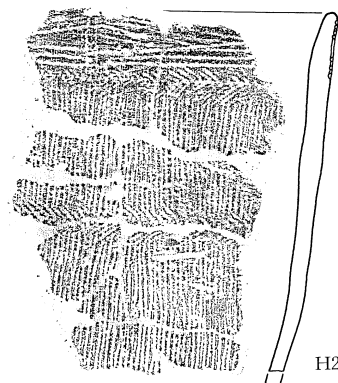
H29 20



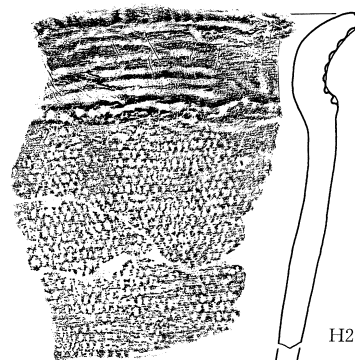
H29 21



H29 22



H29 23



H29 24

0 10cm
1/3

図Ⅲ-2-27 遺構出土土器 H29(17~24)

取りNo.32である。自縄自巻地文に結束第一種羽状縄文で多段の帯。矢羽状縄線によって菱形文様施文。縄線で口縁部文様。19は覆土からの出土である。円筒下層d1式の脚付き小型杯である。単軸絡条体地文。縄線で口縁部施文。トレンチ出土の口縁部と覆土出土底部に接点はなく、地文と径からの推定である。22・23は覆土上位からの出土である。いずれも自縄自巻地文に結束第一種羽状縄文で多段の帯。24は覆土上位出土、円筒下層d2式である。肩部には円形刺突が連続。多軸絡条体地文。口縁部には縄線文様。

20・21は覆土からの出土である。円筒下層d1式である。いずれも自縄自巻地文である。

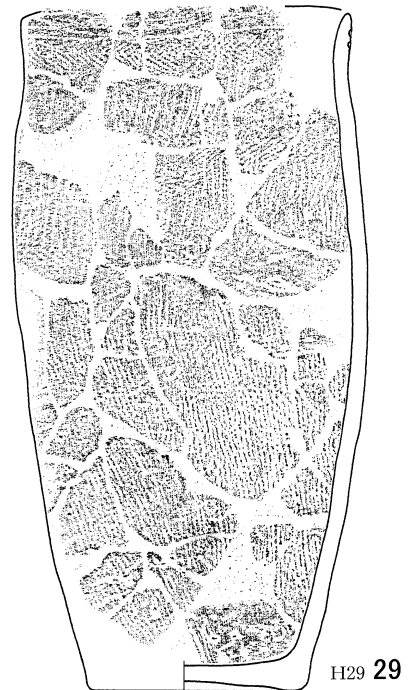
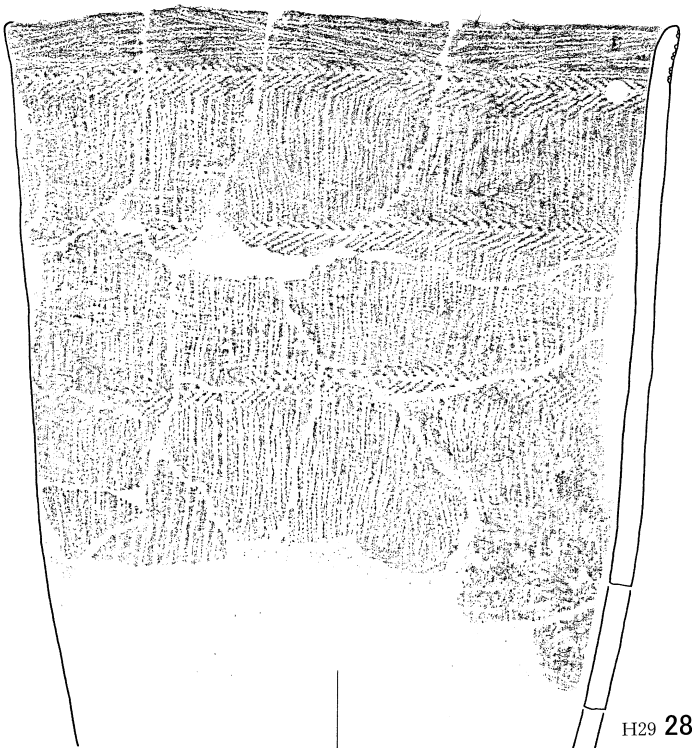
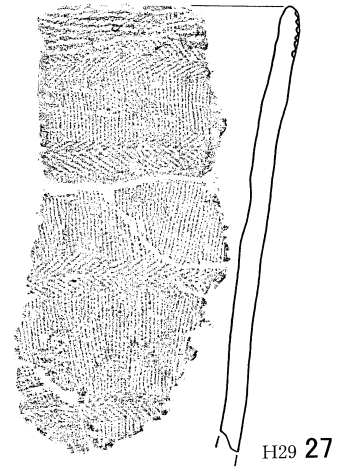
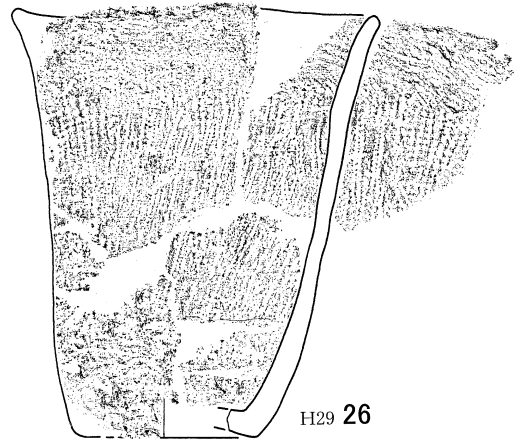
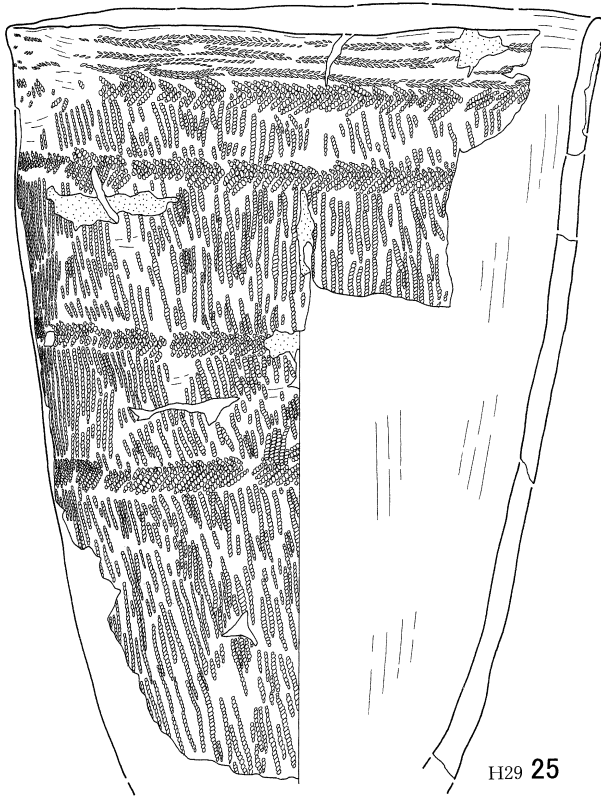
25～40は覆土下位出土である。

25は点取りNo.18である。自縄自巻地文に結束第一種羽状縄文による多段の帯である。矢羽状縄線による口縁部文様。26は点取りNo.17である。小型深鉢で、自縄自巻を口縁部と胴部に施文。自縄自巻を口縁部に横回転。27は点取りNo.16と17が接合した。26と共伴して出土した。単軸絡条体と結束第一種羽状縄文による多段の帯。縄線による直線構成の口縁部文様構成。28は点取りNo.15である。覆土下位No.16と接合している。自縄自巻と結束第一種羽状縄文で多段の帯。矢羽状の縄線により山形文様の連続による口縁部文様。29は点取りNo.20である。自縄自巻地文である。縄線による口縁部文様。30は点取りNo.19である。絡条体地文に結束第一種羽状縄文で多段の帯。結束第一種羽状縄文の回転により口縁部文様を構成。矢羽状風縄線によって口縁部文様を構成する。31は点取りNo.17である。覆土下位No.19と接合している。自縄自巻に結束第一種羽状縄文で多段の帯。縄線による直線構成の口縁部文様。ゆるやかな波頂部の形状も反映する。32は点取りNo.24である。単軸絡条体地文。結束第一種羽状縄文回転後、矢羽状縄線押圧。33は点取りNo.26である。縄文を縦走と結束第一種羽状縄文で多段の帯。34は点取りNo.27である。覆土下位No.20, 29と接合している。付属遺構HP-12出土遺物と接合している。絡条体地文に結束第一種羽状縄文で多段の帯。矢羽状縄線によってゆるやかな波頂部に対応した、曲線的な縄線文様。35は点取りNo.22である。自縄自巻と結束第一種羽状縄文により多段の帯。撚りの違う縄線を交互に密にして施す。36は点取りNo.15である。付属遺構HP-19覆土出土遺物と接合している。自縄自巻に結束第一種羽状縄文で多段の帯。矢羽状風の縄線によって直線構成の文様が施される。37は点取りNo.38である。自縄自巻に結束第一種羽状縄文で多段の帯。結束第一種羽状縄文施文後、矢羽状縄線が施文される。38は覆土下位点取りNo.20である。円筒下層d1式である。絡条体地文に結束第一種羽状縄文による多段の帯。菱形を基調とした、直線構成の文様を口縁部に持つ。菱形に対応する縦区画を持つ。39は覆土上位点取りNo.31である。覆土下位点取りNo.19と覆土最下位点取りNo.38に同一と思われる破片が混じる。円筒下層d1式である。自縄自巻に、帯状に2段の結節回転。40は覆土下位点取りNo.23とNo.25が接合した。自縄自巻地文に結束第一種羽状縄文で多段の帯。結束第一種羽状縄文を施文後、矢羽状縄線を施文する。41は覆土最下位出土点取りNo.39である。絡条体地文による底部。42は付属遺構HP-12覆土からの出土である。自縄自巻地文。胎土には砂粒が目立つ。43は床面出土、点取りNo.48である。円筒下層c式である。直前段反撚り地文の底部。

44～49は再生土製品の可能性が高いものである。44～46は覆土上位から出土した。円筒下層d1式の土器片を擦り切りによって短冊状に成形したものである。47～49は土器片の縁辺を打ち欠きによって粗く成形したものである。丸くしようとした可能性がある。3点とも覆土出土で遺物番号179であり同日同時同地点にて取り上げられたものである。同時期の所為とも考えられる。48・47は円筒下層b式、49は円筒下層d1式である。48は中央に穿孔がある。

50は覆土上位から出土した再生土製品である。繊維と海綿骨針を含み、円筒下層式土器の胎土に似ている。竹管背面による押し引きが残る。

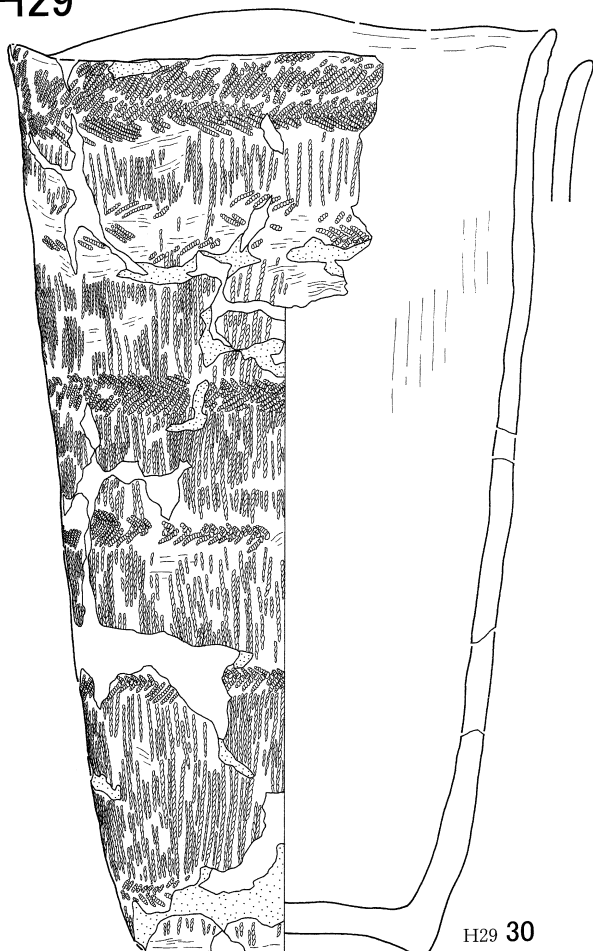
H29



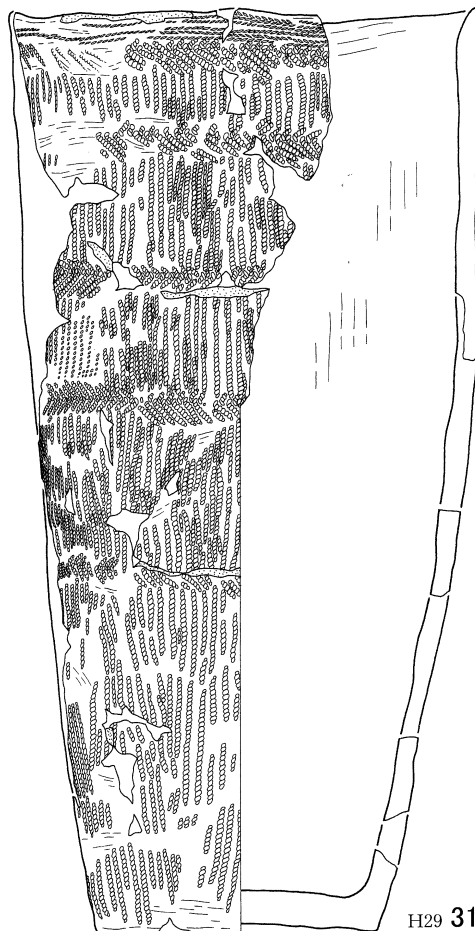
0 10cm 1/3

図 III-2-28 遺構出土土器 H29 (25~29)

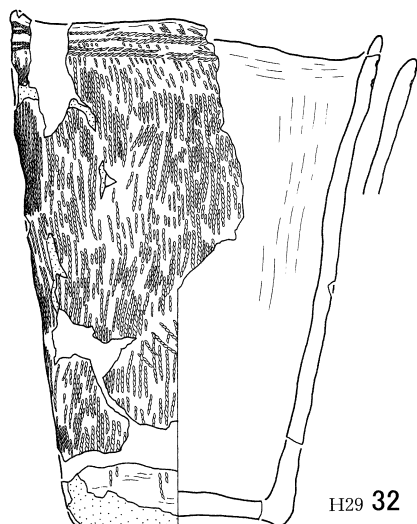
H29



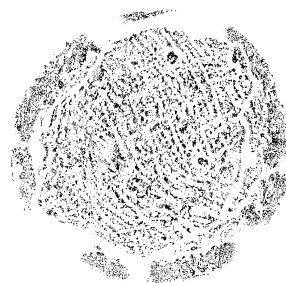
H29 30



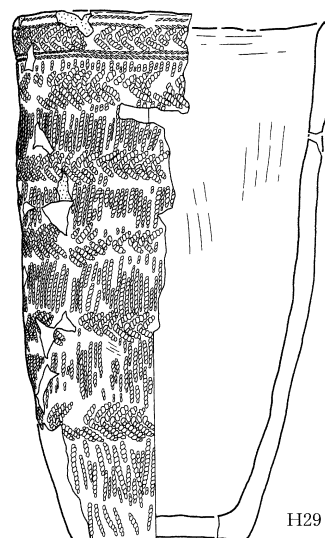
H29 31



H29 32



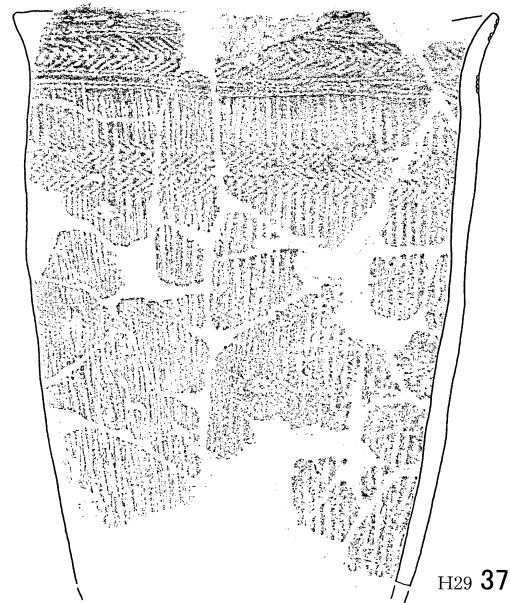
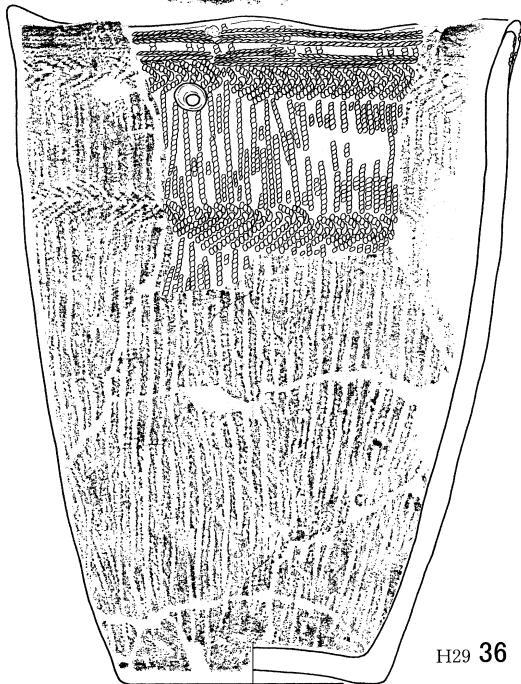
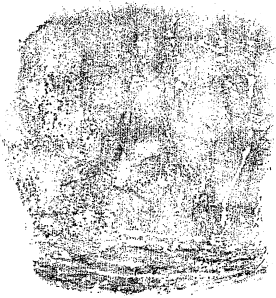
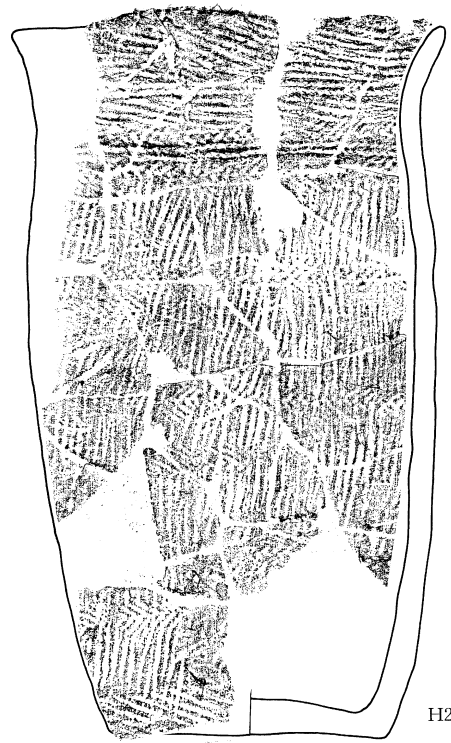
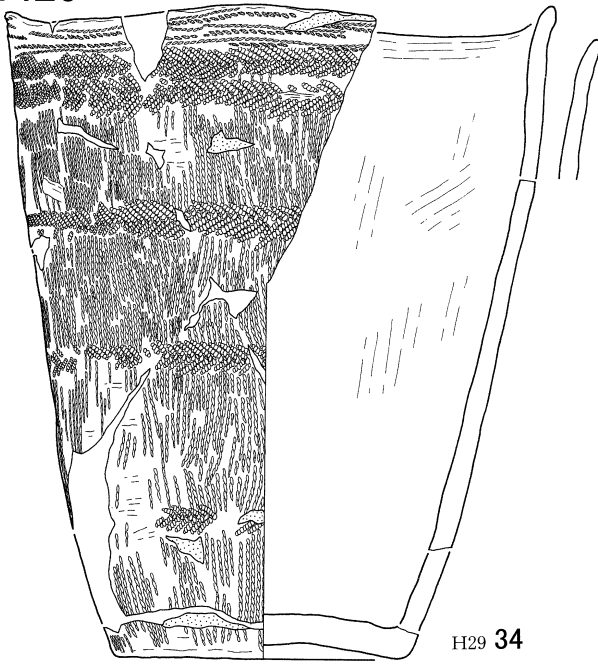
0 10cm
1/3



H29 33

図Ⅲ-2-29 遺構出土土器 H29(30~33)

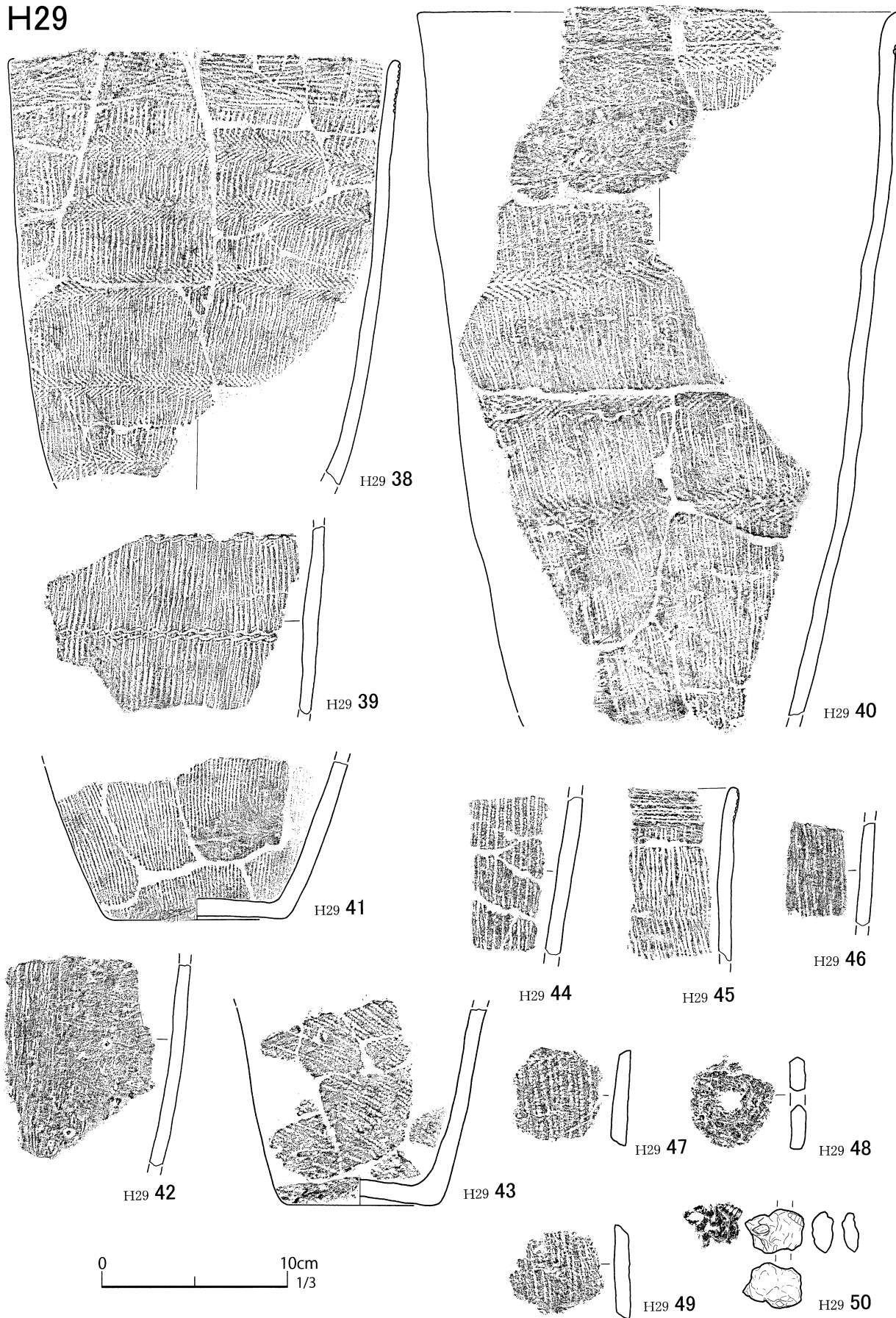
H29



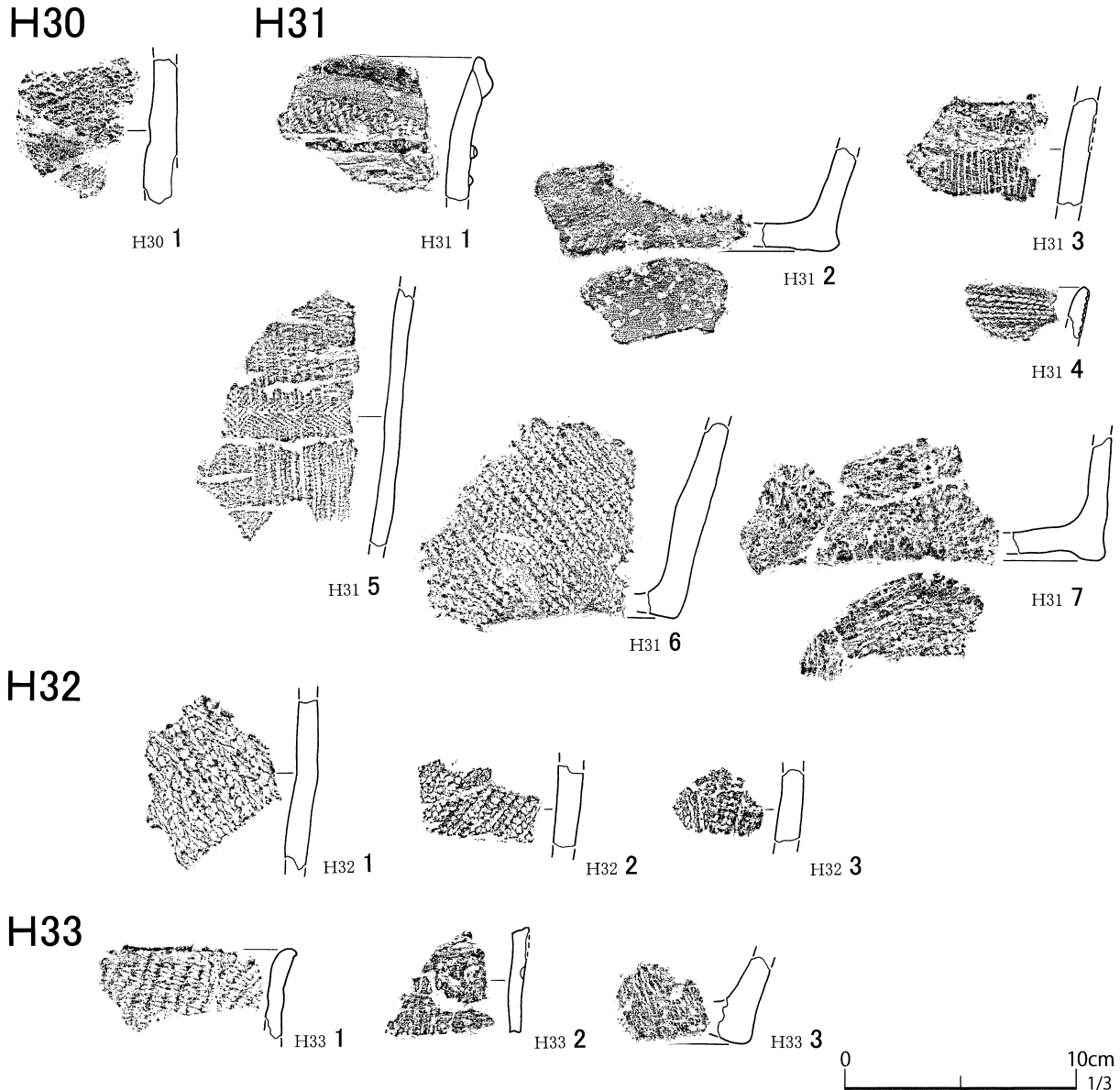
0 10cm
1/3

図III-2-30 遺構出土土器 H29(34~37)

H29



図Ⅲ-2-31 遺構出土土器 H29(38~50)



図Ⅲ-2-32 遺構出土土器 H30(1)・H31(1~7)・H32(1~3)・H33(1~3)

覆土下位に無く、上位にある特徴として刺突列、口縁部文様に曲線的な要素が入ってくる点を挙げることができる。

H30：1は床面からの出土である。円筒下層b式である。磨滅が著しく断定できないが縁辺を加工した再生土製品の可能性がある。

H31：1～6は覆土1層出土である。7は床面出土で、点取りNo.17である。1・2は円筒上層d式である。1は細い粘土紐による加飾がある。2は底面には網代様の痕跡があるがミガキにより不明瞭。3は円筒下層d2式、自縄自巻地文である。

4・5は円筒下層d1式、4は矢羽状縄線、5は自縄自巻と結束第一種羽状縄文による多段の帯。6・7は円筒下層b式である。6は複節地文、7は直前段合熱地文。

H32：1～3は円筒下層b式で、1は古段階の可能性があり。直前段合熱地文。1・2は床面から出土

した。3は付属遺構 HF-1 覆土1層からの出土である。単軸絡条体地文。

H33：1～3は円筒下層b式である。1は覆土1層から、2はHF-1 覆土3層からの出土である。3は床面から出土した。1の地文は縄文が縦走する。2は器壁の薄さと内面調整のミガキの丁寧さから円筒下層c式の可能性もある。3は単軸絡条体地文。

H34：H34は覆土から円筒下層b式から円筒下層c式が出土。覆土上部の2層に円筒下層d1式新段階を廃棄する。1～3は覆土2層出土である。円筒下層d1式であるが新段階で円筒下層d2式に近い。1は点取りNo.7、2は点取りNo.1、3は点取りNo.8である。1の口縁部文様帯は矢羽状縄線で山形文を施す。区画内には縄を曲げた部分を連続押圧する。単軸絡条体地文。2・3は自縄自巻地文。口縁部文様帯について、2は縄線を交差し、3は山形文を鋸歯状に連続する。

4、5は覆土2層出土破片が接合している。いずれも円筒下層d式で4・5ともにサルボウ条痕横走後、自縄自巻を縦走。1～3に近い時期のものとする。4は胴部下半分のため、新旧明言し難い。覆土2層点取りNo.6である。覆土西側のまとまりと接合した。5は磨滅が著しい。覆土2層点取りNo.1と覆土1層No.2が同一個体であるとする。点取りNo.2を図化した。円筒下層d1式胴部のまとまりである。点取りNo.1と同一と思われるものを図化した。口縁部には縄線により直線構成の文様。点取りNo.4は円筒下層d1式胴部のまとまりだが、磨滅破片が主体で接合・図化が出来なかった。出土する円筒下層d1式新段階については、口縁部文様帯に縄線で直線構成の山形ないしは菱形文を施す段階である。円筒下層d2式により近い時期。

H35：1と2は床面出土、点取りNo.6から立ち上がった復元土器である。二個体の円筒下層c式土器が、No.6として床面で潰れていたこととなる。

1は半截竹筒の表裏を使った沈線文が描かれる。口縁地文は縄文。胴部地文は絡条体である。ゆるやかな波頂部を持つ。2も同様の器形だが全面縄文地文である。

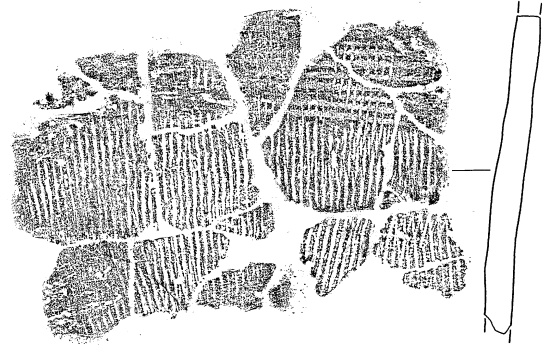
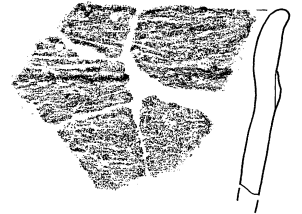
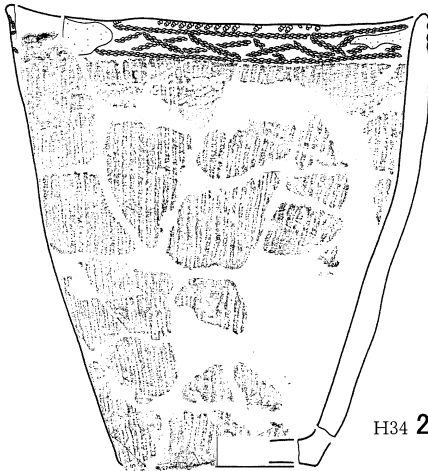
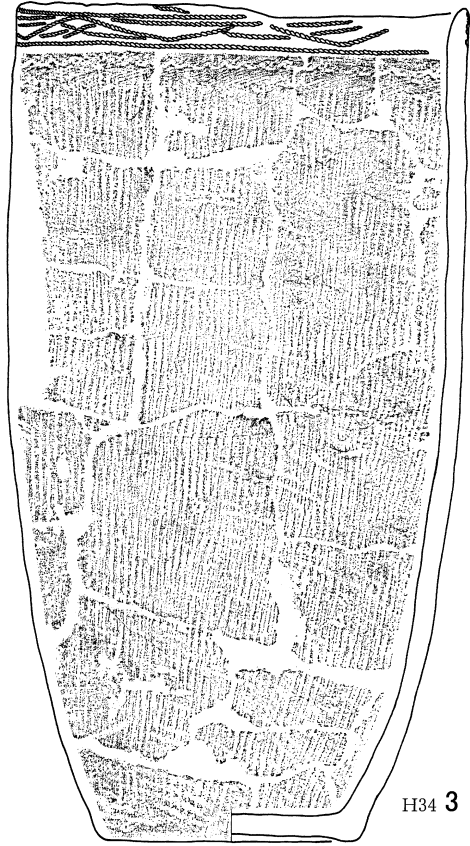
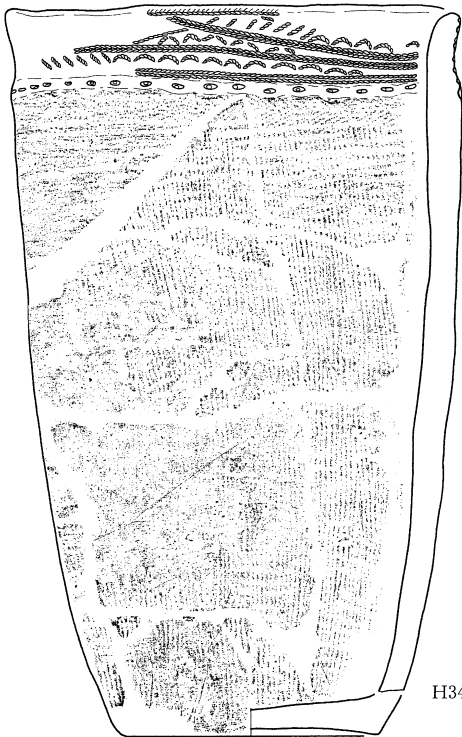
3・4・5は再生土製品の可能性が高いものである。3は床面からの出土で縁辺を成形し、中央に穿孔する。比較的形状が整う。4と5は覆土からの出土で中央に穿孔がみられるが貫通してない。5は底部際の破片であり、器の形状に即して図化した。

6は覆土1層下位点取りNo.22である。7は覆土1層下位点取りNo.18である。8は覆土1層下位点取りNo.19と20である。上げ底と筒型の胴部から、円筒下層b2～c式前後の胴部下半から底部にかけてである。

H36：1・2は覆土2層から二個体まとまって出土した。いずれも六単位の波頂部を持つ又は持ったと推定できる、円筒下層b2～c式土器である。よく外反する口縁部形態を持ち薄い器壁を持つ。口縁部文様帯の原体は違うが、よく類似した器形である。1は覆土2層出土No.5を主体として、覆土2層出土No.4が接合した。No.4の主体は円筒下層d2式の胴部破片であるため、紛れ込んだものとする。2は覆土2層出土No.5が接合した。

5は覆土2層から出土した。点取りNo.6とM4-3、58R区から出土した遺物が明らかに同一個体であった。底は見つからず、口縁部から胴部にかけてのまとまりが、縦半分ずつ8mほど離れた場所から見つかった。円筒下層b2～c式のころの深鉢と考えられるが、口縁部文様帯直下に文様帯があるといった古い要素も持つ。隆帯上はヘラによる刺突が連続する。三个体とも胎土は円筒下層c式に近

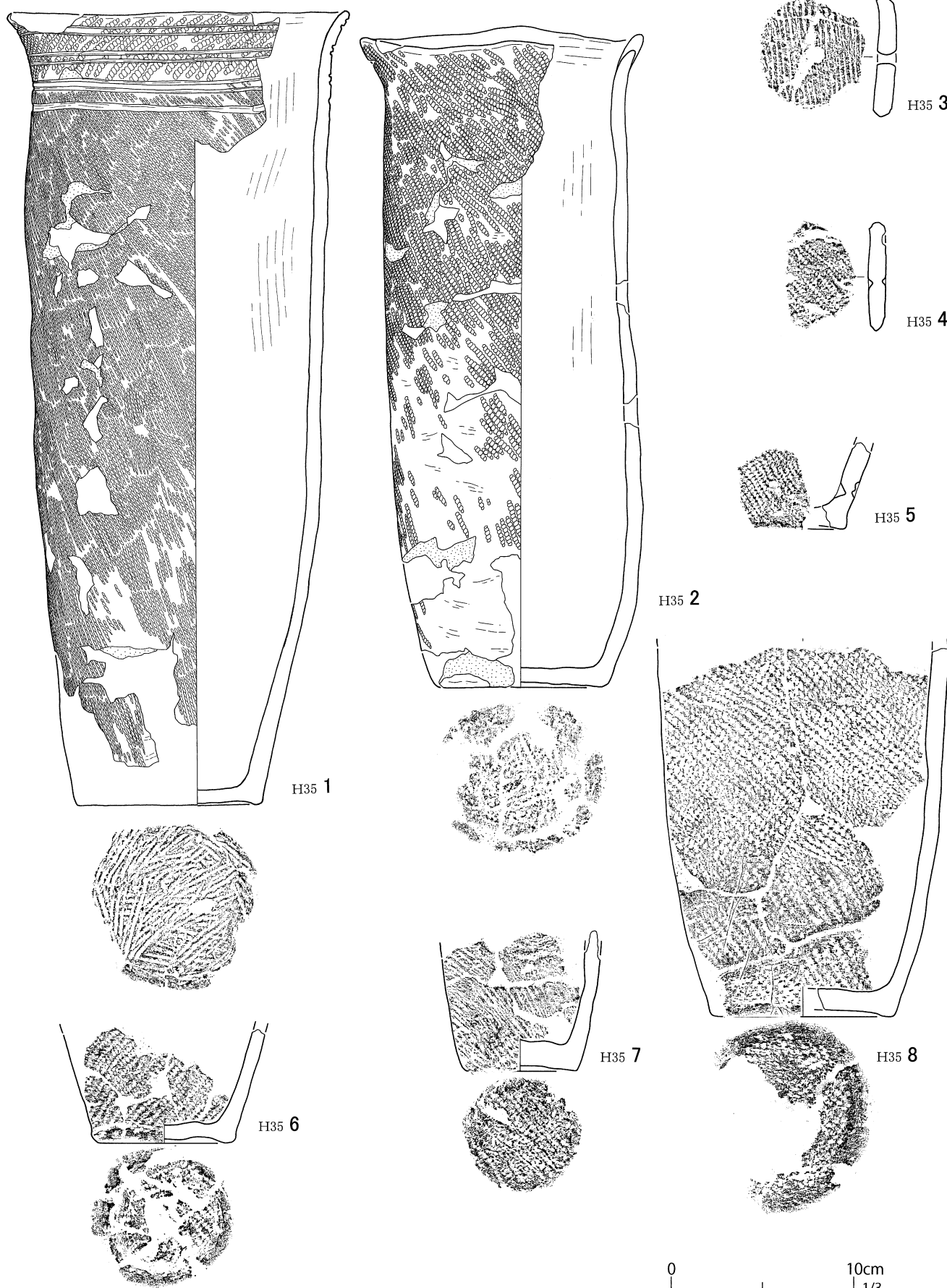
H34



0 10cm 1/3

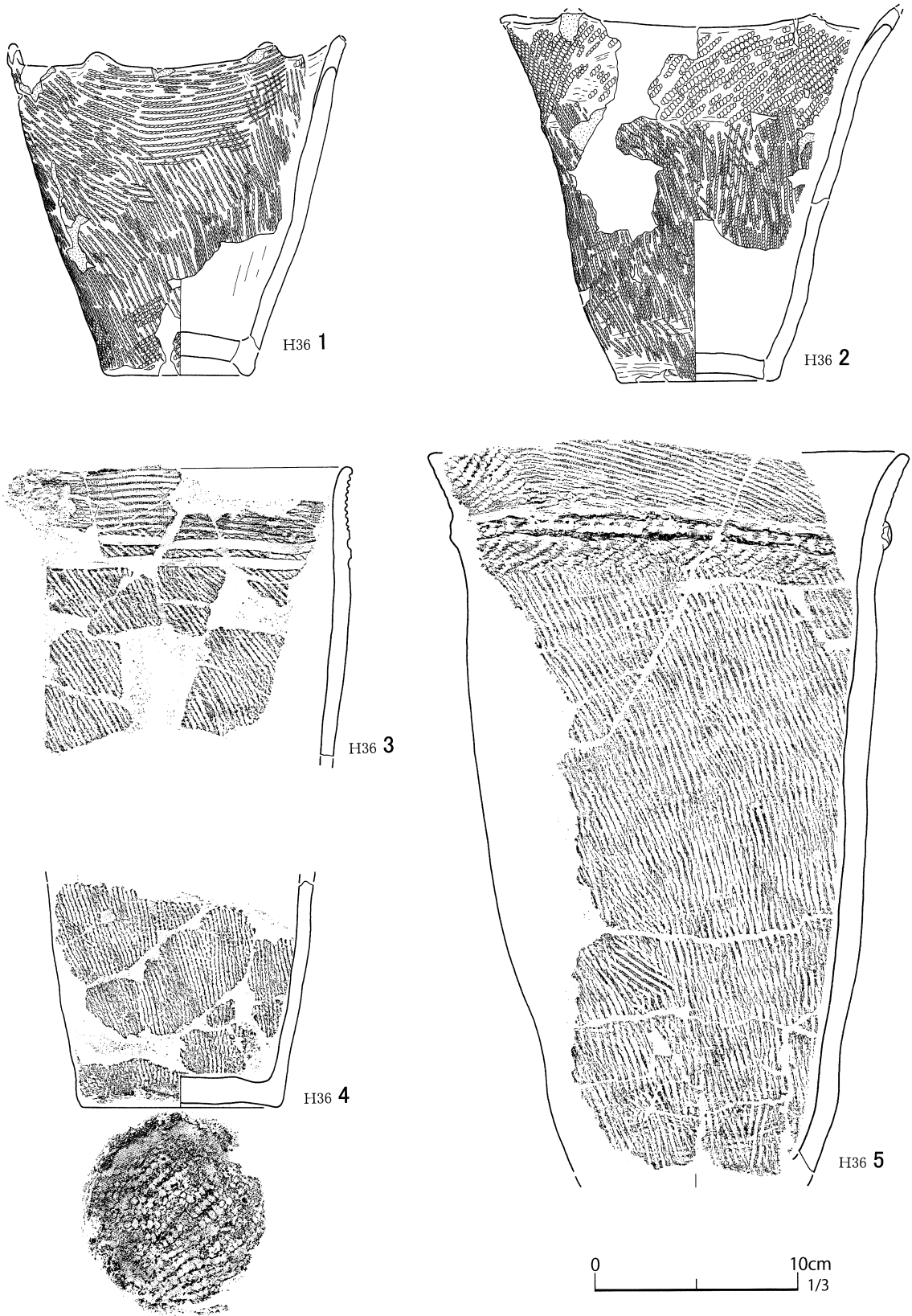
図III-2-33 遺構出土土器 H34(1~5)

H35



図Ⅲ-2-34 遺構出土土器 H35(1~8)

H36



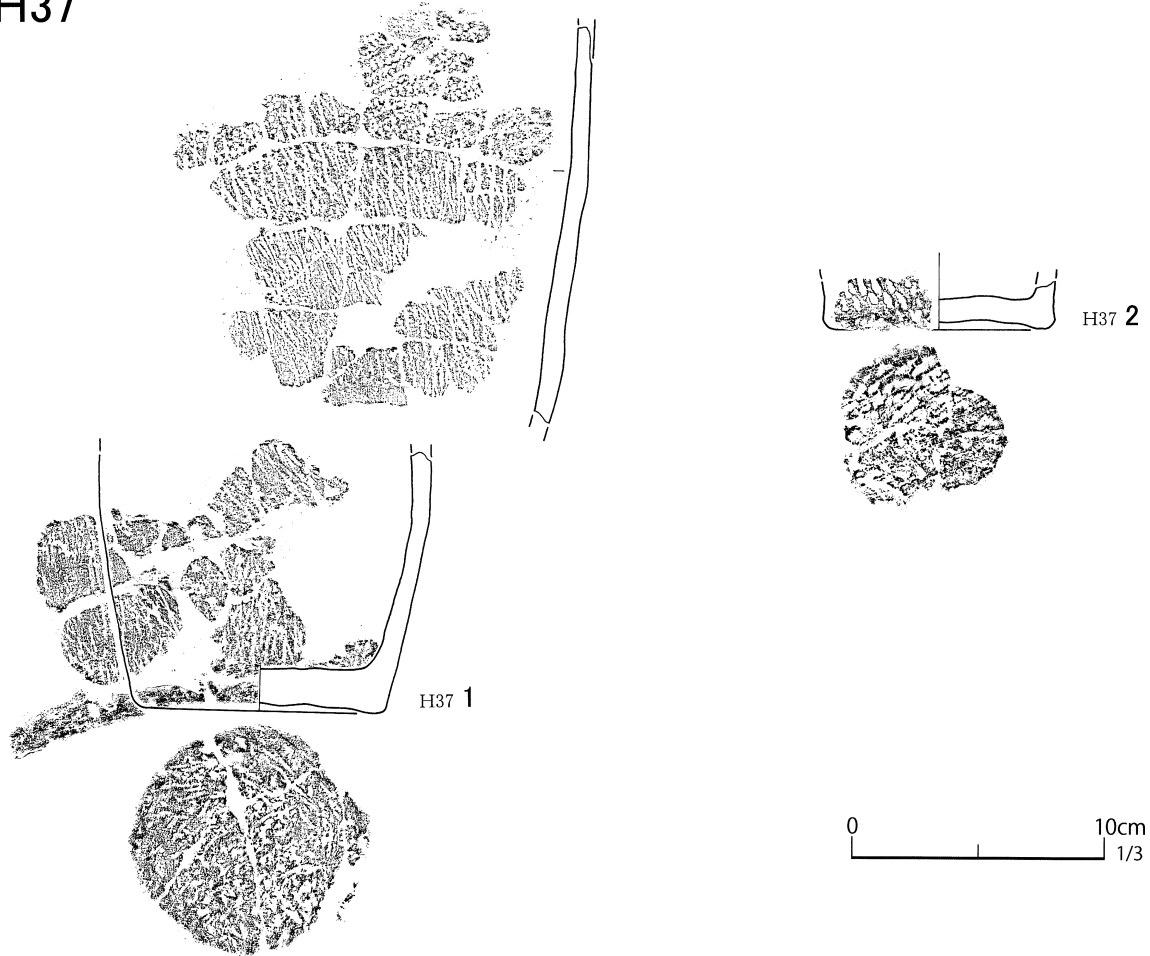
図Ⅲ-2-35 遺構出土土器 H36(1~5)

H36



図Ⅲ-2-36 遺構出土土器 H36(6~12)

H37



図Ⅲ-2-37 遺構出土土器 H37(1~2)

い。H36-5と同様な例としてH29-25がある。住居出土遺物と住居から5m離れたところのまとまった破片が接合した。このH36-5とH29-25のいずれについて顕著な磨滅も無く、意図的に打ち欠いて別々のところに捨てた可能性がある。「斜面の際」と「住居廃絶後の窪み」に捨て分ける点が共通する。

No.4のほとんどが6の円筒下層d2式となった。口縁部破片はNo.4の出土した58U区M2-3から住居検出前に見つかった破片である。接点はなかった。肩部の文様と径、地文から同一個体と判断した。口縁部文様には縄の屈曲部を対向させる。覆土の西側からは円筒下層b2~c式土器が出土している。

3・4・8~12は覆土西側から出土した。3・4・12は円筒下層b2~c式のもの他は円筒下層b2式相当と考える。

3・4いずれも単軸絡条体地文である。3は口縁部文様帯にサルボウ条痕を施し、沈線で胴部と区画する。4は意図的に穿孔された破片が接合した(左上の破片の孔)。底面には胴部地文と異なり縄文を施す。8~11は縁辺が意図的に成形されている可能性がある。再生土製品として扱った。11は全面が磨滅している。

7と12は比較的破片数が多く残存していたが、復元には至らなかった。7は覆土東側からの出土である。円筒下層d1式の胴下半部である。自縄自巻に結節回転を組み合わせた多段の帯である。円筒下層d1式の可能性がある。12は円筒下層b2~c式である。口縁部文様帯は残存部が少ない。同一原体の縄文を縦回転と横回転を組み合わせて羽状にしているように見える。単軸絡条体地文である。

H37：1は床面出土である。No.24である。2は床面出土のものと接合した。No.81そして83と同一個体である。1と2のいずれも円筒下層b2式と考える。1は単軸絡条体第5類による網目状の地文である。底面には合燃の縄文。2は多軸絡条体地文である。底面も同様である。いずれも上げ底である。

H38：覆土中から円筒下層下d1式がところどころまとまって出土する。比較的上部からの出土が目立つ。点取りNo.1(4・5)・No.3(8)(7と9に若干接合)・No.4(12)・No.5(10)・No.6(11)・No.7(6)を記録した。覆土上半部から大型の円筒下層d1式の破片が出土する。口縁部文様帯内に縄線で直線構成の山形ないしは菱形文を施す円筒下層d2式に近い段階である。床面近くからは口縁部文様帯の幅が狭く、区画帯を持たない円筒下層d1式が出土している。円筒下層d1式と円筒下層下d2式では器壁の厚みに大きな差がある。それを判断基準とした。8・10～12・14は意図的に半割に近い形で割られた可能性がある。

1・3は円筒下層d2式。1は覆土上位から最上位にかけての遺物が接合した。多軸絡条体地文。3は覆土上位の遺物が接合した。多軸絡条体地文である。

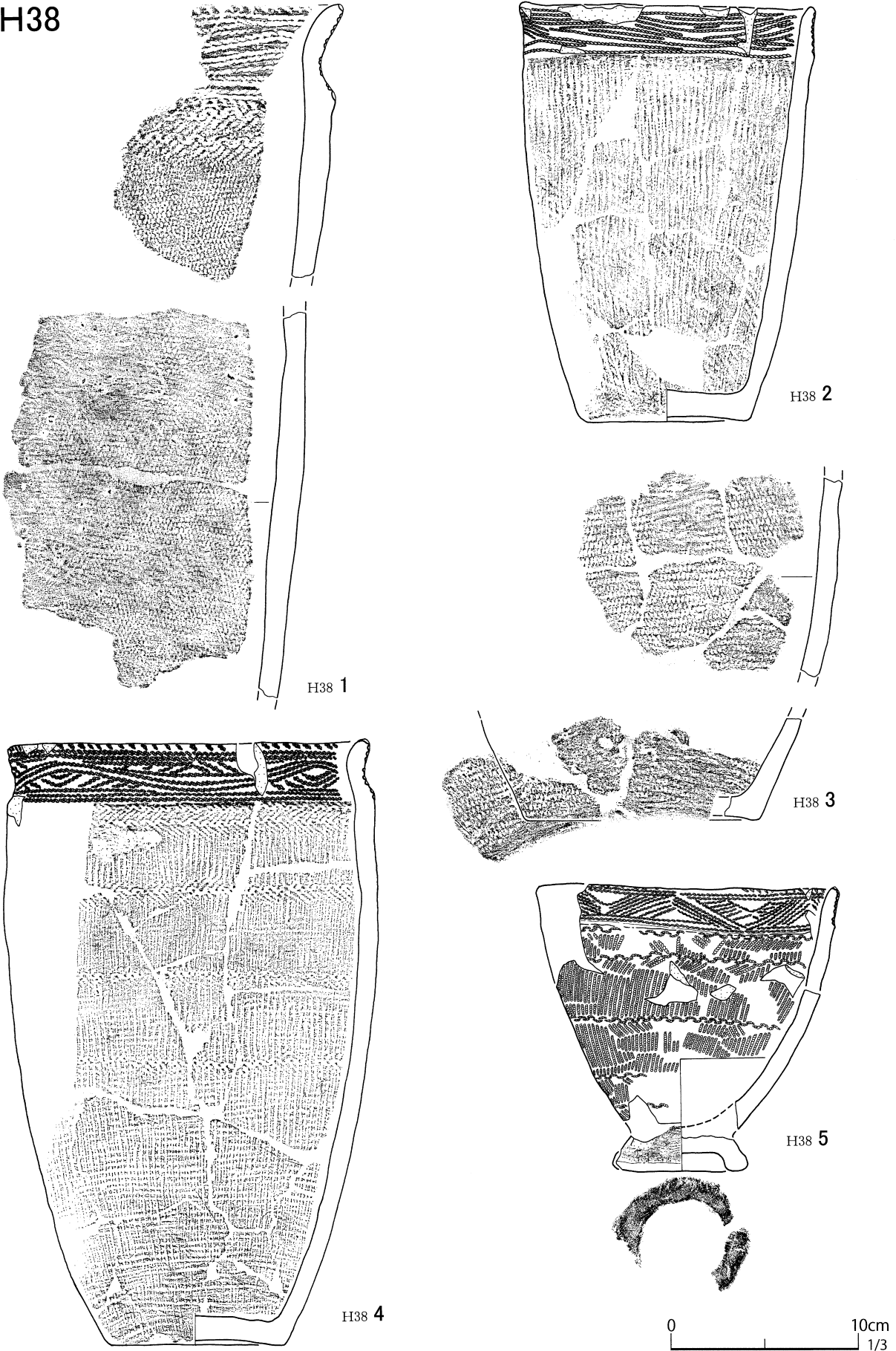
2・4～9は円筒下層d1式新段階。2は覆土最上位で検出された。縄文縦走地文で、口縁部には縄線で直線構成の崩れた菱形文の連続を施す。4は覆土上位出土、点取りNo.1である。サルボウ条痕横走後、単軸絡条体と結束第二種羽状縄文により多段の帯。口縁部には波状に近いゆるやかな山形の連続を縄線で施す。5は覆土上位および覆土南側、およびM2-2起源とみられるM1盛土遺物が接合した。台付の鉢である。自縄自巻に結束第二種羽状縄文で多段の帯にする。口縁部には複数の縄線で鋸歯状文を施す。6は覆土上位出土、点取りNo.7である。単軸絡条体地文と結束第二種羽状縄文により多段の帯にする。口縁部には縄線により菱形の連続と波状文を組み合わせる。7は覆土上位出土、点取りNo.1を主体とし、覆土下位のものと接合した。H56覆土最上位遺物とも接合した。M2-2～M2-2下位で62～63R区とも接合する。サルボウ条痕横走後、単軸絡条体回転と結束第一種羽状縄文の組み合わせで多段の帯にする。口縁部には縄線により菱形の連続と波状文を組み合わせる。8は覆土上位出土で、点取りNo.3である。自縄自巻地文、口縁部には縄線で直線構成の文様。区画には押し引きが連続する隆帯を持ち直下には結束第一種羽状縄文。大型の深鉢破片。9は覆土上位出土、点取りNo.3である。M2-2で63-Q～R区とも接合する。サルボウ条痕横走後、自縄自巻を縦走、結束第一種羽状縄文により多段の帯。口縁部には縄線により山形文の連続。7と9は地文に違いはあるが、節のたった細かい原体を密に使うため、雰囲気似ている。

10・13～17・20は円筒下層d1式古段階。10は覆土上位出土、点取りNo.5を主体とする。自縄自巻地文。口縁部に縄線と羽状縄文を施す。

13は覆土上位で出土した。13の地文は自縄自巻を縦走。口縁部は縄線を水平方向に平行に施す。14は床面出土、点取りNo.9を主体とする。大型の深鉢破片である。自縄自巻地文。口縁部には水平方向の縄線を押圧し、縦区画を持つ。15～18は円筒下層d1式を擦り切って短冊状の再生土製品を成形しようとしたものである。15は大型破片を擦り切る途中の過程のものである。サルボウ条痕横走後、自縄自巻を縦走。口縁部には縄線による直線構成の文様。16・17は15と同一個体の可能性が高い。18も類似する個体である。20も円筒下層d1式胴部破片の縁辺を擦り切って円形の再生土製品を作ろうとした可能性がある。18・20は口縁部のない胴部破片であるため、円筒下層d1式に分類している。

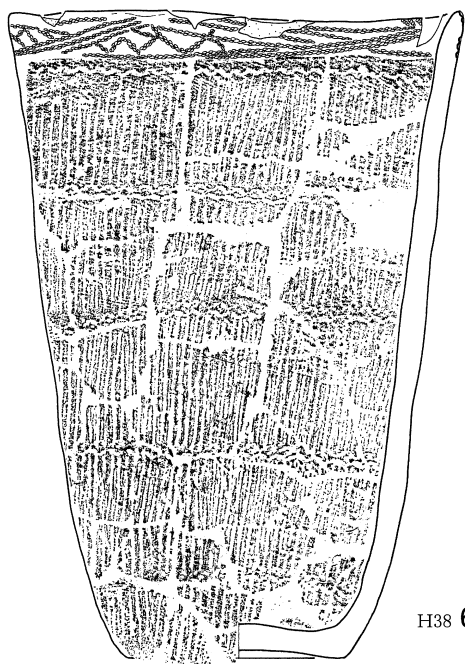
11・12は円筒下層d1式。11は覆土上位出土で、点取りNo.6である。12は覆土上位出土で、点取りNo.4である。いずれも自縄自巻地文で、11は結節回転を組み合わせで多段の帯にする。19は円筒下層b式の破片中央に穿孔して再生土製品にしたものである。

H38

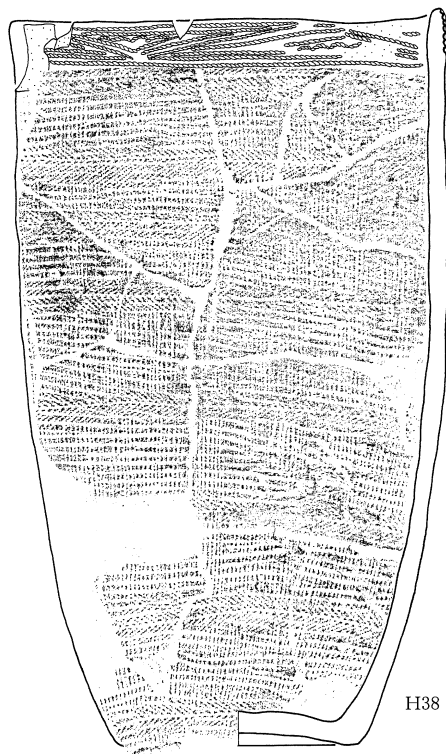


図Ⅲ-2-38 遺構出土土器 H38(1~5)

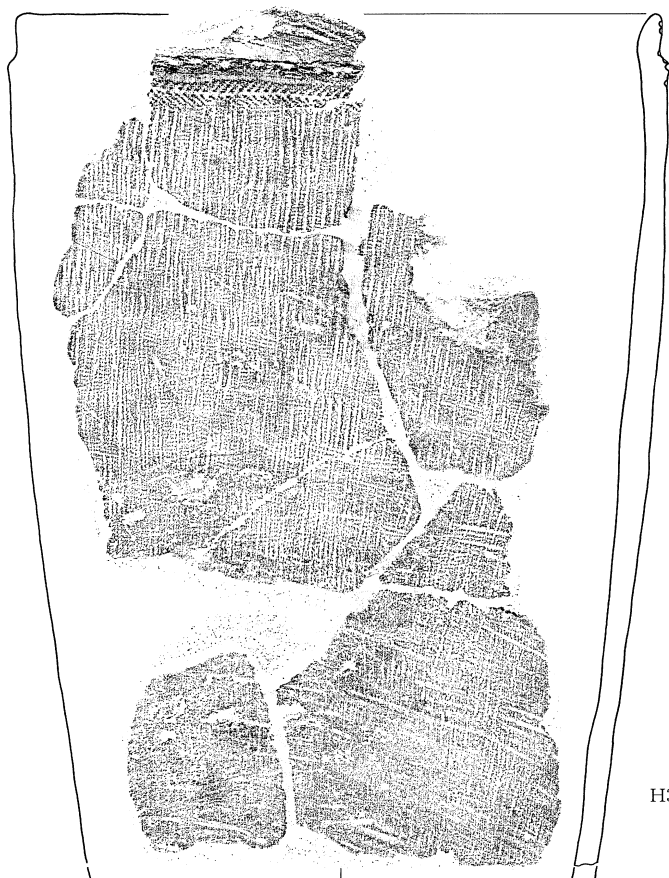
H38



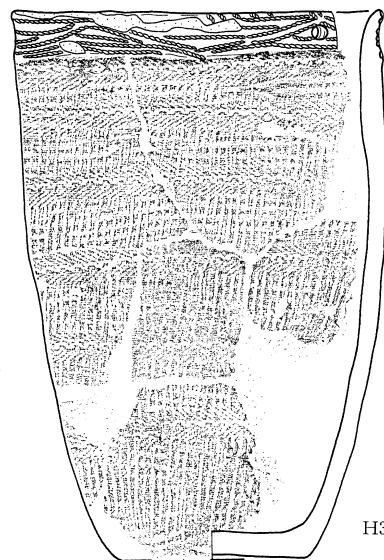
H38 6



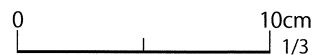
H38 7



H38 8

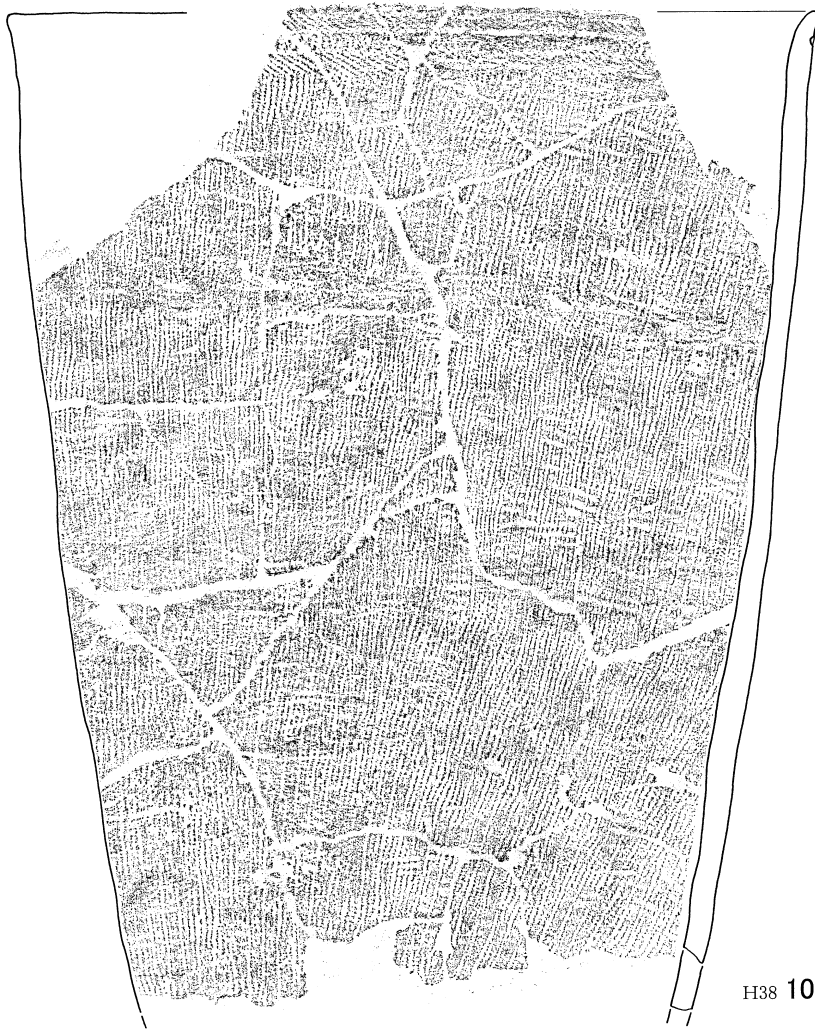


H38 9



図Ⅲ-2-39 遺構出土土器 H38(6~9)

H38



H38 10



H38 11

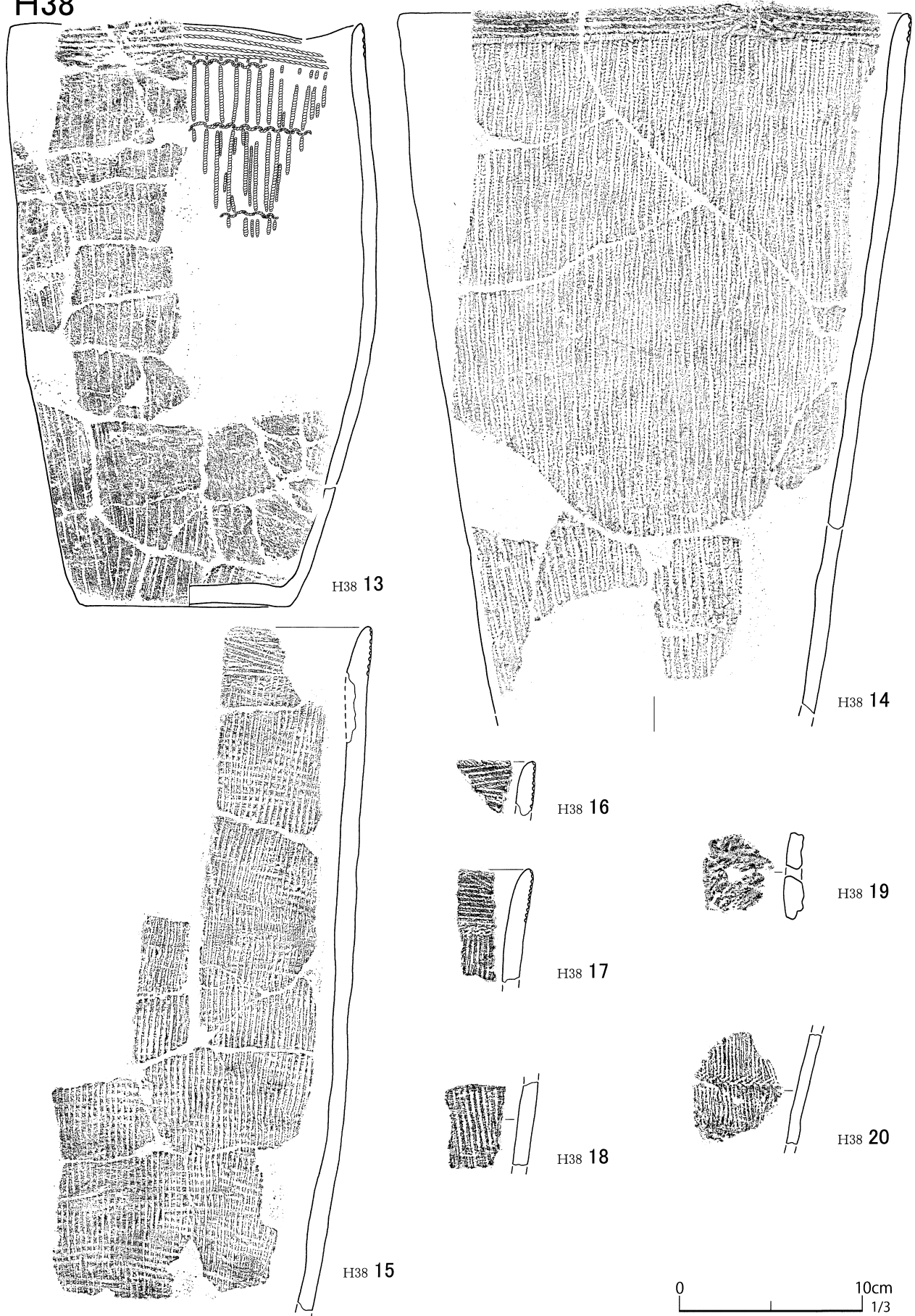


H38 12

0 10cm 1/3

図Ⅲ-2-40 遺構出土土器 H38(10~12)

H38



図Ⅲ-2-41 遺構出土土器 H38(13~20)

H39：H39は円筒下層c式の頃の住居と思われ、円筒下層c式が複数個体復元されている。覆土最下位でのまとまりNo.40(64)、No.41(63)が床面出土に近い状況である。42・47が覆土上位から下位にかけて出土した破片が接合あるいは同一個体と思われた。この二個体はむしろ上位のものが多いことから、この家は円筒下層c式の時期に掘り込まれて廃絶した可能性を考えた。42や覆土上位から出土した43(覆土上位No.19)の方が古いことになる。流入と考える。覆土下位主体に出土した円筒下層d1式新段階はこの住居の廃絶直後のまとまりと考える。

出土する円筒下層d1式新段階については口縁部文様帯に縄線で直線構成の山形ないしは菱形文を施す段階である。円筒下層d2式により近い時期である。これらと円筒下層d2式が出土する。

円筒下層d2式が復元個体では2・3・7・11・15～18・20～26・28・29・55・56他に1・4・5・9・12～14・30。円筒下層d1式新段階d2式への過渡期段が復元個体では19・27・31・32・34・35他に6。円筒下層d1式新段階が復元個体では33・41・49～53、他に40。円筒下層d1式最古段階の範疇のものとして46・60。円筒下層d1式の範疇のものとして36～39・54。円筒下層d式の範疇のものとして8。円筒下層c式が復元個体では42・43・63～65他に44・45・47・57～59・61・62。円筒下層式期のものは10の焼成粘土塊である。

円筒下層d1式土器53について、H21覆土7層中央出土遺物がH39出土遺物と接合した。H39は覆土上位から下位にかけての接合である。

1は覆土最上部点取りNo.22である。同一個体だが、磨滅が著しく復元に至らなかった。多軸絡条体地文。口縁部には縄線で直線構成の文様。

2は覆土2層直下出土遺物を中心に覆土7最上位、上位の遺物が接合した。また覆土下位東側に遺物とも接合した。覆土2層直下の遺物は主に覆土上位の遺物と接合するが、下位については東側のものと接合、あるいは共通するものがある。今回も覆土東側下位の遺物と接合した。肩部に押し引きを連続。縄線により直線構成の文様か。口唇部欠損。単軸絡条体地文。

3は覆土最上部出土、点取りNo.22を主体として、主に覆土最上位の遺物が接合した。円筒下層d2式である。肩部に円形刺突が連続。多軸絡条体地文。口縁部に短い縄線の連続による円筒下層d1式新段階風の施文。

4は覆土最上位の遺物が接合した。類似するものは覆土南側および住居と同調査区のM2-2から出土している。単軸絡条体第4類による地文。

5はH39覆土上位遺物を中心に接合したものである。同一個体の可能性のあるものは周辺のM2盛土やH62からも出土している。M2起源のM1出土遺物とも接合した。円筒下層d2式である。波頂部に対応する四つの刺突が特徴的である。

6は覆土上位から、点取りNo.18である。同一個体と思われる破片は覆土最上位からも出土している。自縄自巻と結束第一種羽状縄文で多段の帯。口縁部には縄線による施文。やや曲線味を帯びる。

7は覆土上位、点取りNo.7が主体となって接合した。円筒下層d2式である。サルボウ条痕横走施文後、単軸絡条体地文。口縁部には複節の縄線による施文。やや曲線味を帯びる。

8は再生土製品である。8は覆土上位から出土した円筒下層d2式である。多軸絡条体地文の胴部破片の縁辺を円形に成形したものである。

9は覆土上位出土点取りNo.8である。口径の割に口縁部文様帯の幅が狭く、口縁部文様帯直下に結節の回転が見られる事から古段階のものとする。縄線を二つ折りにして曲面を対向させる。

10は焼成粘土塊である。点取りNo.13に混在していた。No.13は覆土上位は掲載番号32の土器復元の主となった点取り遺物である。繊維・砂粒を含むため円筒下層式土器の胎土が焼けたものとする。

11・12は覆土上位、点取りNo.2である。11は矢羽縄線によって平行線文様を施文。多軸絡条体地文。12は覆土上位から出土した円筒下層d2式の底部である。

13は住居北側のトレンチでまとまっていたものがM2, 62T区からの出土遺物と接合した。同一個体の可能性があるものは覆土上位、覆土1層から出土している。

14は覆土上位、点取りNo.6である。15は覆土上位、点取りNo.5である。円筒下層d2式の底部である。多軸絡条体地文で上げ底である。

16は覆土上位出土遺物が接合した。点取りNo.16を主体とする。口縁部文様には縄線により山形文、連続する縄線で充填する。所々結束第一種羽状縄文施文で多段の帯。

17は覆土最上部出土、点取りNo.23である。口縁部文様は縄線により菱形基調の文様を連続して施す。サルボウ条痕横走後、自縄自巻を縦走。

18は覆土上位、点取りNo.3である。ほかにM1の遺物が接合した。多軸絡条体地文。肩部に半截竹管によるC字形刺突を連続。口縁部文様には2本一組の縄線で直線構成の文様。

19は覆土上位の遺物および東側覆土下位の遺物が接合した。覆土上位の点取りNo.17・No.18・No.21が接合している。口縁には縄線によって鋸歯状文、間隙を波状文や縄線押圧の連続で充填する。自縄自巻と結束第二種羽状縄文で多段の帯。

20は覆土2層直下の遺物を主体として覆土上位遺物と接合した。サルボウ条痕施文後、自縄自巻を縦走。口縁部には菱形基調の文様。

21は覆土上位出土、点取りNo.16を主体として接合した。口縁部には縄線によって山形文を鋸歯状に連続。多軸絡条体地文。

22は覆土上位、点取りNo.1である。縄線によって山形ないしは菱形文を連続。単軸絡条体地文。

23は覆土上位、点取りNo.11である。口縁部には縄線を平行に走らせる。多軸絡条体地文。

24は覆土上位、点取りNo.9とNo.10が接合、復元の主となる。口縁部には縄線を平行させる。区画となる肩部にはC字状の圧痕を連続する。木目状撚糸地文である。

25は覆土上位出土点取りNo.12を主体として接合した。口縁部には絡条体側面圧痕で山形文を推定四単位で施す。多軸絡条体地文。

26は覆土2層直下から出土、点取りNo.25である。縄線で山形文を推定四単位で施す。単軸絡条体地文。

27は覆土上位、点取りNo.14を主体とする。他に覆土下位、点取りNo.26、および覆土2層直下のものが接合した。口縁部には縄線で波状文を施し、間隙には複数の縄線押圧で充填する。サルボウ条痕施文後、自縄自巻と結束第二種羽状縄文で多段の帯。

28は覆土上位から最上位にかけての遺物を主体に接合した。点取りNo.24を含む。口縁部から底部にかけて、磨滅して不明瞭だが、条痕施文後、木目状撚糸地文を施す。胎土と器壁の厚さから円筒下層d2式とした。

29は覆土上位でまとまっていた。多軸絡条体地文施文後、サルボウ条痕横走。地文および胎土から、円筒下層d2式の小型深鉢とした。

31は覆土北側上位出土遺物である。点取りNo.12が接合した。円筒下層d2式胴部下半である。自縄自巻と結束第二種羽状縄文によって多段の帯。30としたのは同時に出土した口縁部破片である。地文の撚りの向き等から判断して別個体であるが、同時期の可能性が高い。32は覆土上位、点取りNo.13を主体として接合した。覆土2層直下、覆土下位の遺物も接合している。円筒下層d2式である。口縁部には縄線によって山形文の連続。多軸絡条体地文。33は覆土上位、点取りNo.20である。自縄

自巻地文の胴部下半分である。円筒下層 d1 式新段階に相当するものとする。34 は覆土 2 層直下の遺物を主体として、60R 区の M2-2 と接合した。口縁部は縄線押圧の連続で 2 ないし 3 段の押圧列を形成する。地文は単軸絡条体と 2 段の結節回転の組み合わせで多段の帯にする。明瞭な肩部と器壁の厚さが、円筒下層 d2 式を思わせる。文様と口径に対して長い胴部により古い要素を持つ。35 は覆土 2 層直下、M3 的な土層であるが、この遺物を主体として、覆土上位遺物が接合したものである。口縁部は縄線により山形文を連続する。胴部はサルボウ条痕施文後、自縄自巻地文。明瞭な肩部と器壁の厚さが、円筒下層 d2 式を思わせる。文様により古い要素を持つ。

36~39 は円筒下層 d1 式の胴部破片を短冊状に擦り切ったもの、あるいはその残片である。36~38 は短冊形である。36・37 は覆土南側から出土している。39 は覆土 1 層から出土している。38 は覆土上位から出土している。

40 は覆土上位、点取り No. 13 である。磨滅した円筒下層 d1 式である。口縁部には縄線によって鋸歯状文が施される。所々に縦区画として円形刺突があしらわれる。絡条体地文と結束第二種羽状縄文で多段の帯。41 は覆土 2 層直下の遺物を主体として覆土上位遺物と接合した。サルボウ条痕横走後、自縄自巻施文。円筒下層 d1 式新段階の胴下半部である。42 は覆土上位の遺物を主体として接合した。点取り No. 24 を含む。ただし接合状況を見ると、覆土上位~下位また平面的にも広い範囲の遺物が接合した。口縁部にはサルボウ条痕を横走、縄文地文。43 は覆土上位、点取り No. 19 である。口縁部には矢羽縄線を水平方向に密に施文する。円形刺突を押し引く隆帯により区画。合捺を縦走する地文。円筒下層 c 式新段階である。

44 は覆土南側から出土した。口縁部には反撚り縄線と縄文を施す。45 は覆土南側から出土している。円筒下層 c 式でも古手のものである。口縁部は縄文施文、区画は縄線、地文は単軸絡条体。

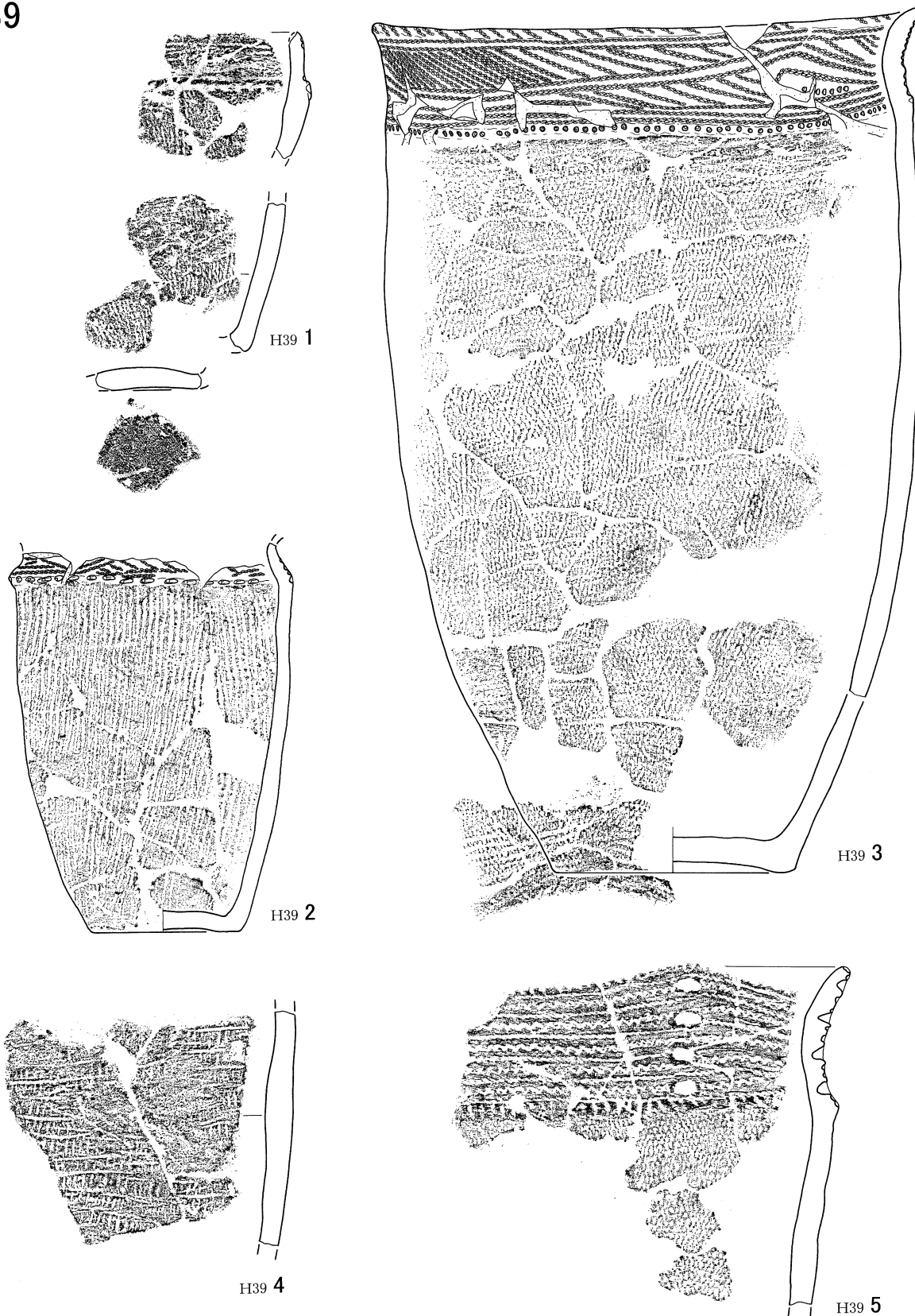
46 は覆土上位の点取り No. 17・18・21 が接合した。口縁部文様は磨滅によって不明瞭。自縄自巻と結節回転の組み合わせで多段の帯。円筒下層 d1 式だが、器形と口縁部文様帯の幅から円筒下層 c 式に近い土器と考える。47 は覆土上位出土点取り No. 24 である。類する破片は覆土の東側を中心に上位、下位の差なく出土した。このような時期に竪穴住居が掘り込まれた可能性がある。口縁部には直前段反撚り縄文、地文は単軸絡条体地文。48 は覆土上位出土遺物が接合した。中には点取り No. 15 が混じる。縄線で鋸歯状文を描く。サルボウ条痕施文後、単軸絡条体地文。

49 は覆土下位出土、点取り No. 35 である。口縁部には縄線で菱形文様の連続。地文には自縄自巻地文。区画には押し引き気味の刺突列を持つ隆帯。台付きの鉢である。50 は覆土下位出土点取り No. 31 である。縄線により山形文の連続。サルボウ条痕横走後、自縄自巻を縦走。

51 は覆土中位出土、点取り No. 32 である。口縁部には縄線で波状文。サルボウ条痕を横走後、自縄自巻を縦走。

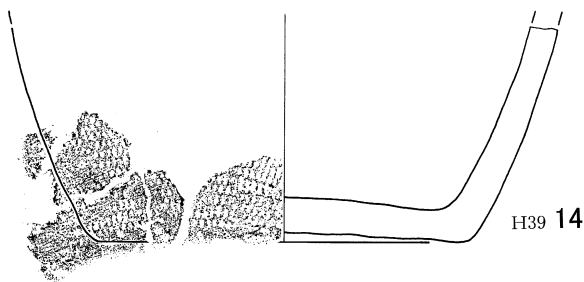
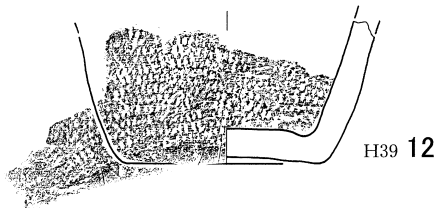
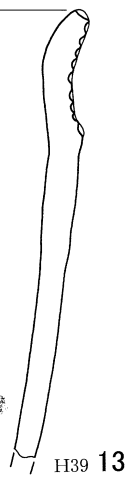
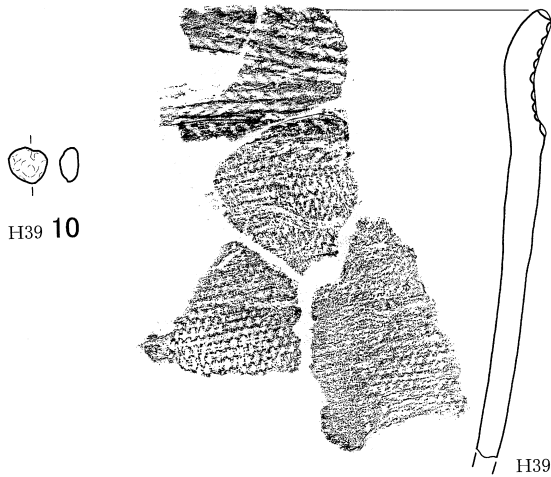
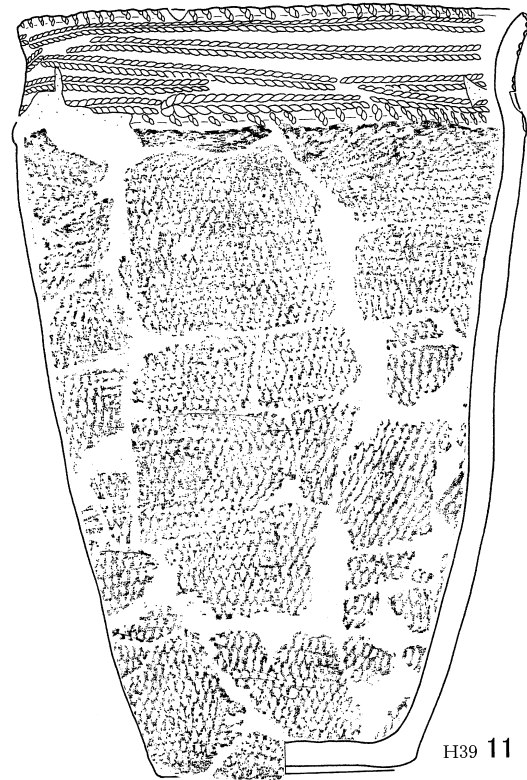
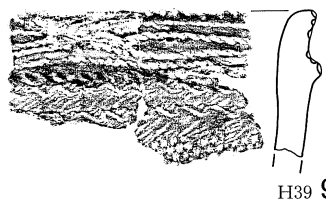
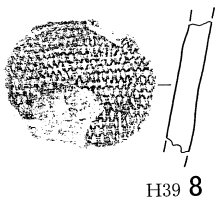
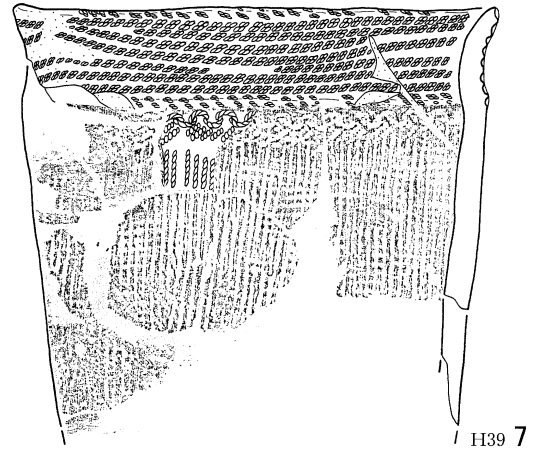
52 は覆土下位出土、点取り No. 26 である。口縁部には結束第一種羽状縄文と縄線で施文。サルボウ条痕施文後、自縄自巻。53 は覆土下位出土遺物、特に点取り No. 33 を主体とし、覆土上位~下位にかけての遺物が出土した。H21 の覆土 7 層上面の遺物 1 点とも接合している。縄線押圧を矢羽状に並べ、対向させる。区画は押し引きによる二列の刺突列。自縄自巻地文。54 は覆土下位出土であり、覆土下位出土の点取り No. 42 が同一個体と考えられる。単軸絡条体地文の底部。55 は覆土下位出土、点取り No. 28 を主体とし、No. 37 の 2 点と接合した。自縄自巻地文の底部。56 は覆土下位出土、点取り No. 39 を主体とする。口縁部に結節回転と縄線を施す。二種類の直前段反撚り縄文による地文。57 は覆土下位出土で点取り No. 30 である。単軸絡条体回転および結束第一種羽状縄文回転をくみあわせたものを口縁部および胴部地文に施す。隆帯上には押し引きを連続する。胎土と器壁から、円筒下層 c 式

H39



図Ⅲ-2-42 遺構出土土器 H39(1~5)

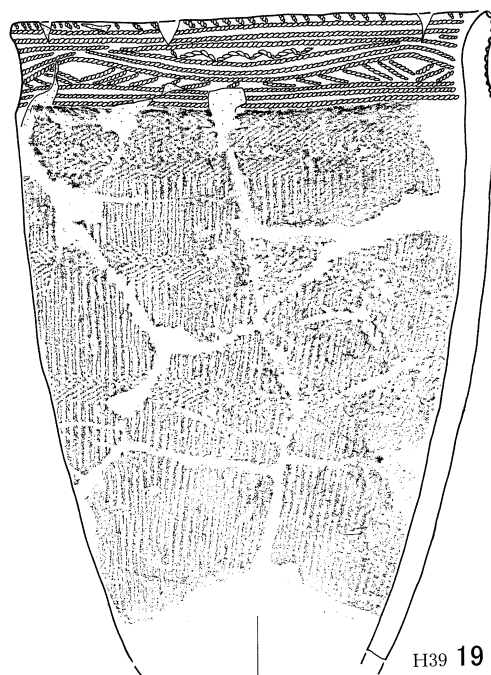
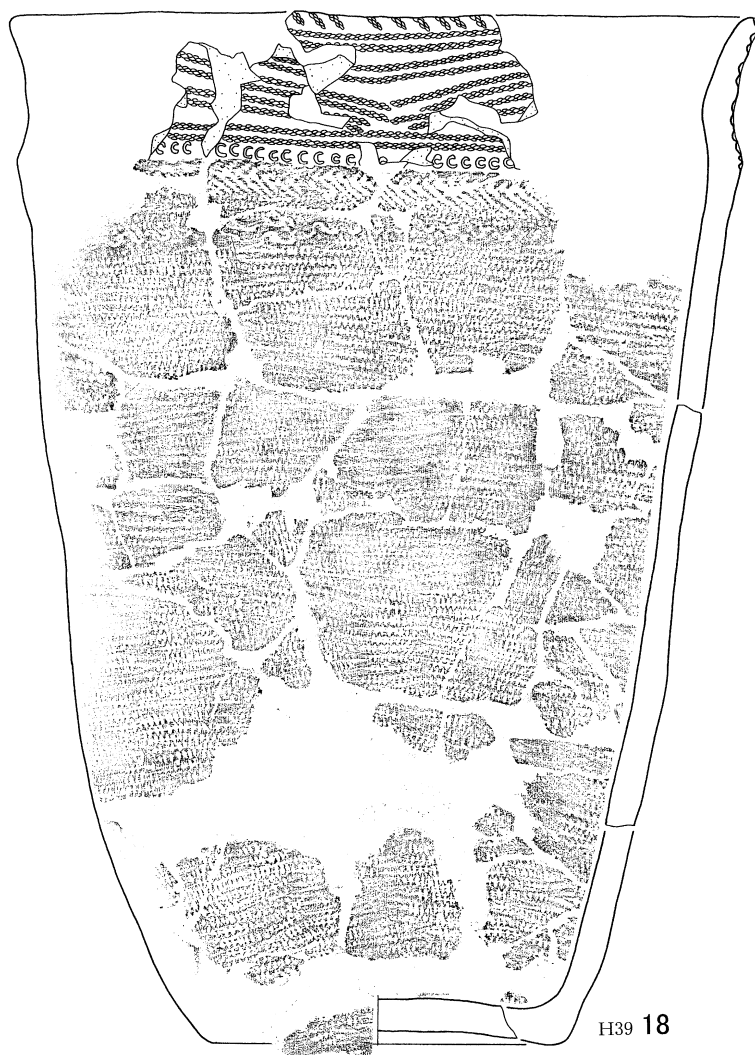
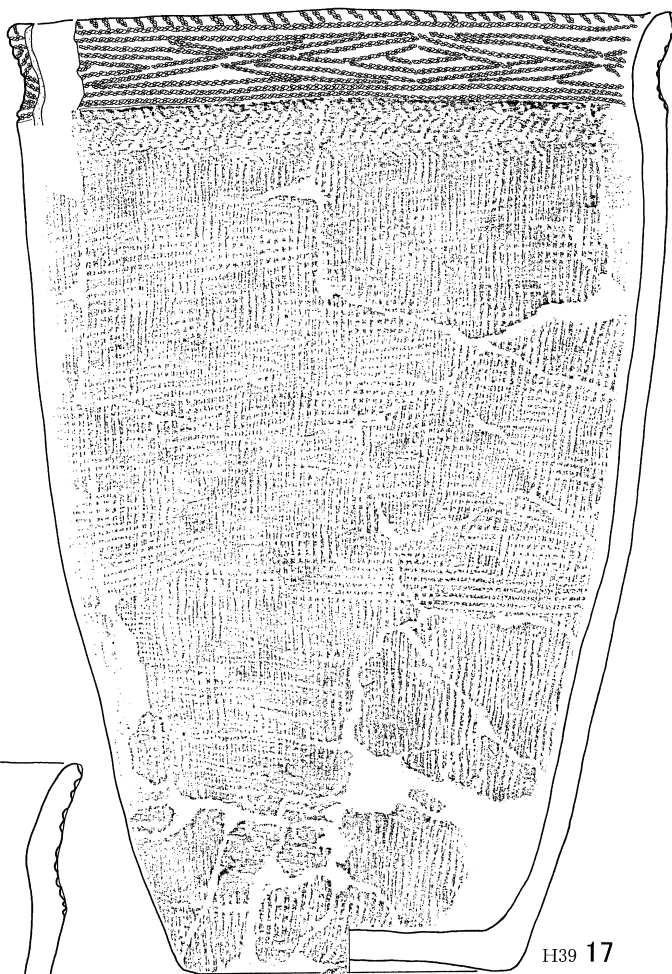
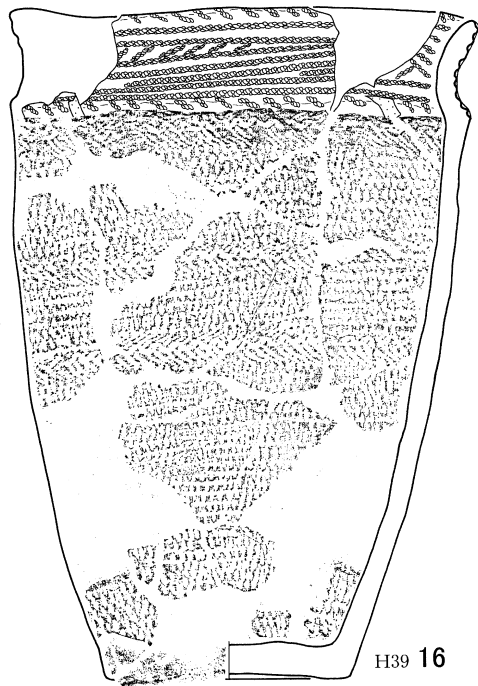
H39



0 10cm 1/3

図III-2-43 遺構出土土器 H39(6~15)

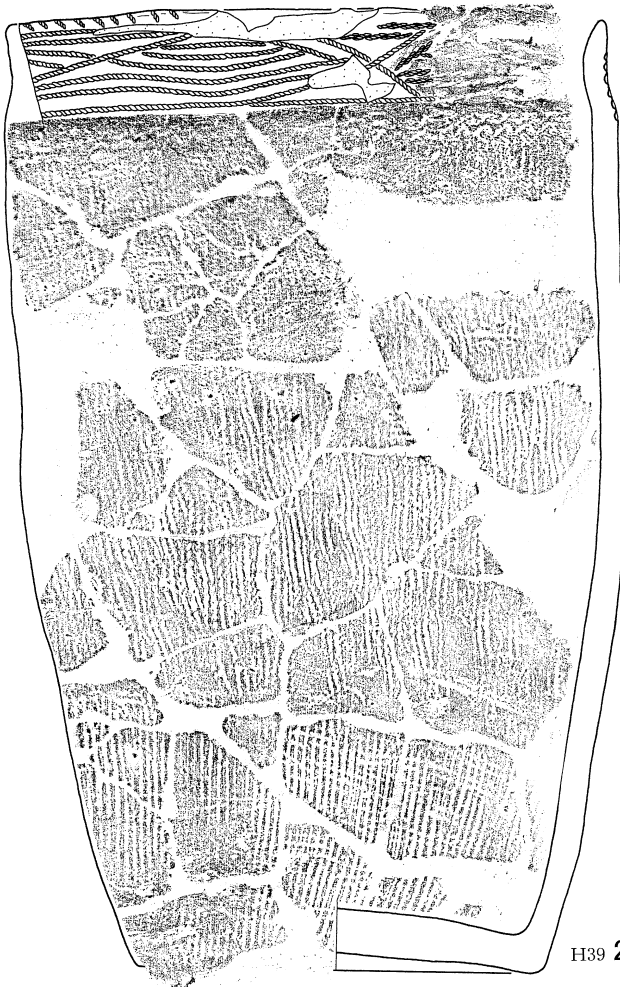
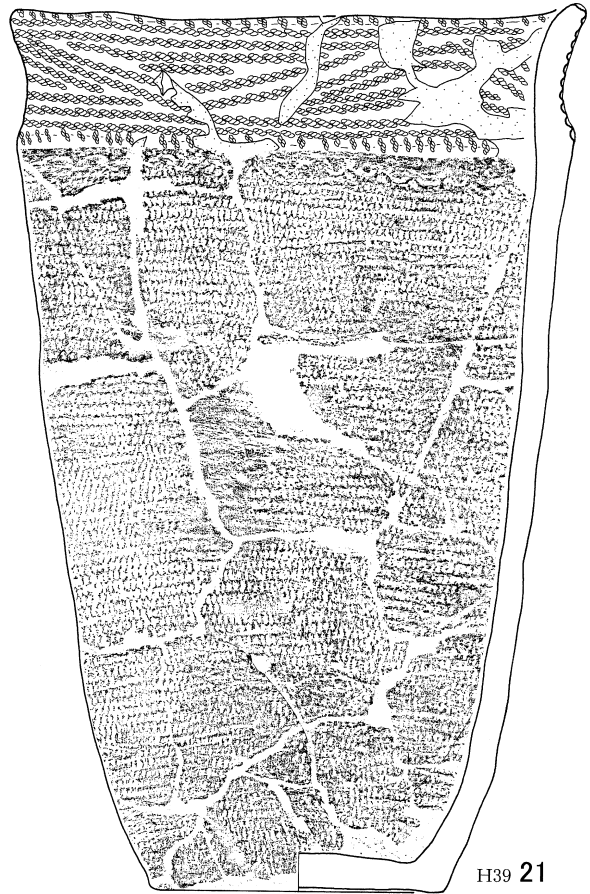
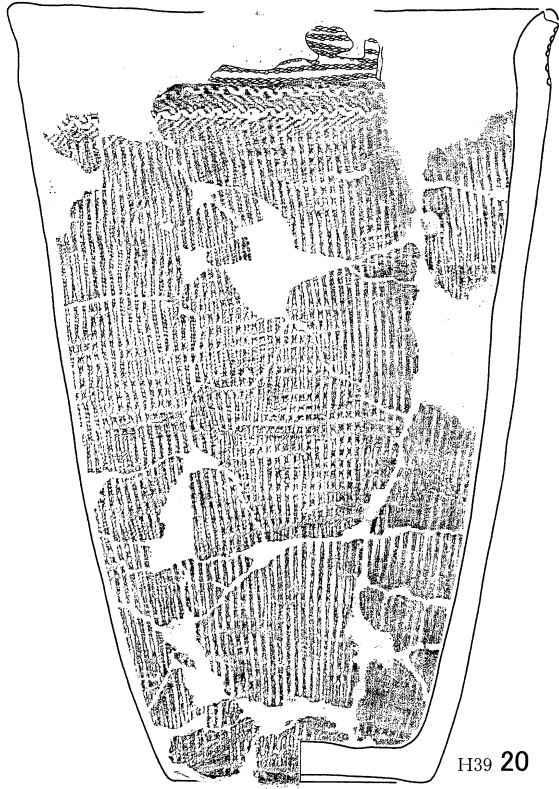
H39



0 10cm
1/3

図Ⅲ-2-44 遺構出土土器 H39(16~19)

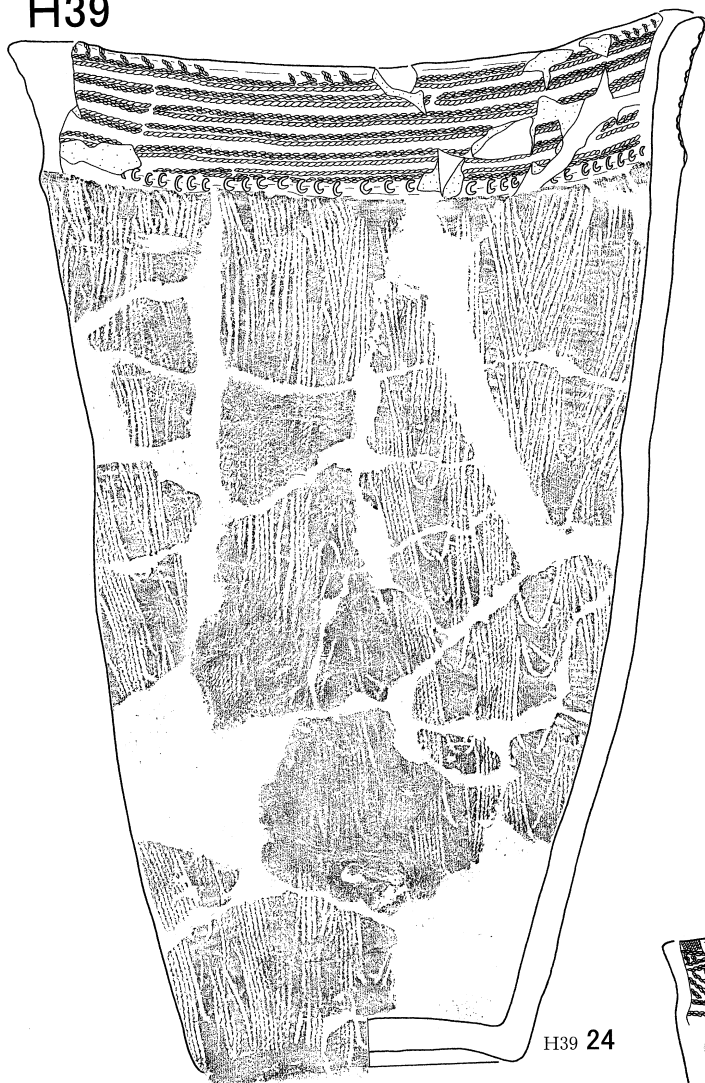
H39



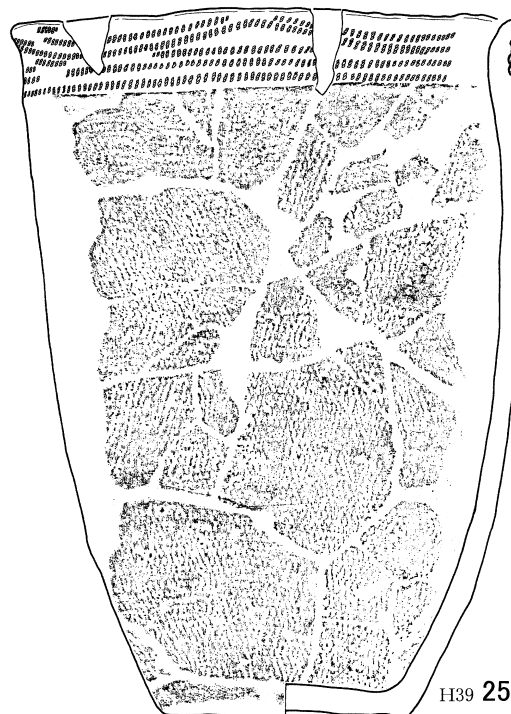
0 10cm
1/3

図 III-2-45 遺構出土土器 H39 (20~23)

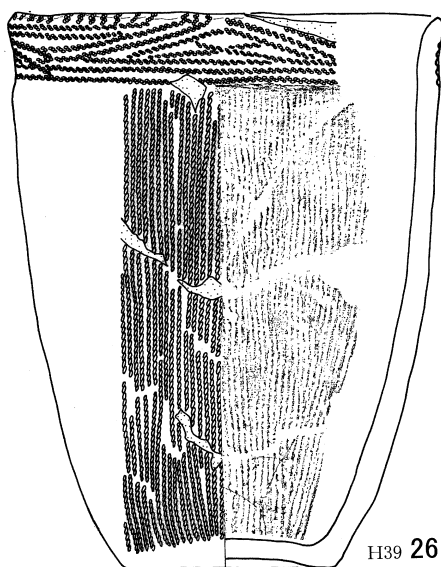
H39



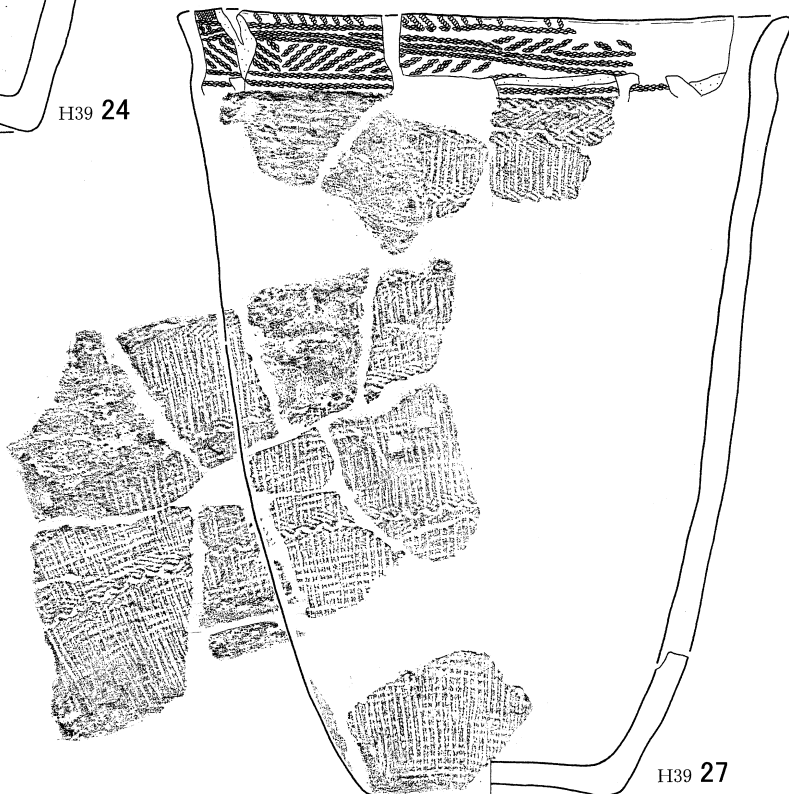
H39 24



H39 25



H39 26

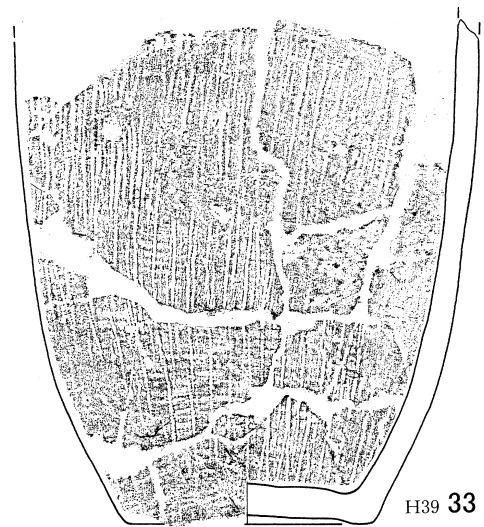
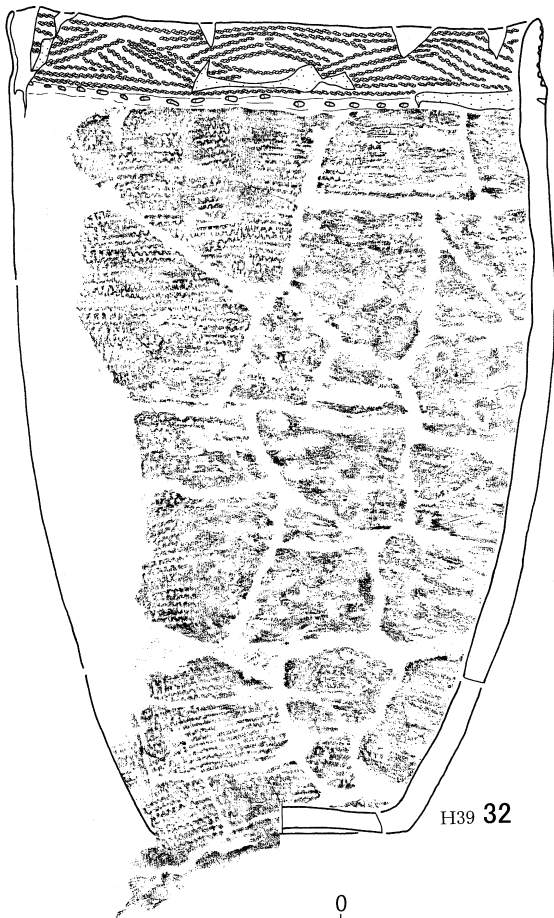
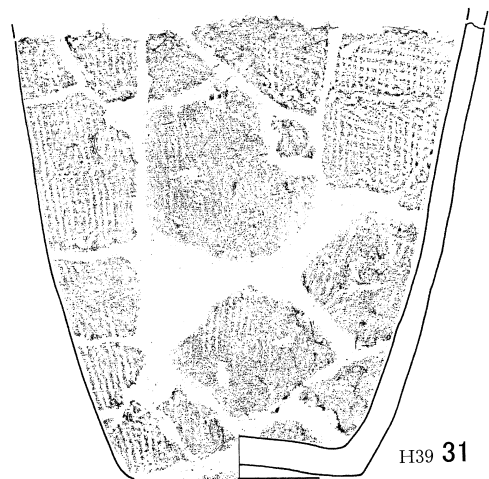
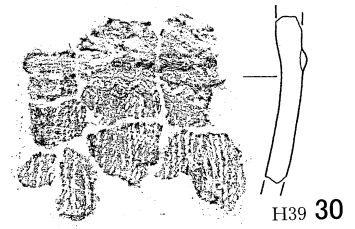
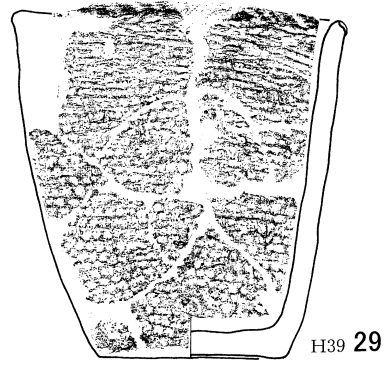
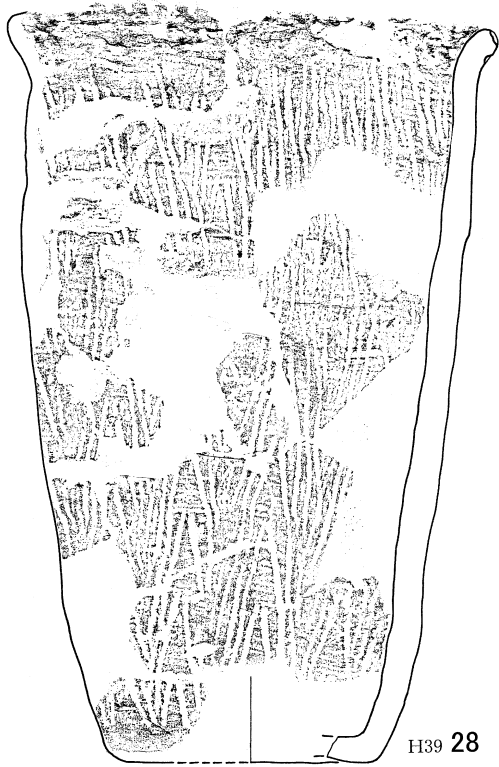


H39 27

0 10cm
1/3

図Ⅲ-2-46 遺構出土土器 H39(24~27)

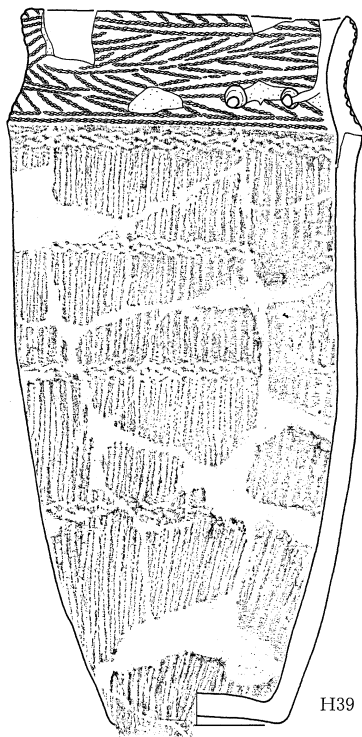
H39



0 10cm 1/3

図 III-2-47 遺構出土土器 H39 (28~33)

H39



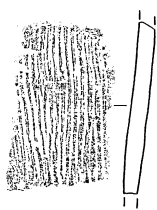
H39 34



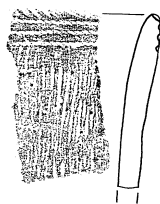
H39 35



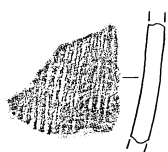
H39 36



H39 37



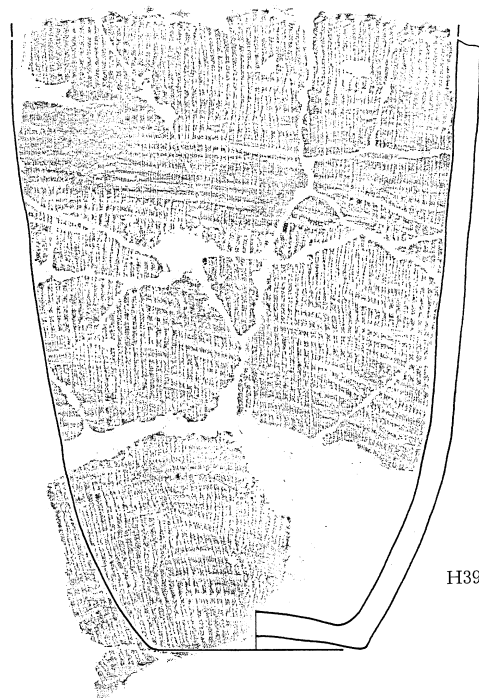
H39 38



H39 39



H39 40

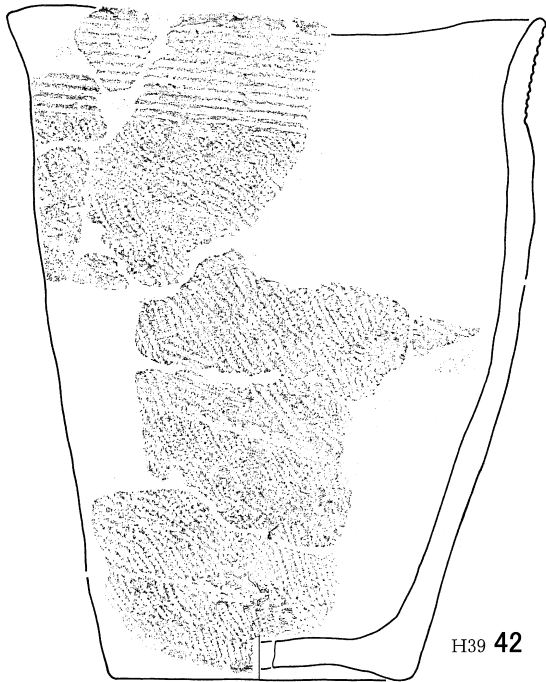


H39 41

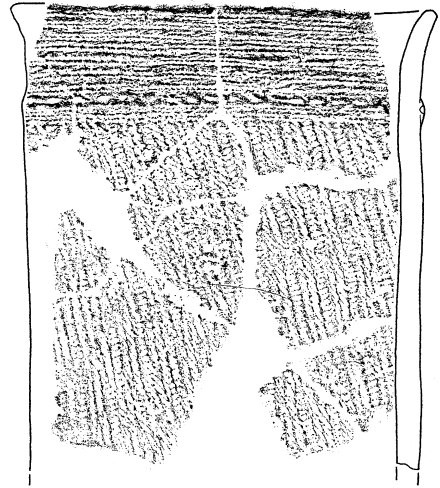
0 10cm
1/3

図Ⅲ-2-48 遺構出土土器 H39(34~41)

H39



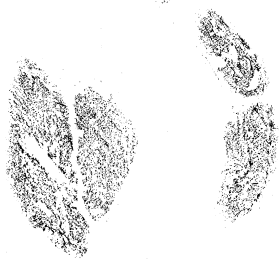
H39 42



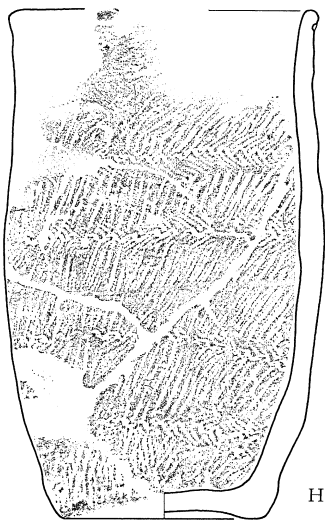
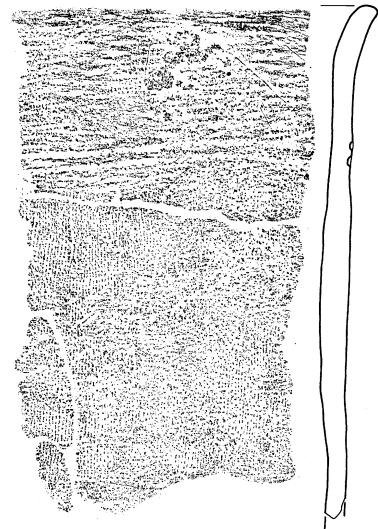
H39 43



H39 44



H39 45



H39 46

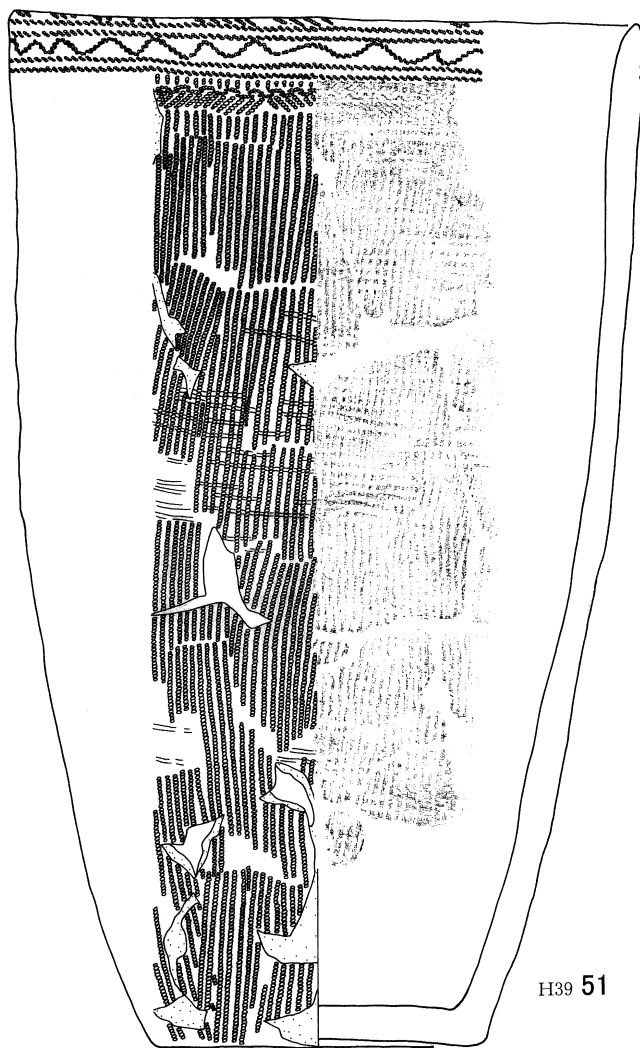
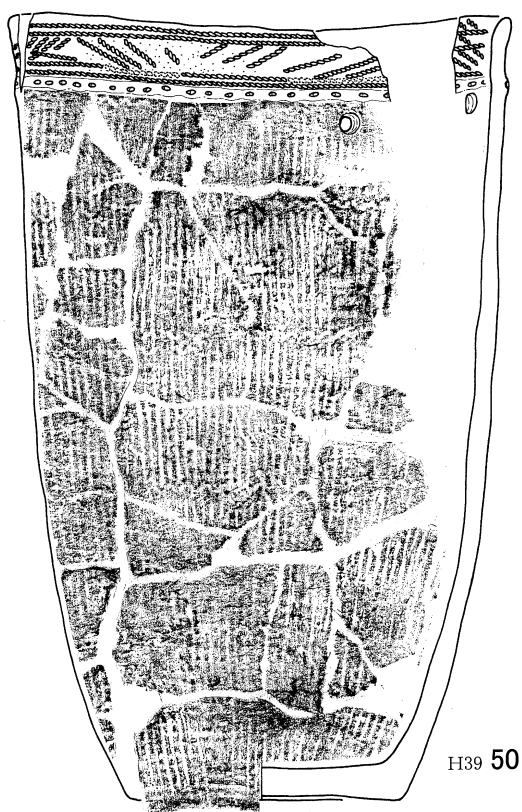
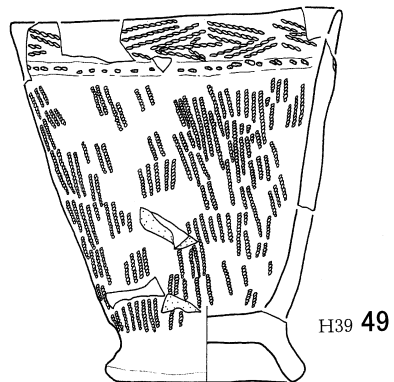
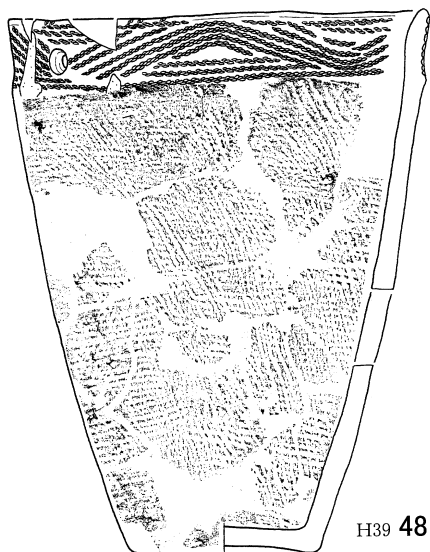


H39 47

0 10cm 1/3

図Ⅲ-2-49 遺構出土土器 H39(42~47)

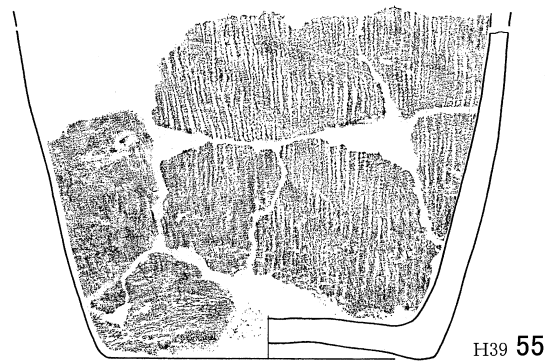
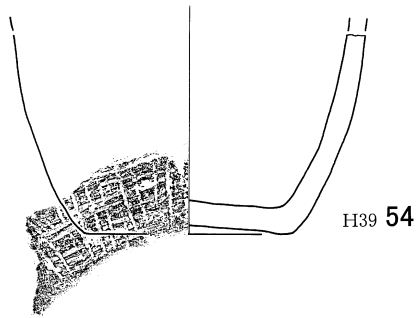
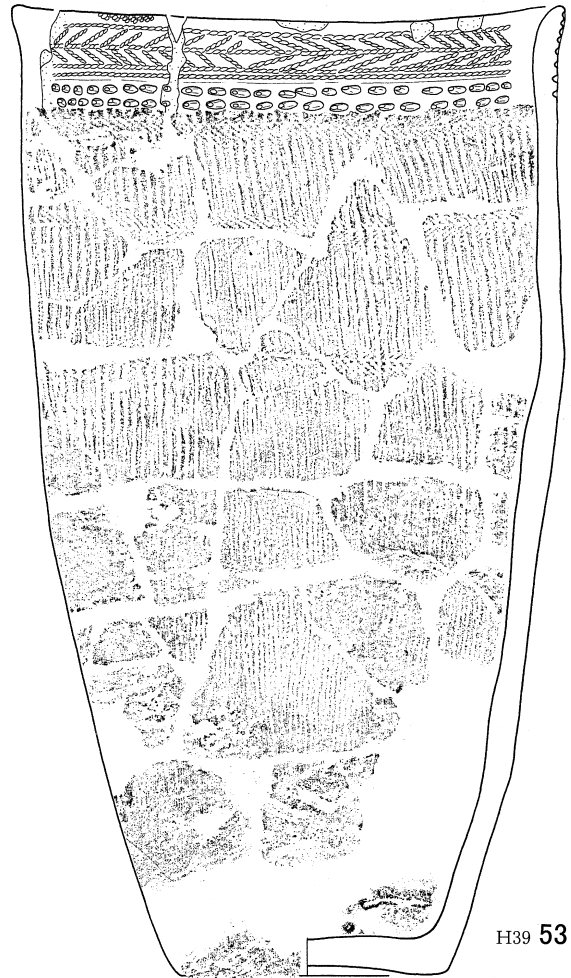
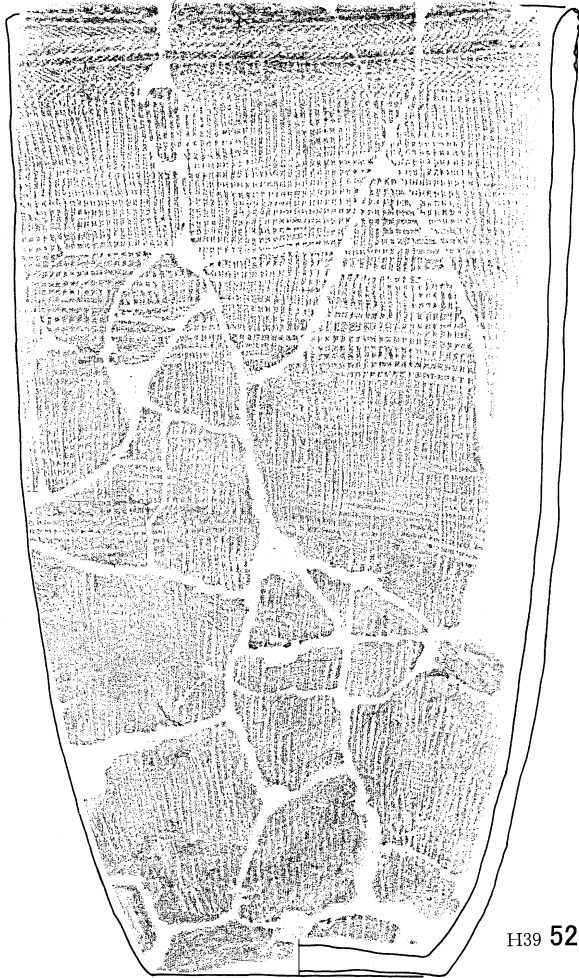
H39



0 10cm
1/3

図Ⅲ-2-50 遺構出土土器 H39(48~51)

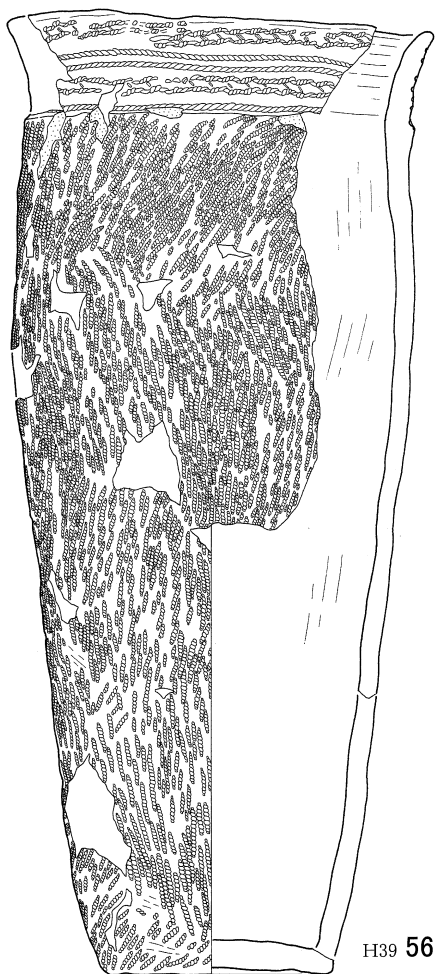
H39



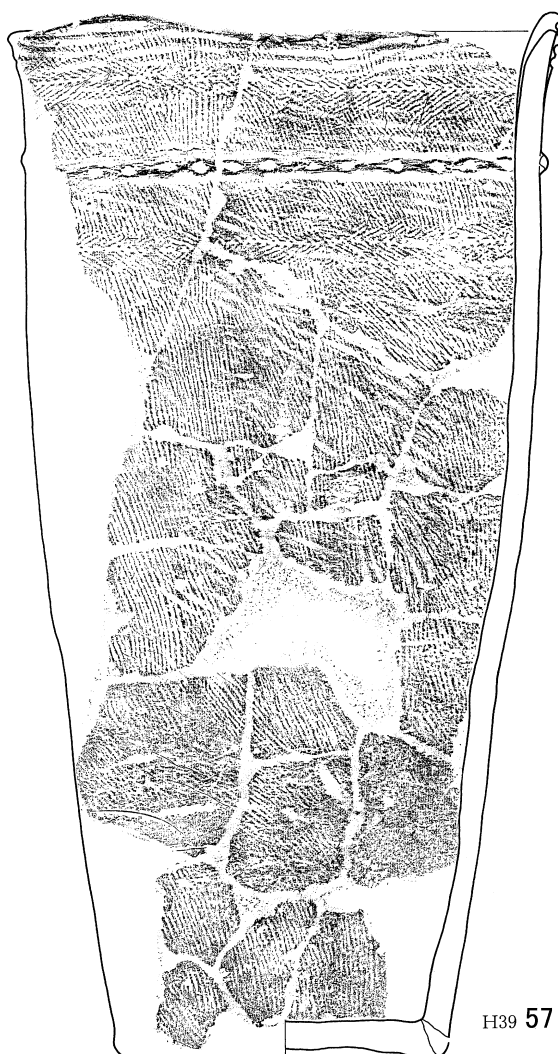
0 10cm 1/3

図 III-2-51 遺構出土土器 H39(52~55)

H39



H39 56



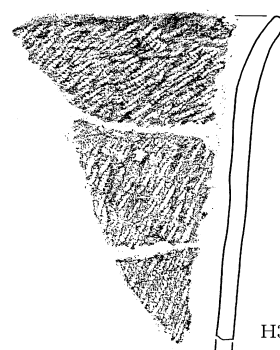
H39 57



H39 58



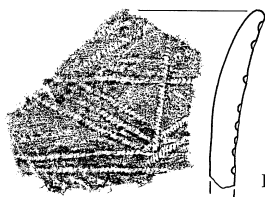
H39 59



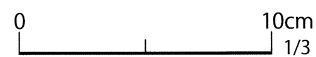
H39 62



H39 60



H39 61



図Ⅲ-2-52 遺構出土土器 H39(56~62)

と考える。文様要素として連続刺突を持つ隆帯が円筒下層 b2 式的、そして地文の組み合わせが円筒下層 d1 式的である。

58~62 は円筒下層 c 式である。58・60・61 は覆土東側から、59 は覆土下位から、62 は覆土上位から出土した。61 は絡条体側面圧痕により文様の正中線が波頂部に対応していると思われる菱形文様を口縁部に施す。58 は結節回転文を口縁部文様帯に持つ。60 は 2 本一組の縄線で無文時地の口縁部に文様を描く。円筒下層 d1 式に近い文様である。62 は直前段反撚り地文の土器である。接合破片に点取り No. 18 を含むまた類似した破片が覆土下位東側からも出土している。59 は内弯する口縁部形態と縄文地文の口縁部文様帯、二本の縄線による区画。58 もその古い文様要素から円筒下層 b2 式段階まで下る可能性もある。

63 は覆土下位出土、点取り No. 40 を主体とする。脇の No. 41 のうち 2 点とも接合した。口縁部は反撚り縄文横走、胴部は反撚り縄文縦走。肩部には縄線が 2 本施される。64 は覆土下位出土、点取り No. 41 である。口縁部には反撚り縄文を横走、胴部には反撚り縄文を縦走。口縁部には結束第一種羽状縄文の原体と思われる縄線を押圧する。

65 は大きくは覆土下位の点取り No. 42 と No. 38 が接合した。そこに覆土下位出土遺物が散点的に接合した。結束第一種羽状縄文により口縁部を施文する。単軸絡条体地文である。

H40：磨滅した土器のみ出土。胎土、器壁の厚さから、いずれも円筒下層 b1 式あるいはその直後の円筒下層 b 式の古手のものと考え。1 は覆土 1 層と覆土 2 層の遺物が接合した。2 は床面出土である。点取り No. 3 である。いずれも調整等は不明である。胎土に繊維・砂・海面骨針を含む。

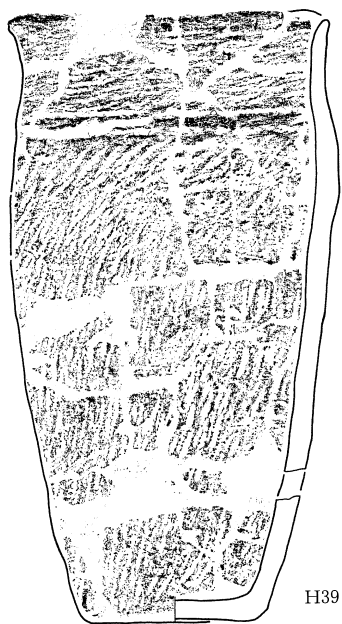
H41：1~7 は復元個体である。1・3~6 はベルト覆土上位からの出土である。2 はトレンチから、7 はベルト覆土下位からの出土である。1~3・5・7 は円筒下層 b2 式の範疇と考える。4・6 は円筒下層 b2~c 式と考える。

1・2 は単軸絡条体地文。1 の口縁は斜行、胴部は縦回転。2 の口縁は横走、胴部は縦走。1 は外反する口縁部とすぼまる底部を持つ。2 は筒状の深鉢。3 の口縁は単軸絡条体第 4 類横回転、多軸絡条体地文。肩部から若干窄まる口縁部形態を持つ。器形と地文から、円筒下層 b2 式でも新段階に近い要素を持つ。4 の口縁部には二種類の縄線を施し、隆帯上にはヘラによる連続刺突を施す。単軸絡条体地文である。底部から口縁部にかけてよく外反する器形である。5 は 1 に類似した器形である。口縁部に結束第一種羽状縄文を施し、胴部には単軸絡条体地文を持つ。6 は複節の縄線を 4 段施し、単軸絡条体地文を持つ。隆帯上には円形刺突が連続する。竹管によるものか、所々 C 字状の押圧になっている。7 は口縁部に単軸絡条体第 5 類横回転、胴部には単軸絡条体地文を施す。底部から外反して口縁部に至るが、4 より筒状に近い。

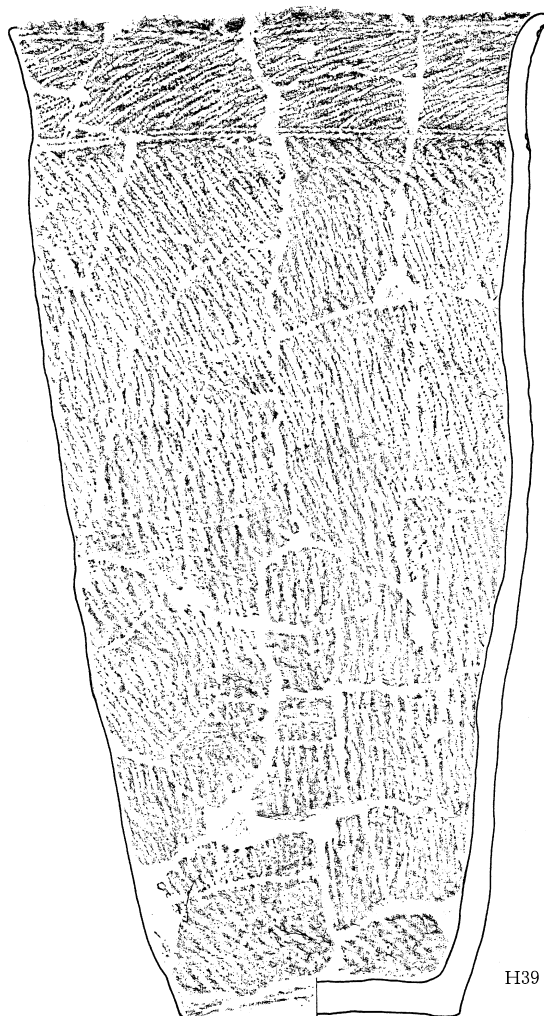
8・10~12 はトレンチからまとまって出土した。9 は覆土南側とベルト覆土下位から出土したものが接合した。8 は単軸絡条体地文で口縁は横方向、胴部は縦方向である。9 の口縁部は縄文施文、区画の隆帯には円形刺突が連続。単軸絡条体地文。10 の口縁部は結節回転と絡条体側面圧痕による。地文は単軸絡条体第 5 類回転。11・12 は絡条体地文の底部。11 は縦回転に近い斜行。12 は縦回転および底面際に横回転の帯。いずれも円筒下層 b2 式である。9 は新段階。トレンチやベルトなど住居覆土の堆積中央に近いところにまとまっていた。廃絶後の竪穴住居の凹みに廃棄したのと考え。

13 はニシンの椎骨が原体と思われる、魚骨回転文のついた縄文時代早期の土器である。東釧路 IV 式とした。トレンチからの出土で盛土以前のものが掘りあがったものと考え。

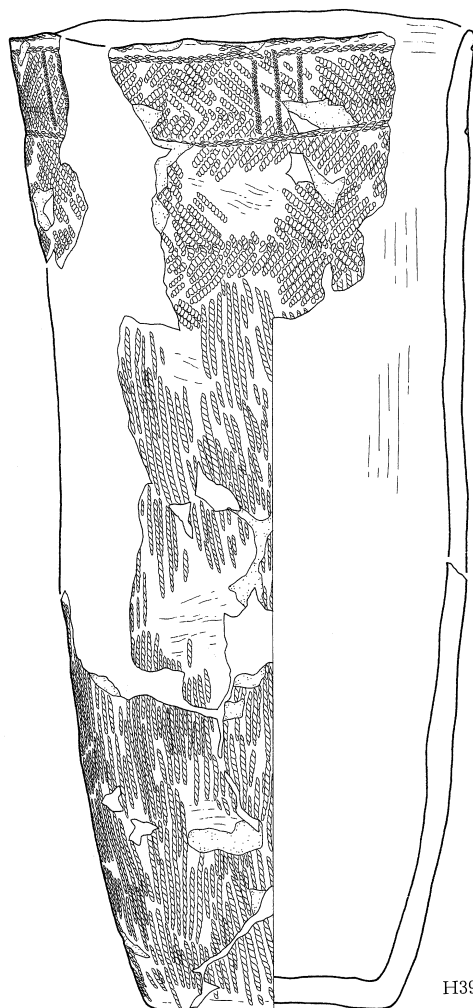
H39



H39 63

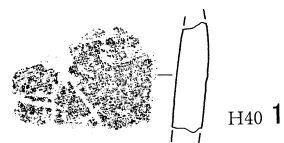


H39 64



H39 65

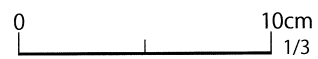
H40



H40 1

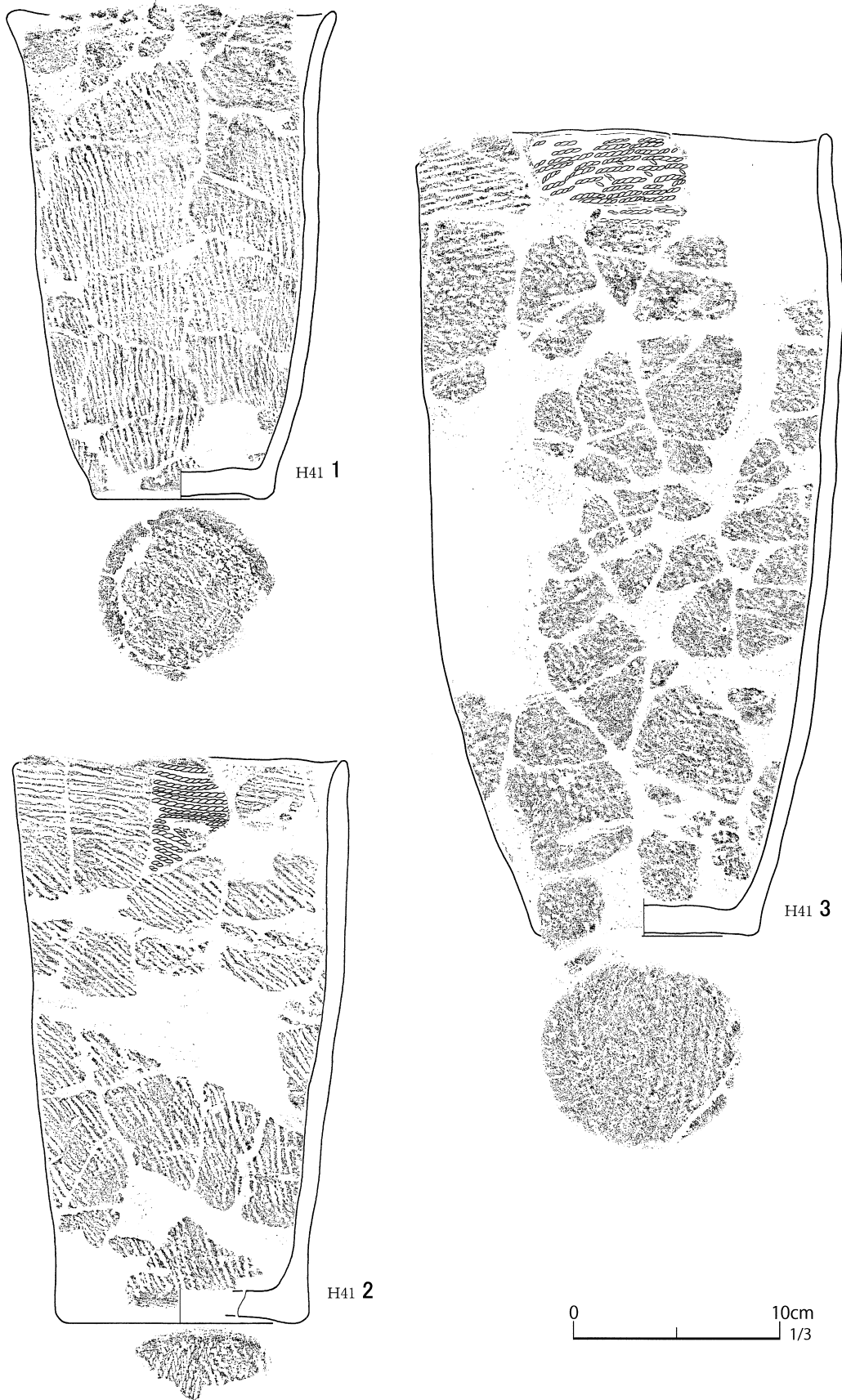


H40 2



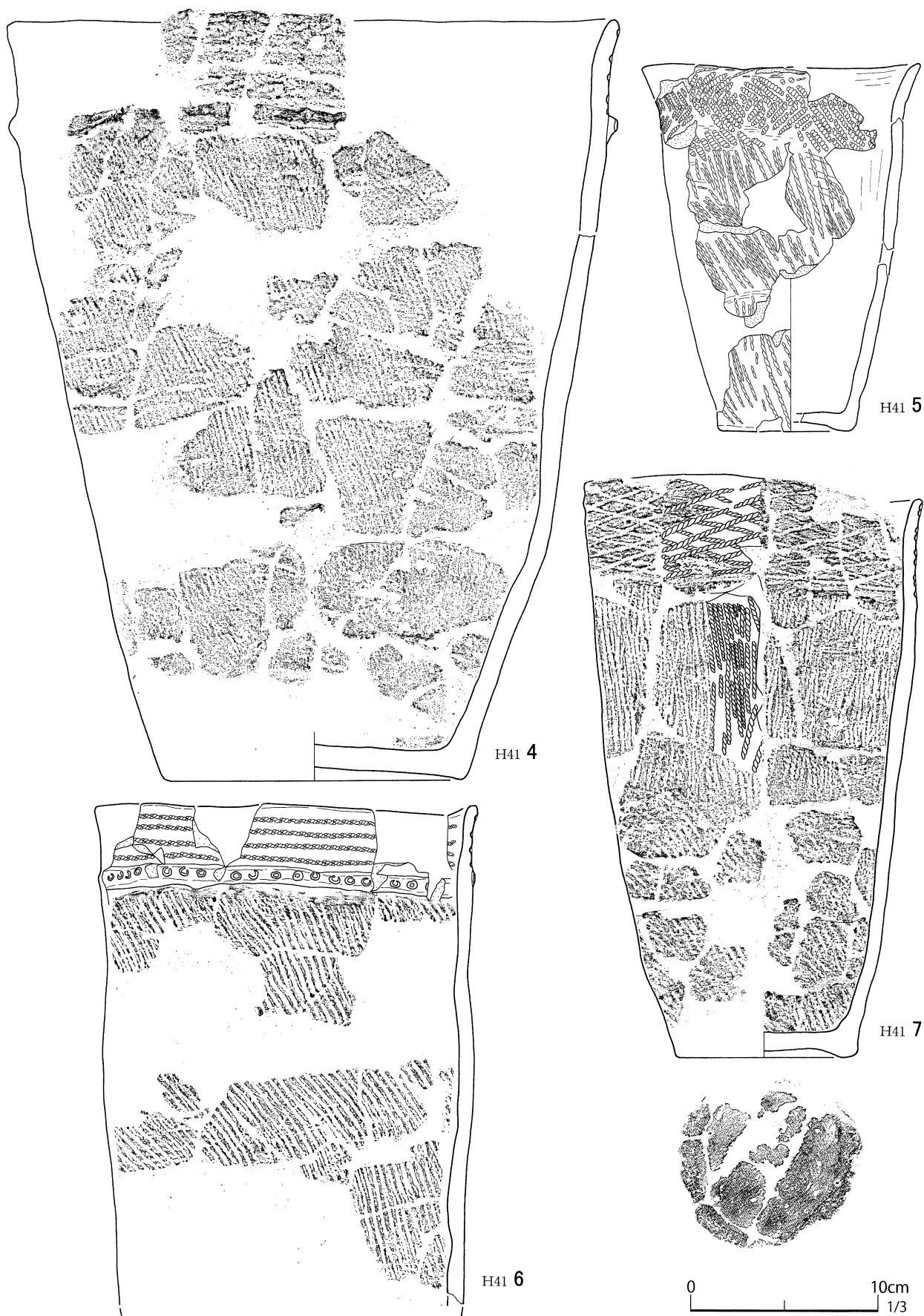
図Ⅲ-2-53 遺構出土土器 H39(63~65)・H40(1・2)

H41



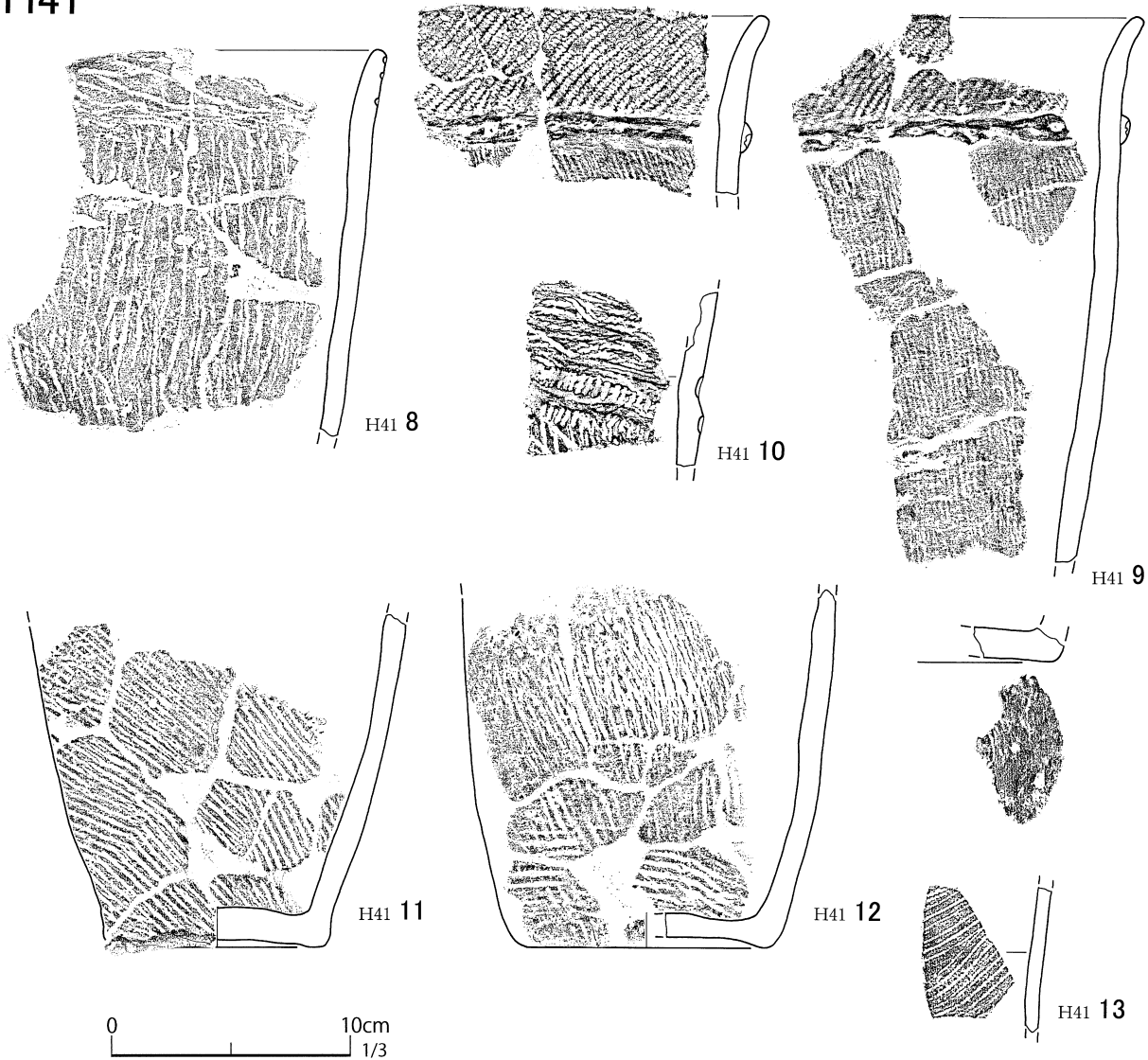
図Ⅲ-2-54 遺構出土土器 H41(1~3)

H41



図Ⅲ-2-55 遺構出土土器 H41(4~7)

H41



図Ⅲ-2-56 遺構出土土器 H41(8~13)

H42：覆土から円筒下層 b 式と円筒下層 d 2 式の破片が出土している。大型の土器破片を点取りした。No. 1～3 は円筒下層 d 2 式で、覆土下半の覆土 2 層から出土している。No. 7 は円筒下層 b 2 式で、床面より上の黒色土、覆土 4 層から出土する。

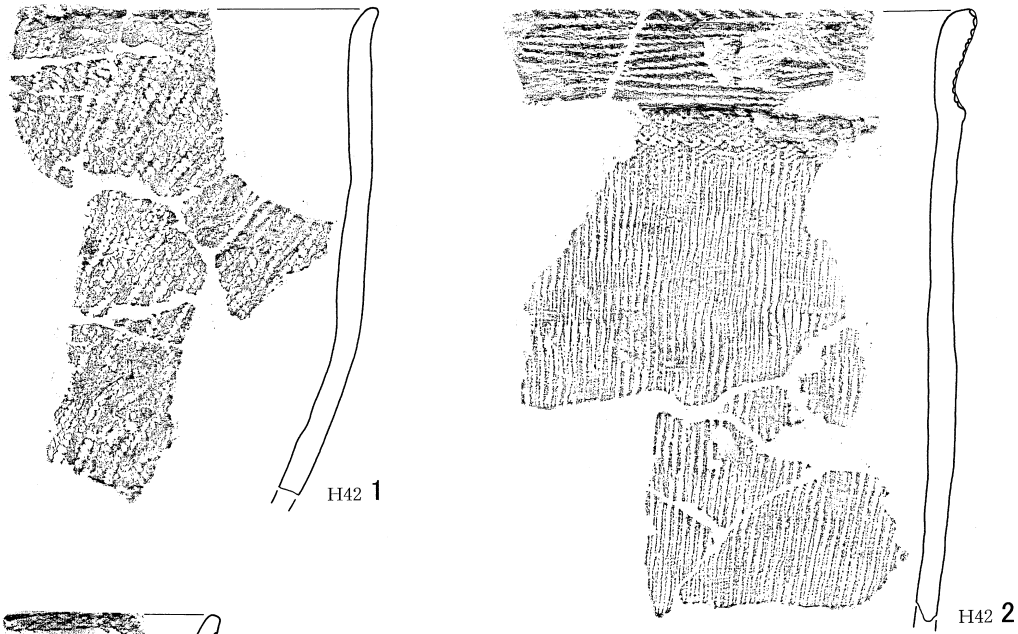
1 は覆土 4 層出土で点取り No. 7 と覆土出土のものが接合した。円筒下層 b 2 式である。

2 は覆土 2 層出土点取り No. 1～3 と覆土出土点取り No. 8 が接合したものである。円筒下層 d 2 式である。住居廃絶の後の廃棄である。

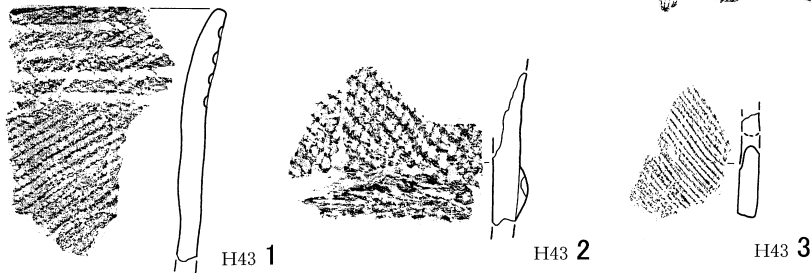
H43：1 は覆土 2 層から出土した。口縁部には複数の縄線、そして縄文地文。円筒下層 b 2～c 式である。2 は覆土 1 層から出土した。口縁部には縄文。区画には隆帯。円筒下層 b 式である。

3 は床面から出土した円筒下層 b 2 式である。点取り No. 6 である。単軸絡条体地文の胴部破片の縁辺をほぼ円形に打ち欠き、中央に穿孔する。

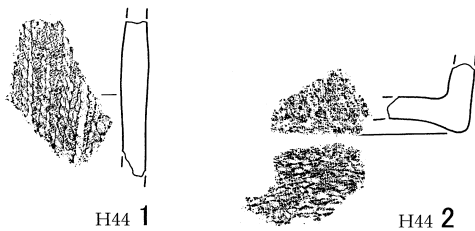
H42



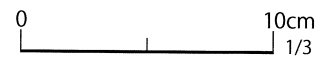
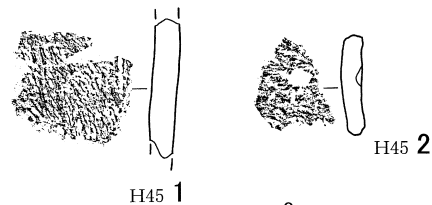
H43



H44



H45



図Ⅲ-2-57 遺構出土土器 H42(1・2)・H43(1~3)・H44(1・2)・H45(1・2)

H44：覆土および床面から円筒下層b式が出土する。床面遺物からのみ抽出した。

1と2は床面出土、1は点取りNo.25、絡条体回転地文。2は点取りNo.16、縄文地文で底部破片。いずれも磨滅著しいが、胎土、地文などから円筒下層b式の範疇と考える。

H45：覆土、周溝、炉から磨滅した円筒下層b式が出土する。同一個体のまとまりは無い。

1は周溝覆土1層出土、点取りNo.11である。絡条体地文。2はHF-1覆土2層出土、点取りNo.18である。磨滅が著しく、穿孔途中らしき痕跡があるが判然としない。再生土製品の可能性もある。いずれも円筒下層b式の範疇である。

H46：覆土でまとまっていた点取り番号No.14とM4並行の覆土上部からまとまって出土した土器片群（遺物番号31）が1である。円筒下層b2～c式である。同じくNo.14に混在していた土器片と覆土出土の土器片が接合して2となった。1・2共にかかなり近い時期と考える。いずれも円筒下層b2～c式段階とするのが妥当と判断した。

3は覆土壁際出土遺物と覆土下位出土遺物が接合した。単軸絡条体回転地文。指頭圧痕により口縁部を区画。円筒下層b2～c式と考える。

4・5は覆土出土遺物と住居が立地する調査区の盛土出土遺物と接合した。4はM4-3, 61T区、5はM4-3, 61S区出土遺物である。4は縄文地文で隆帯が口縁部を区画する。5は単軸絡条体第5類地文である。6はHP-7出土遺物と覆土壁際、覆土下位出土遺物が接合した。複節縄文が縦走する。7は床面出土、点取りNo.3とNo.7が接合した。単軸絡条体地文である。8は覆土上位遺物である。絡条体回転地文。縁辺に成形の可能性がある。再生土製品と考える。9はHP-5覆土出土遺物である。縄文地文の底部破片である。7が床面、9が付属遺構HP-5出土。4～9は円筒下層b2式の範疇である。

H47：覆土から円筒下層b式が出土している。円筒下層b1式から円筒下層b2式古段階の流入と考える。1・2は覆土から出土した。1は口縁部に結節回転を施文。2は縄文地文。

H48：覆土から円筒下層b式が出土している。特に円筒下層b2式の破片が目立つ。同一個体のまとまりは無い。床面のもと付属遺構HP-2出土のものを抽出した。1は床面から出土した。点取りNo.1である。合撚りか。2はHP-2の覆土から出土した。結束回転か。いずれも不明瞭である。円筒下層b1式か円筒下層b2式古段階である。

H49：覆土から磨滅した円筒下層b式から下層c式と思われる土器破片が出土する。1は覆土1層出土、複節縄文を地文とする。円筒下層b式とした。

H50：覆土から円筒下層b式土器が出土する。いずれも磨滅しており同一個体のまとまりは無い。1は覆土出土、縄文地文である。円筒下層b式である。

H51：円筒下層b式から円筒下層c式までが出土する。床面からは円筒下層b式のみが出土する。覆土から円筒下層c式の同一個体がまとまっていたが、復元には至らなかった。円筒下層b式の同一個体のまとまりは無かった。

1・3～5は円筒下層c式とした。1・3は覆土西側、4・5はベルト部分の覆土である。

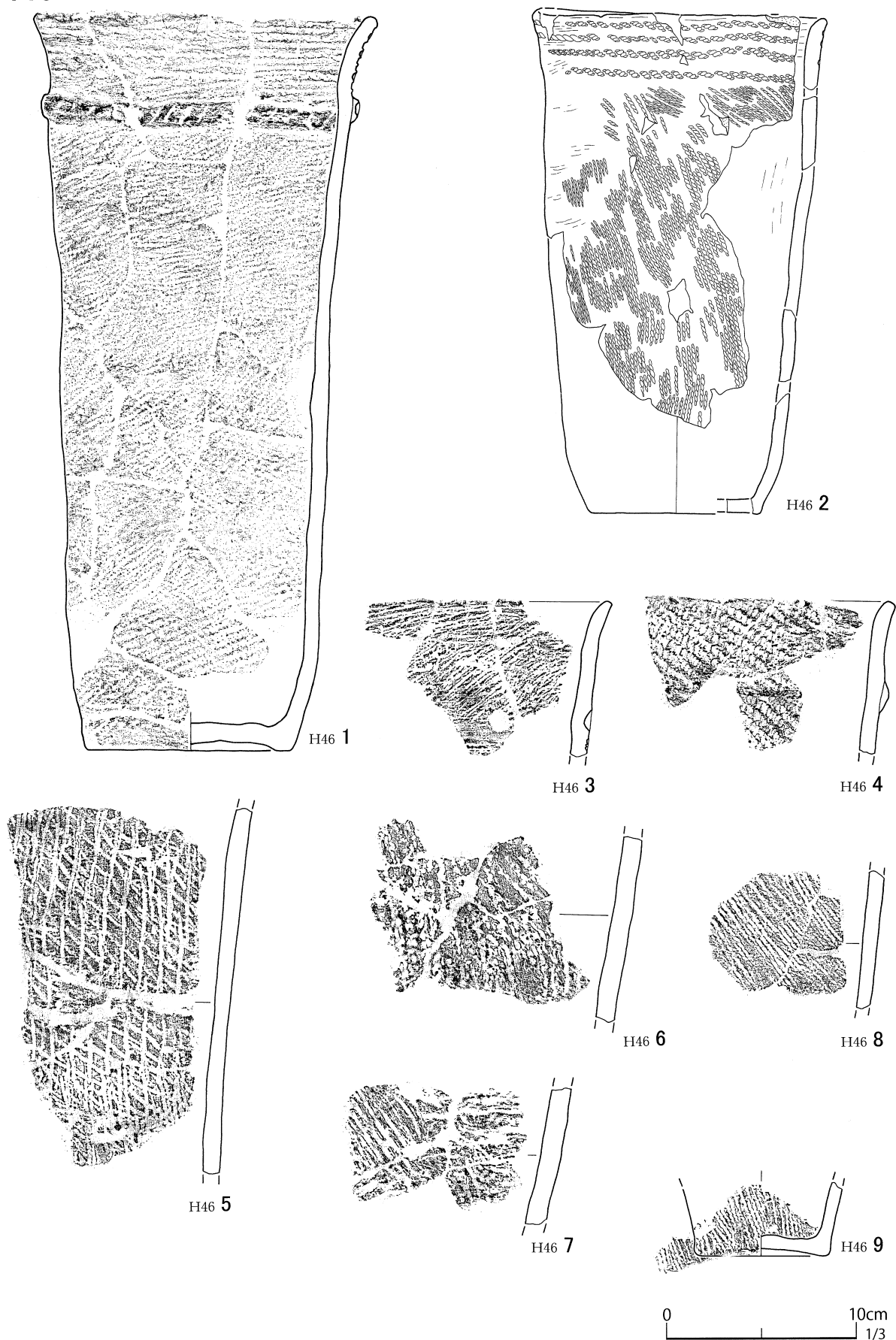
は絡条体側面圧痕による口縁部文様、直前段反撚り地文。3の口縁部は直前段反撚り地文を横走、胴部は縦走、間に結束第一種羽状縄文を带状に施す。口縁部には縦区画として結束第一種羽状縄文、および縄線縦に押圧する。円筒下層d1式に近いが口縁部文様帯の幅広さからc式とした。4は口縁部に縄線を押圧し、縄文地文。5は直前段反撚り地文。口縁に屈曲を持つ。

2は覆土東側出土。口縁部は単軸絡条体第4類横回転である。隆帯上には円形刺突が連続する。直前段反撚りRRLL縄文地文。口縁部と隆帯に古い要素があるものとし、円筒下層b2～c式とした。

6は覆土西側出土、焼成粘土塊である。繊維を含む。

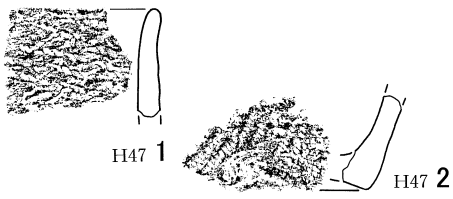
7・8は円筒下層b2式の胴部破片と考える。7は床面出土、点取りNo.13である。単軸絡条体地文である。8はHP-5覆土から出土した。単軸絡条体による網目状地文である。

H46

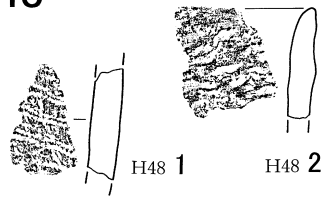


図Ⅲ-2-58 遺構出土土器 H46(1~9)

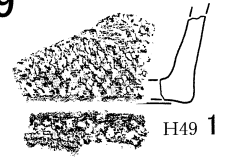
H47



H48



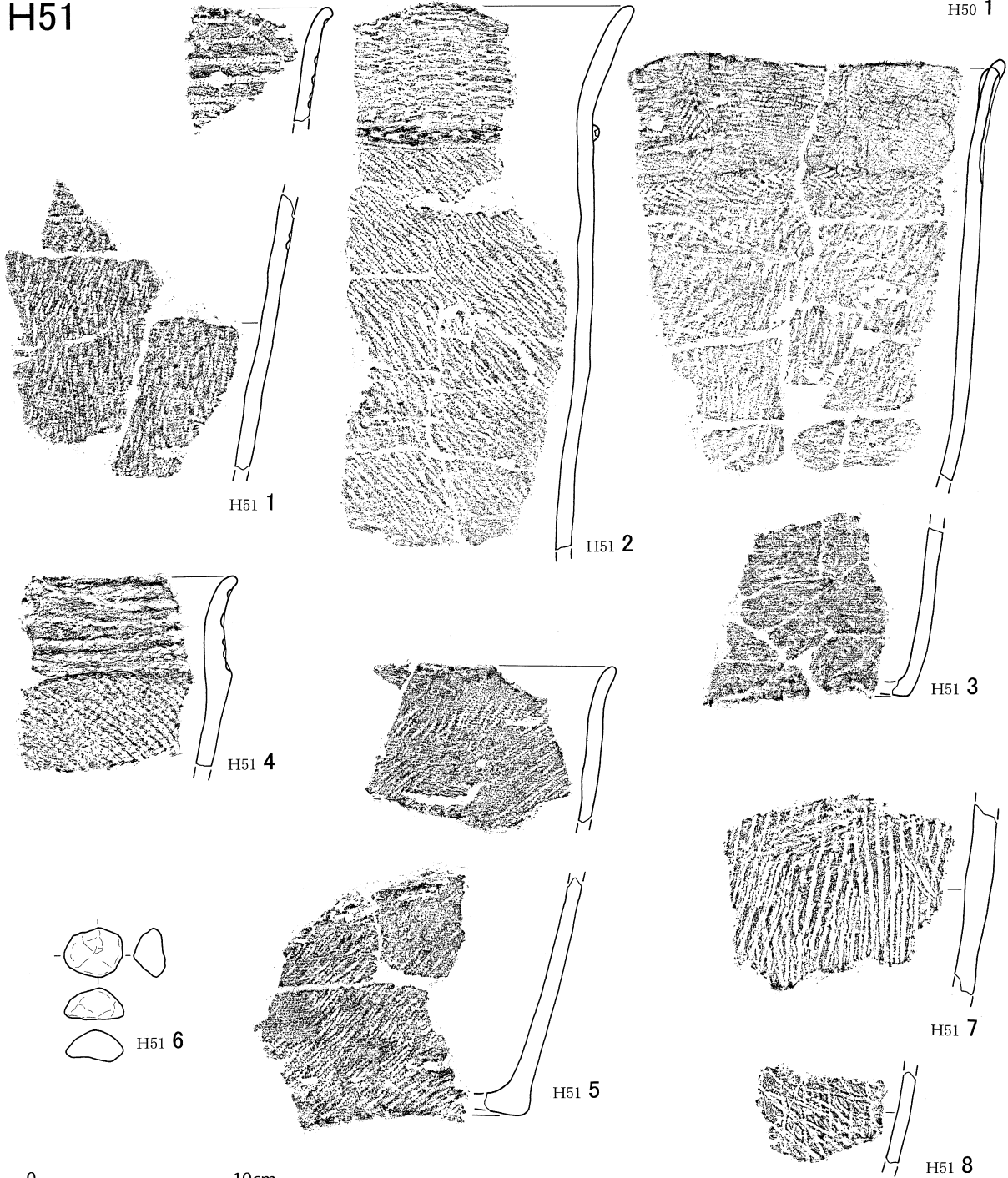
H49



H50



H51



図III-2-59 遺構出土土器 H47(1・2)・H48(1・2)・H49(1)・H50(1)・H51(1~8)

H52：円筒下 d1 式古段階である 1 が一個体分として復元できた。覆土 1 層と 2 層から出土した土器が接合した。覆土および床面から円筒下層 b 式から円筒下層 c 式のころと思われる破片が出土している。1 は円筒下層 d1 式古段階である。ゆるやかな五単位の波頂部を持つ。全体に直前段反撚り地文を施した後、口縁部に、結束第一種羽状縄文を帯状に 2 段施す。地文から円筒下層 c 式に近い段階のものとする。2 は覆土 1 層から出土した。円筒下層 d1 式のまとまりに混在していた。口縁部には水平方向に複数段縄線が施される。単軸絡条体地文。文様構成から円筒下層 c 式と考える。口縁部文様帯の幅、および器壁の薄さ等は円筒下層 d1 式古段階に近い。

H53：HF-1 覆土 2 層出土の点取り土器については円筒下層 b 式から下層 c 式と思われる土器碎片である。覆土からも下層 b 式から下層 c 式にかけての土器片が流入している。円筒下層 b 式が主体であり、円筒下層 c 式の可能性があるものについても円筒下層 b2 式に近い古手のものである。

1～3 は覆土 1 層から出土した。1・2 は円筒下層 b 式、3 は縄文時代早期の土器である。1 は円筒下層 b2 式の底部である。単軸絡条体地文である。2 は口縁部に隆帯を持つ。その上下に結節回転文を施す。単軸絡条体地文である。円筒下層 b2 式で古い要素を持つものとする。3 は縄文時代早期後半、コッタロ式相当の土器と考える。紐圧痕の連続、あるいは撚りの向きが異なる二種類の縄文を器面に施し、微隆起線を持つ。

H54：床面、覆土いずれからも円筒下層 b 式の破片が出土している。

1・2 は覆土 2 層出土である。いずれも縄文地文が縦走する。隆帯上には連続刺突がある。胎土の粗さから円筒下層 b1 式の可能性がある。3 は床面出土である。絡条体地文である。円筒下層 b2 式で、胎土の粗さから古段階の可能性はある。

H55：覆土から円筒下層 b 式から円筒下層 d1 式にかけての破片が出土している。同一個体のまとまりは無い。

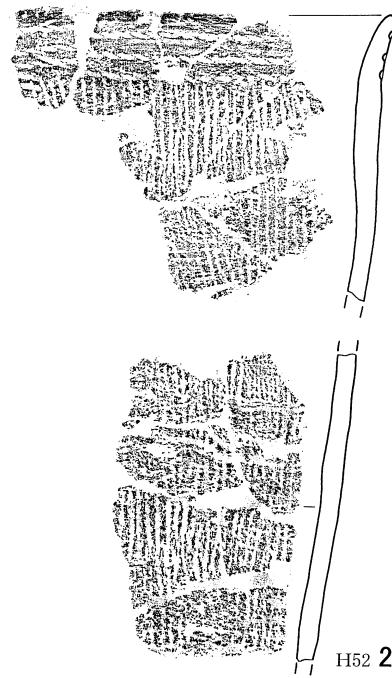
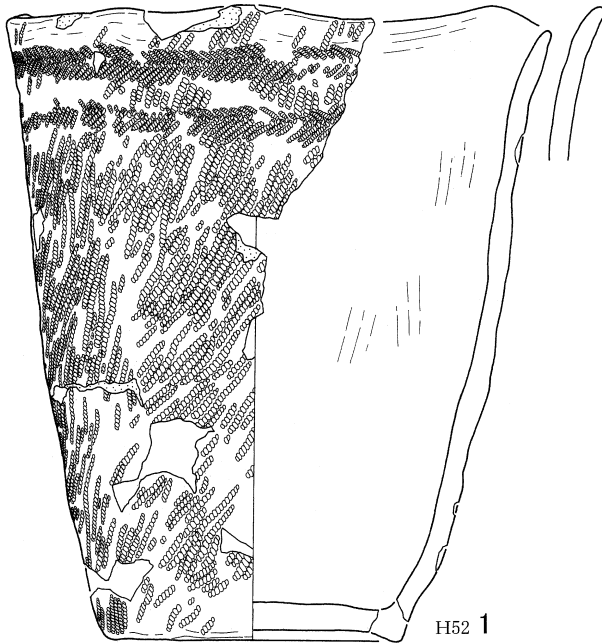
1～3 は覆土 1 層から出土、点取り No. 16 である。1 は円筒下層 b2 式新段階である。多軸絡条体地文である。2 は円筒下層 b 式である。単軸絡条体第 5 類、網目状地文である。3 は円筒下層 d1 式である。単軸絡条体地文と結束第一種羽状縄文で多段の帯。

H56：覆土最上部に円筒下層 c 式がまとまって廃棄されていた。1～3・6 の四個体が復元可能であった。床面近くで、底部が欠損した円筒下層 b 式の新段階のものが出土している。

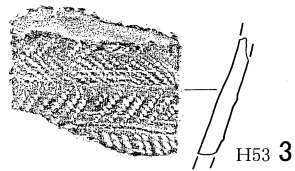
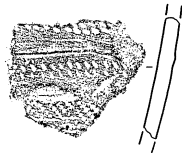
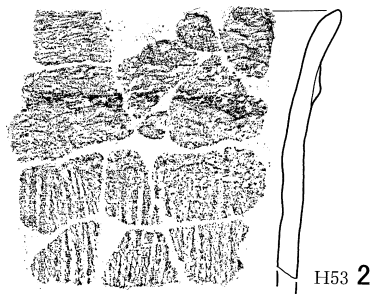
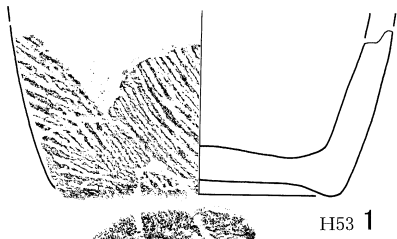
最上部は円筒下層 d1 式が出土している。復元個体として H38-7 がある。これに H56 覆土最上部遺物が 1 点出土している。

1 は覆土最上位出土、点取り No. 1 である。口縁部には直前段反撚り縄文横走。区画には結束第一種羽状縄文、地文は直前段反撚り縄文と結束第一種羽状縄文で多段の帯。口縁部文様帯の幅が広い事と器形から円筒下層 c 式としたが、文様的には、円筒下層 d1 式古段階に近い。2 は覆土最上位出土、点取り No. 4 である。口縁部には縄線によって菱形基調の文様を施す。地文は斜行縄文。3 は覆土最上位出土、点取り No. 3 である。結束第一種羽状縄文横回転を口縁部に施す。粗い胎土の厚手の器壁であるが、口縁部文様帯の下から胴上半部にかけて、羽状縄文を連続して縦回転させる。4 は覆土最上位出土である、点取り No. 3 に混在していた口縁部破片である。口縁部には直前段反撚りを横走。胴部には矢羽状の単軸絡条体回転を施す。区画には右に引くような連続刺突。5 は覆土下位出土、点取り No.

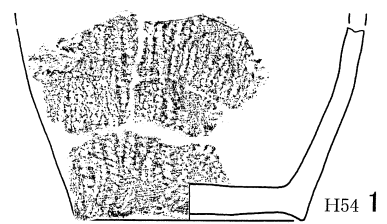
H52



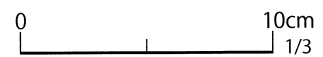
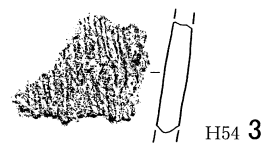
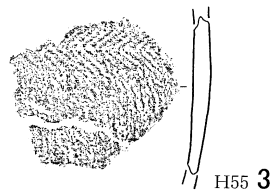
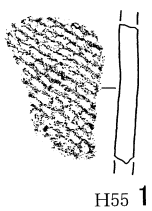
H53



H54

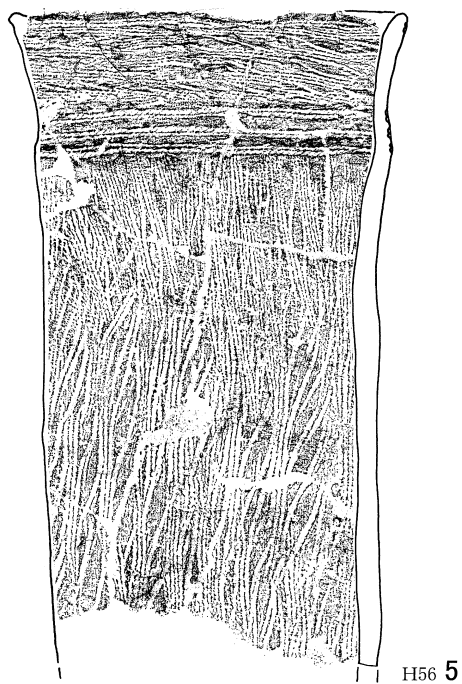
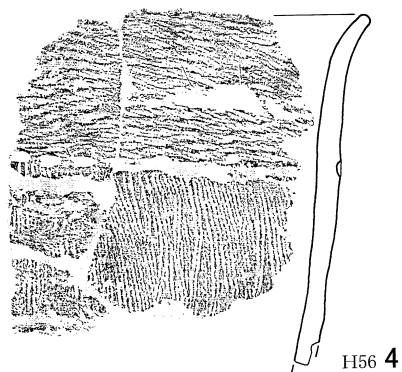
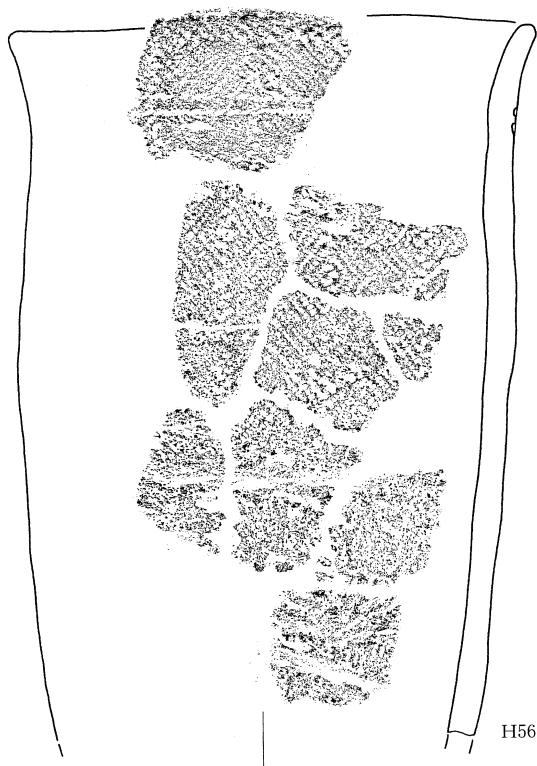
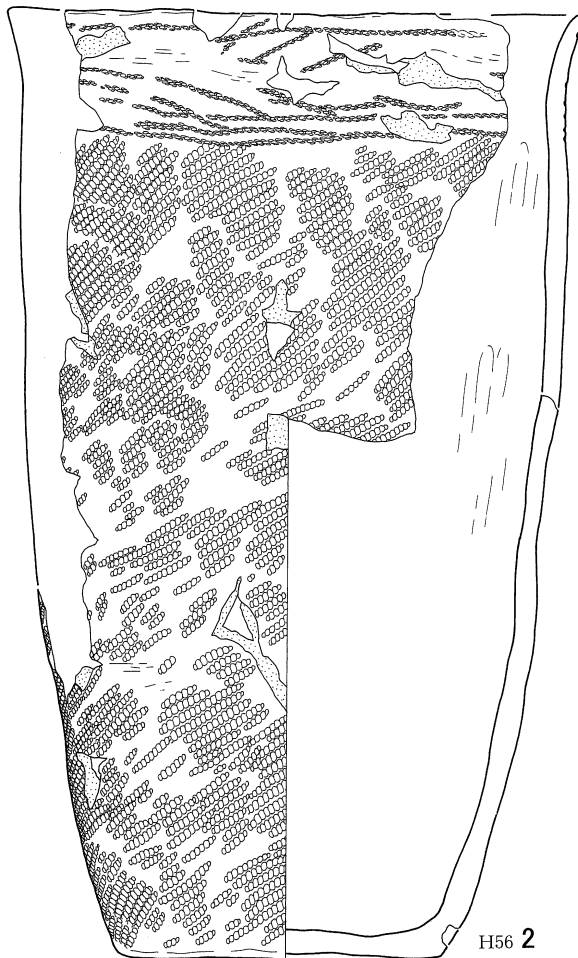
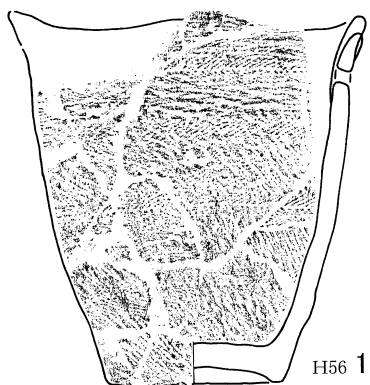


H55



図III-2-60 遺構出土土器 H52(1・2)・H53(1~3)・H54(1~3)・H55(1~3)

H56



0 10cm 1/3

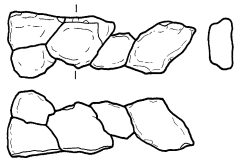
図Ⅲ-2-61 遺構出土土器 H56(1~5)

H56

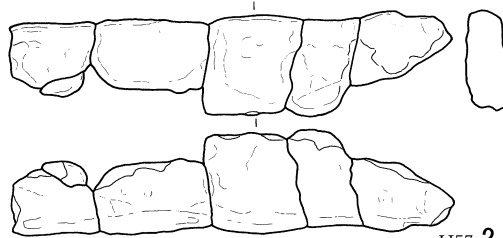


H56 6

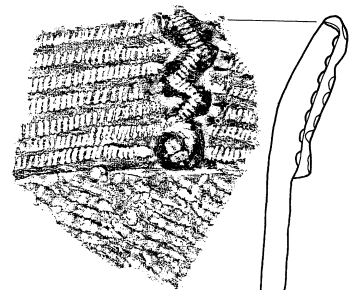
H57



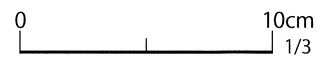
H57 1



H57 2



H57 3



図Ⅲ-2-62 遺構出土土器 H56(6)・H57(1~3)

5である。住居の切りあい部分から出土したためか底部を見つけることが出来なかった。薄い器壁を持ち、造形が丁寧である。単軸絡条体第1類の原体について巻く間隔を途中から広げることで網目状に類する地文を呈する。口縁部横回転。胴部縦回転。隆帯には2本一組の縄線を三組押圧する。円筒下層b2式で、新段階ないしはb2～c式期と考えるが調査範囲内で類例が無い。6は覆土最上位出土、点取りNo.2である。大型の円筒下層c式である。底部の半分ほどはH29 覆土北側(H56と切り合う側)から出土遺物と接合。口縁部に直前段反撚り縄文を横走、胴部上半は多軸絡条体、下半は直前段反撚り縄文を縦走。区画には縄線と押し引き気味の刺突列。

H57：付属遺構HP-3から円筒下層d2式の最新ないしは円筒上層a式最古段階の深鉢が出土し、覆土下位から中位および周辺包含層の破片が接合、円筒上層a式最古段階の浅鉢となった。

1・2は覆土から出土したものである。もとは一塊で、同じ板状の焼成粘土塊であったものである。破損が著しく、それ以上の情報は無かった。接合して図化に耐えうるもののみ図示した。胎土には海綿骨針と繊維を含む。

3は覆土1層と覆土2層そして住居がある85P区のⅢ層から出土した。円筒上層a式である。口縁部文様帯は肥厚し、鋸歯状に垂下する隆帯を持つ。絡条体側面圧痕で加飾する。地文はLR縄文を縦回転。

4は付属遺構HP-3から出土したものである。円筒上層a式最古段階のものである。四単位の波頂部を持つ。波頂部は双頭気味で、中央に突起を持つ。頸部より上には縄線が施される。胴部上半はRL縄文、下半はLR縄文地文である。

5と6は覆土から出土したもので、口縁部を持つ土器片の縁辺を擦り切って短冊状に成形したものである。5は円筒下層b式、6は円筒上層a式の口縁部から胴部にかけての破片である。6は石斧の正面観を思わせる形状である。

7は覆土下位から出土したものである。把手が三単位の波頂部に対応する。肥厚する口縁部文様帯には縄線で加飾される。LR縄文地文。円筒上層a式最古段階の浅鉢である。

H58：覆土中で視覚的にまとまっていた土器を一括土器①～⑬として取り上げた。まず一括土器それぞれの出土遺物状況・接合状況を述べる。

一括土器①は遺物番号125である。円筒上層a式の上半分のさらに半分で摩滅が著しく図化出来なかった。

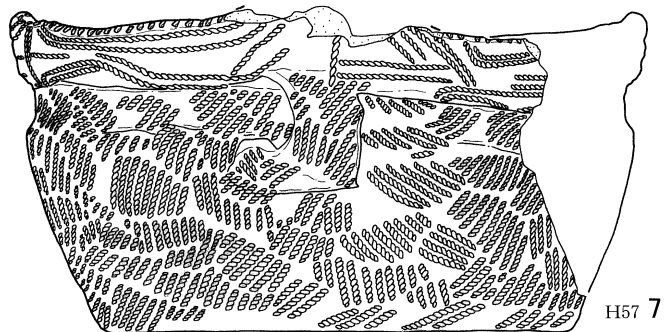
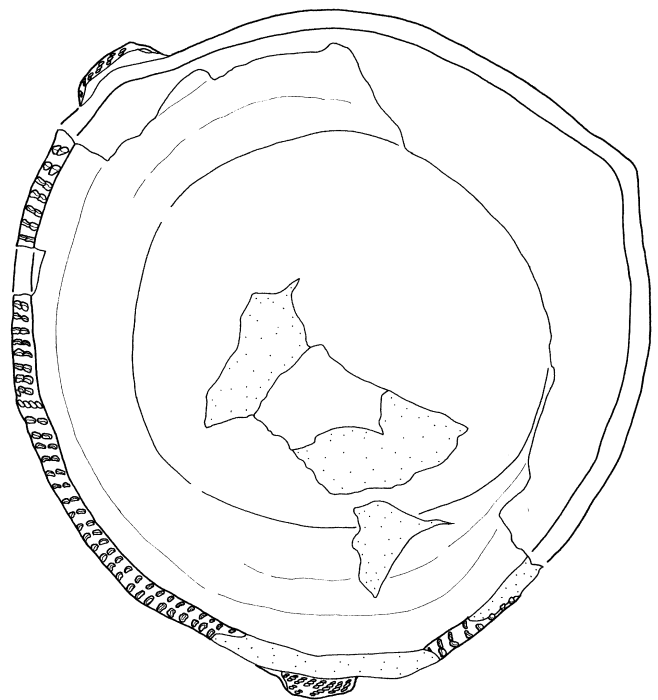
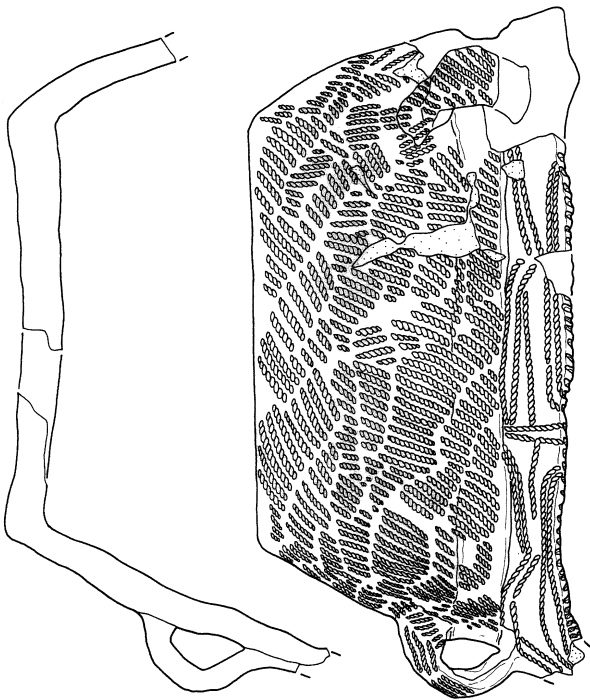
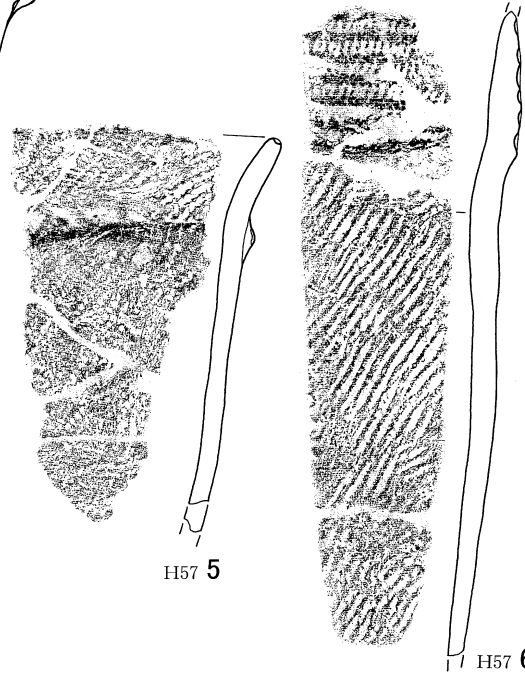
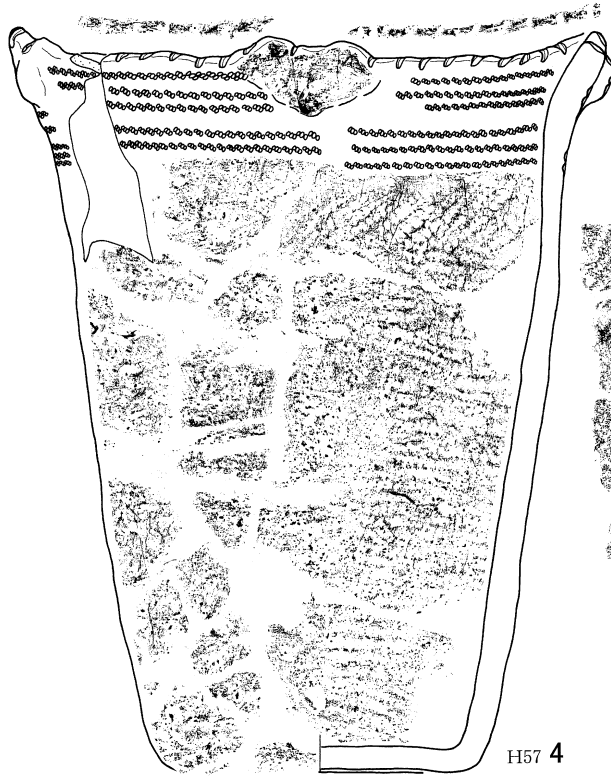
一括土器②は遺物番号124である。サイベ沢Ⅶ式を思わせる、縄文地文に隆帯装飾の少ない円筒上層a式の小型深鉢である。23となった。丸く膨らむ胴部と波頂部の中央に円形の貼り付けを持つ。

一括土器③は遺物番号162である。円筒上層a式が縦割りでおよそ半分まとまっていた。底部は無かった。11である。左右非対称の突起を持つ。縄文地文。

一括土器④は遺物番号163である。円筒上層a式の上半分のさらに半身が主である。覆土出土遺物(主に遺物番号2)と接合して19となった。波頂部から2本の隆帯を垂下し、口縁部区画の隆帯部分にボタン状の突起を持つ。縄文地文である。もう一つは円筒上層a式新段階で、縦半分のみ残存していたが、著しく破砕している。復元不可能であった。またもうひとつは円筒上層a式一個体分である。13である。小型の深鉢で、波頂部から8の字形の貼り付けを垂下するように貼り付ける。

一括土器⑤は遺物番号167である。円筒上層a式的一个体分である。8である。波頂部から鋸歯状に垂下させた隆帯を持つ。口縁部区画と接する位置でこれを挟み込むようにボタン状貼り付けを二つ

H57



0 10cm 1/3

図III-2-63 遺構出土土器 H57(4~7)

配する。混在している破片には4と接合したものもある。4は一括土器⑬が主体で、⑬も一部接合した

一括土器⑥は遺物番号238である。円筒上層a式の破片について、大型の深鉢破片は6となった。被熱により、破碎著しい。一括土器⑧が主体である。同一個体であった。もう一つ、円筒上層a式の小型深鉢が復元できた。一部包含層Ⅲ層の遺物が接合した。7である。底部は見つからなかった。

一括土器⑦は遺物番号120である。5になった。一部、覆土上位一括土器⑫、Ⅲ層出土遺物が接合した。隆帯等、粘土紐貼付による飾りの無い地文のみの大型深鉢である。縄文地文。円筒上層a式である。

一括土器⑧は遺物番号165である。6である。被熱による破碎が著しかった。大型の個体。一括土器⑥が一部接合した。線対称ではない装飾を持つ波頂部を持つ。中央にはボタン状貼り付けを持つ。円筒上層a式である。

一括土器⑨は遺物番号237である。円筒上層a式の深鉢を一個体復元できた。9である。線対称の文様構成である。波頂部から垂下した隆帯を口縁部区画部でふたつのボタン状突起で挟み込むようにする。縄文地文。

一括土器⑩は遺物番号235である。主に円筒上層a式新段階一個体分である。1である。出土破片中から一部が12に接合した。1は覆土上部から出土した。一括土器⑩がほとんどで、⑫とⅢ層のものが若干接合した。円筒上層a式最新段階である。1と2は胎土に砂が多く、赤く発色しており、隆帯上および隆帯区画内の施文が細かい。円筒上層a式の範疇で周囲より新しい段階とした。12は覆土上位出土一括土器⑫を主体とする。⑩が2点のみ接合した、円筒上層a式である。当初は口縁部文様が単純なため円筒下層d2式の可能性を考えていたが、下層d2式に平口縁に突起様の波頂部がつくものがない事と全体の縄押圧による文様構成からより新しいと判断した。

一括土器⑪は遺物番号239～240である。円筒上層a式の大型のものが縦半分あった。16として復元した。16は覆土上位出土一括土器⑪を主体とする。一点だけ一括土器⑫が接合した。大型の深鉢で、波頂部は線対称ではない。弯曲した突起を波頂部からの垂線上、口縁部文様帯区画と交差する部分に施す。結束を持つ縄文地文で、波頂部の垂線上に結束部を縦回転、文様を垂下する。掲載番号3に一部が接合した。円筒上層a式である。これは主に⑫が主体である。波頂部から2本の隆帯を平行して垂下させる。口縁部区画の隆帯部分でボタン状に隆起させる。

一括土器⑫は遺物番号232～234である。主体となったものは円筒上層a式のもので平口縁に突起が付く。12である。一括土器⑩と接合した。他に、円筒上層a式古段階の口縁部があったが磨滅著しく図化出来なかった。さらに円筒上層a式最新段階、やや小型の深鉢が一個体混在していた。2とした。1と同様、胎土に砂が多く、赤く発色しており、隆帯上および隆帯区画内の施文が細かいため円筒上層b式を考えた。しかし、隆帯文様が横位のレンズ状貼り付け、例えば図Ⅲ-2-78・F82-12の様な円筒上層b～d式特有の施文となっていない。縦区画を基調とする口縁部文様のため、円筒上層a式の範疇で周囲より新しい段階とした。一括土器⑫遺物番号234のうち7点は5と接合した。これは一括土器⑦を主体とする。加えて円筒上層a式の破片が混在している。これらのうち掲載土器に少量だが接合したのものがある。1・3・5・10・16である。1は円筒上層a式最新段階である。覆土上部出土一括土器⑩を主体として⑫とⅢ層のものが接合した。3・5・10・16は円筒上層a式である。3は⑪を主体として⑫が少量接合した。5は⑦を主体として⑫が少量接合した。10は包含層で散点的に出土したものが接合した。そこに⑫が少量接合した。16は覆土上位出土一括土器⑪を主体とする。1点だけ一括土器⑫が接合した。円筒上層a式である。

一括土器⑬から、四分の一ほど残存する円筒上層 a 式が混在していた。4 である。4 は⑬が主体であり、ほぼ一個体分がまとまっていた。一括土器⑤と⑬も一部接合した。波頂部正面観の形状は線対称ではない。器壁は厚い。20 は覆土中位から上位にかけての遺物が散点的に接合した。そこに⑬と⑬が一部接合した。円筒上層 a 式小型深鉢である。三角形の突起様波頂部を持ち、対応する把手が対応して施されている。22 は⑬の遺物点数 115 点のうち 7 点である。混在していた小型深鉢である。底部は見つからなかった。残存する突起について、形状が異なっている。円筒上層 a 式小型深鉢である。

一括土器⑭は遺物番号 169 である。接合後、一個体復元できた。14、円筒上層 a 式である。他に円筒上層 a 式二個体分の破片があったが、復元、図化に至らなかった。

一括土器⑮は遺物番号 7 である。復元出来たのは小型深鉢で、18 となった。円筒上層 a 式である。底部は見つけられなかった。同時期で別個体の破片が 3 点入っていた。

一括土器⑯は遺物番号 168 である。まとまっていたのは白色味の強い器壁をした円筒上層 a 式である。これは 4 であり、一括土器⑤と⑬も一部接合した。円筒上層 a 式一個体分 20 が混在していた。20 は覆土中位から上位にかけての遺物が散点的に接合した。そこに⑬と⑯が一部接合した。加えて、円筒上層 a 式の土器破片が混在していた。

以上十六か所のまとまりは、覆土 1 層から 2 層にかけて出土した。1 と 2 を円筒上層 a 式としたことで、復元個体については円筒上層 a 式古段階、同新段階、円筒上層 a 式最新時期にかけての土器が混ざった状態で出土した。H57-4 や 7 のような円筒上層 a 式最古段階について出土が無かったことから、より後の廃棄場所と考えられる。

調査区壁面に覆土 1-4 層～覆土 2 層～覆土 4 層にかけて土器片が壁面にささって出土していた。これらを No.1～4 まで番号をつけて取り上げた。いずれも円筒上層 a 式で層位的な差異はなかった。このうち No.2 が復元個体と接合した。エレベーション図でいうと一括土器⑭と同じ位置、調査範囲北側壁面、覆土 4 層から取り上げた。No.2 そのものは、円筒上層 a 式の同一個体のまとまりはない破片群である。そうのち比較的まとまっていたもので、一括土器④と接合したものが 19 となった。

次に掲載遺物それぞれについて述べる。1・2 は円筒上層 a 式最新段階である。1 は覆土上部から出土した。一括土器⑩を主体として⑫とⅢ層のものが接合した。円筒上層 a 式最新時期である。2 は覆土上位出土一括土器⑫、円筒上層 a 式最新時期である。

3・8・9・14・19 は波頂部から垂下する隆帯と口縁部文様帯との接点においてボタン状貼り付けを二組持つ、円筒上層 a 式である。

3 は一括土器⑪と⑫をはじめとする覆土上位の遺物が接合した。8 は覆土出土一括土器⑤が主体である。9 は覆土中位出土一括土器⑨である。胎土・器壁は 4 に類する。14 は覆土中位出土、一括土器⑭である。19 は覆土の遺物が接合、復元されたものである。その中には一括土器③が含まれる。

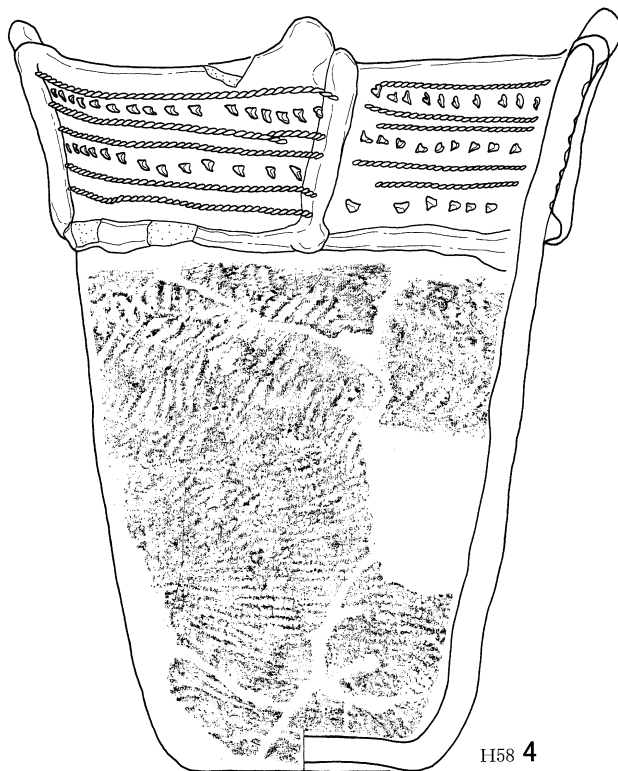
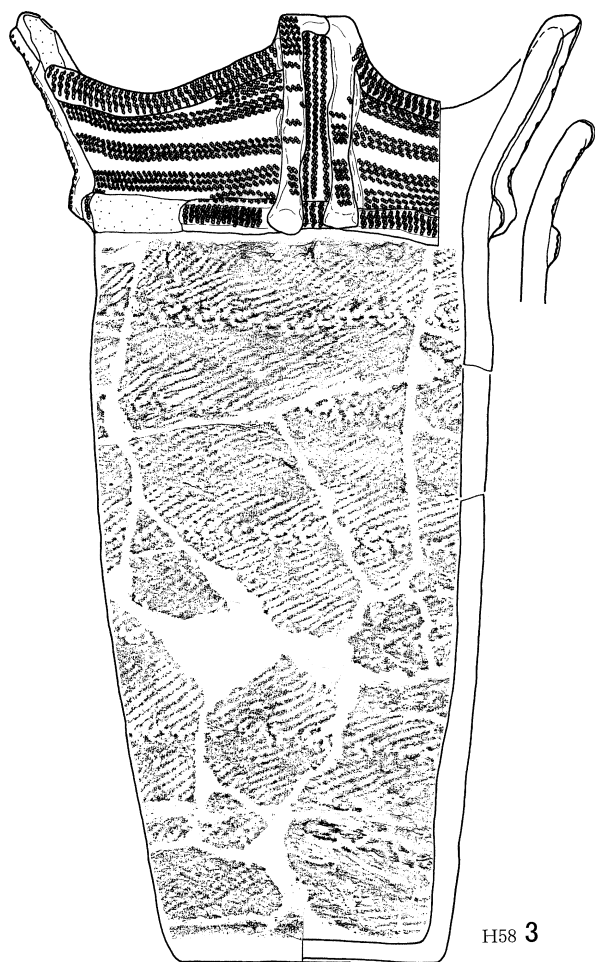
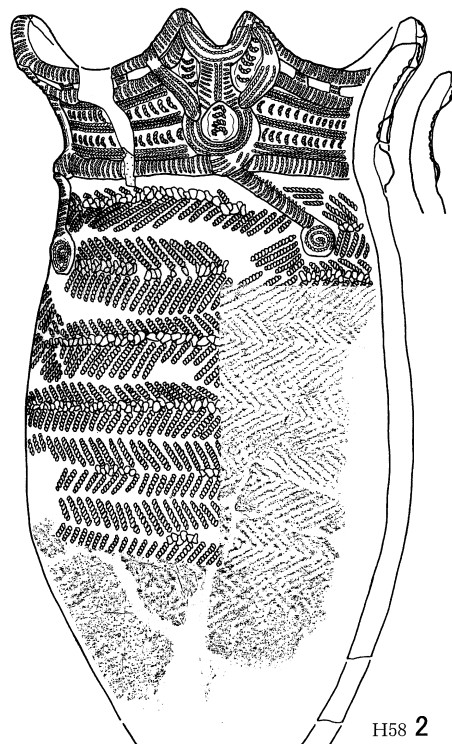
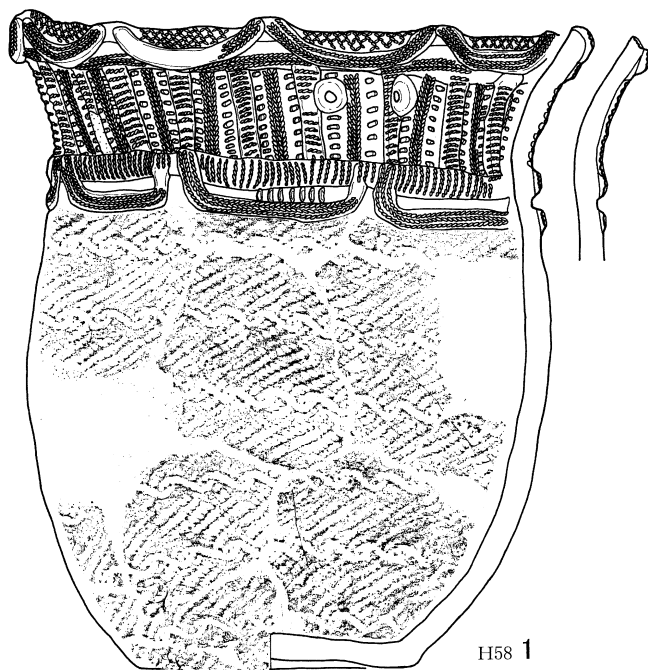
4・6・11・16・17・22 は正面観について線対称ではない形状を持つ円筒上層 a 式である。

4 は一括土器⑯に一括土器⑤と⑬および覆土上位から下位にかけてのものが接合した。器面は白く発色する。6 は覆土から出土した。一括土器⑧である。円形・ボタン状の貼り付けを波頂部中央に持つ。11 は覆土から出土した。一括土器③である。16 は覆土上位出土一括土器⑪を主体とする。1 点だけ一括土器⑫が接合した。17 は覆土からまとまって出土した。円筒上層 a 式である。22 は覆土中位から出土した。一括土器⑬である。

5・15 は円筒上層 a 式であるが隆帯・粘土紐貼り付けによる加飾が乏しいものである。

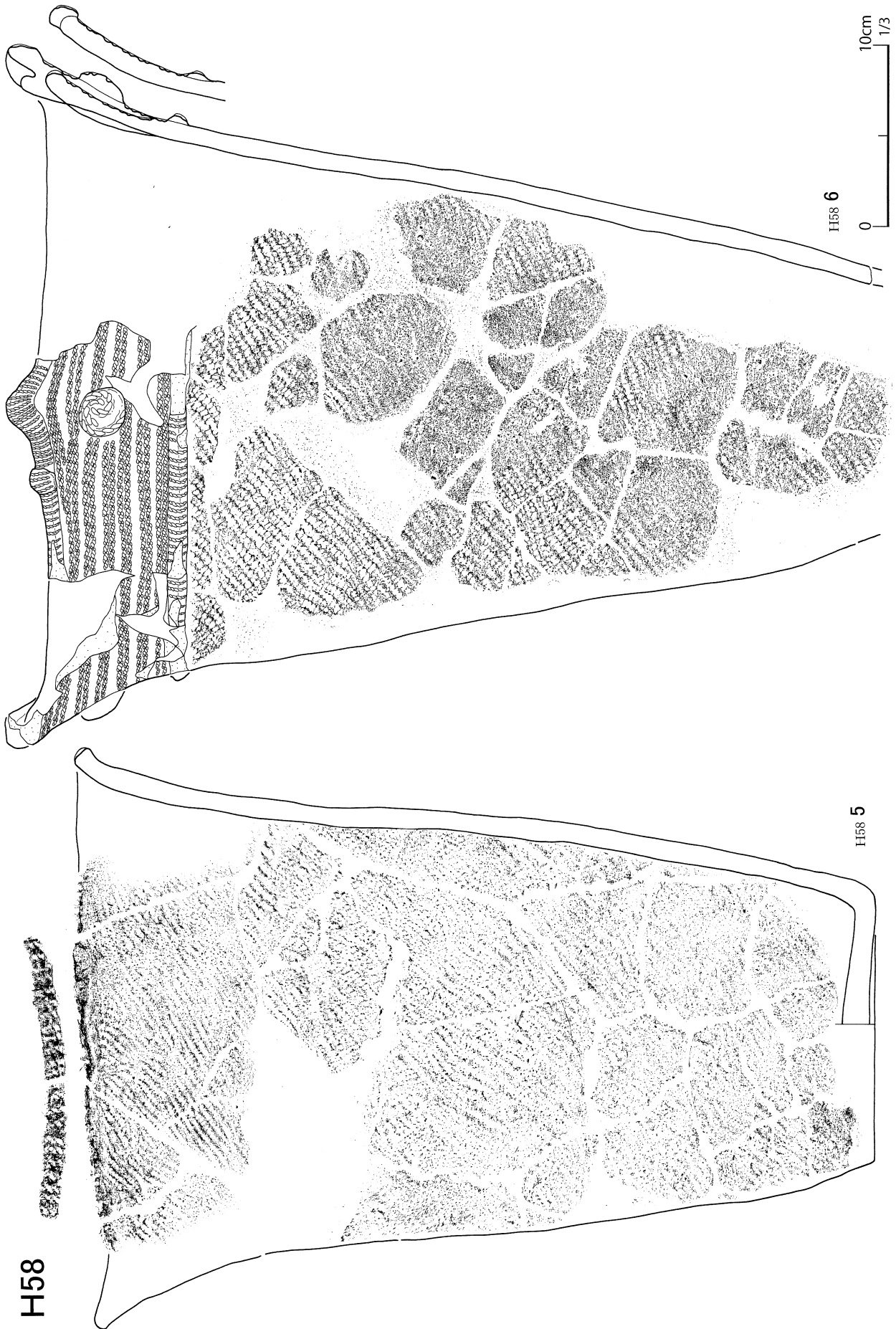
5 は覆土出土、一括土器⑦を主体とする。加えて覆土上位一括土器⑫、Ⅲ層出土遺物が接合した。15 は覆土にまとまっていた小型深鉢である。23 は覆土出土一括土器②である。円環状の貼り付けを

H58



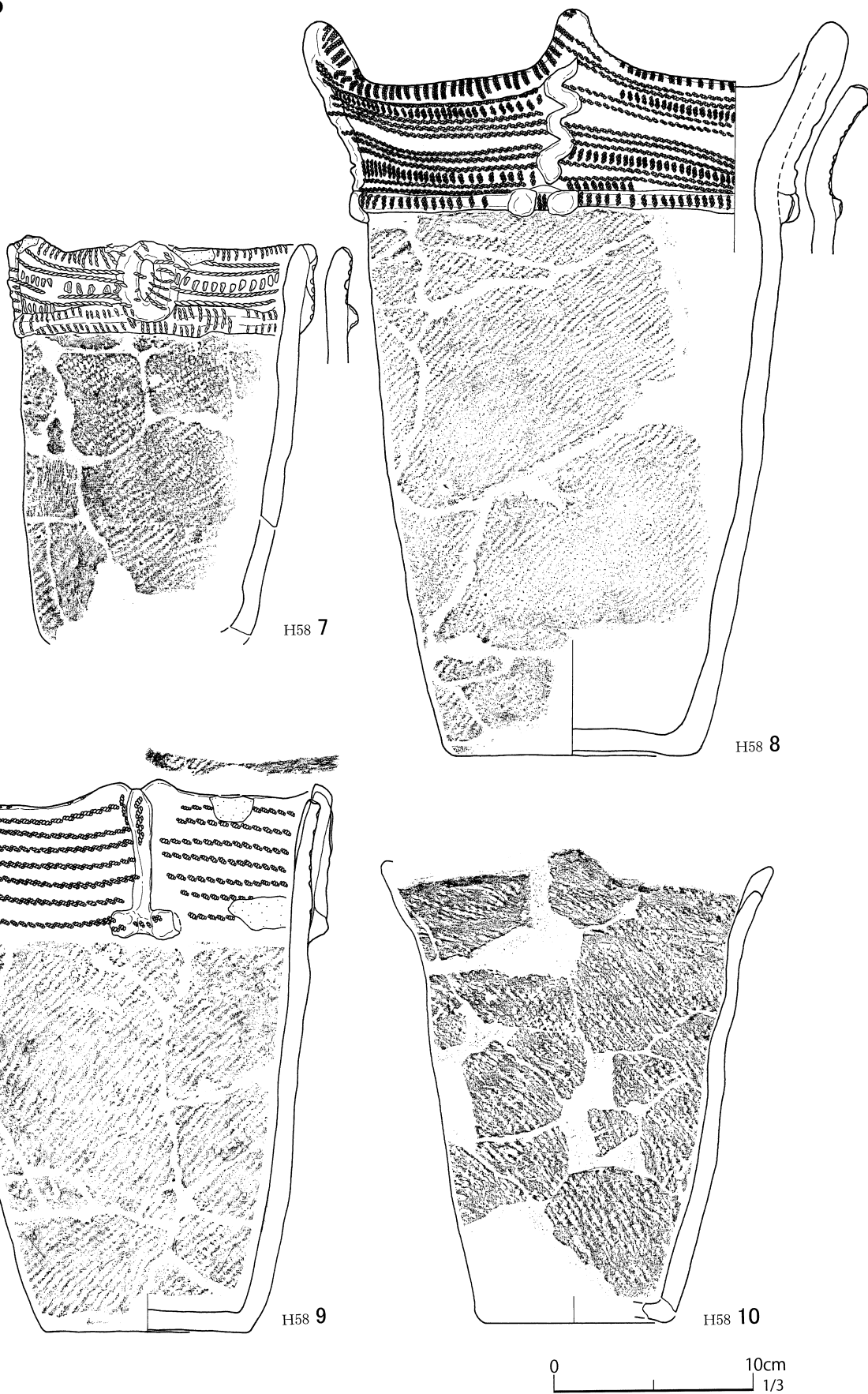
0 10cm
1/3

図Ⅲ-2-64 遺構出土土器 H58(1~4)



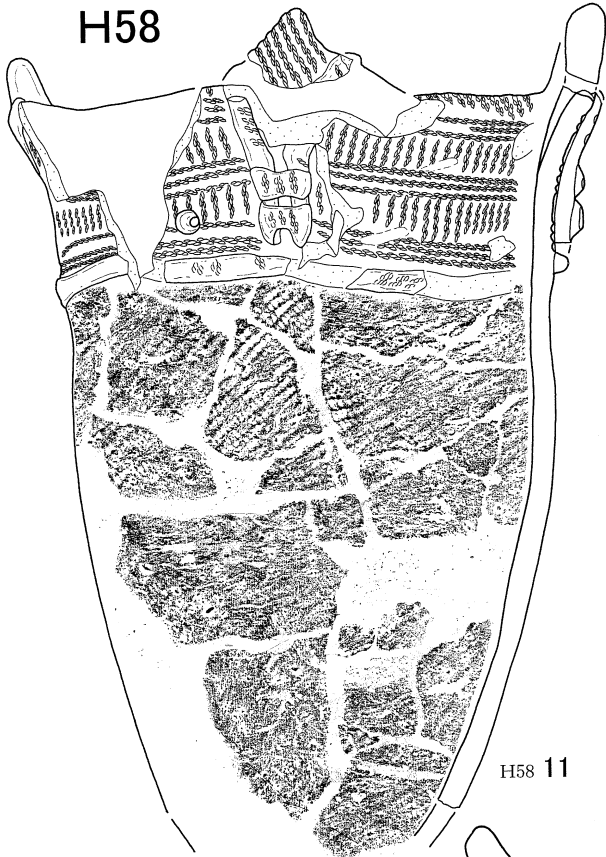
図Ⅲ-2-65 遺構出土土器 H58(5・6)

H58

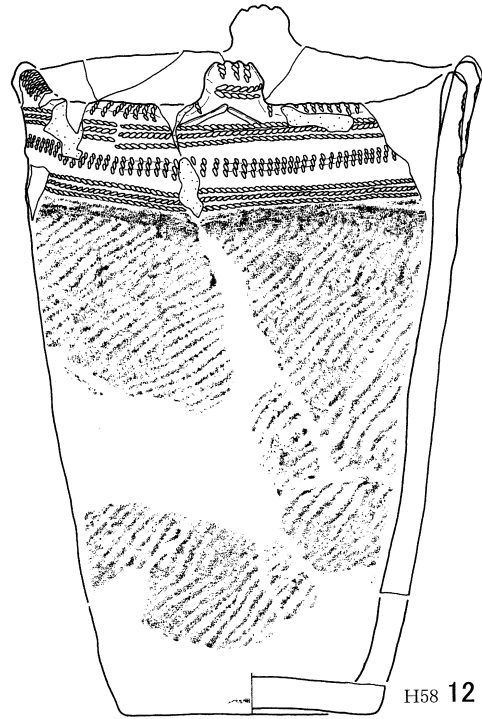


図Ⅲ-2-66 遺構出土土器 H58(7~10)

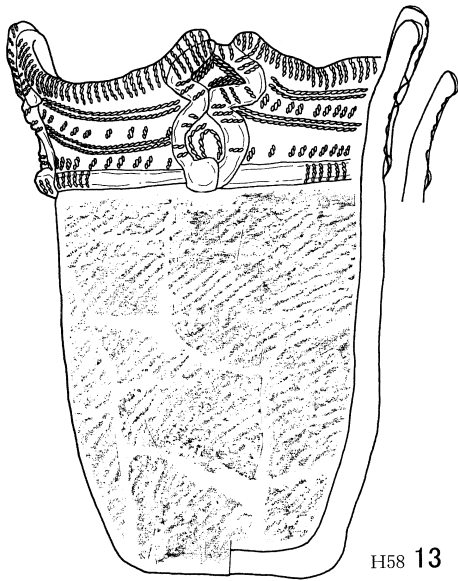
H58



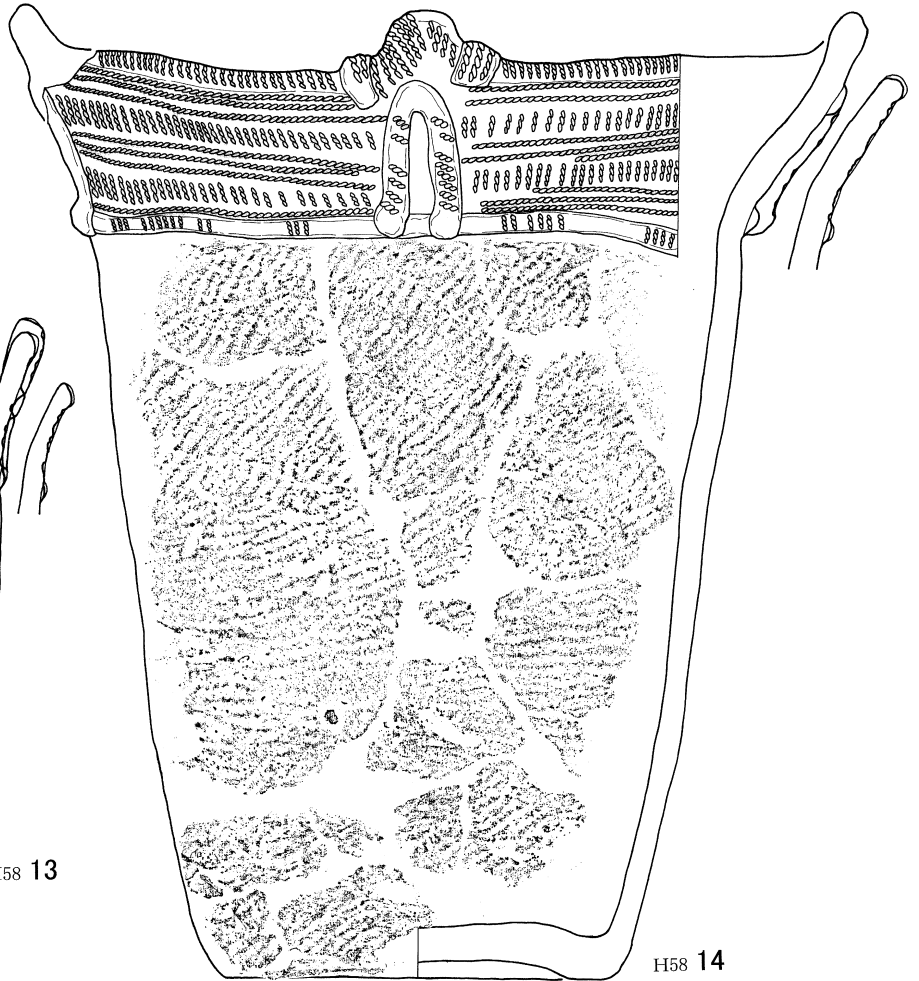
H58 11



H58 12



H58 13

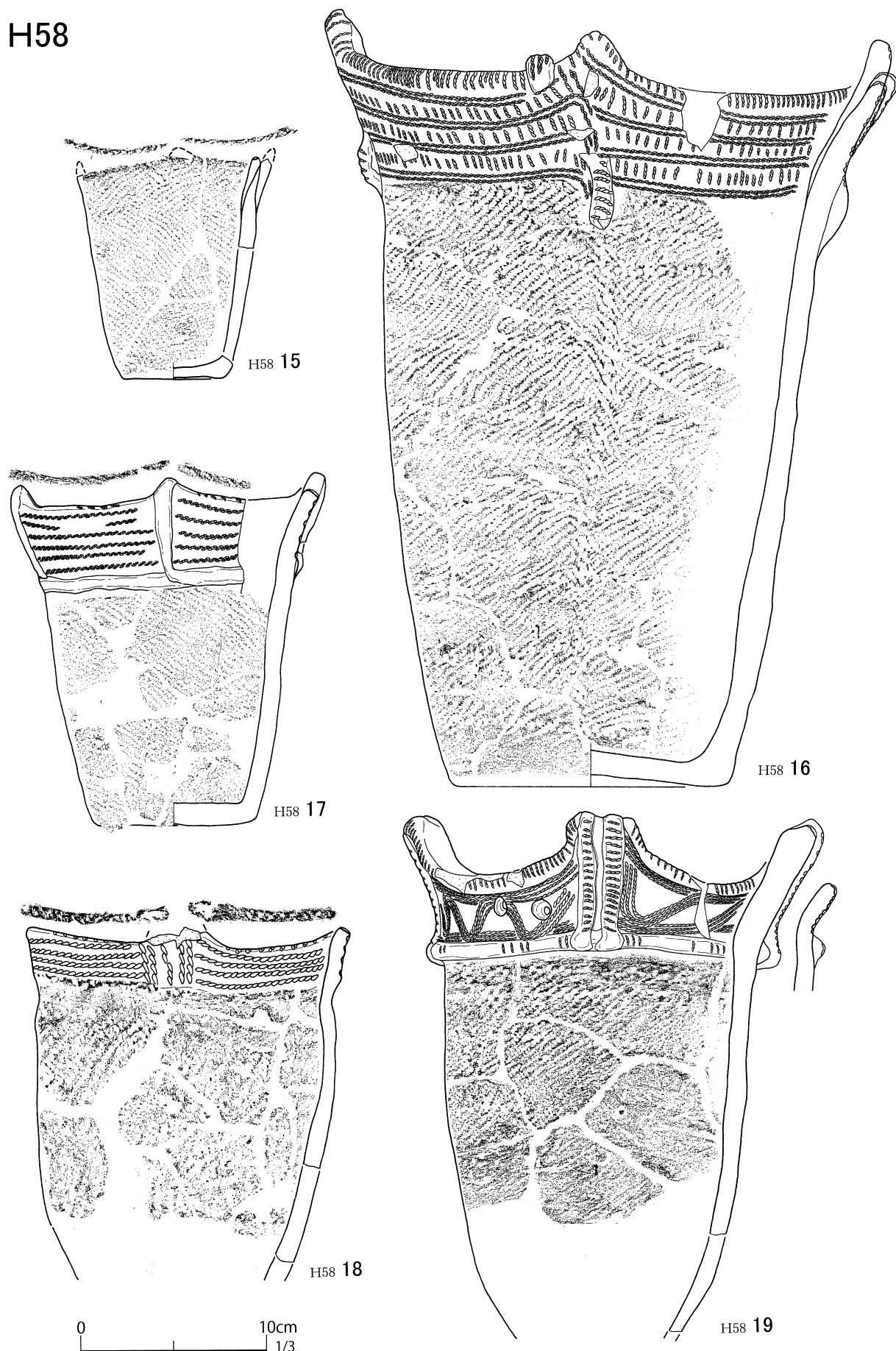


H58 14

0 10cm 1/3

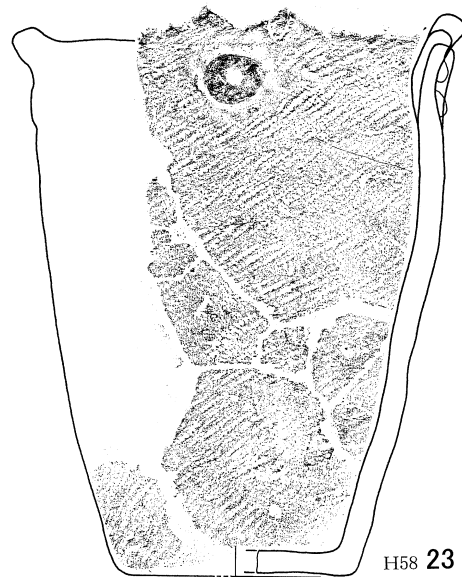
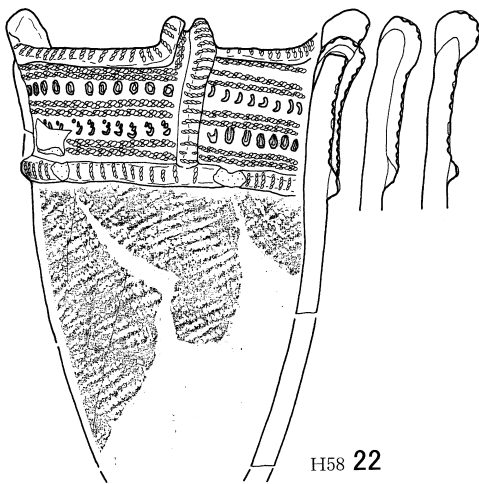
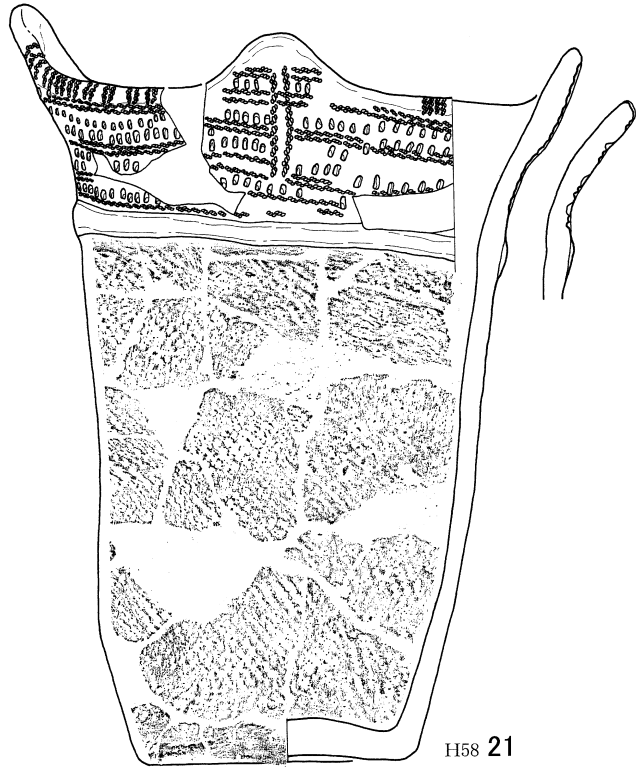
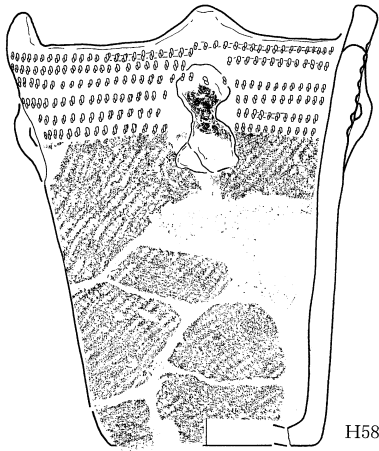
図III-2-67 遺構出土土器 H58(11~14)

H58



図Ⅲ-2-68 遺構出土土器 H58(15~19)

H58



H59

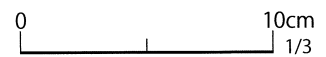


図 III-2-69 遺構出土土器 H58(20~23)・H59(1)

持つ。7・13は、隆帯および縄の押圧で口縁部文様帯を作り出し、そこに、波頂部と対応した環状あるいはそれに類した貼り付けを持つ円筒上層a式である。

7は覆土出土、一括土器⑥を主体とする。加えてⅢ層の遺物が接合した。13は一括土器④である。8の字状の貼り付けである。

10・21は器壁が白色味が強く、胎土のきめが細かい円筒上層a式である。10はⅢ層出土遺物が接合した。加えて、覆土上位出土、一括土器⑫である。21は覆土上位出土。12・20は平口縁に突起状の波頂部を持つ円筒上層a式である。12は覆土上位出土一括土器⑫を主体として、⑩が接合した。20は覆土中位から出土した。一括土器⑬や⑯も接合した。中央に把手を持つ。

18は覆土中位からまとめて出土した、円筒上層a式で口縁部の文様要素から円筒下層d2式に近いものである。

H59：覆土から、磨滅した円筒下層b式が出土した。1は覆土出土、円筒下層b式である。単軸絡条体地文で、底部際でも同一原体で帯状に横回転する。

H60：円筒下層c式から下層d1式の出土が無い。1・2・4・5・6は覆土から出土した。

1は口縁部が単軸絡条体横回転、胴部は縦回転。2は隆帯により口縁部を区画し、口縁部は単軸絡条体斜め回転、胴部は縦回転。4は胴部破片で単軸絡条体第1類縦回転を主とするが、底部際は単軸絡条体第5類回転により網目状。5は底部で、単軸絡条体第1類地文。底面も同じ原体で施文。6は隆帯による口縁部文様を区画。直下には結節回転が数段巡る。M2, M2-2, M4-3, M4-6から出土した遺物と接合あるいは同一個体である。

3は61Q区のM4-6が主体だが、H60覆土出土のものと接合した。口縁部には結節回転を施す。地文は合捺地文で胴部上半と下半で異なる。単軸絡条体による回転が胴部中央に帯状に施される。

7は床面から出土した。点取りNo.26である。円筒下層b2式古段階である。7は単軸絡条体地文。

全体に胴部の帯状文や口縁部区画直下の文様帯など古い要素を持ち、胎土も粗い。円筒下層b2式古段階の遺物が主に流れ込んでいると考える。

H61：覆土から円筒下層c式から下層d2式が混在して出土している。いずれも磨滅著しい。あるいは碎片のため、図化できなかった。

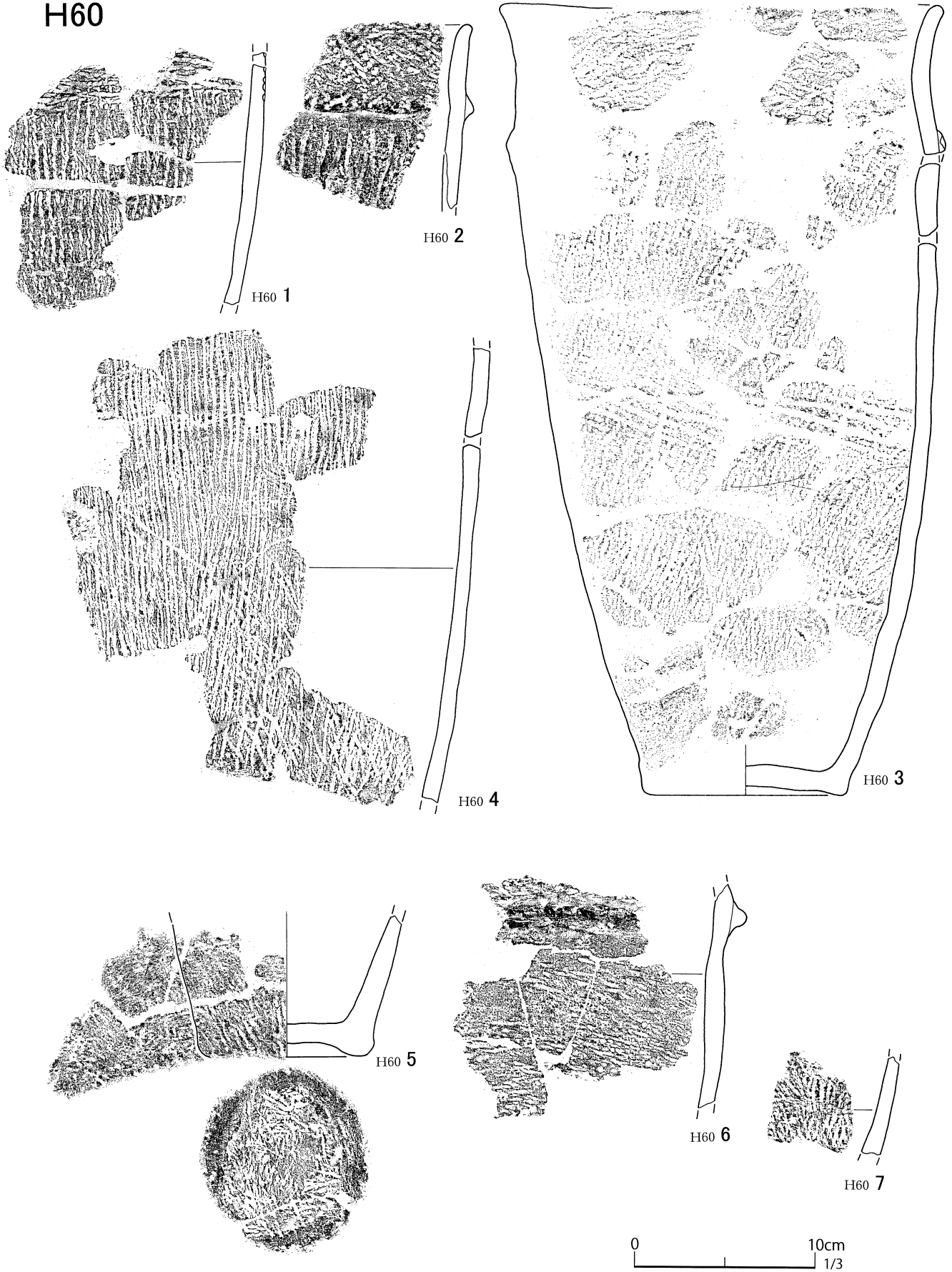
H62：覆土から円筒下層d2式新段階と円筒下層b式が出土する。円筒下層d2式は覆土上位からの出土で周囲の盛土出土遺物と接合する。床面からは円筒下層b式が出土する。

1は覆土出土のものと住居が位置する調査区の包含層の遺物が接合した。円筒下層d2式である。水平方向に並ぶC字状圧痕の連続によって口縁部文様帯が二段口縁風となる。胴部上半は結束第一種羽状縄文が多段に施され、下半は多軸絡条体地文である。2は覆土出土のものと住居が位置する調査区の盛土と包含層の遺物が接合した。口縁部は縄線による直線構成の文様、多軸絡条体地文。いずれも円筒下層d2式である。

3・4は覆土出土である。3は隆帯によって口縁部を区画される。口縁部胴部ともに単軸絡条体縦回転地文。円筒下層b2式古段階とした。

4は口縁部に縄線文を施し、焼成前の穿孔を持つ。多軸絡条体地文。円筒下層d2式とした。M4-3から類する遺物が出土した。

H60

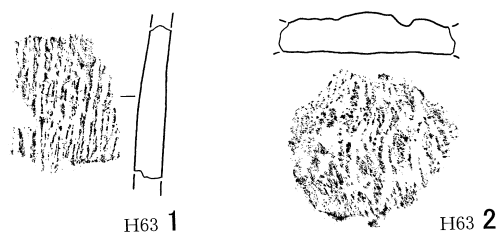


図Ⅲ-2-70 遺構出土土器 H60(1~7)

H62



H63



図Ⅲ-2-71 遺構出土土器 H62(1~7)・H63(1・2)

5～7は床面出土遺物である。5は点取りNo.19である。反撚りと合撚りを撚ったものか、複雑な地文を持つ。6は点取りNo.16である。隆帯上に指頭圧痕を連続、隆帯直下には結節回転が施される。7は点取りNo.23である。単軸絡条体地文を持つ底部破片である。いずれも円筒下層b2式古段階、6などは円筒下層b1式の可能性がある。

H63：1・2は床面出土である。1は点取りNo.27、単軸絡条体地文。2はNo.13。上げ底の底面に単軸絡条体で施文する。いずれも円筒下層b2式とした。

H64：覆土や床面から円筒下層b式が出土する。円筒下層b式の時期。H64はH63よりも古い。

1・3は床面出土で、点取りNo.50とNo.63である。2は覆土1層出土である。1・2は上げ底で、単軸絡条体地文。3は口縁部に結節回転文を施す。いずれも円筒下層b2式である。

H65：床および覆土から円筒下層b式から下層d1式にかけてが出土している。

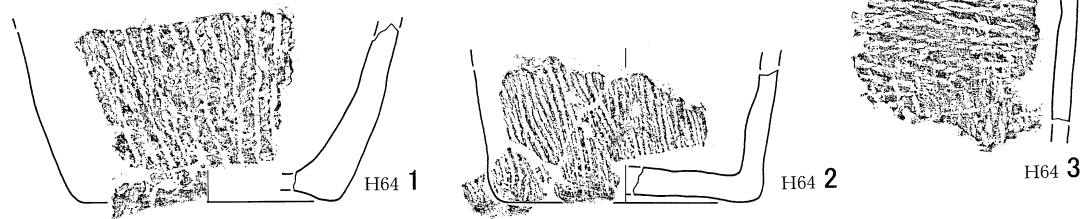
1は床面出土、点取りNo.9である。多軸絡条体地文で、円筒下層b2式新段階である。2は覆土1層出土である。口縁部に縄線を多段に施す。円筒下層c式である。3の左側図は覆土出土である。口縁部には矢羽状縄線で加飾する。区画間には押し引きの連続を施す。胴部には結束第一種羽状縄文と単軸絡条体回転を施す。円筒下層d1式である。3の右側図は住居のある調査区42W区の出土である。M6-2およびH66床面出土の土器片と同一個体の可能性がある。42Y区出土遺物にも類例がある。

H66：覆土から円筒下層b式のみ出土し、床面からは円筒下層b式から円筒下層d1式が出土している。そのうち円筒下層d1式についてはH65覆土中とM6-1、42W区の土器片と同一個体の可能性が高い。円筒下層d1式が出土しているが、M6盛土より古いので混在の可能性はある。柱穴覆土から円筒下層b式が出土している。1は床面出土、点取りNo.7である。H65-3と同一個体と考える。円筒下層d1式である。2は付属遺構HP-1覆土2層から出土した。複節縄文地文の胴部破片である。円筒下層b2式である。

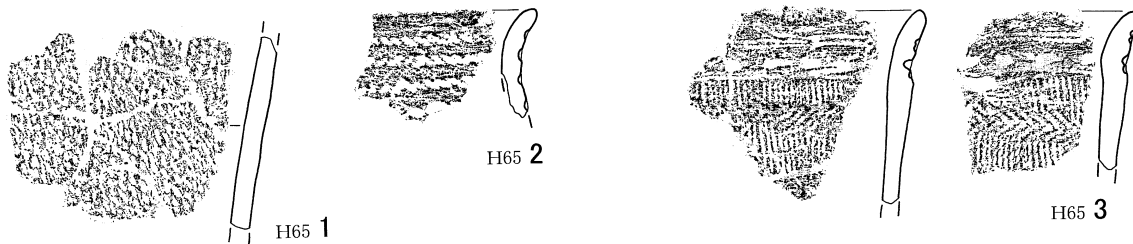
H67：床面および付属遺構HP-1から出土した破片が接合し、円筒下層b式が一個体復元できた。

1は床面と付属遺構から出土した土器が接合した。床面出土点取りNo.65とNo.66、付属遺構HP-1覆土1層出土No.67が接合した。口縁部および胴部中央に帯状に結節回転、地文は単軸絡条体地文である。胎土、器形から円筒下層b2式段階だが胴部中央に帯を持つなど古い要素を併せ持つ。

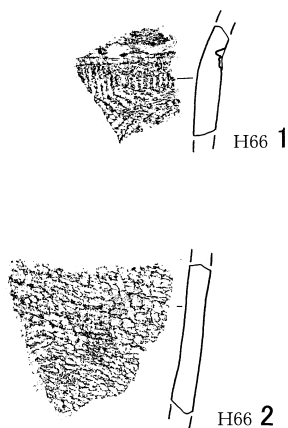
H64



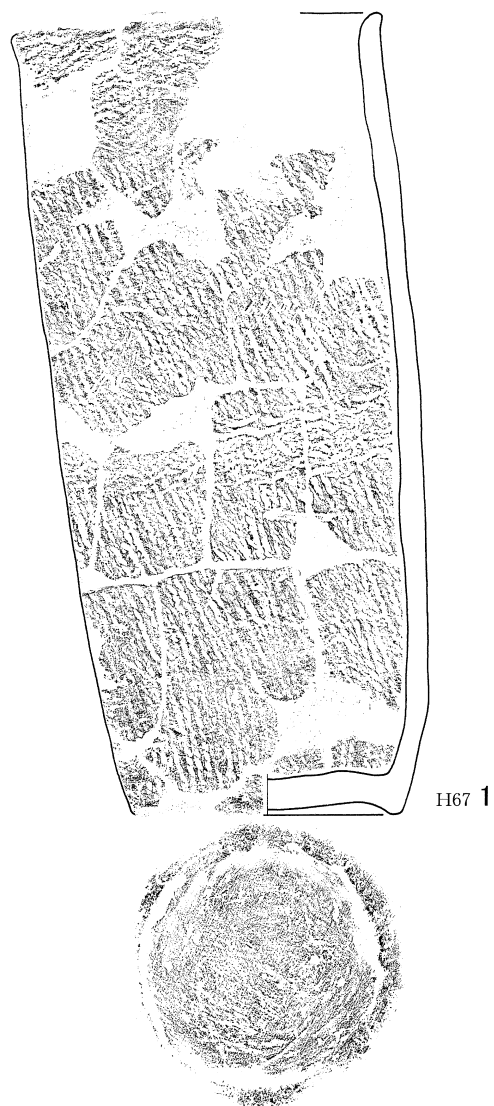
H65



H66



H67



0 10cm 1/3

図Ⅲ-2-72 遺構出土土器 H64(1~3)・H65(1~3)・H66(1・2)・H67(1)

(2) 土坑

P45：1は覆土中の一破片に加えて、63R区M2-2が中心となって接合した。器壁は薄く焼成が良い。口縁には、二対で二種類の波頂部を持つと思われる。調査範囲内に類例が無い、異質な土器である。層位、文様要素等、出土状況から円筒下層d2式とした。

2は覆土出土遺物63T区と63Q区のM2盛土出土遺物が接合した。口縁部には矢羽縄線で直線構成の文様を施す。単軸絡条体第4類を地文に持つ。円筒下層d2式土器である。

P47：1は覆土2層から出土した、Ⅲ群a類、円筒上層d式である。波頂部中央に把手を持つ。器面を細い粘土紐で加飾する。

P54：1は底面から出土した。潰れたようにひとまとまりになっていた。口縁部には反撚り縄文、胴部地文は単軸絡条体回転、底面には縄文施文。円筒下層b2式である。

P55：1は底面出土、点取りNo.6で示した点を中心として直径20cm範囲内に分散していた。この遺物を主体として、覆土出土遺物が他に7点接合した。口縁部には、単軸絡条体横回転、胴部は縦回転、底面にも同原体を回転させた痕跡。

P56：1は底面から出土した。点取りNo.9とNo.10である。底部で同一個体と考えるが、接点は無かった。意図的に土器を打ち欠いて、底部を外した可能性がある。口縁部には縄線と円形刺突列。胴部には単軸絡条体地文。口縁部の区画には円形刺突を連続した隆帯。底面には縄文を施す。

2～4は土坑底面から出土した。点取りNo.9に混在していた土器である。2はNo.10も接合した。口縁にはサルボウ条痕を横走させる。隆帯で口縁部文様を区画する。胴部は単軸絡条体地文である。3はNo.6も接合した。3と4は磨滅が著しいが、多軸絡条体を地文に持ち、同一個体の可能性がある。円筒下層b2～c式である。

P60：1は覆土のものと、遺構がある調査区の隣、81P区、81Q区出土遺物が接合した。隆帯・粘土紐による加飾は無い。縄文地文。円筒上層a式と考える。

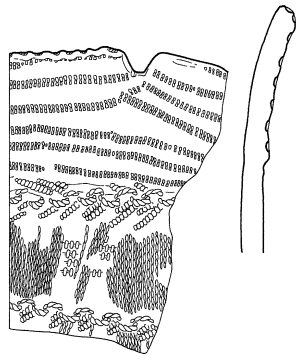
(3) Tピット

TP7：1～3のいずれも覆土出土遺物と遺構がある82P区の遺物が接合した。1は82P区包含層、2・3はH58覆土出土遺物が接合した。1は波頂部にボタン状の貼り付けを持つ。2には突起様の波頂部から連続するボタン状の貼り付けがある。底部には意図的にあけられた穴がある。3はRLR縄文地文でLR結節縦回転。いずれも円筒上層a式である。

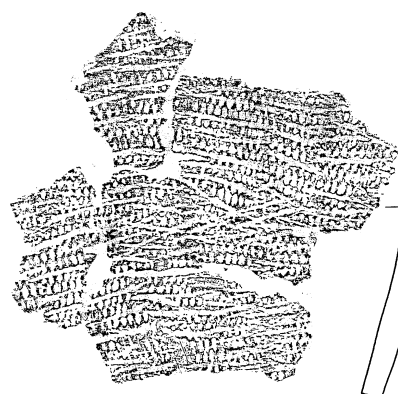
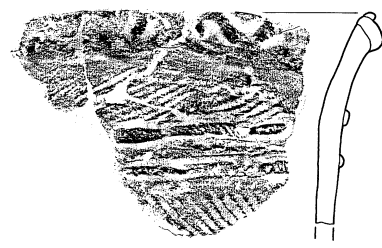
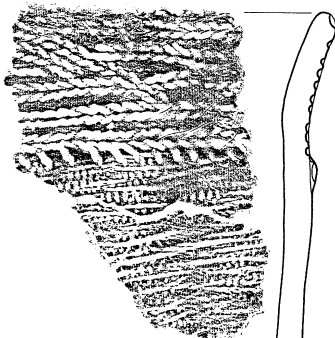
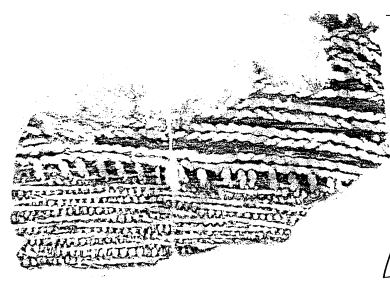
(4) 焼土

盛土のトレンチ調査で確認した焼土F66～78については、検出面と遺物出土状況について、本文は第1分冊第Ⅲ章1項・図は第Ⅱ章に、遺物そのものの説明は第3分冊第Ⅳ章1項と表に記載した。

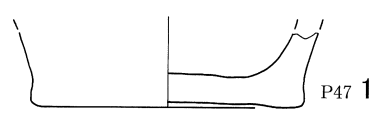
P45



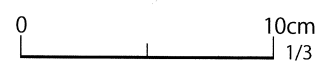
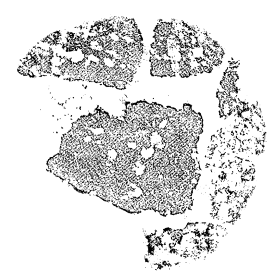
P47



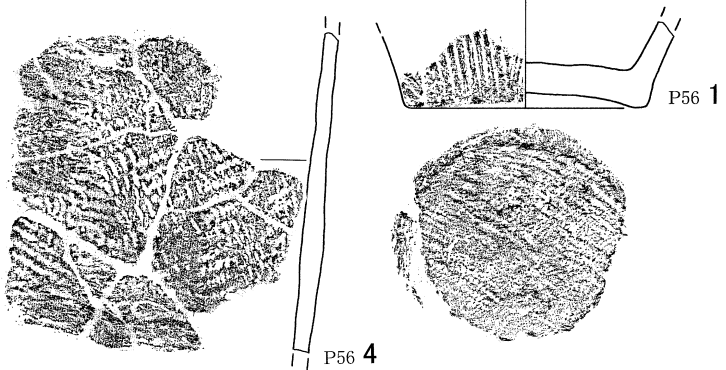
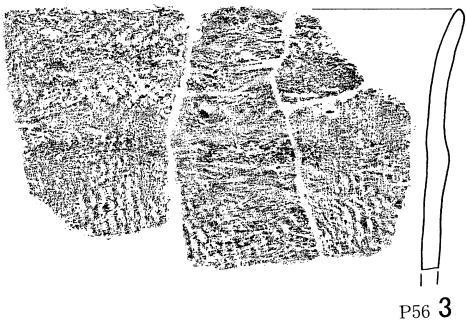
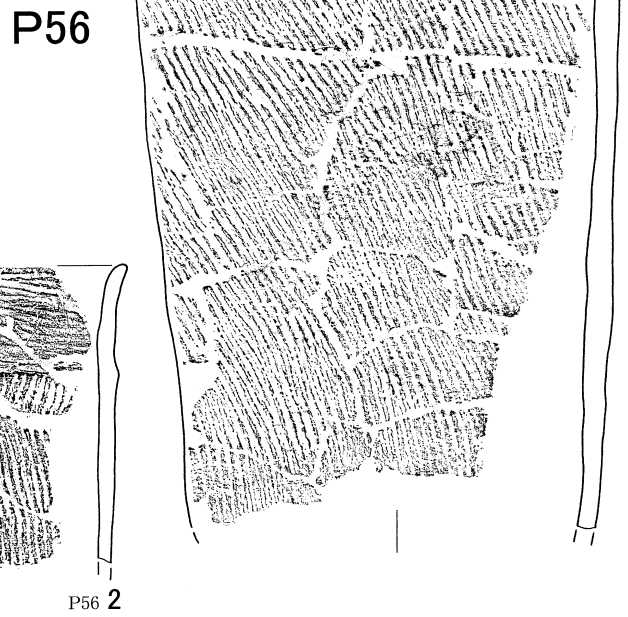
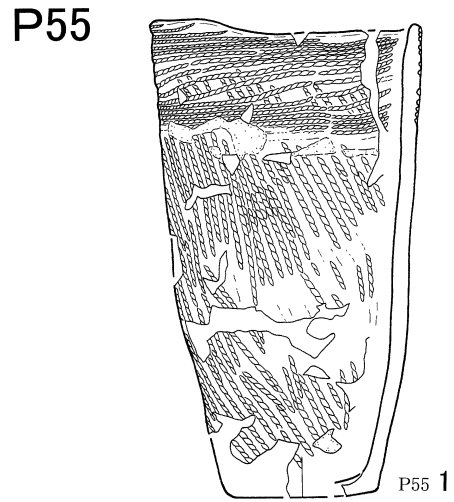
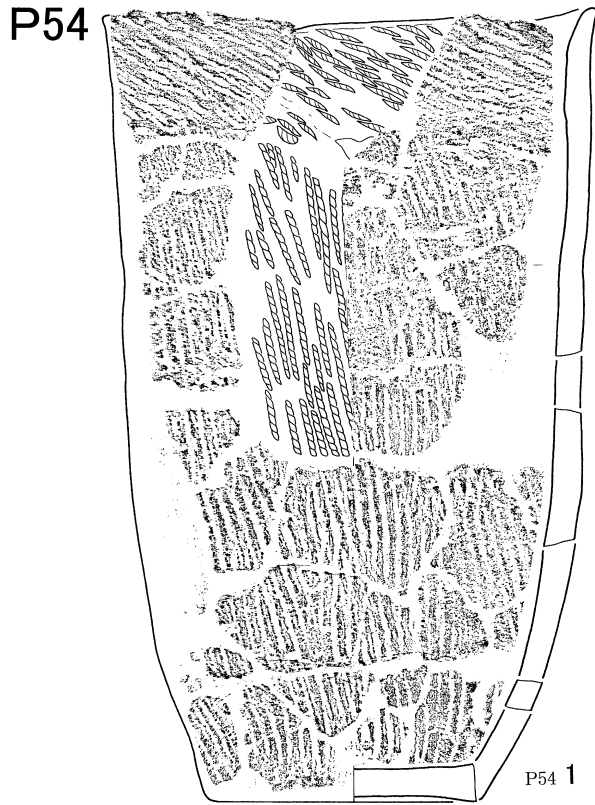
P45 2



P47 1



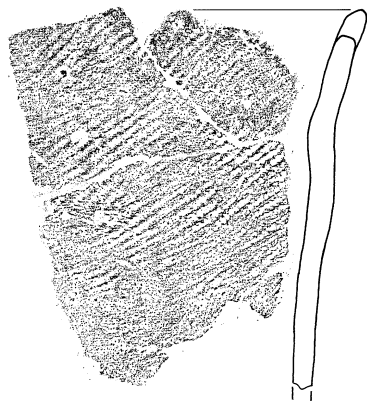
図Ⅲ-2-73 遺構出土土器 P45(1・2)・P47(1)



0 10cm 1/3

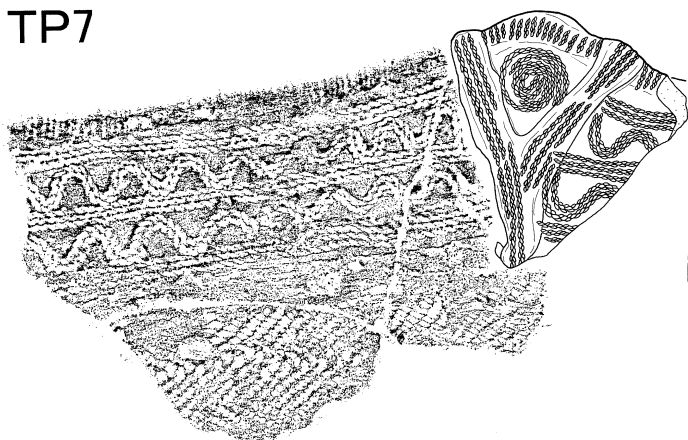
図III-2-74 遺構出土土器 P54(1)・P55(1)・P56(1~4)

P60

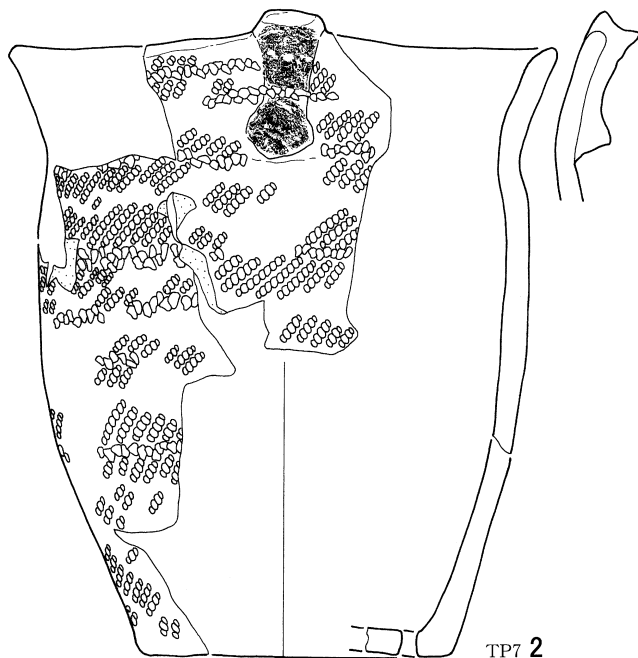


P60 1

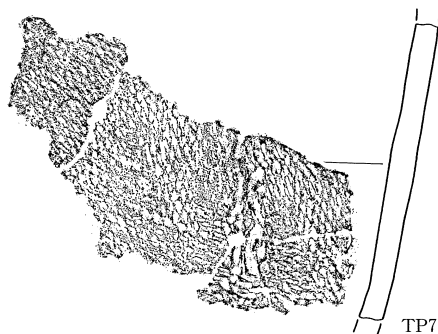
TP7



TP7 1

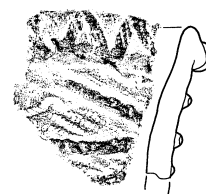


TP7 2



TP7 3

S5



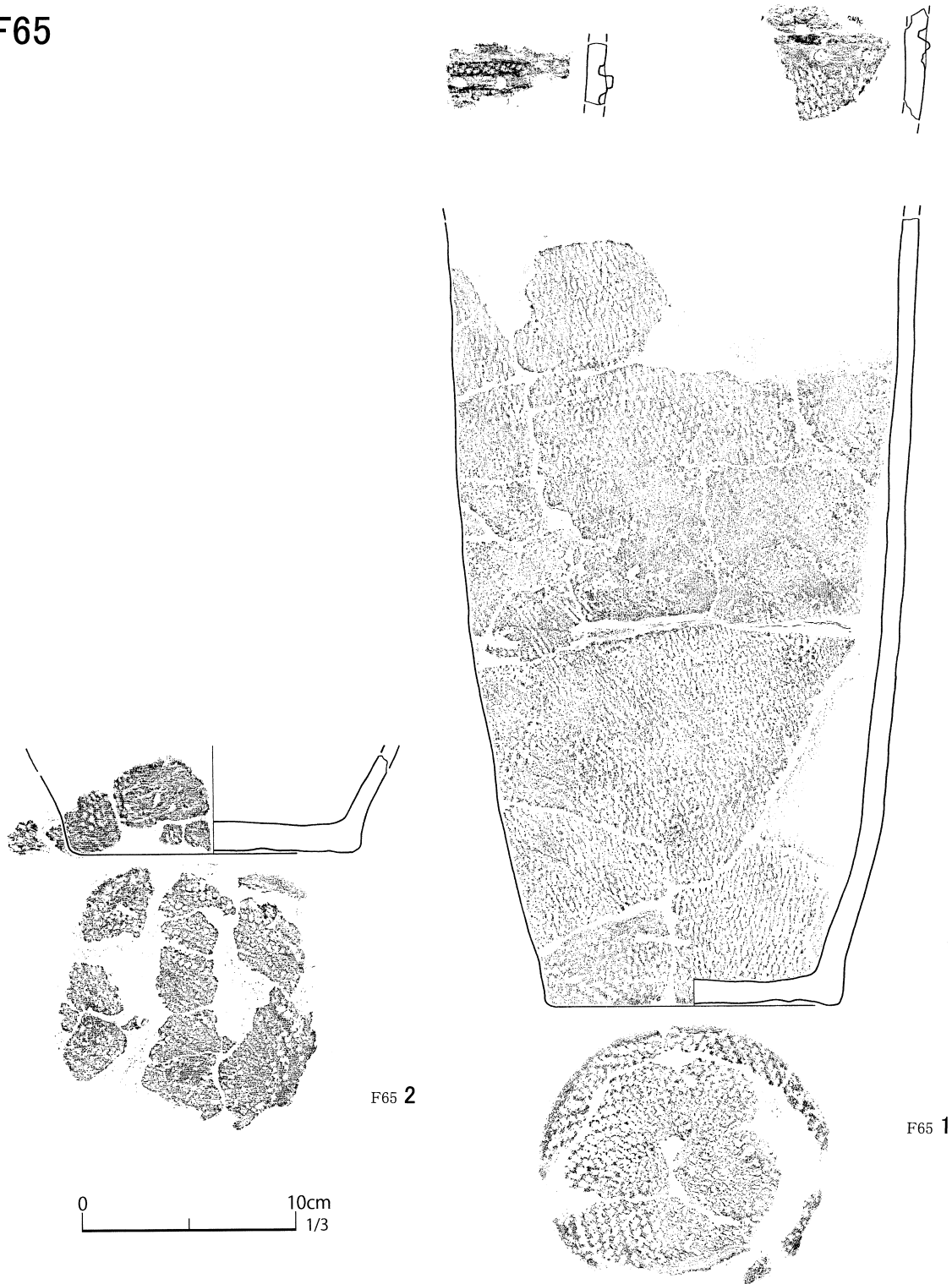
S5 1



0 10cm
1/3

図Ⅲ-2-75 遺構出土土器 P60(1)・TP7(1~3)・S5(1)

F65



図Ⅲ-2-76 遺構出土土器 F65(1・2)

F69はH21 竪穴住居廃絶後の窪み、F78はH29 竪穴住居廃絶後の窪みに位置する焼土である。F69は円筒下層d1式新段階、F78は円筒下層d2式のまとまった廃棄を伴う。いずれも焼土の下位に円筒下層d1式古段階、焼土の上に円筒下層d2式のまとまった廃棄が確認された。F69とH21、F78とH29の層位別出土遺物の変遷については第Ⅵ章2項にまとめた。F69とH21については図Ⅵ-2-5～6、F78とH29については図Ⅵ-2-1と図Ⅵ-2-4に示した。F77は基底部の焼土M4-6相当である。この項ではそれ以外の焼土関連遺物について記載する。

F65：周辺から出土した遺物を図化した。1は76R区の風倒木と思われる攪乱から出土した土器である。風倒木に入り込んでいた土器である。据え置いた後に、木の根が入り込んだ可能性があった。口縁部が大きく欠損しており接合しなかった。残存する破片から、口縁部区画の隆帯があり、その上下に円形刺突を持つ。多軸絡条体地文の筒型をした深鉢である。底面にも同様の原体で施文する。円筒下層b2～c式と考える。取り上げ時に土器の下から礫が出土したが、使用痕などなくV層より下位の礫層起源のものとする。

2は木の根に据えられて、あるいは入り込んでいた土器底部である。縄文地文で、底面にも同様の原体で施文する。76Q区のabcd（図Ⅲ-1-129）で囲んだ範囲から出土した。円筒下層b2～c式と考える。

F82：1・3・6・7・9・11～14・16・26は覆土1層出土である。5・8・15・17～19は覆土2層出土である。2・9・20～22・24・25・27・33は沢1層出土である。4・10は沢1層と覆土1層の遺物が接合した。

1～11・13～32はサイベ沢Ⅶ式と考える。規格がわかるものとして、口径9～22cm、器高12～20cm、底径4～9cmと小型の深鉢で構成される。また6のような中空の台付鉢や、29のように丸底に成形した浅鉢に台をこしらえた痕跡がある。台部分は見つけられなかった。

12はほぼ同時期の遺物と考えるが、円筒上層c式由来のレンズ状文様を細い隆帯で施すため、円筒上層d式とした。口唇部あるいは波頂部中央の貼付以外に粘土紐による加飾を持つ個体はない。また、3や6のように沈線によって、レンズ文起源と思われる文様が直線化したものもあるが12とは異質のものである。また残存部分から口径は30cm前後、器高は40cmを大きく上回る大型深鉢と考えられる、意図的に割り、廃棄した可能性がある。

32はサイベ沢Ⅶ式の胴部片の縁辺を丸く加工し、中央に穿孔したものである。33は焼成粘土塊である。

(5) 集石

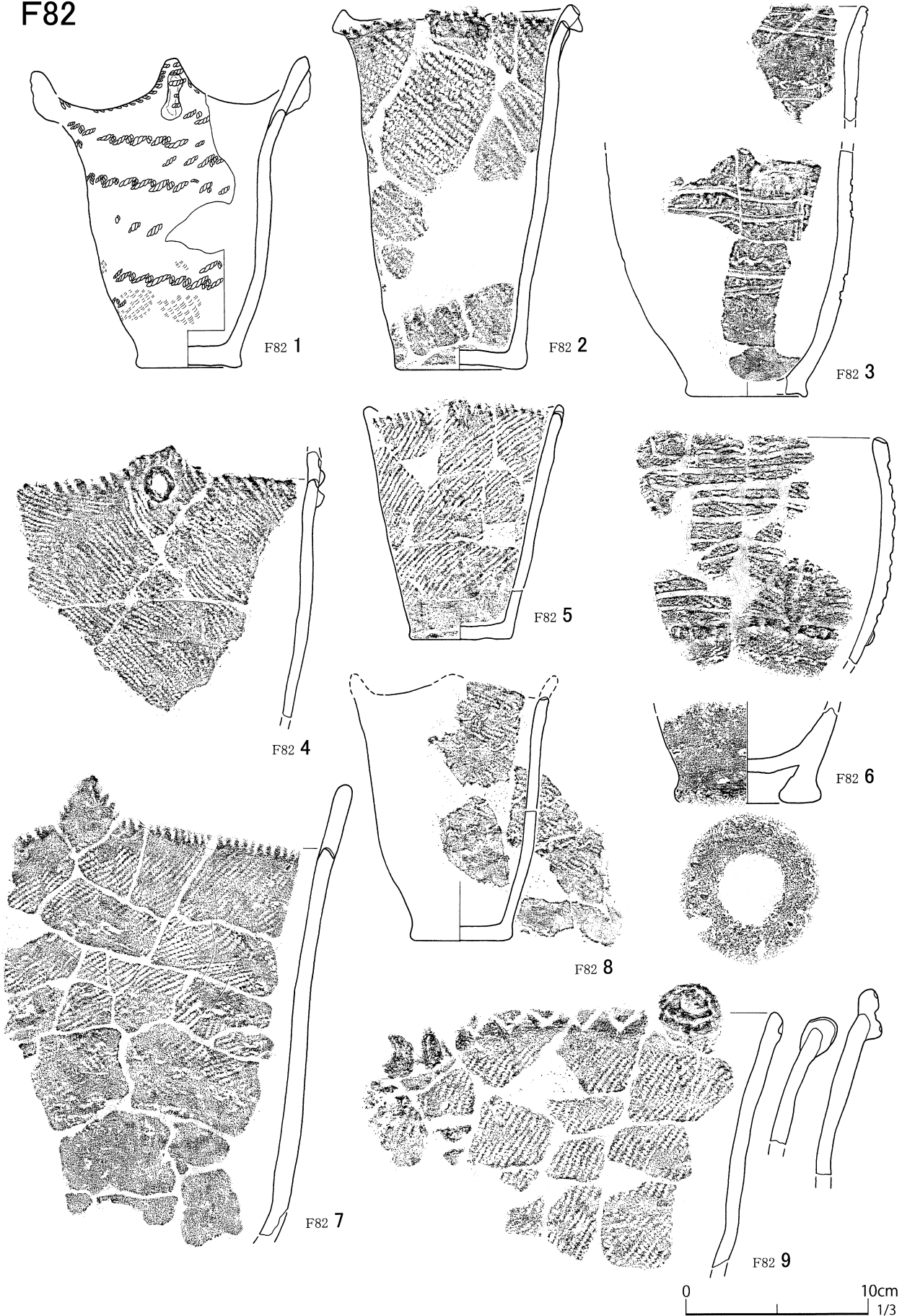
S5：1はS5と同一検出面から出土した。肥厚する口縁部を持つ。細い隆帯で器面を加飾後、縄文施文。

(6) 遺物集中

遺物集中について、抽出、図化した土器は無い。

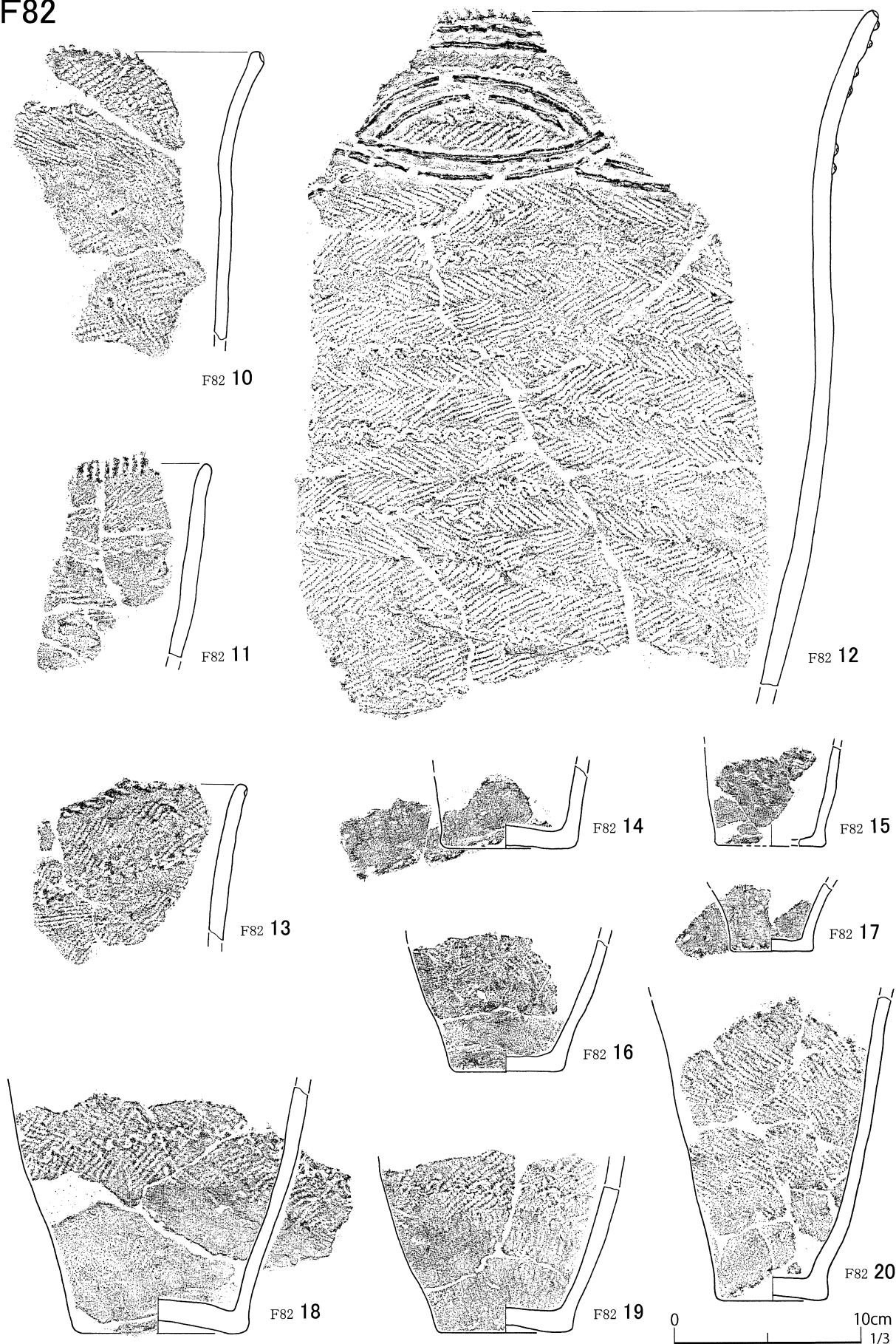
(大泰司)

F82



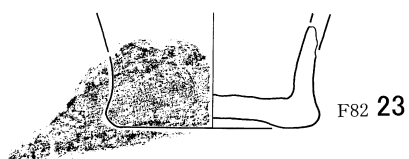
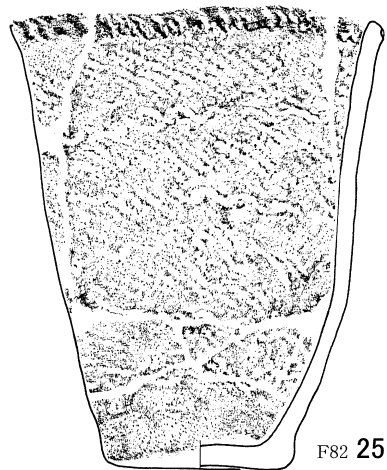
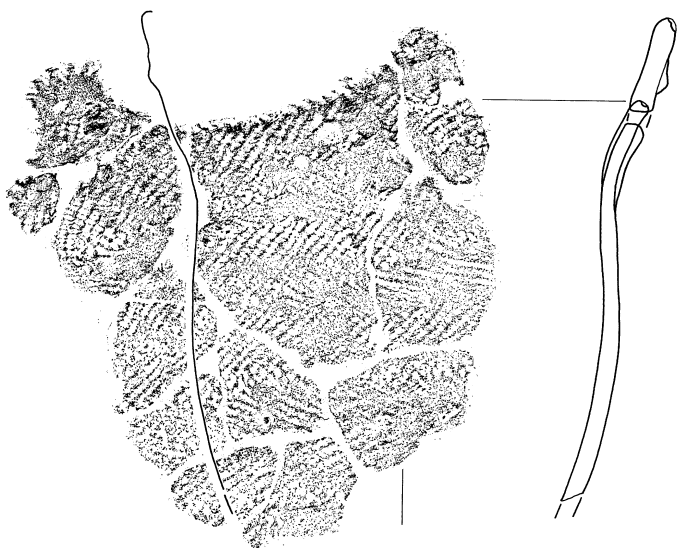
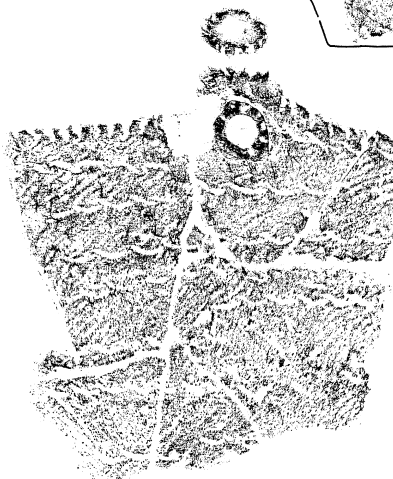
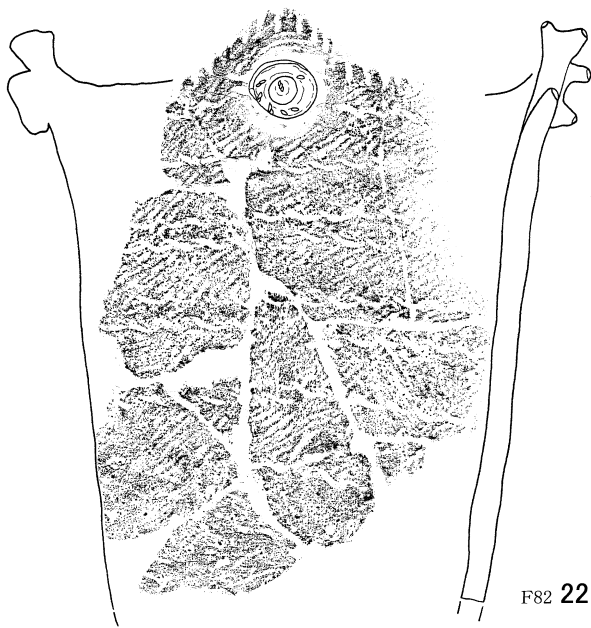
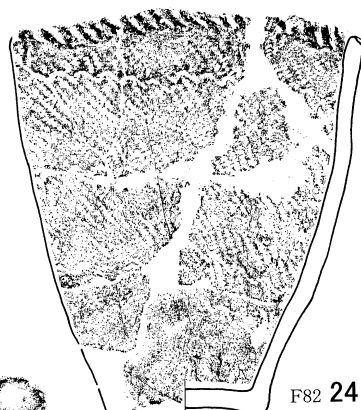
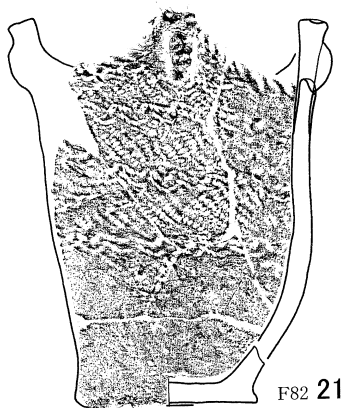
図Ⅲ-2-77 遺構出土土器 F82(1~9)

F82



図Ⅲ-2-78 遺構出土土器 F82(10~20)

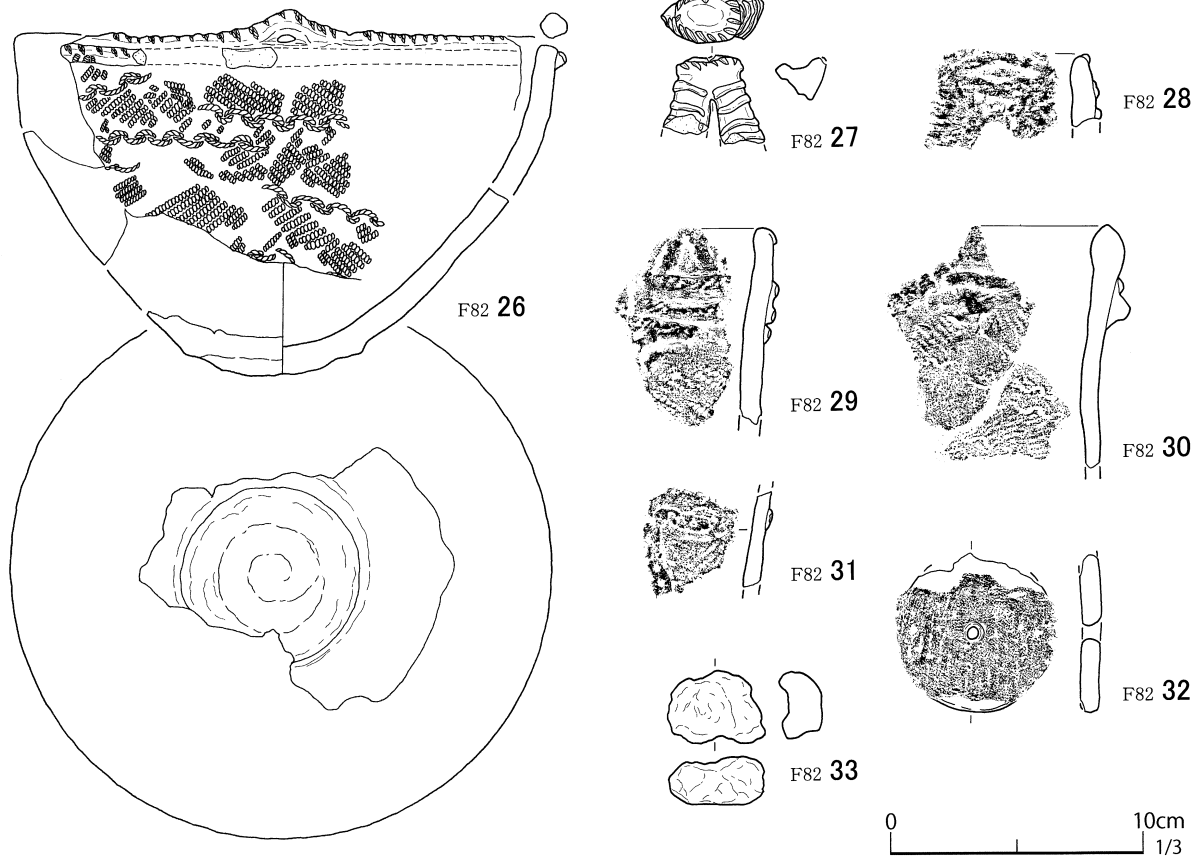
F82



0 10cm 1/3

図Ⅲ-2-79 遺構出土土器 F82(21~25)

F82



図Ⅲ-2-80 遺構出土土器 F82 (26~33)

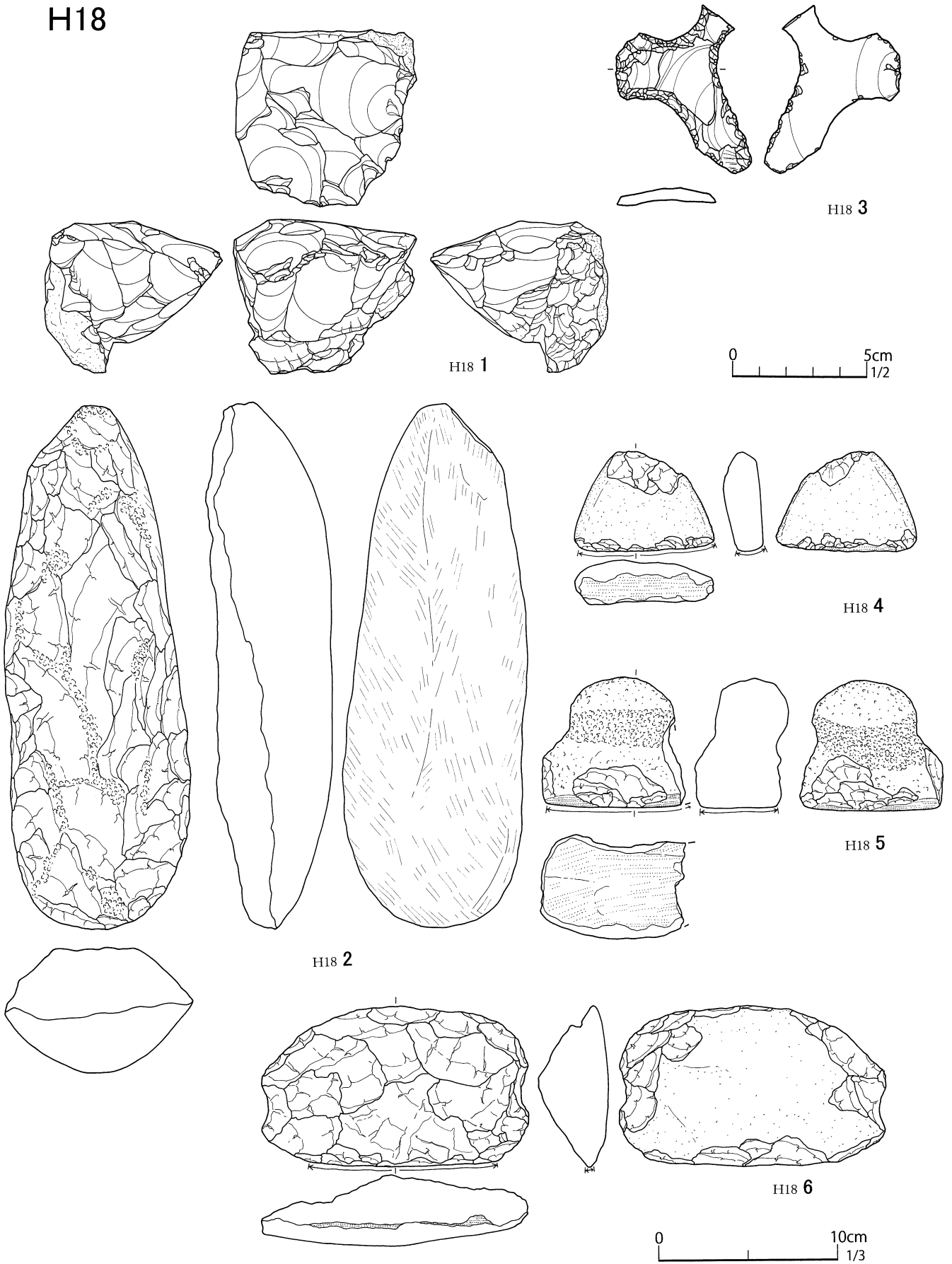
3 遺構出土の石器・石製品

この項に掲載した石器はいずれも縄文時代のものという可能性がある。大きさ、材質、出土位置は(表Ⅲ-7 遺構出土石器一覧)に記した。出土位置がわかるものについては第1分冊Ⅲ章1項の遺構図で「掲載番号1の石器・石製品」ならば「石1」のように示した。

(1) 竪穴住居

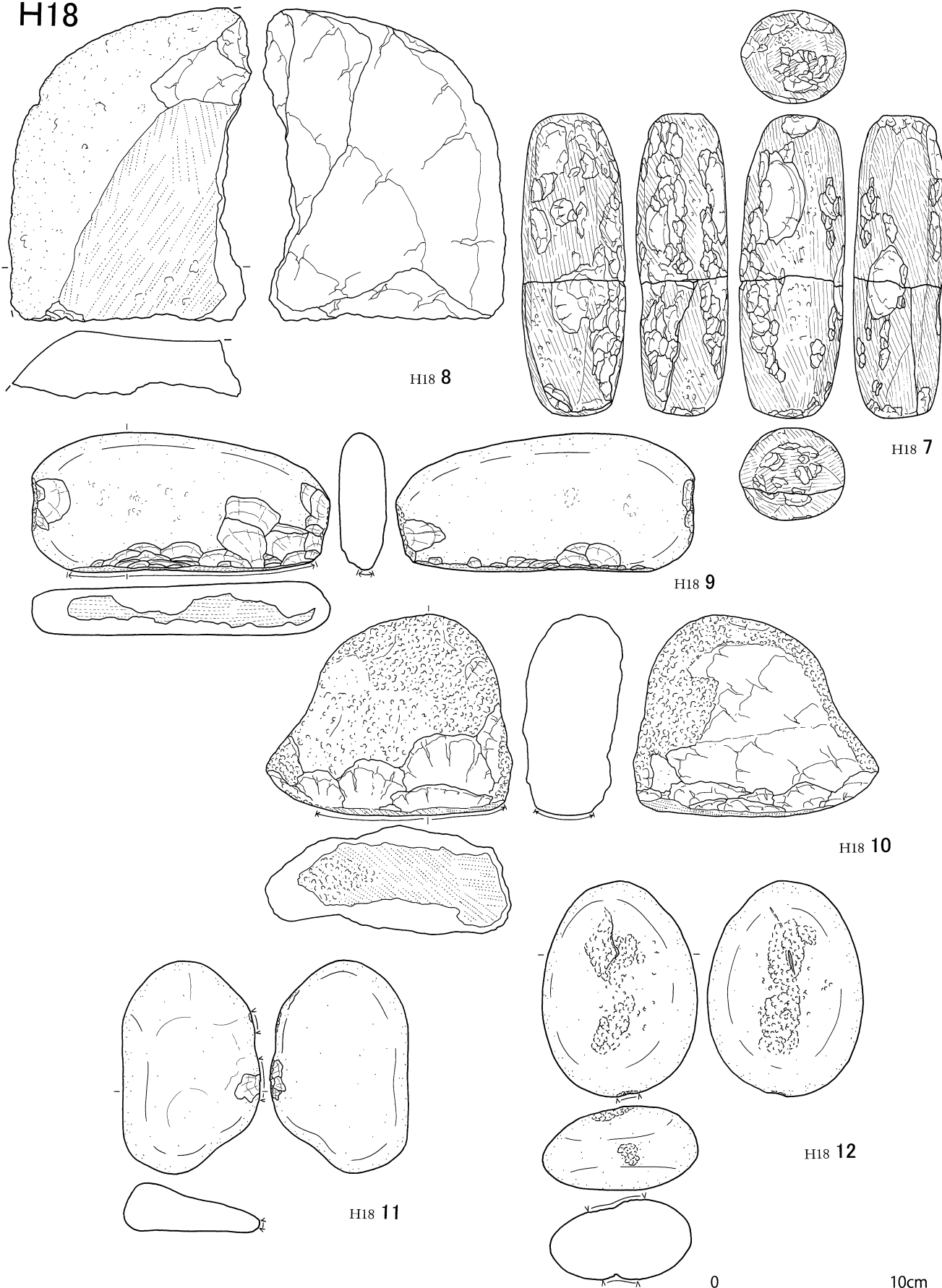
H18: 1~7は覆土出土である。4・5・7は覆土1層、2は覆土2層、1・6は覆土3層、3はトレンチからの出土である。8・10は床面出土、9はHP-5、11はHP-11、12はHP-18のそれぞれ覆土中からの出土である。1は頁岩の石核である。2の正面は打ち欠きによる調整が全体におよび、裏面は礫面が残る砂岩である。石斧未成品と考える。3は頁岩の異形石器である。三か所の張り出し部分から構成される。4は流紋岩製の小型扁平打製石器である。頂部には両面からの打ち欠きによる成形がある。5は安山岩製の小型北海道式石冠である。全面に叩打成形がおよび持ち手は明瞭に作り出す。6は砂岩製の扁平打製石器である。縁辺には両面からの打ち欠きによる成形がおよび、両側縁はノッチ状になっている。7は凝灰岩製の石棒である。全面を叩打後ミガキにより、成形を施す。円柱状だが中央の径が太くなる。8は安山岩製の石皿片である。正面には皿状の凹み部があり滑らかになるまで使いこまれている。9は閃緑岩製の扁平打製石器である。両側縁に叩打による成形が加えられる。

H18



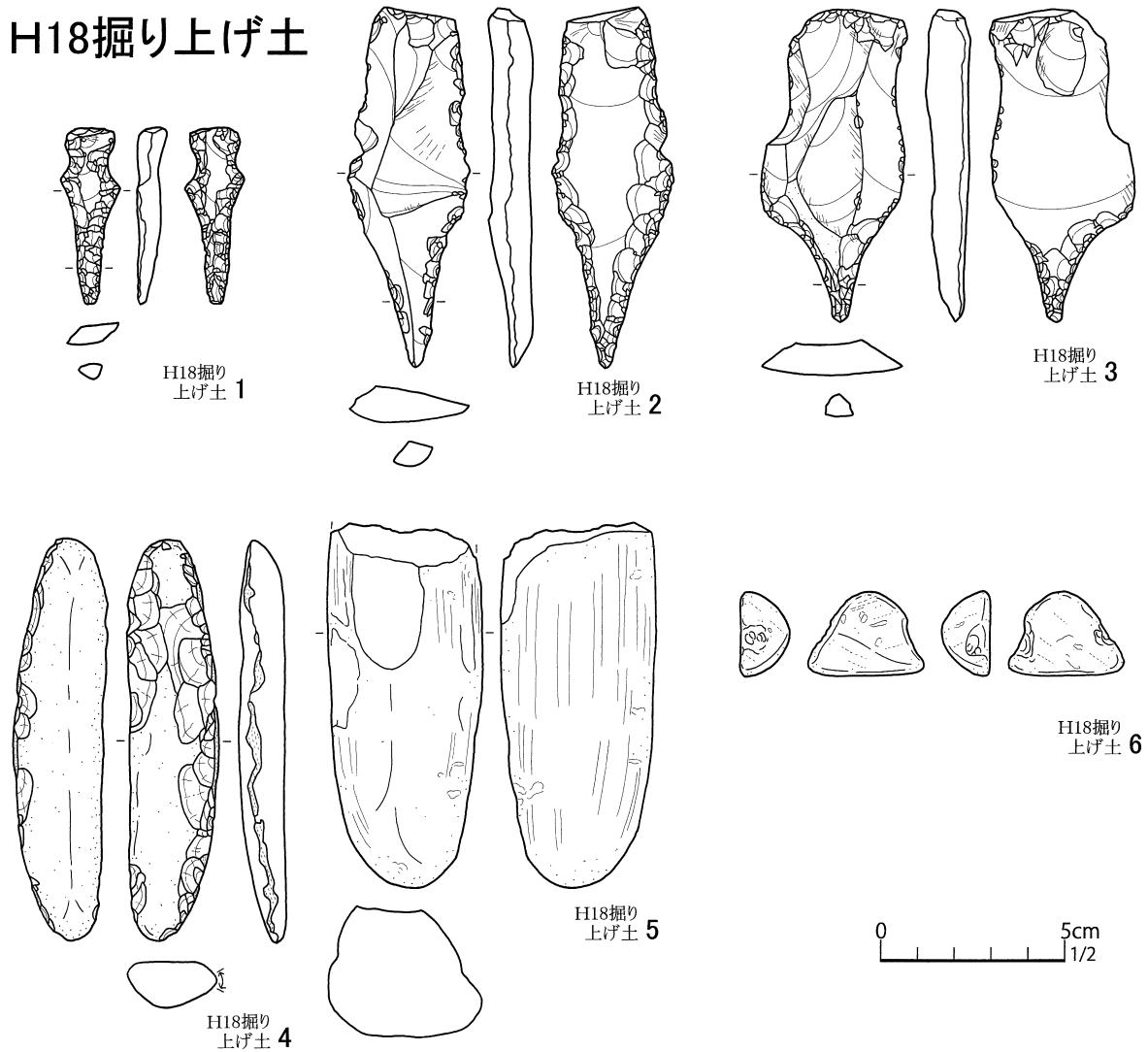
図Ⅲ-3-1 遺構出土石器 H18(1~6)

H18



図Ⅲ-3-2 遺構出土石器 H18(7~12)

H18掘り上げ土



図Ⅲ-3-3 遺構出土石器 H18掘り上げ土(1~6)

10は砂岩製の北海道式石冠である。全面に叩打を施して持ち手部分を作り出す。機能部は平滑になるまで使い込まれる。11は流紋岩のたたき石である。側縁の一部に叩打痕がある。12は砂岩の凹み石である。表裏対応する凹みが長軸上に二か所ある。

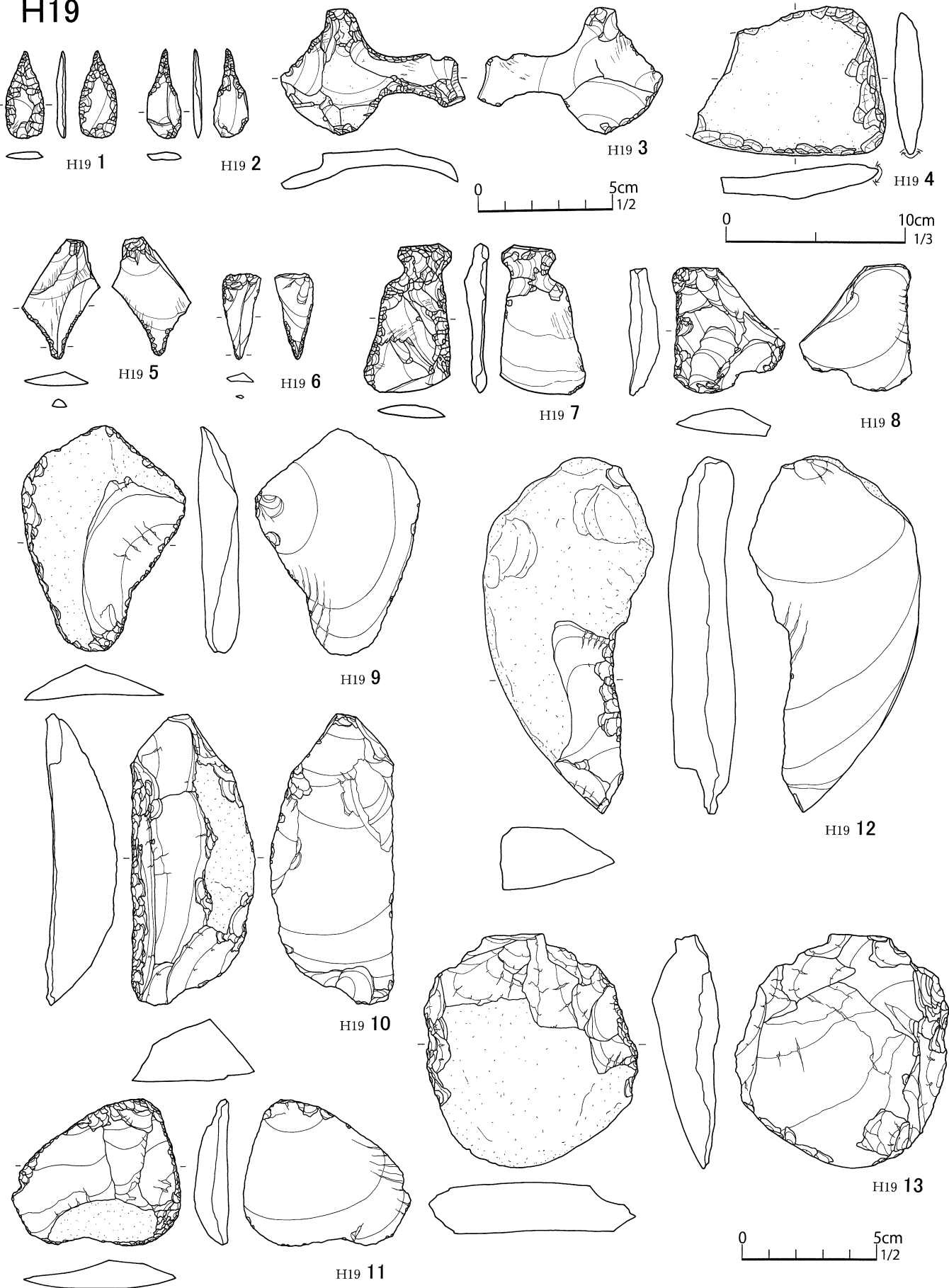
H18掘り上げ土：土器は円筒下層b式から下層d1式の磨滅した破片の出土があった。石器は特徴的なドリルと石製品の出土があった。そこで石器を抽出、図化した。

1～3は頁岩製のドリルである。いずれも長い錐部を両面調整によって作出し、基部は幅広く、線対称である。1はつまみ部分も作出する。4～6は石製品である。4は棒状の頁岩の片面を打ち欠き半対面の礫面を残す。側縁部は擦りによるものか磨滅している。5は折損した棒状の凝灰岩である。残存部分表面には研磨の痕跡がある。6は軽石の全面を研磨したものである。一面を平坦に作り出している。

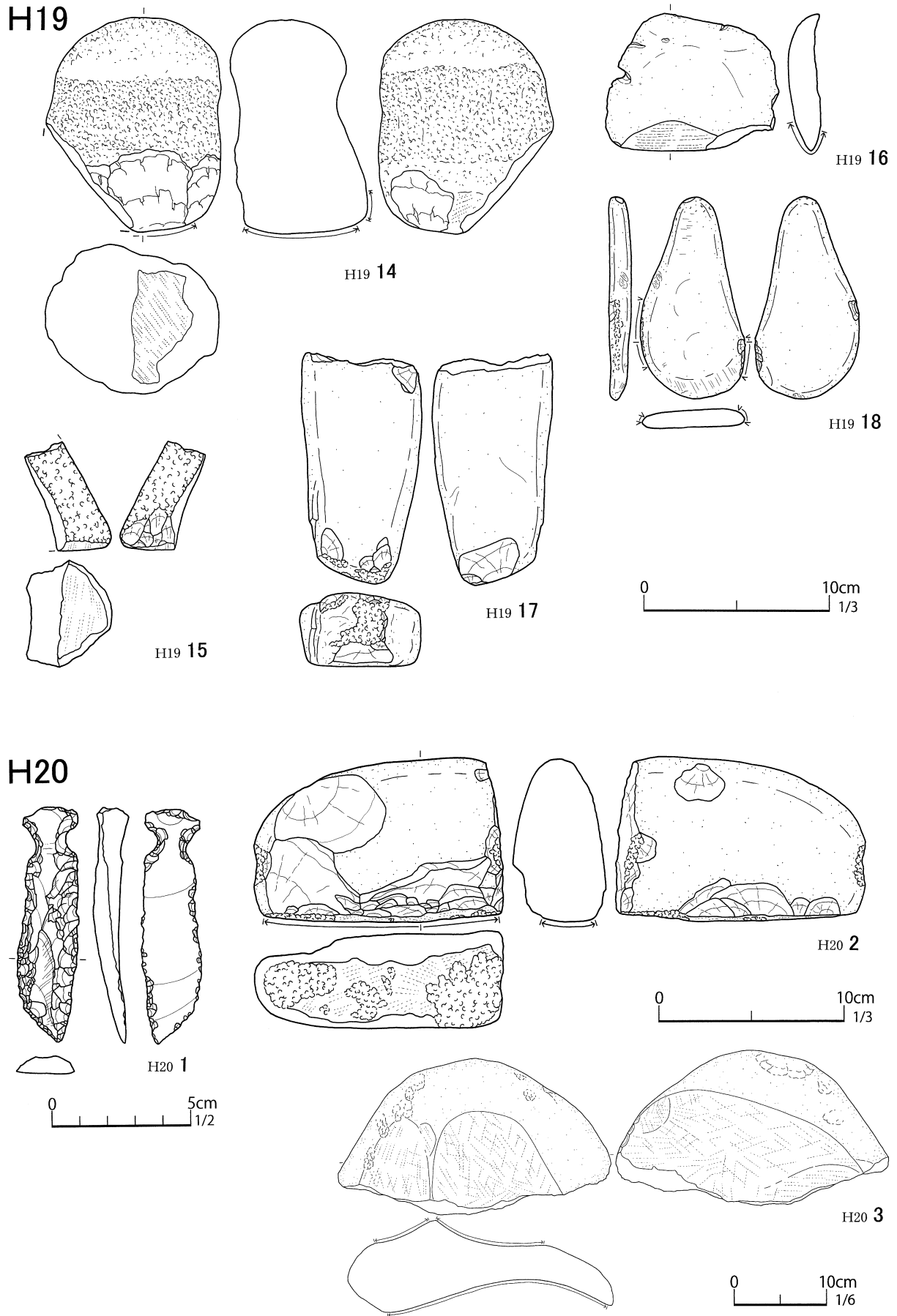
H19：1～4は覆土2層からの出土、5・6・8～11・13～15・17・18は床面出土、7は周溝の覆土、12はHP-15の覆土、16はHP-18覆土1層からの出土である。

1・2は頁岩製石鏃である。円～平基で先端を細長く作出する。基部形態が不整であることから、尖基で同形の先端部を持つ型が典型的であるが、それに近いものとする。3は頁岩の異形石器であ

H19



図Ⅲ-3-4 遺構出土石器 H19(1~13)



図Ⅲ-3-5 遺構出土石器 H19(14~18)・H20(1~3)

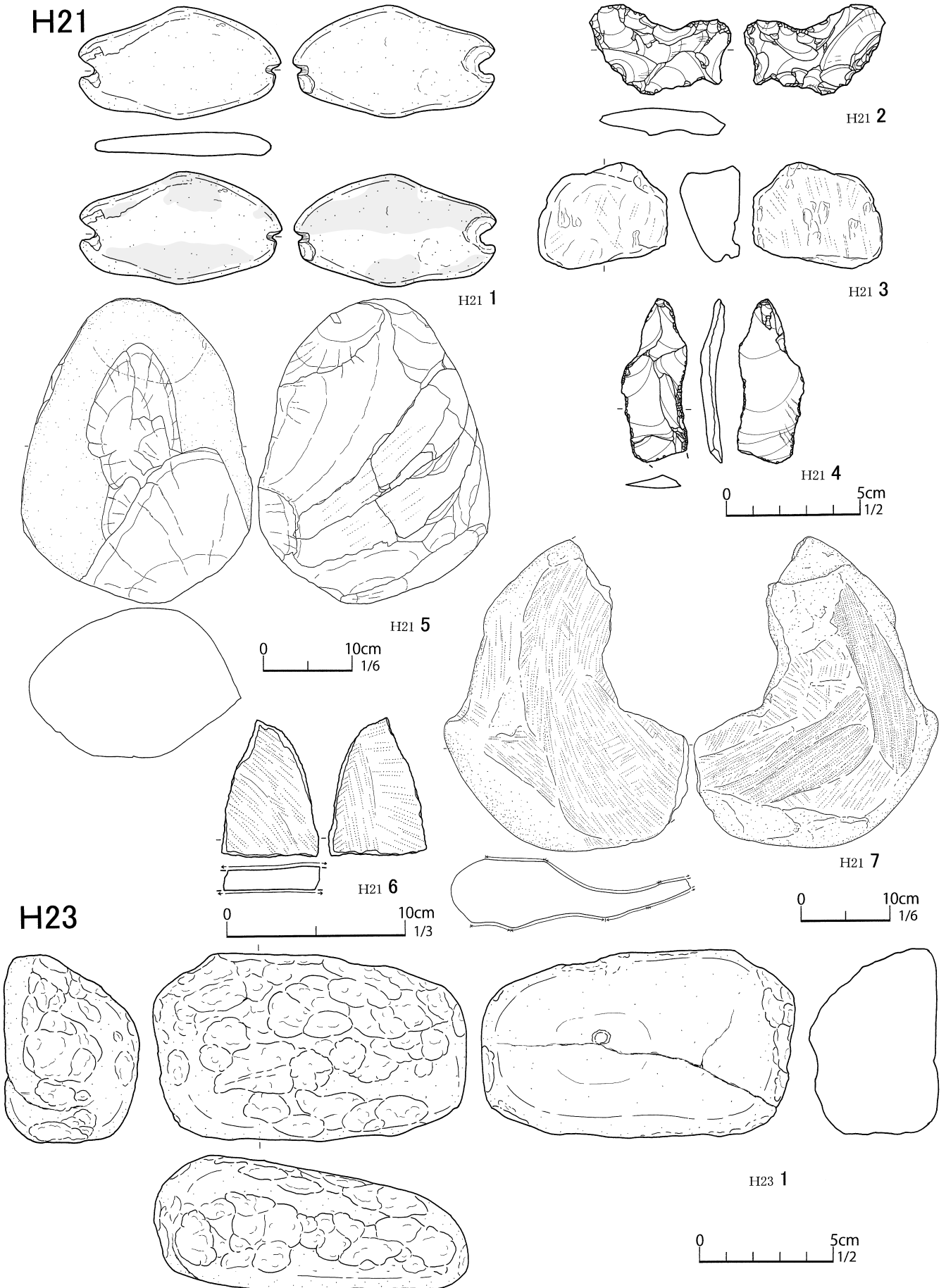
る。ふたつの張り出しを持ち、ひとつはつまみ様である。4は砂岩の大型礫を打ち欠いた破片の縁辺を微細な打ち欠きで成形し、石鋸として用いたものである。5・6は頁岩製のドリルである。もともと細長い張り出し部分を持つ剥片を選択し、微細な剥離で錐部に仕上げる。7は頁岩製のつまみ付きナイフである。両側縁に刃部を持つ。8～12は頁岩製のスクレイパーである。8は一側縁に片面調整による刃部が作出される。9は縁辺に浅い剥離が巡る。10は肉厚の素材の一側縁に急角度の刃部を持つ。11は縁辺に浅い剥離が巡るが、正面右下が素材の厚みを生かして搔器様になっている。12は右側縁に深い剥離による刃部が作出される。13はほぼ円形をした頁岩の剥片素材に両面からの深い剥離を施したものである。両面調整石器に分類した。14・15は北海道式石冠である。14は安山岩で全面を叩打し、持ち手部分を作成する。機能部は平滑になるまで使い込まれ、割れによる欠損が著しい。15は閃緑岩で機能部側の破片と考えられる。全面に叩打調整があるものと考えられ、被熱した痕跡がある。16は砂岩の大型礫を打ち欠いた破片の縁辺の薄い部分をそのまま石鋸として用いたものである。17は棒状の砂岩の下端に叩打痕があるものである。18は撥型で、縁辺に叩打痕がある薄い緑色泥岩である。小型石斧の未成品という可能性もある。

H20：1～3は床面からの出土である。1は頁岩のつまみ付きナイフである。先端は切り出し形で両側縁に刃部を持つ。2は砂岩で、打ち欠いて幅広の機能面を底面に作出し、そこには叩打痕が顕著である。また残存する側縁には叩打による溝状の持ち手が作り出された痕跡がある。その溝は反対側割面にも対応する叩打痕がある。不整な形状のため扁平打製石器に分類したが、北海道式石冠未成品の可能性もある。3は安山岩製の石皿片で皿状の凹みが表裏にある。表裏の凹み面の深い部分が対応する場所で割れている。

H21：1～3は覆土、4・6・7は床面、5はHP-11 覆土からの出土である。

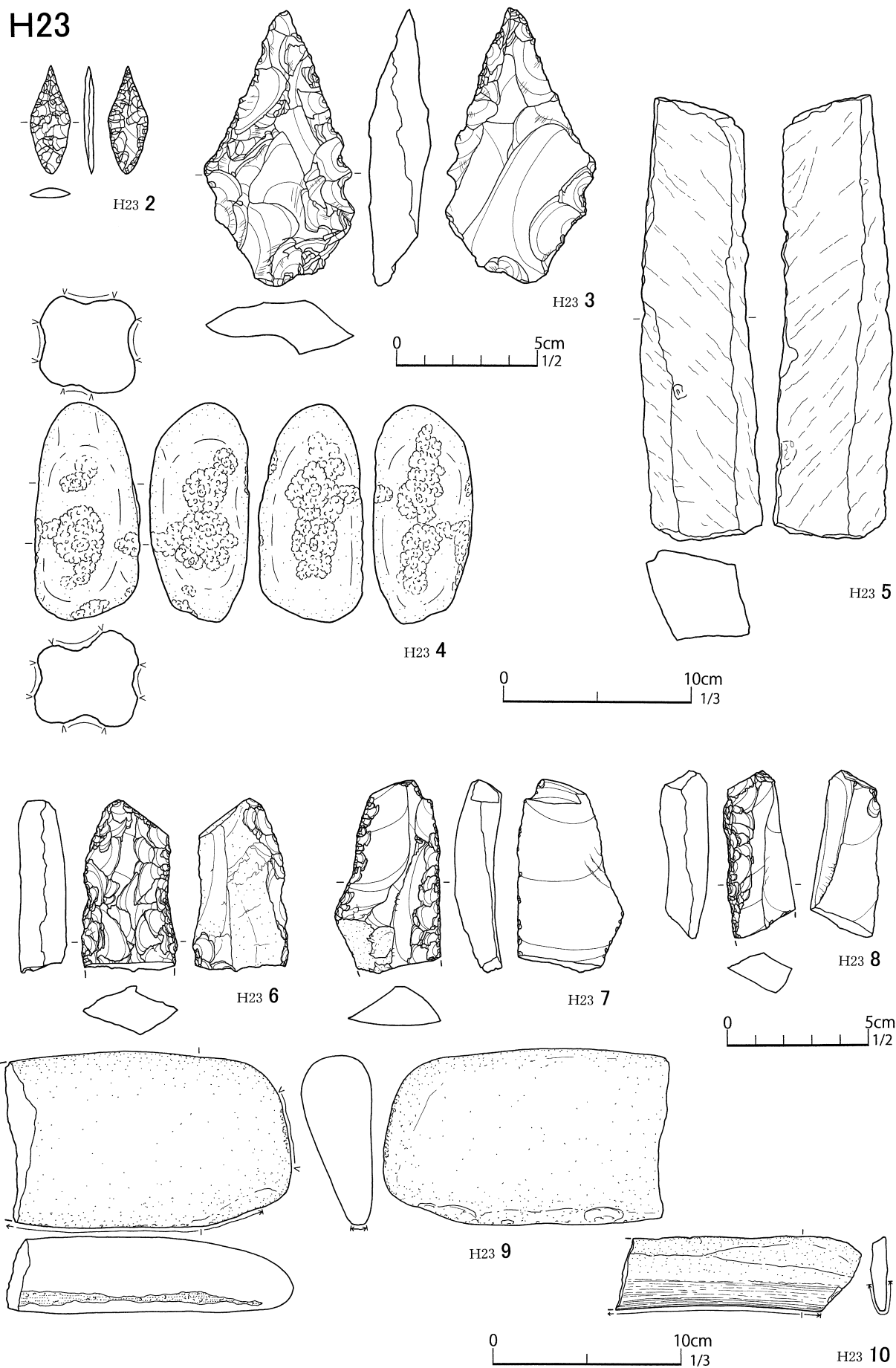
1は凝灰岩製の錘である。打ち欠きと擦り切りで対応する装着部分の凹部を作成する。これは素材の長軸上に対応する。ほぼ全面に赤彩された痕跡があるが、この装着部と対応する長軸部分のみ無い。これは赤彩時に長軸上になにかが巻いてあったその上から赤彩が施されていた可能性がある。赤彩部は下図に網掛けで示した。2・3は石製品である。2は頁岩製異形石器である。3は軽石の全面を研磨したもので裏面には平坦面がとられている。4は頁岩製スクレイパーとした。剥片の縁辺に細かい剥離が巡る。6は砂質凝灰岩製の砥石片である。表裏に顕著な研磨痕跡がある。5は砂岩の台石である。両裏面に叩打痕がある。7は安山岩の石皿である。楕円形をした溝状の凹みが顕著なもので表面に大小1条ずつ。裏面に3条ある。表面の顕著な大型の溝の一番深い部分、石の一番浅い部分で割れている。

H23：1～5は覆土、6～10は床面からの出土である。1は安山岩製の石製品である。正面図とした側はほぼ全面に叩打が及ぶ。左側面図側には凹みが叩打で作られる。これに対応して、裏面図でわかるように、右側面にも小さな凹みが叩打で作出されている。底面とした側には溝状が叩打によって作出される。石冠様石器的な石製品の可能性がある。2は頁岩製石鏃である。尖基で先端が細長く作り出されている。3は頁岩の両面調整石器である。線対称の形状で縁辺は粗く打ち欠かれる。4は安山岩製の凹み石である。断面は正方形に近い表裏二面ずつに対応する二か所の凹みが長軸上に並ぶ。5は安山岩の棒状礫である。柱状節理を採取してきたものとする。石棒的な意味合いを想定し、掲載した。6～8は頁岩製のスクレイパーである。6は正面について深い剥離が全面におよぶ裏面は右側縁のみ両面調整である。7は両側縁、8は片側縁に片面調整の刃部を作成する。9は砂岩製の扁平打



図Ⅲ-3-6 遺構出土石器 H21(1~7)・H23(1)

H23



図Ⅲ-3-7 遺構出土石器 H23(2~10)

製石器である。素材本来の形状を生かして利用しているが、残存する側縁には叩打痕が残る。成形痕跡か使用痕かは判然としない。10は安山岩の石鋸である。板状節理の幅が狭い部分を生かして石鋸機能部を作出している。

H24：1～3は床面、4は覆土2層からの出土である。1は頁岩製のドリルである。先端は丸まり使い込まれている。2・3は頁岩製スクレイパーである。2は、先端が平刀型で、その端部と平行な両側縁には整然と刃部が作出されている。折損しているため不明だがつまみ付きナイフだった可能性がある。3は縁辺に刃部が巡る。4は凝灰岩で、両端が折損している両側縁は急角度に打ち欠かされている。割面である裏面中央には凹みがある。石棒や石冠に類する石製品の可能性を考える。

H25：1～4は覆土からの出土である。3が覆土1層でほかは覆土2層。5～7は床面からの出土である。

1・2は緑色泥岩の擦り切り残片である。いずれも四方向からの擦り切りが見受けられる。側縁の一部には連続する打ち欠きも認められる。3は凝灰岩の棒状礫について両側縁を急角度に打ち欠いたものである。石棒的な石製品の可能性を考えた。4は厚みのある楕円礫の長軸両端を打ち割って、表裏両面長軸上に叩打痕を持つ安山岩である。その大きさと形状から北海道式石冠未成品の可能性を考えた。5は頁岩製石槍又はナイフの先端部片である。尖基木葉形の可能性がある。6は頁岩製スクレイパーである。平行な両側縁には片面調整の刃部。端部には搔器様の刃部を持つ。7は砂岩製石皿である。両面に研磨面を持つ、正面側の凹みが顕著である。残存部から大型だった可能性があり石皿としたが砥石という可能性もある。

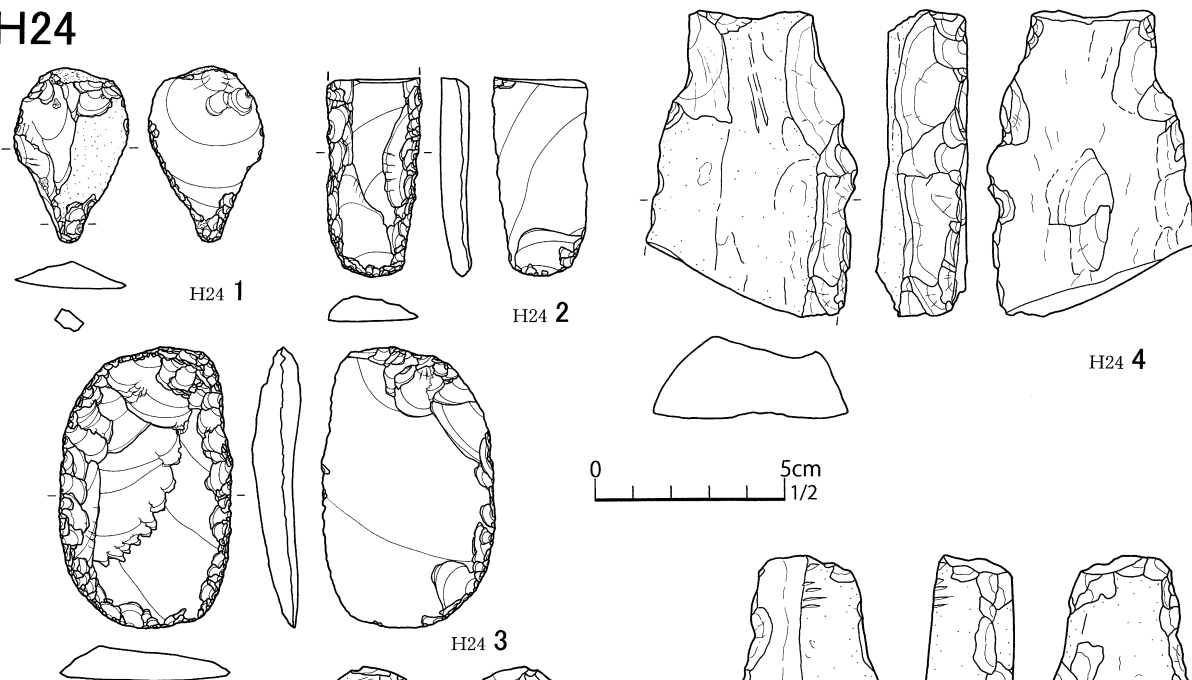
H26：1・2・4～7・9は床面からの出土、3はHP-16の覆土、8はHP-4の覆土からの出土である。

1は頁岩製石鏃である。尖基で先端を鋭角的に作り出す。2は頁岩製つまみ付きナイフである。正面右側縁に片面調整の刃部を作り出す。反対側面は礫面を残す。3は頁岩の石核である。4・5は緑色泥岩製の石斧である。4は片面のしのが顕著である。5は刃部が折損している。6は割れた安山岩礫片の頂部を打ち欠いて、下端両端を打ち欠いている。機能部が想定できる部分は未使用であるが、小型の扁平打製石器未成品の可能性もある。7は安山岩製の扁平打製石器である。残存する側縁がノッチ状に打ち欠かれる。機能部は平滑になるまで使い込まれている。8は砂岩のたたき石である。下端部に叩打痕がある。9は安山岩の石皿である。楕円形の凹み石が表裏面にある。両面とも滑らかなるまで使い込まれている。

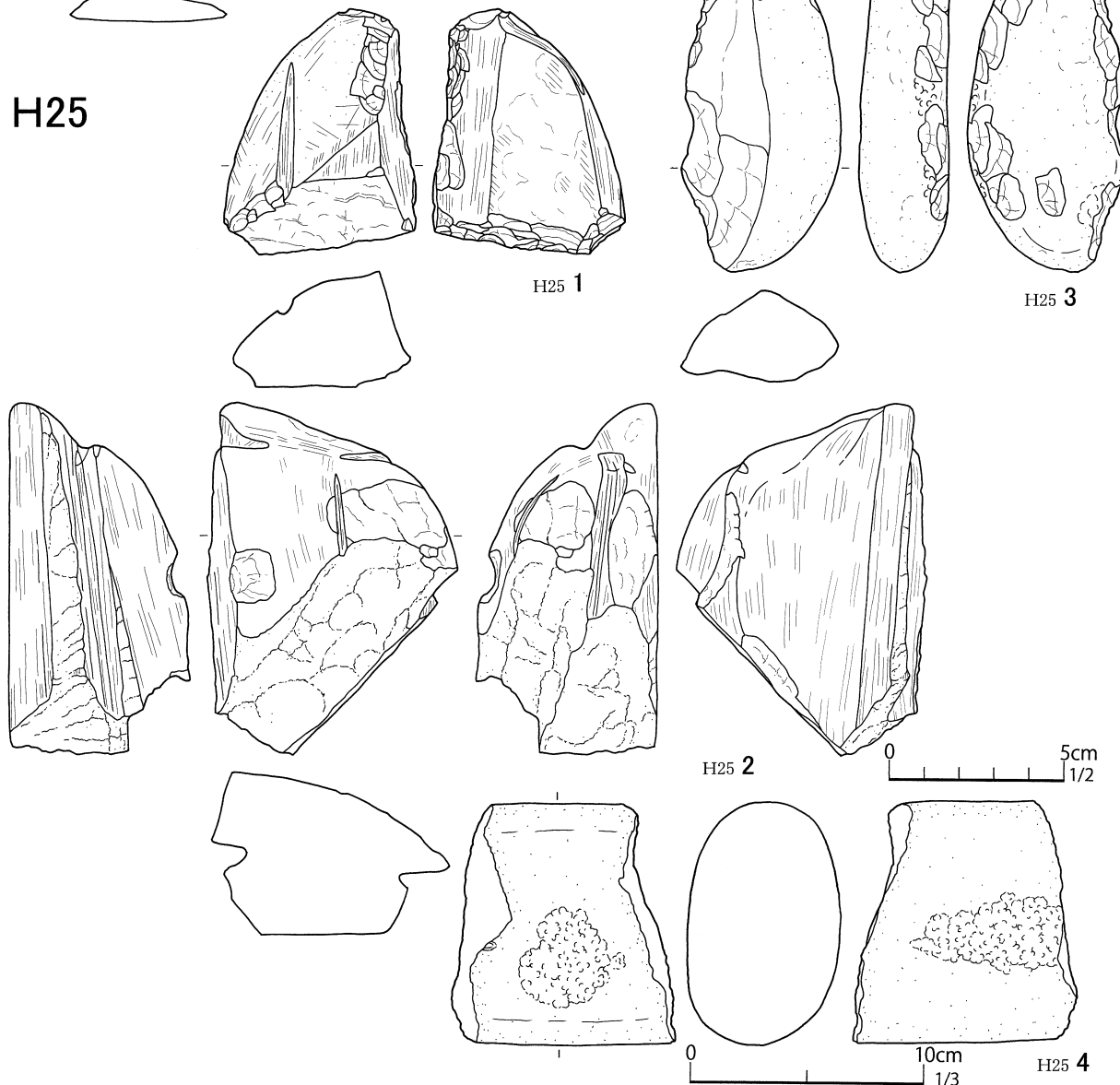
H27：1は覆土2層からの出土である。2・4・6～8は床面からの遺物出土である。3は周溝覆土からの出土である。5はHP-1覆土1層からの出土である。

1は安山岩の凹み石である。垂円礫に表裏対応する二対の凹みを主としてまばらな凹み部を持つ。2は頁岩製の石槍又はナイフである。鋭い先端部を持つが、凸基有茎だが、正面観は線対称ではない。3は頁岩製スクレイパーである。両側縁に片面調整の刃部を持つ。4は緑色泥岩製の石斧である。刃部は折損する。擦り切りと研磨によって成形された痕跡がある。5～7は扁平打製石器である。5・6は砂岩製。5は残存する側縁に両面からの調整が加わる。機能面は平滑になるまで使い込まれている。6は側縁に両面からの調整が加わる。上面は石鋸、仮面は密な叩打痕がある。7は安山岩の楕円礫の両端に両側からの調整が加わる。機能部は平滑になるまで使いこまれる。8は砂岩の台石である。両

H24

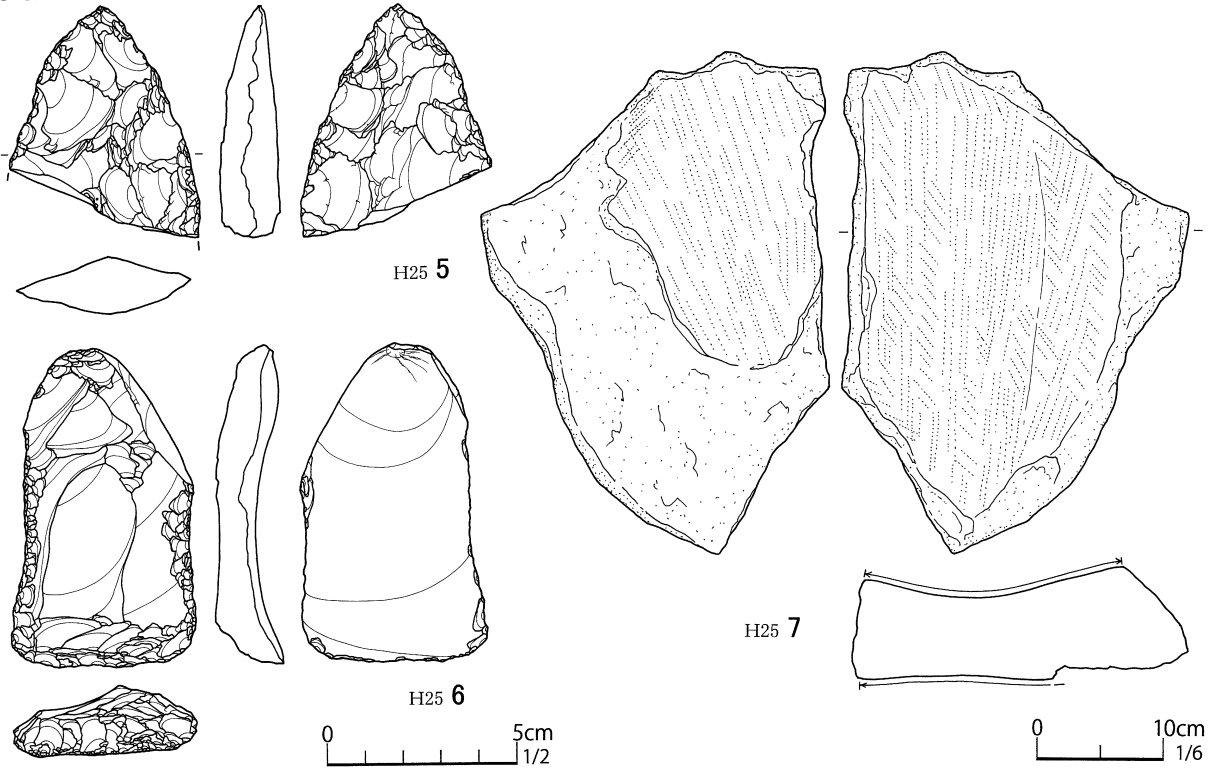


H25

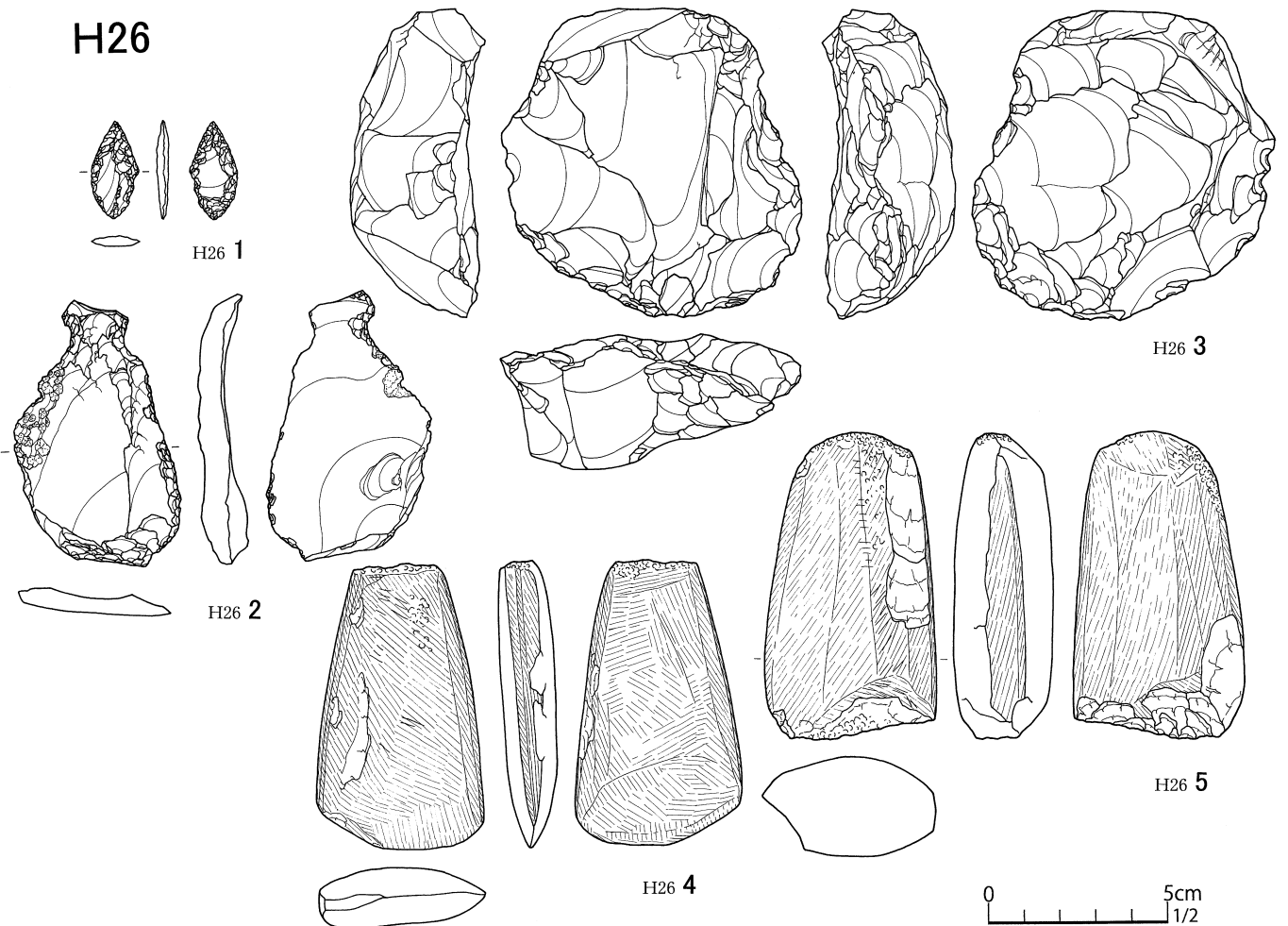


図Ⅲ-3-8 遺構出土石器 H24(1~4)・H25(1~4)

H25

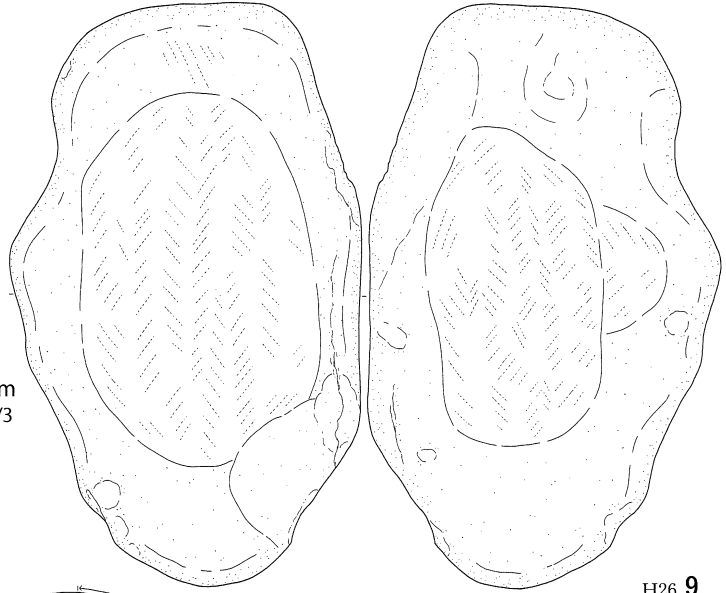
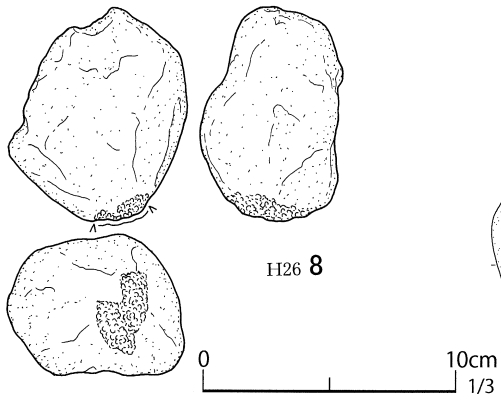
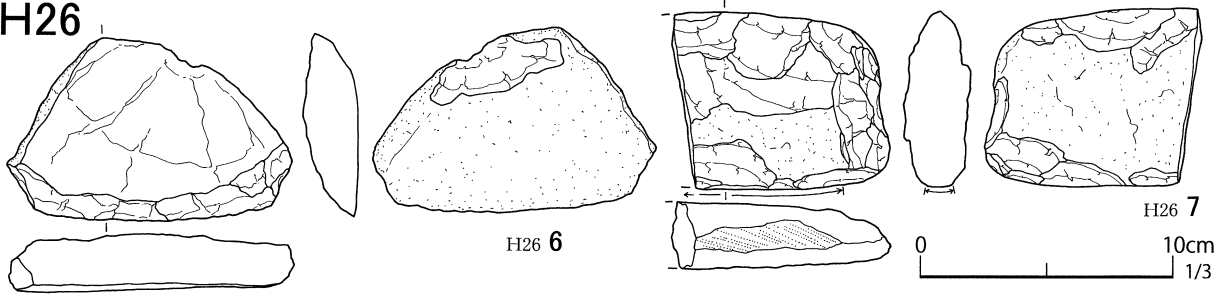


H26

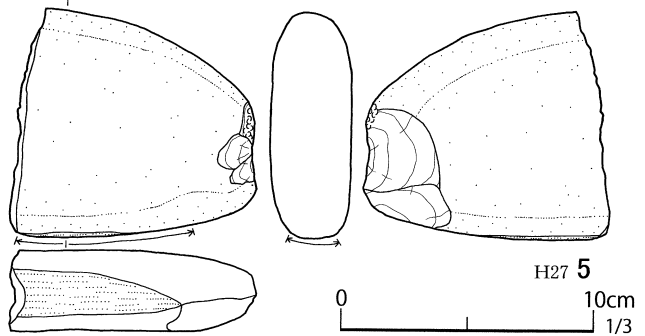
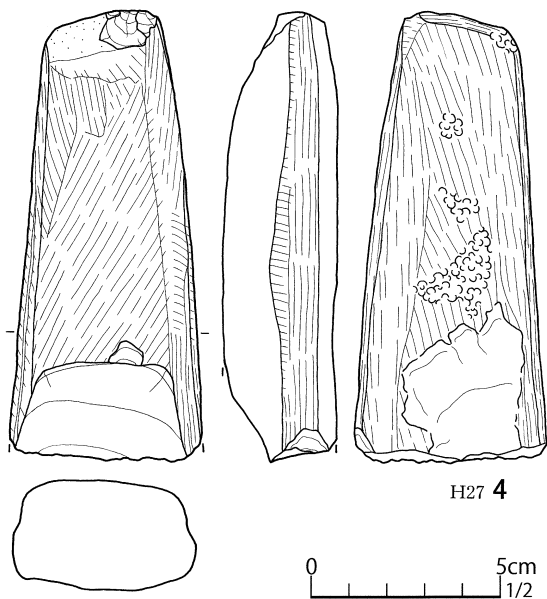
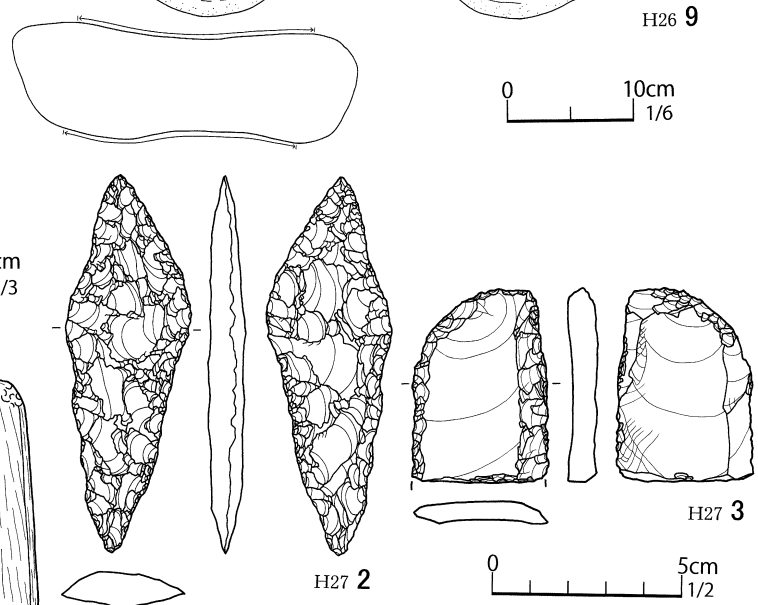
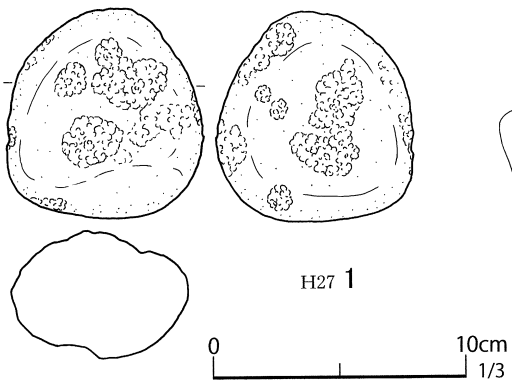


図III-3-9 遺構出土石器 H25(5~7)・H26(1~5)

H26

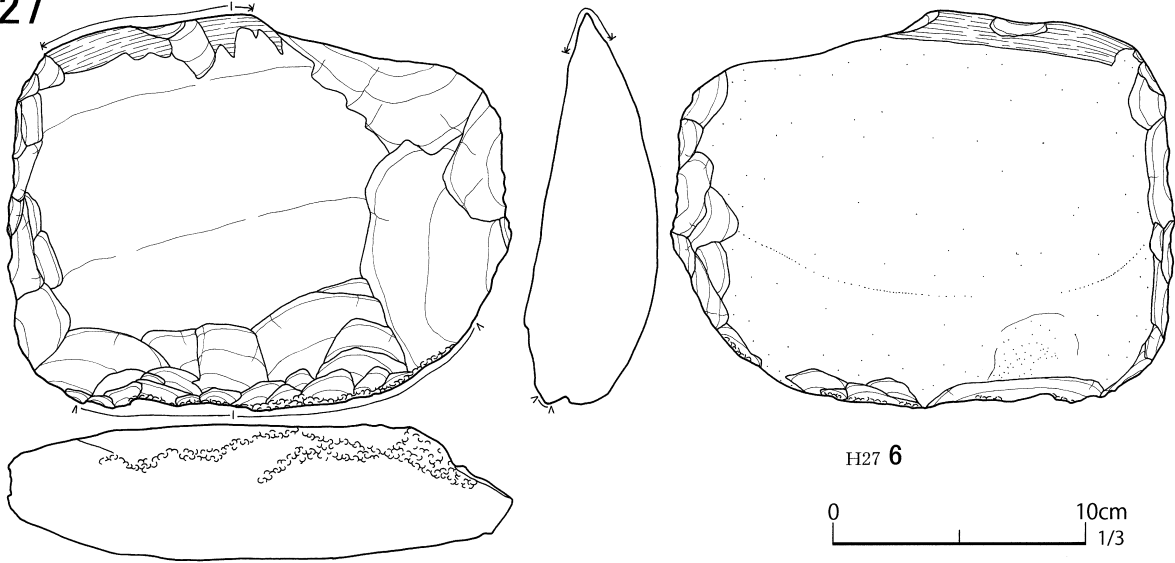


H27



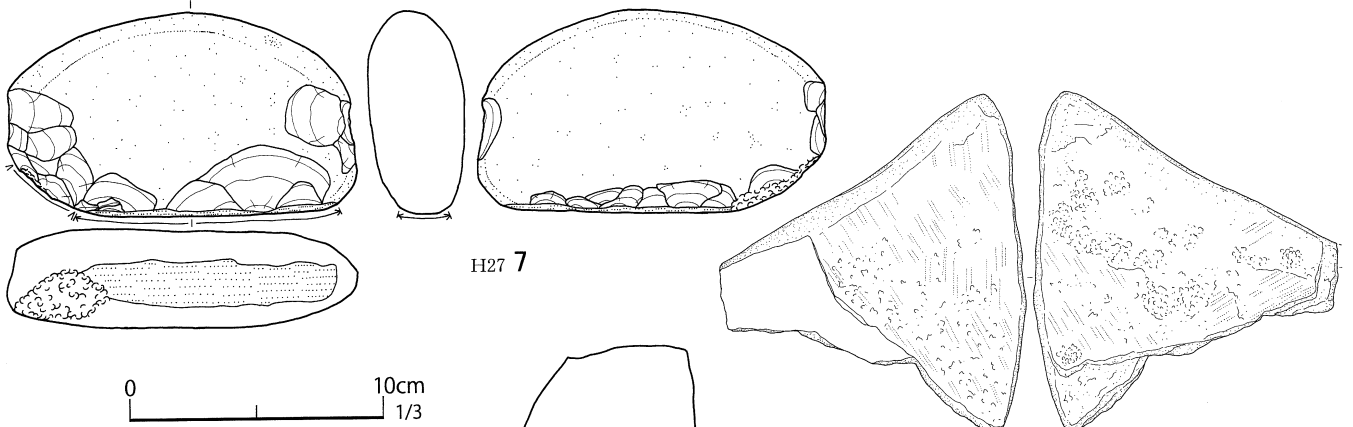
図Ⅲ-3-10 遺構出土石器 H26(6~9)・H27(1~5)

H27



H27 6

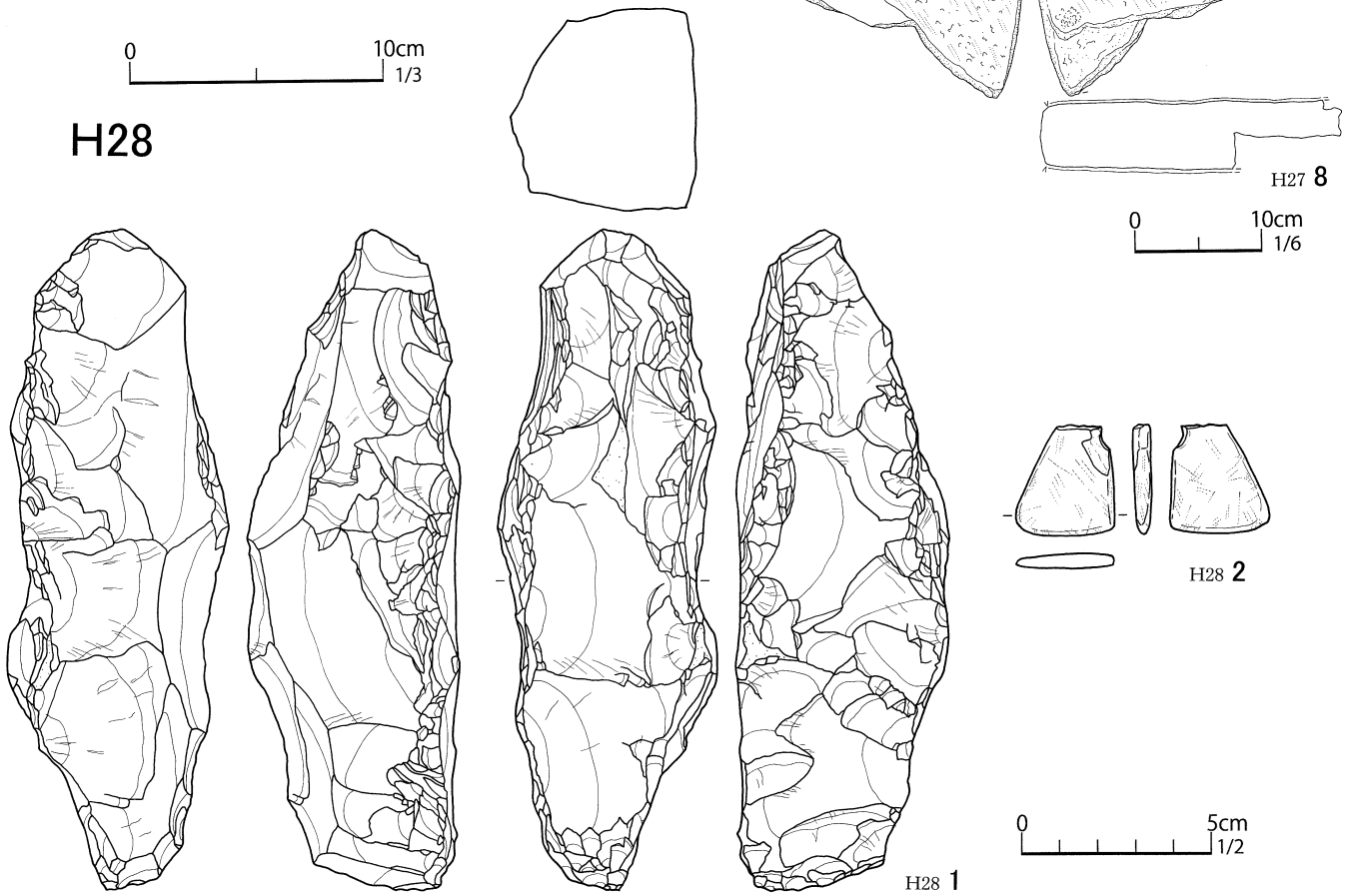
0 10cm 1/3



H27 7

0 10cm 1/3

H28



H27 8

0 10cm 1/6

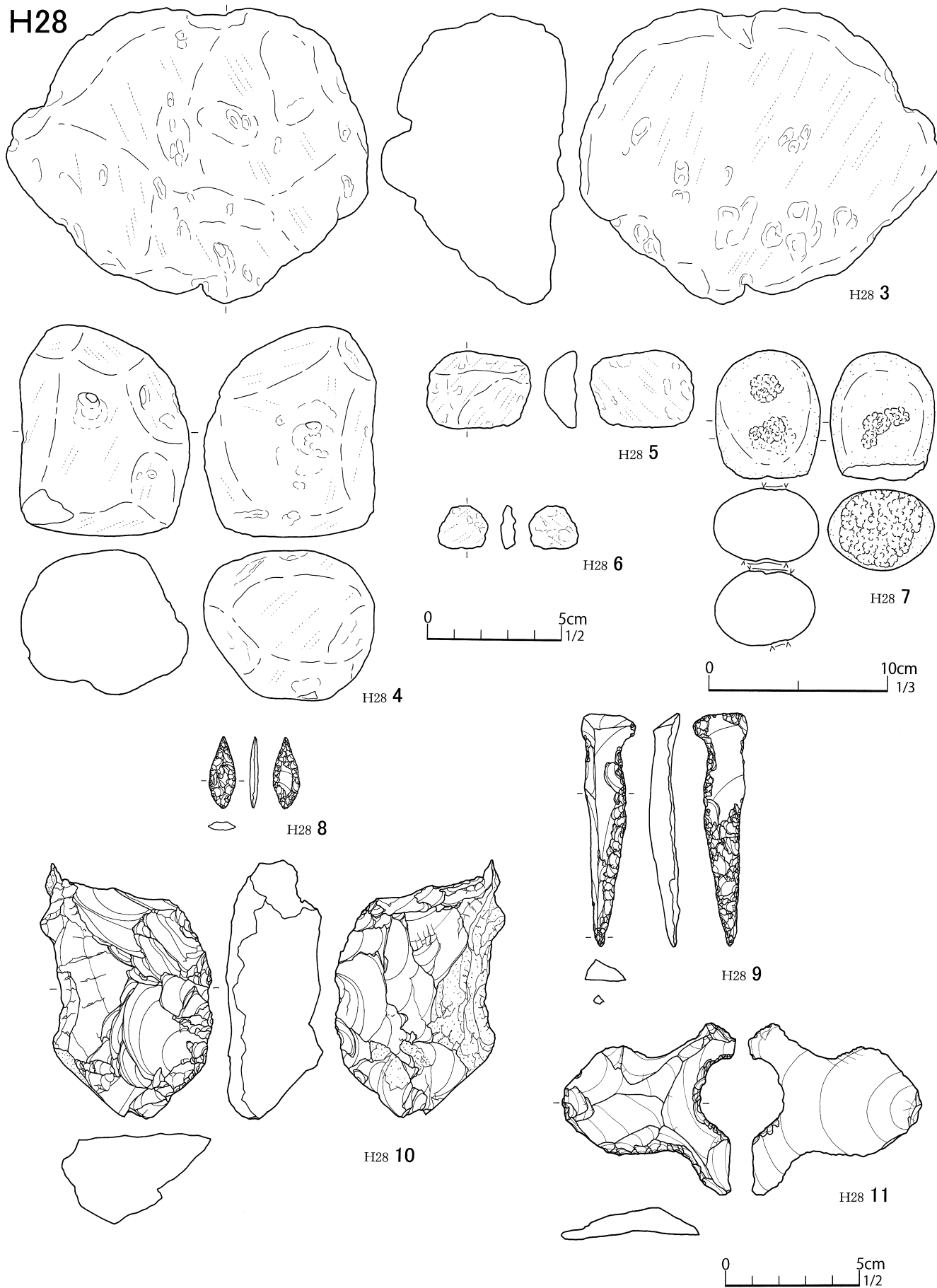
H28 2

H28 1

0 5cm 1/2

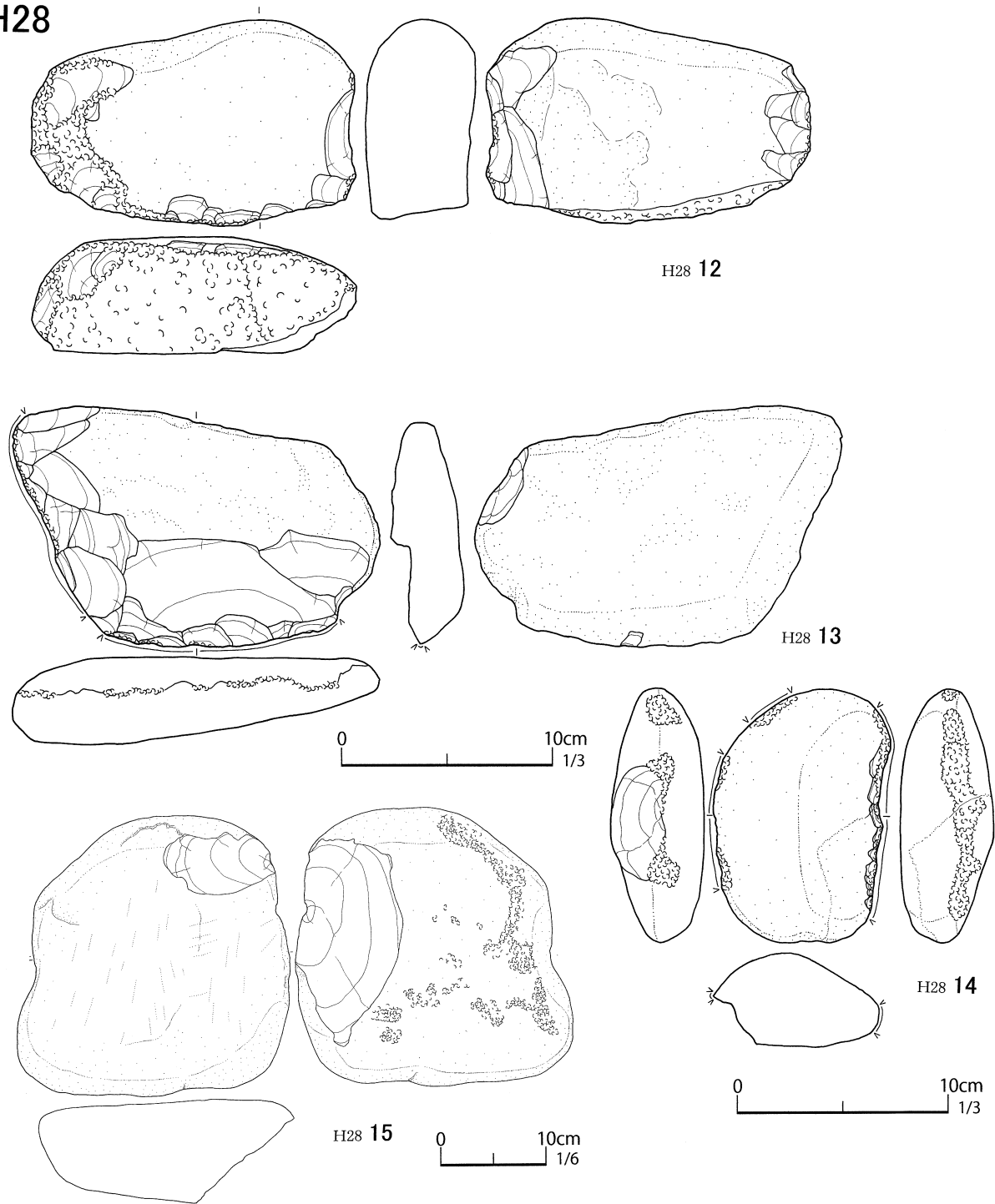
図III-3-11 遺構出土石器 H27(6~8)・H28(1・2)

H28



図Ⅲ-3-12 遺構出土石器 H28(3~11)

H28



図Ⅲ-3-13 遺構出土石器 H28(12~15)

面に叩打痕が残る。

H28：1～7は覆土から、2は覆土1層、1・4～6は覆土2層、3・7は覆土3層からの出土である。8～11・14は床面、12・13は周溝覆土、15はHP-16からの出土である。

1は頁岩の石核である。船底型を思わせる。全面に調整がおよぶ。2は滑石製塊状耳飾りである。三角形で溝部分から割れた片側である。3～6は軽石の一部ないしは全面に研磨を加えたものである。石製品とした。7は安山岩の凹み石で表裏対応する一対の凹みとそれに付随する数個の凹みからなる。

8は頁岩製石鏃である。尖基で先端を細長く作り出す。9は頁岩製のドリルである。つまみ付きナイフの下端に刺突部を作出したものである。10は両面調整石器である。頁岩の素材面を片側に残す。11は頁岩製の異形石器である。翼状の突起を二か所作出する。12～15はいずれも砂岩である。12は両側縁と底面の潰れ痕、叩き痕、そして全体の形状から、北海道式石冠の未成品と考える。13の正面観は機能部側がすぼまってみえるが機能部の形状等から扁平打製石器と考える。機能部は底面から側縁にかけて連続する。14はたたき石で長軸に平行する両側縁に叩打痕を持つ。15は台石としたが、使用痕が不明瞭である。

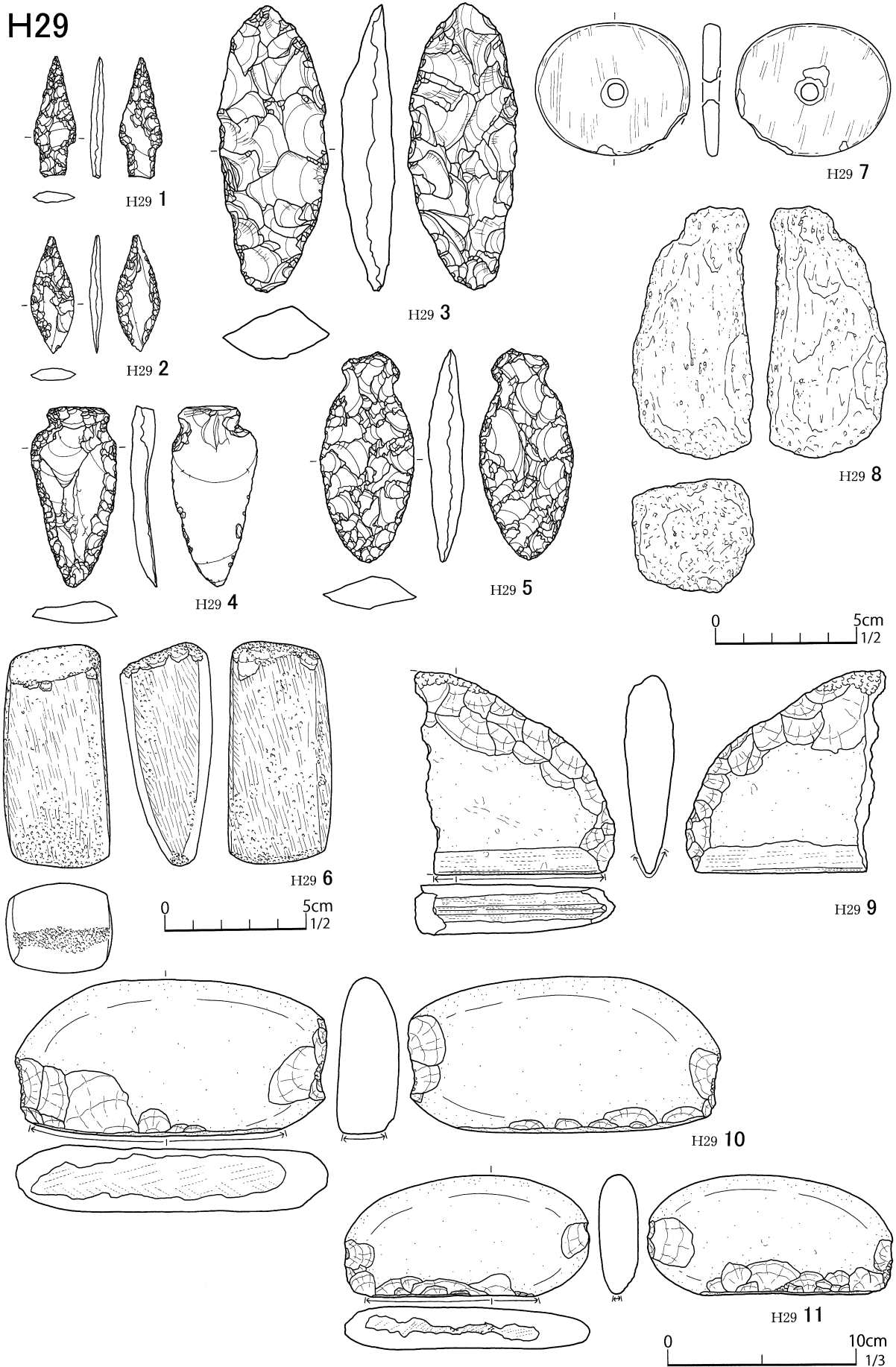
H29：1～8は覆土、9～11・14～16は床面出土である。12はHP-29、13はHP-21のそれぞれ覆土から出土した。

1・2は頁岩製の石鏃である。1は平基有茎、2は尖基で先端を細長く作出するもの。3は頁岩製の石槍又はナイフで、尖基本葉形で両面調整。先端は尖らない。4・5は頁岩製つまみ付きナイフ。4は幅広の装着部を持ち、5は線対称だが先端が丸みをおびるので石槍とはしなかった。6は緑色泥岩製の石斧である。基部は折れている。折損部と刃部先端はたたき痕跡によって潰れている。7は凝灰岩製の石製品である。楕円形の環状で中央に円形の穿孔を持つ。表裏面はよく磨かれている。8は軽石製の石製品である。上端の作出部分は浮子を思わせる。9は安山岩製で扁平打石器を石鋸に転用している。10・11は扁平打製石器で、両側縁端部に両面調整がある。10は砂岩、11は閃緑岩。12は頁岩製つまみ付きナイフ、片面調整が両側縁および端部に及ぶ。13・14は砂岩のたたき石で、いずれも一側縁が潰れている。14はその側縁から端部にかけて潰れている。15は凝灰岩の石皿である。表裏面に溝状の凹みが2条ずつある。凝灰岩は長期間埋没したことが影響したためか、もろく崩れやすくなっている。16は安山岩の石皿である。表裏面に皿状の凹みを持つ。裏面とした側の凹み中央部には叩打痕がある。

H30：1～8は床面出土である。1は頁岩製スクレイパーの刃部。一部調整が両面に及ぶ。つまみ付きナイフの端部の可能性がある。1・2は扁平打製石器である。安山岩製で両面調整が縁辺に及ぶ。3は砂岩製で両面調整が片側縁のみで、使用頻度がわずかなためか擦り面を形成するに及ばない。4・5・6はたたき石である。砂岩製で端部が潰れている。4・5は下端。6は上下端である。7は砂岩の台石である。表裏面に擦痕と叩打痕がある。8は安山岩の台石である。表面とした側の擦痕が顕著である。

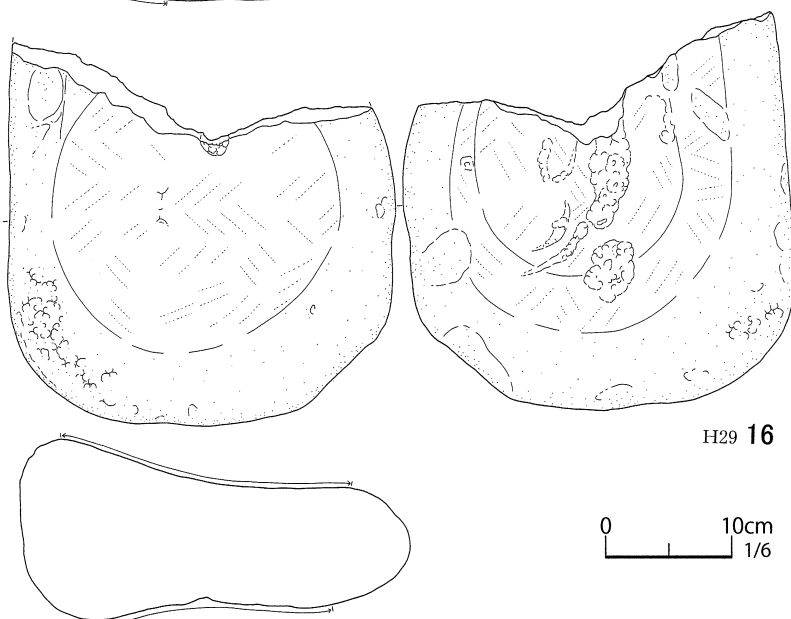
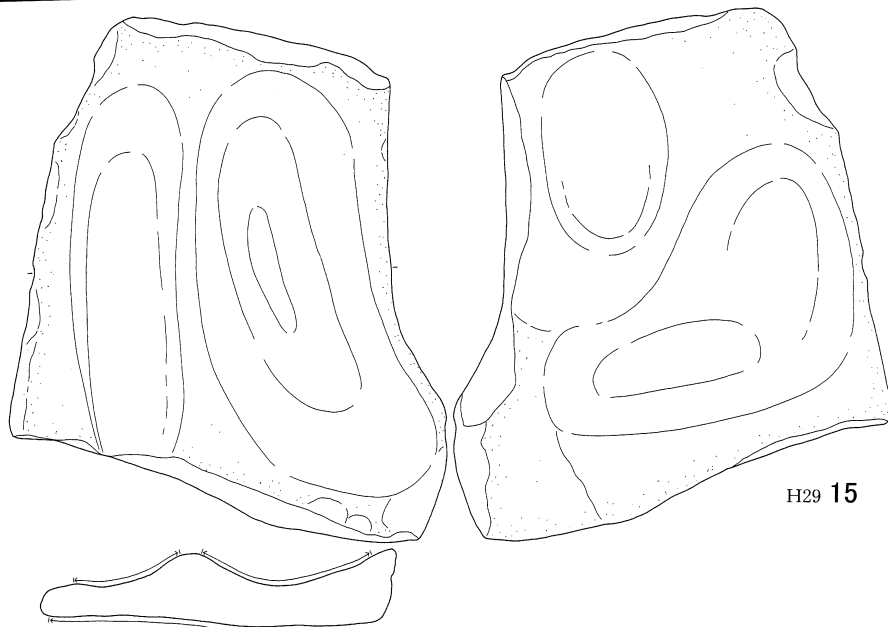
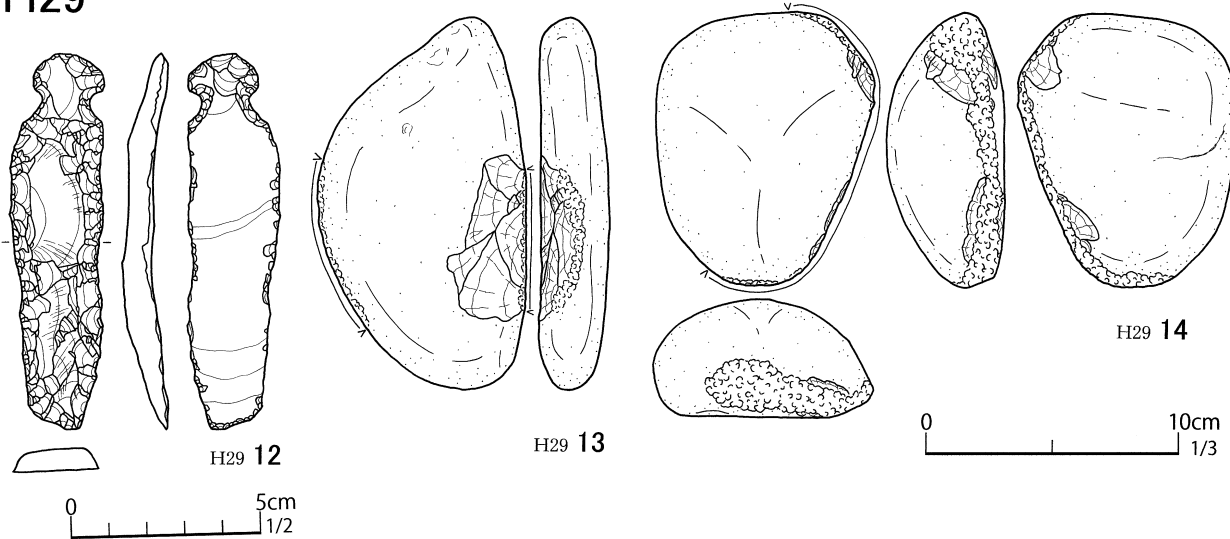
H31：1・2は覆土1層、3・4・8～10は床面から、5～7は周溝覆土から出土した。1は頁岩の両面調整石器である。線対称な形状で先端は丸みをおびる。船底型を思わせる形状である。2は頁岩製の凹み石である。四面を持つ棒状で、二面ずつ表裏対応する凹みとその他の凹みによって構成される。3は頁岩製スクレイパーである。両側縁に片面調整のノッチ状の刃部を持つ。4は片岩製の石槍又はナイフである。平基無茎で線対称の形状である。両面に打ち欠きによる調整を持つ。5は頁岩の石核である。打面調整と思われる痕跡を縁辺に複数個所持つ。6は閃緑岩製の扁平打製石器である。楕円礫の長軸両端を打ち欠く。機能部は叩打によるものか大きく打ち欠かれている。7は安山岩の北海道式石冠である。楕円礫を短軸で割って、叩打によって持ち手の溝を成形する。機能部には叩打痕のみ見受けられ、未成品か、未使用の可能性はある。8は砂岩の砥石である。皿状に凹んだ砥石面が両面にある。9・10は砂岩のたたき石である。端部や側縁に叩打痕がある。9は正面観にも叩打痕があり、台石的な使用法も想定できる。

H29

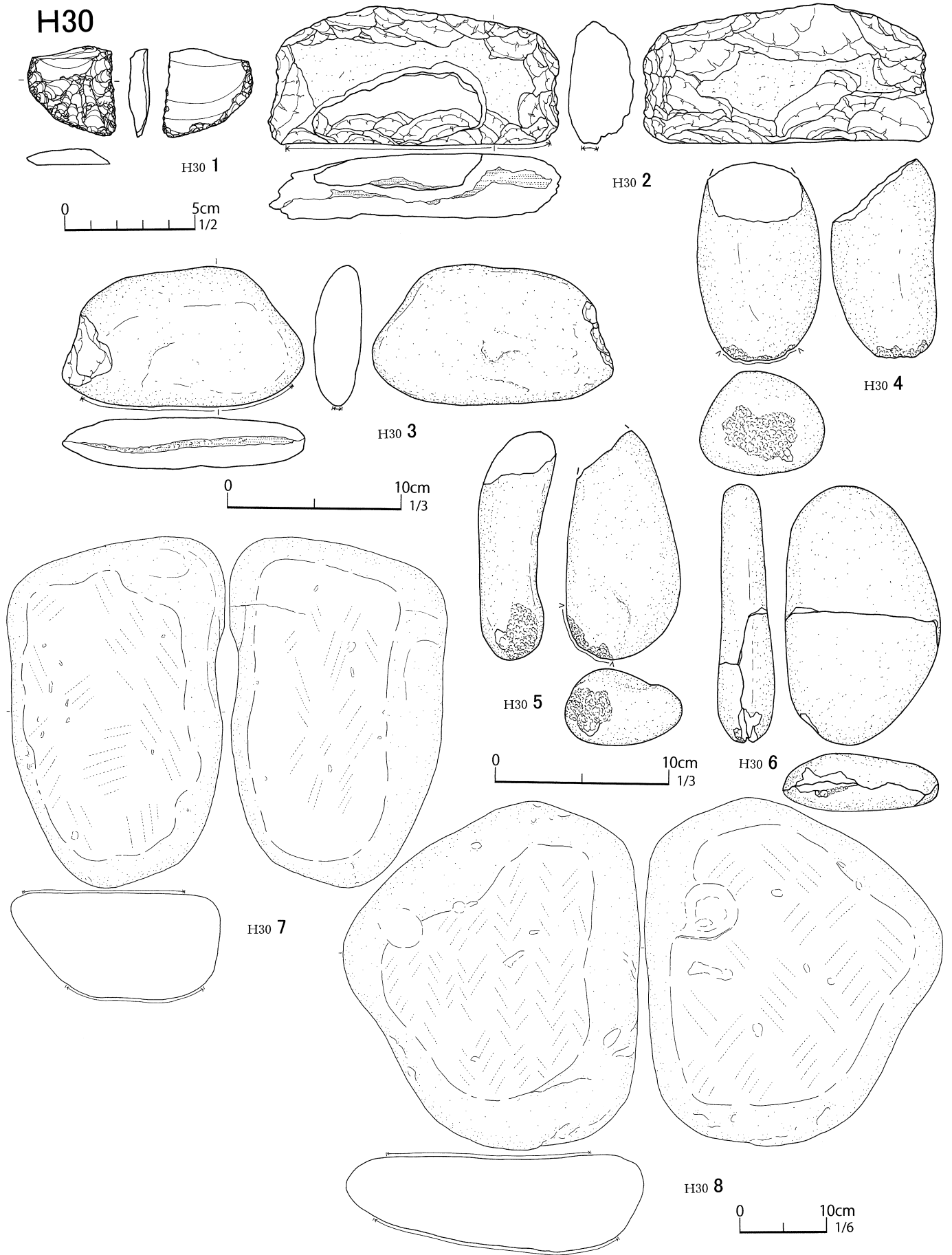


図III-3-14 遺構出土石器 H29(1~11)

H29

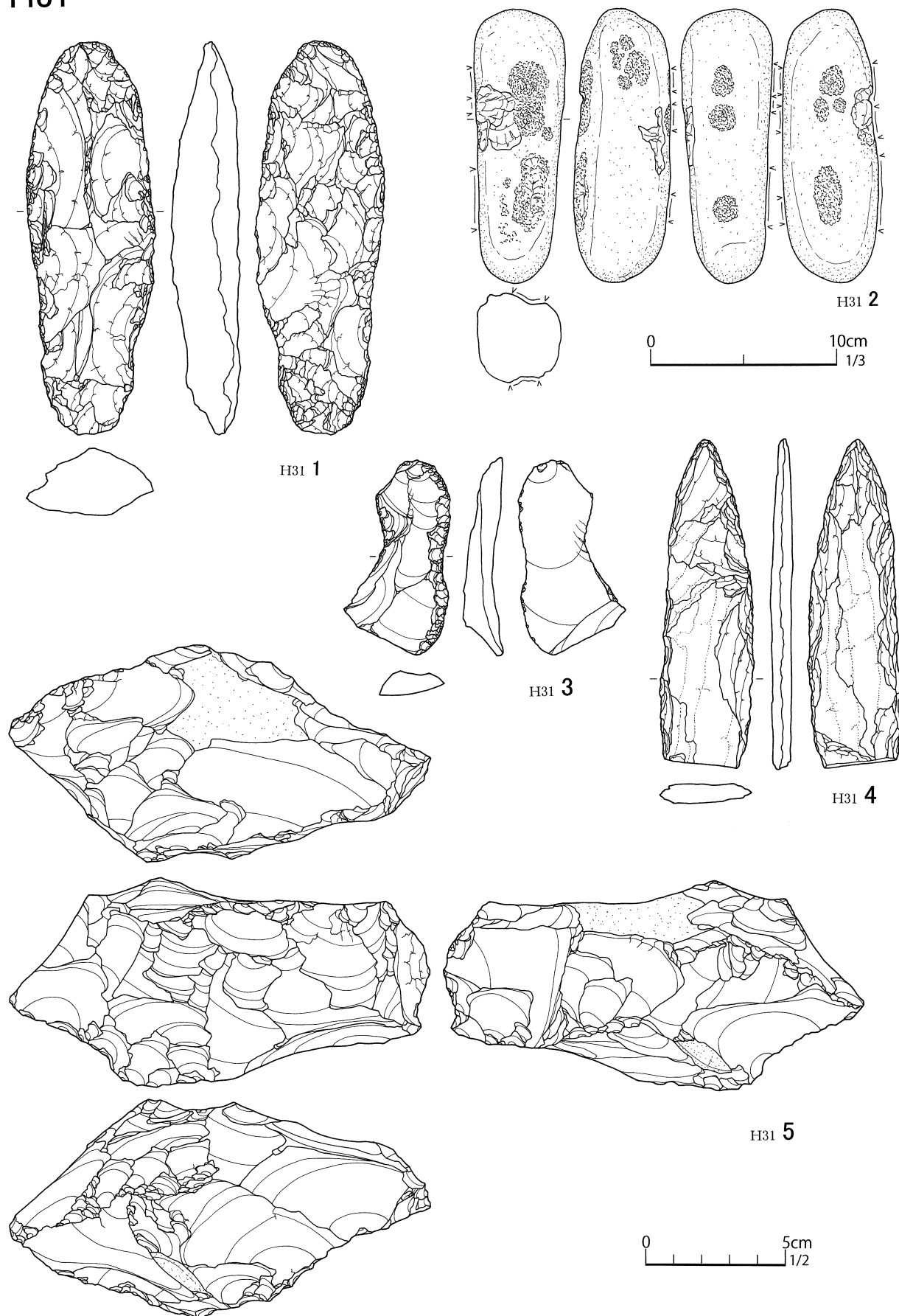


図Ⅲ-3-15 遺構出土石器 H29(12~16)



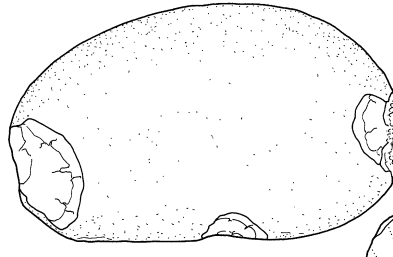
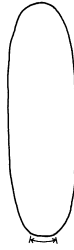
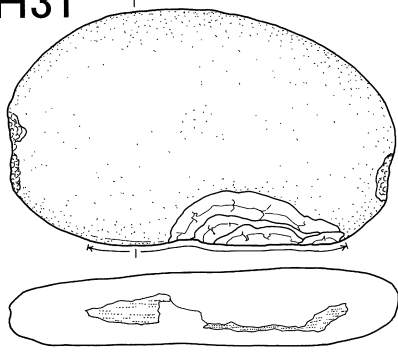
図Ⅲ-3-16 遺構出土石器 H30(1~8)

H31

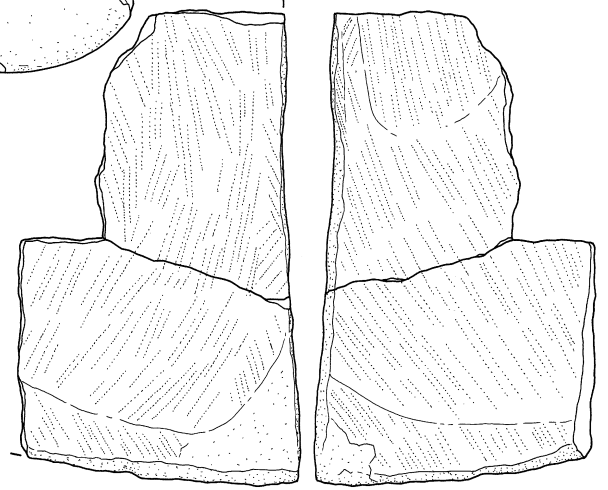
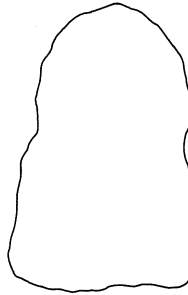
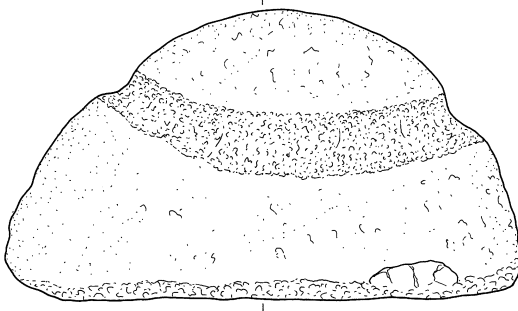


図Ⅲ-3-17 遺構出土石器 H31(1~5)

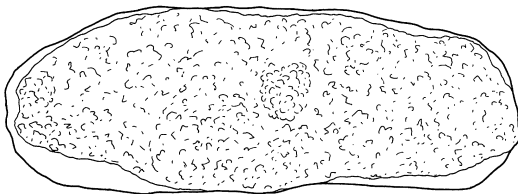
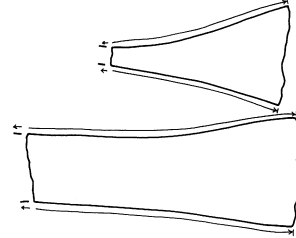
H31



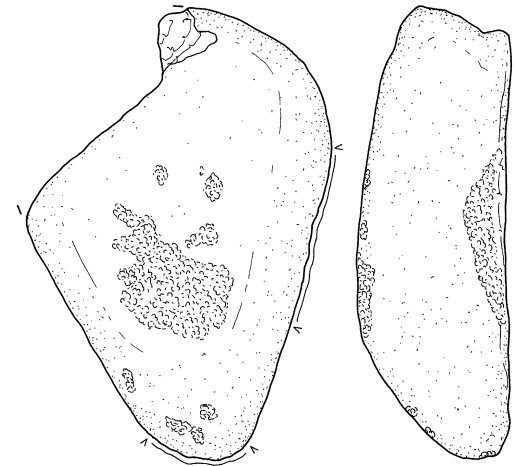
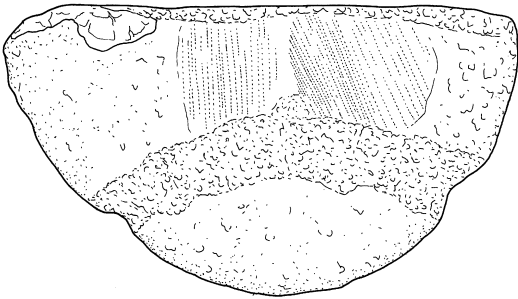
H31 6



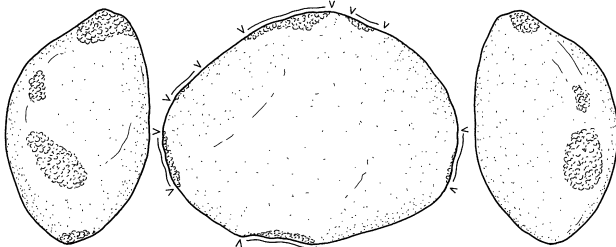
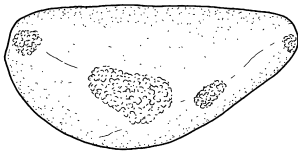
H31 8



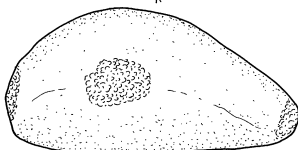
H31 7



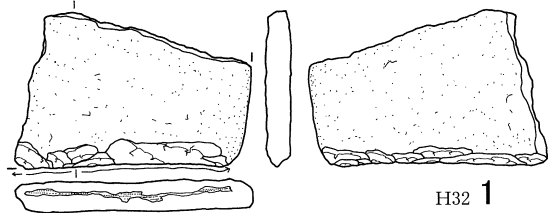
H31 9



H32



H31 10



H32 1

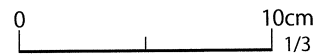
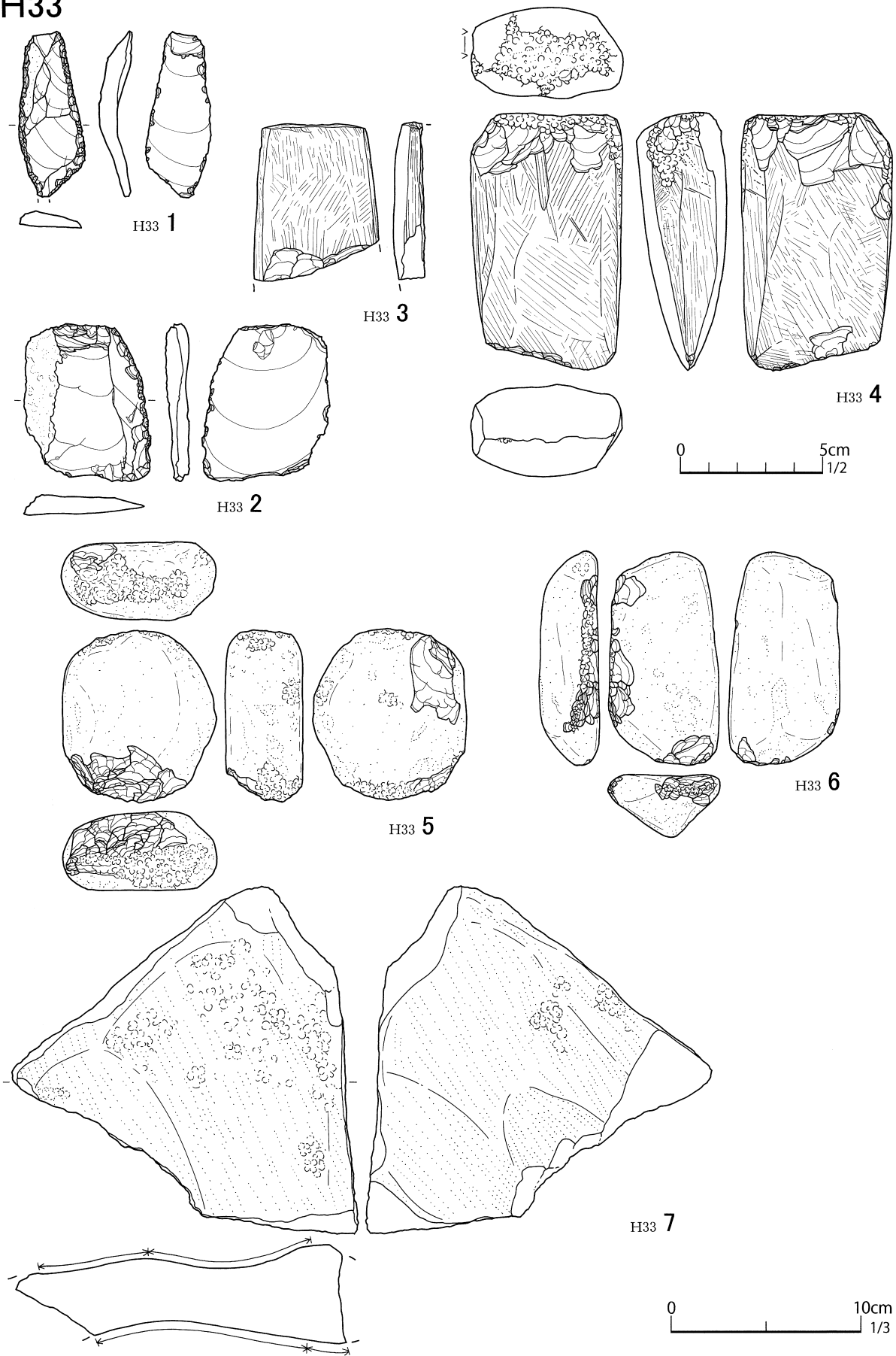


図 III-3-18 遺構出土石器 H31(6~10)・H32(1)

H33



図Ⅲ-3-19 遺構出土石器 H33(1~7)

H32：1は床面からの出土である。1は安山岩の扁平打製石器である。相対的、比較的厚さが薄い。

H33：4は覆土1層、他は床面からの出土である。1・2は頁岩製スクレイパー。1は周縁に浅い片面調整が巡る。2は片側縁に片面調整がある。3・4は緑色泥岩の石斧である。3は基部が割れた片面側。4は刃部破片。断面は叩き潰されている。5・6はたたき石。5はメノウで、両端が潰れている。6は砂岩で下端と片側側縁が潰れている。7は砂岩の砥石で、凹み面が両面にある。石皿片の可能性もある。

H34：1～6は覆土出土のものである。特に1・4・6は覆土4層からの出土である。1は頁岩製石鏃である。尖基で先端を細く作り出したものである。小型である。2・3は頁岩製の両面調整石器である。先端は丸く、全体の形状は靴ペラのように湾曲する。4は頁岩製のスクレイパーである。片側の側縁に片面調整の刃部がおよぶ。5は安山岩製の北海道式石冠ないしは扁平打製石器である。両側縁にのみ成形がある。底面には微妙な叩打痕があるが明瞭な使用痕はない。正面裏面にも微妙な叩打痕がある。調整が側縁のみのため厚みのある扁平打製石器とした。

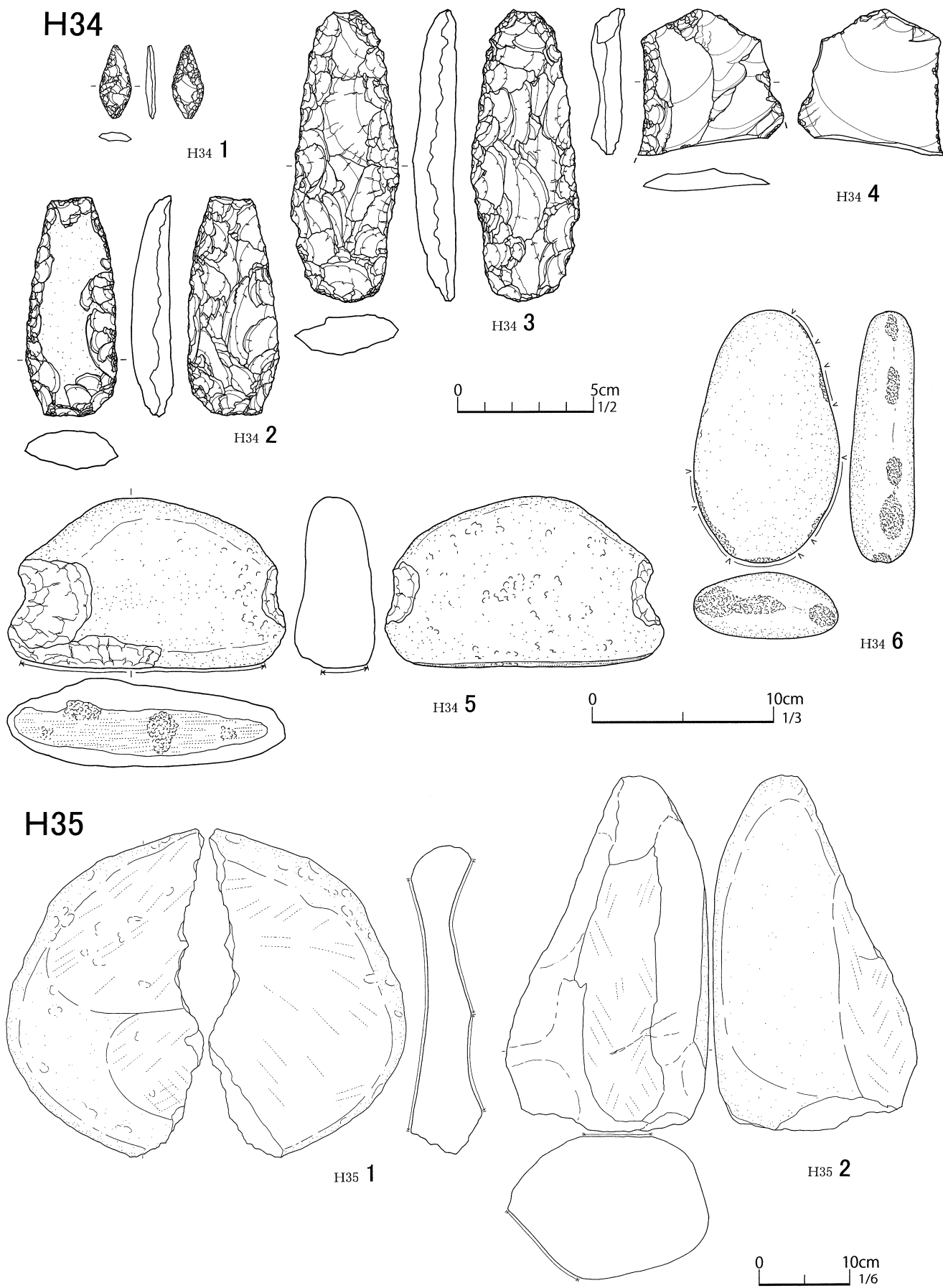
H35：1～3は覆土1層下位からの出土である。1は安山岩の石皿である。残存部の表面には皿状の凹みがあり、滑らかになるまで使い込まれている。裏面には楕円形の溝状をした凹みが2条ある。2は砂岩の石皿である。割れており、もとの形状は留めていない。擦痕があり、皿状の機能部を想定できたので石皿としたが、台石の可能性もある。3は安山岩の台石である。叩打痕と擦痕がある。

H36：1～3は覆土からの出土である。3は覆土4層のものである。

1は頁岩製石槍又はナイフである。基部先端に小型のつまみが付く。2は緑色泥岩製の石斧である。基部片と考える。研磨部分には焼けて黒色化した油分が付着している。3は安山岩の石皿片である。擦痕と叩打痕が顕著である。

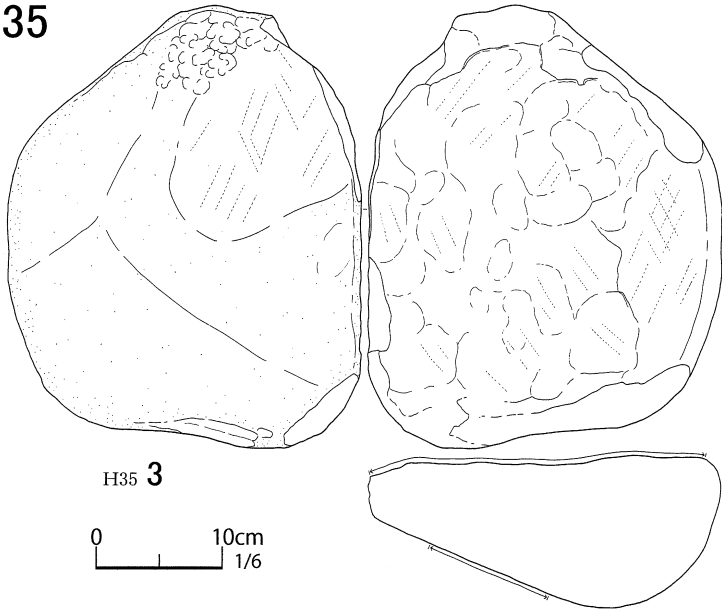
H37：1～3・10は覆土出土である。1・2は覆土1層3・10は覆土2層である。4・7・12～14は周溝覆土1層、5・6・8・9・11は床面出土である。1は頁岩製ドリルである。石鏃未成品からの転用なのか線対称である。平基無茎だが石鏃にしては全体に湾曲している。2は砂岩の砥石である。凹み面が表裏にある。石皿片の可能性もある。3は頁岩の凹み石である。表裏に凹みが対応する。4は頁岩製石鏃である。先端、基部ともに折損する。残存部から尖基で先を細く作り出しているものの可能性がある。5は頁岩製のドリルである。縁辺を深い剥離で調整する。6・7は頁岩製のスクレイパーである。6は片方の側縁に浅い剥離が巡る。7は端部に急角度の刃部が巡る。8は頁岩の両面調整石器である。9は頁岩の両面調整石器片である。10は安山岩の扁平打製石器である。比較的厚みがあるが、小型である。11は凝灰岩製の扁平打製石器である。側縁は素材の礫の形状を生かす。上端に一部調整がある。12・13・14は砂岩のたたき石である。垂円礫の端部に叩打痕を持つ。

H38：1・2は床面、3～5は覆土出土である。1は北海道式石冠である。閃緑岩の楕円礫を割って機能面および持ち手部分の溝を成形する。機能部は平滑になるまで使い込まれている。2は頁岩製の石鏃である。基部のみ残存する。その形状から尖基で先を細く尖らせたタイプの石鏃という可能性がある。3は頁岩製のドリルである。つまみが付き、線対称の形状である。4は砂岩の石鋸である。大型の円礫を打ち欠いた破片を利用している。5は安山岩の石皿片である。凹み面が表裏にあり、対応する。



図Ⅲ-3-20 遺構出土石器 H34(1~6)・H35(1・2)

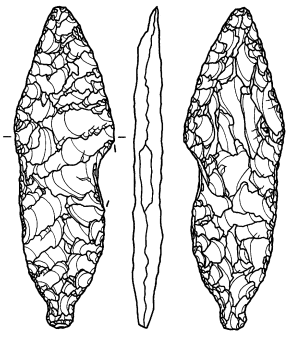
H35



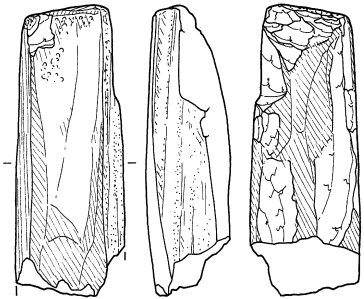
H35 3

0 10cm
1/6

H36



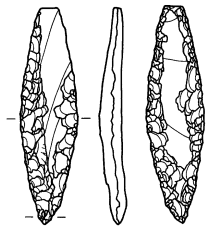
H36 1



H36 2

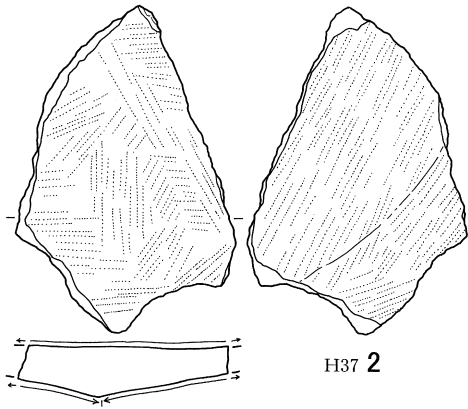
0 5cm
1/2

H37

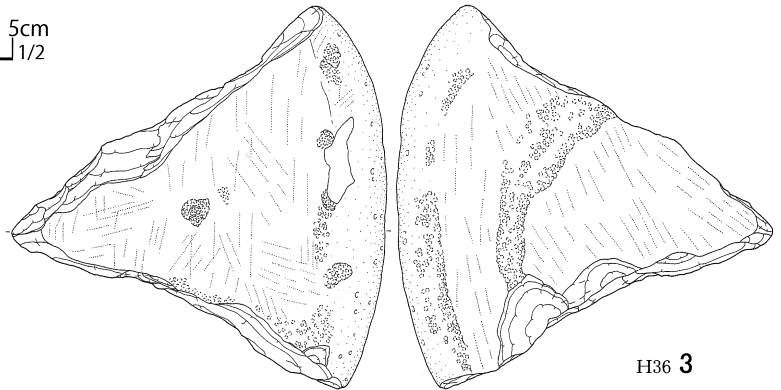


H37 1

0 5cm
1/2

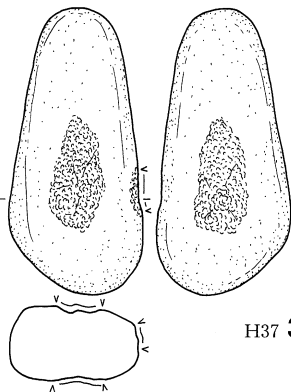


H37 2



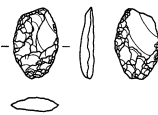
H36 3

0 10cm
1/6

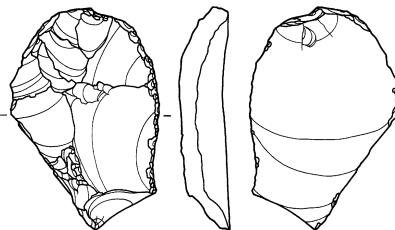


H37 3

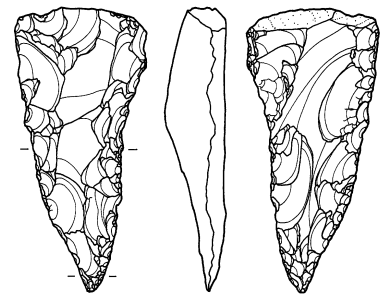
0 10cm
1/3



H37 4



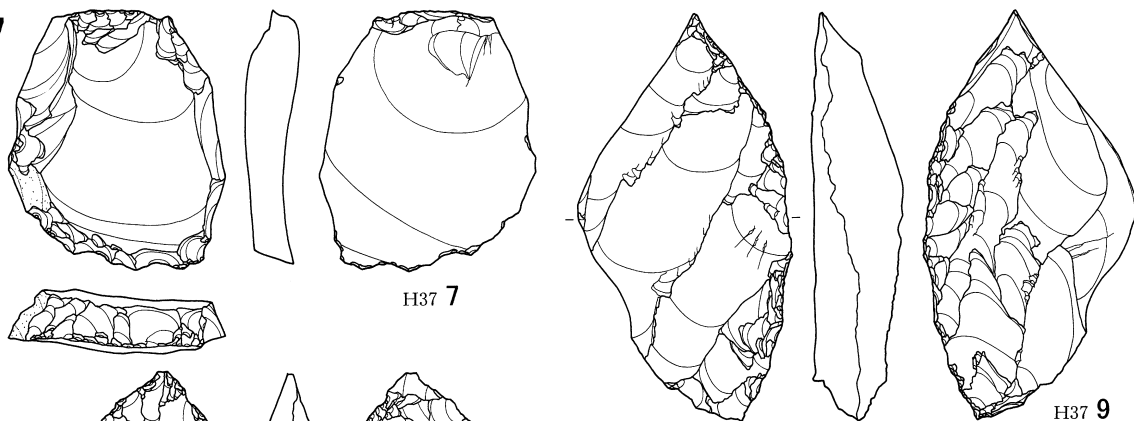
H37 6



H37 5

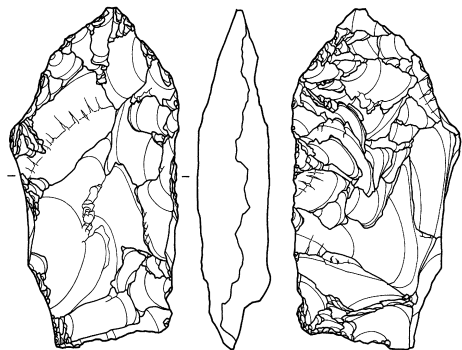
図 III-3-21 遺構出土石器 H35(3)・H36(1~3)・H37(1~6)

H37



H37 7

H37 9



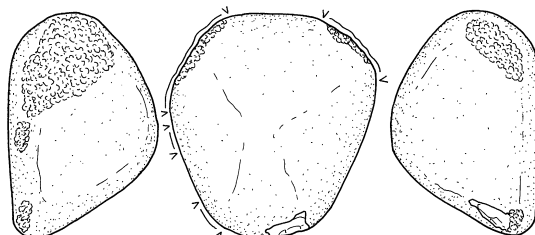
H37 8

H37 10

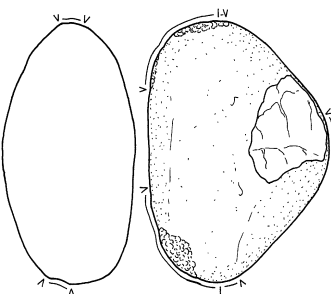
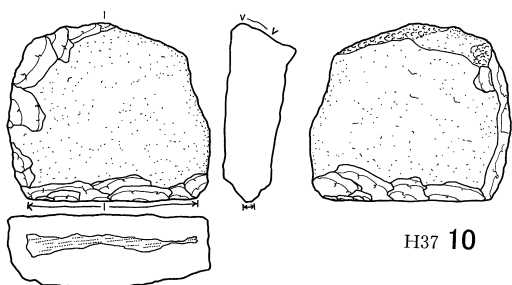


0 5cm
1/2

0 5cm
1/2

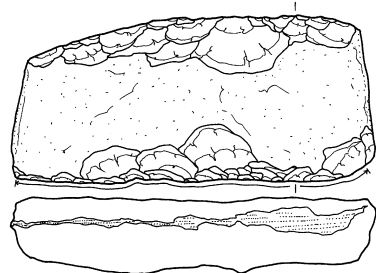


H37 12

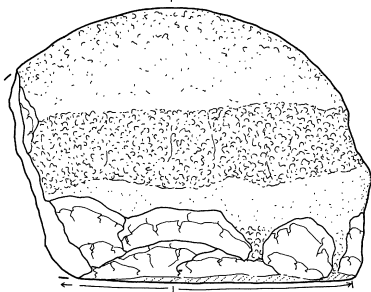


H37 13

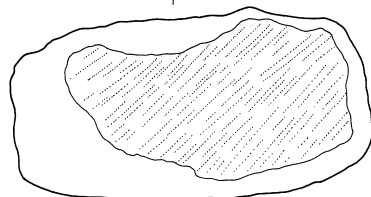
H37 14



H38

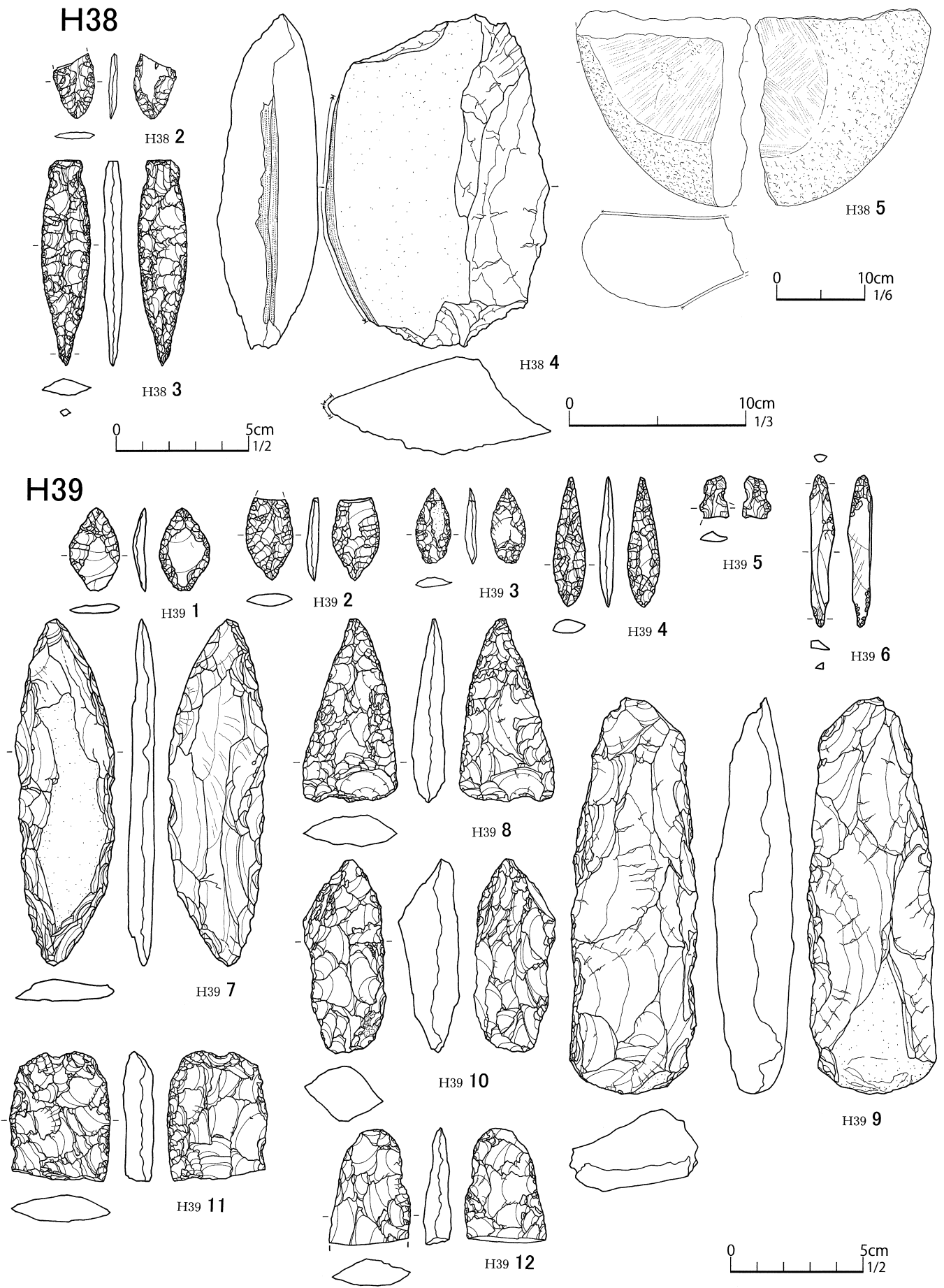


H38 1



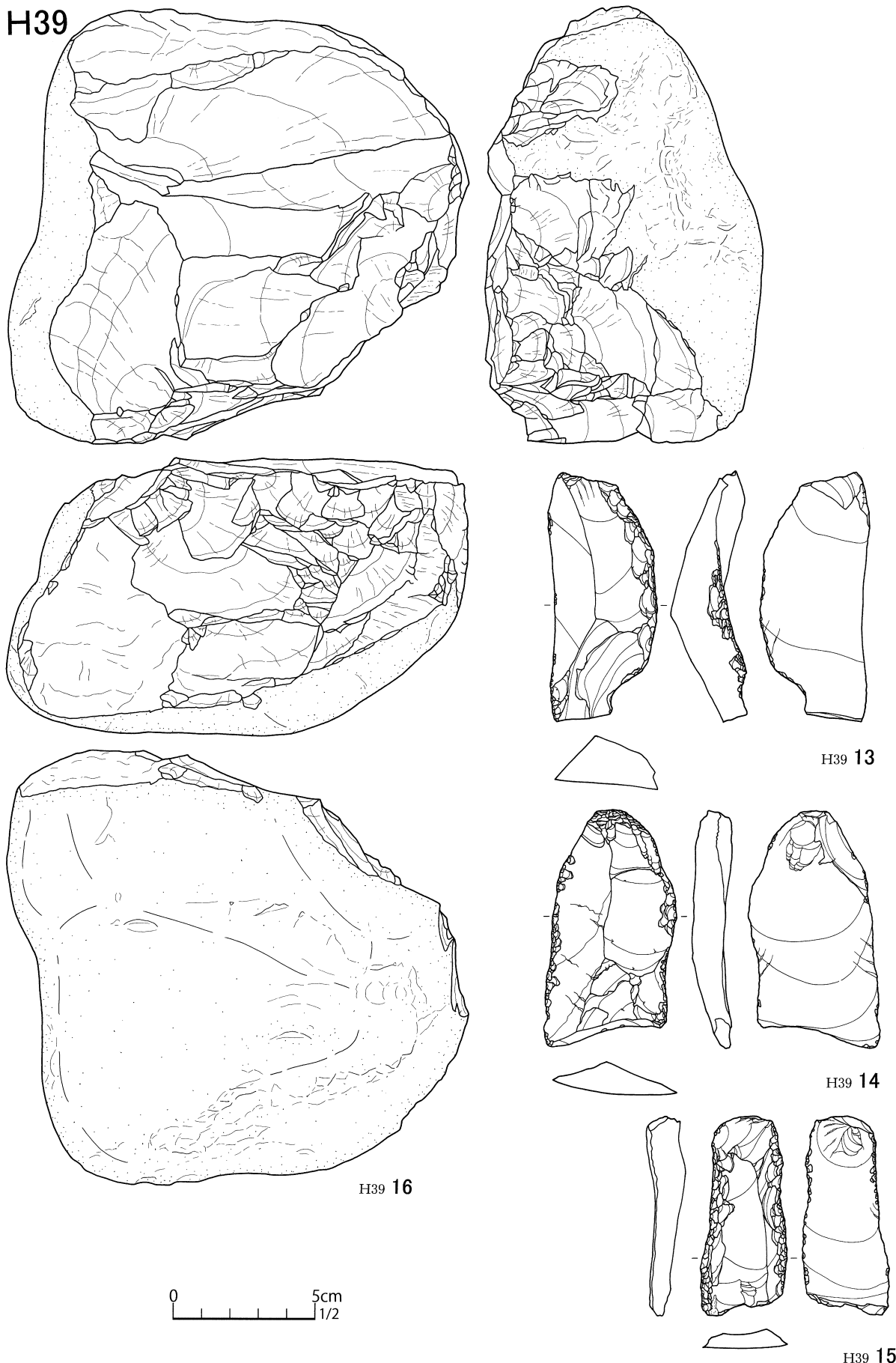
0 10cm
1/3

図Ⅲ-3-22 遺構出土石器 H37(7~14)・H38(1)



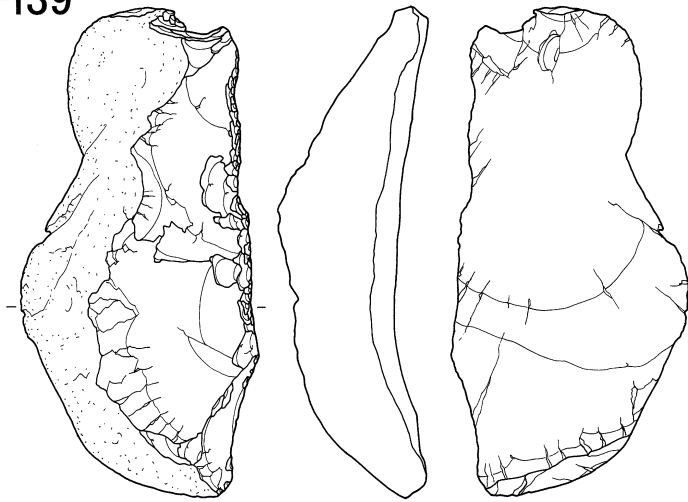
図Ⅲ-3-23 遺構出土石器 H38(2~5)・H39(1~12)

H39

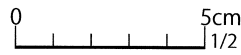


図Ⅲ-3-24 遺構出土石器 H39(13~16)

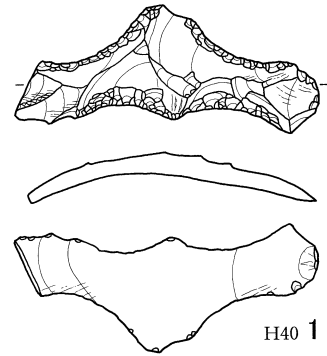
H39



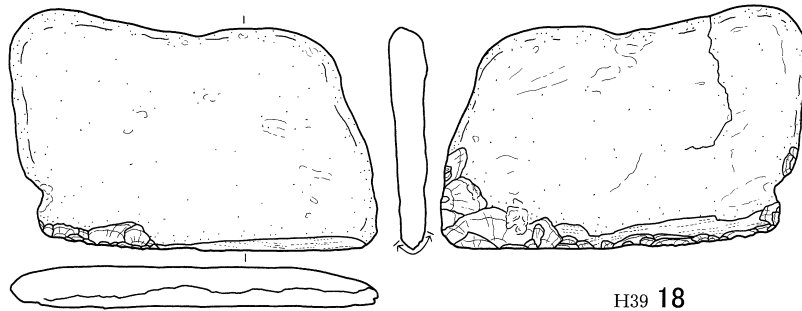
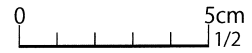
H39 17



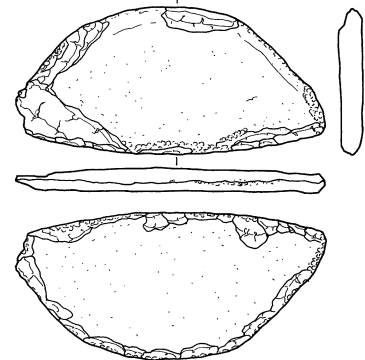
H40



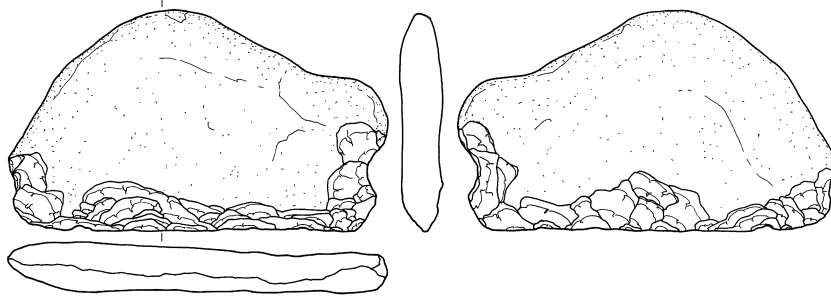
H40 1



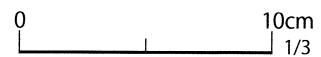
H39 18



H39 20



H39 19



図Ⅲ-3-25 遺構出土石器 H39(17~20)・H40(1)

点取りNo.2である。

H39：1は床面、3～20は覆土からの出土である。1～4は頁岩製の石鏃である。1は成形が全面におよんでいないことから未成品の可能性がある。2の先端が折損しているものの、いずれも尖基で先端を細く作り出す形状のものに近い。5は黒曜石製のつまみ付きナイフ等のつまみ部分である。小型であることから石鏃の可能性がある。6は頁岩製のドリルである。棒状の素材の両端に鏃を作出する。7・8は石槍又はナイフである。7は片岩製で両面打ち欠きによって成形される。尖基で木葉形で

3 遺構出土の石器・石製品

ある。8は平基無茎で三角形をしている。頁岩で調整が両面全面におよぶ。9は頁岩の両面調整石器である。裏面下端に礫面を残すがほぼ両面全面に調整がおよぶ。打製石斧を思わせる形状だが下端両面にそれらしい使用痕はない。10～15は頁岩製のスクレイパーである。覆土南側から出土した。10～12は両面全面調整のものである。10は比較的厚みがある。11・12は折損している。13～15は片面調整である。13は一側縁に、14・15は両側縁に刃部を成形する。15は両側縁がおよそ平行な素材に、急角度の刃部を成形する。16は頁岩の石核である。大きく礫部分を残す。17は頁岩のスクレイパーである。礫面を残す厚めの素材の一側縁に刃部を成形する。18は安山岩製の扁平打製石器を石鋸に転用したものと考えられる。19は安山岩の扁平打製石器である。両側縁はノッチ状に打ち欠いて成形する。20は粘板岩製の扁平打製石器である。素材のもとの形状を生かして、半円形の形状に全体を成形し、機能部は直線的である。

H40：1は覆土からの出土である。1は頁岩製の異形石器である。つまみ様の張り出し部が二か所線対称に展開する。

H41：1～5は覆土出土、6・7は床面からの出土である。1・2は頁岩製スクレイパーである。1は両側縁に急角度の刃部を持つ。2は一側縁に片面調整の刃部を持つ。3は黒曜石のつまみ付きナイフのつまみ部分である。明瞭な刃部はないが、刃部に相当する部分に潰れ痕がある。4・5は同じ場所から出土した石核である。6は頁岩製の両面調整石器である。肉厚の大型尖頭器が折損したかのような形状である。7は安山岩製の石皿片である。表裏に皿面があり、被熱する。

H43：1～3は床面出土である。1は頁岩製のドリルである。つまみを持ち、線対称な形状である。2は珪岩製のスクレイパーである。一側縁に剥離が並び、鈍い刃部を持つ。3は頁岩の石核である。

H44：1～3は床面出土である。1は頁岩製の石槍又はナイフである。両方の先端が折損している。全面に調整が及ぶ。2は頁岩の石核である。3は砂岩製の扁平打製石器である。楕円礫の両端に打ち欠きがある。素材が肉厚なため幅広い機能面を持つ。

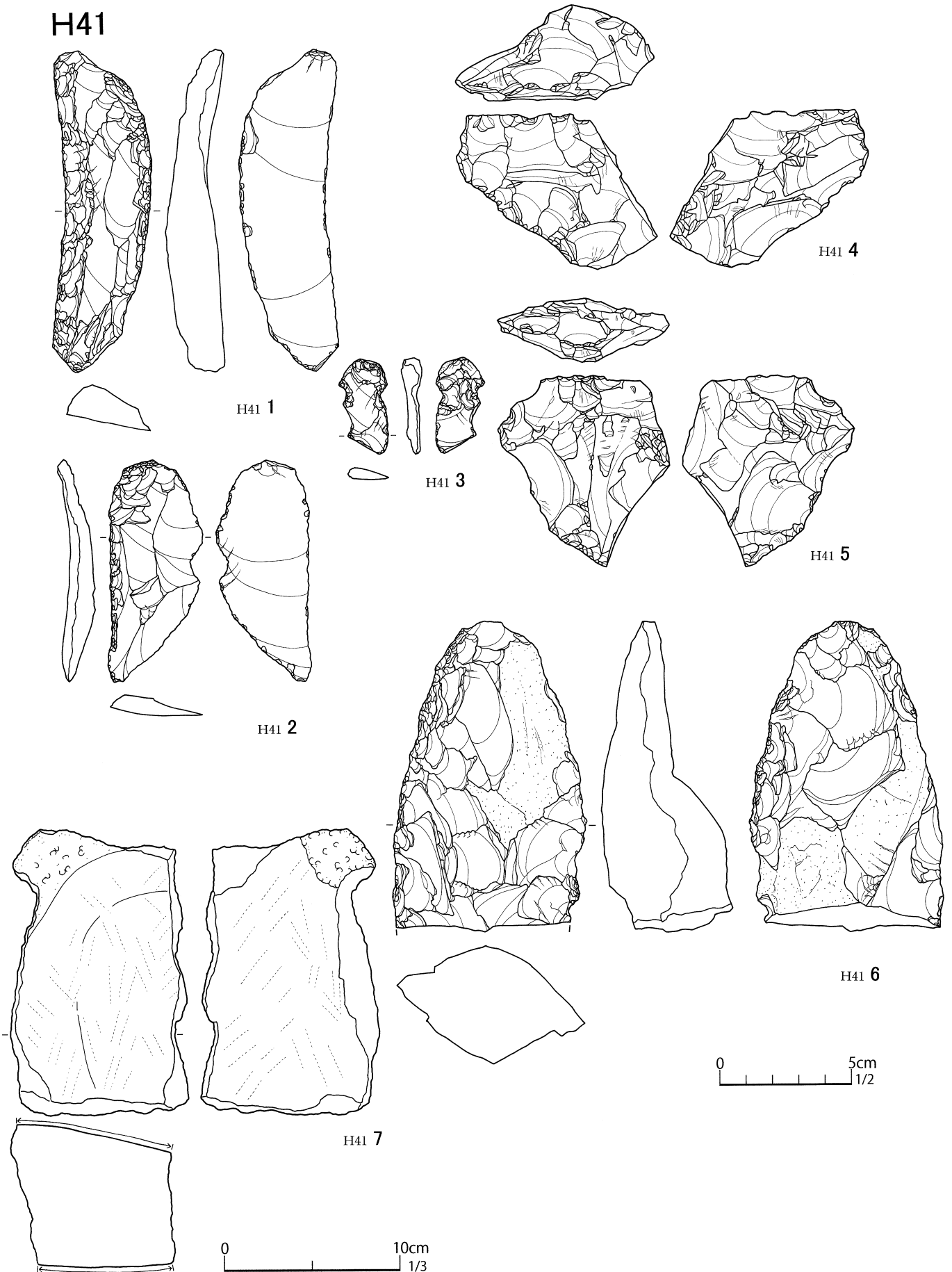
H45：1・2はHF-1覆土2層からの出土である。1は緑色泥岩製の石斧である。刃部は折損して無い。2は安山岩製の扁平打製石器である。残存する側縁と頂部について両面から調整がおよぶ。

H46：1は床面からの出土である。1は頁岩の石核である。円礫の端を割りそこから剥片を打ち剥がす。打面の転移が見られる。

H49：1は覆土1層からの出土である。1は頁岩製の異形石器である。つまみ状の張り出しがある。

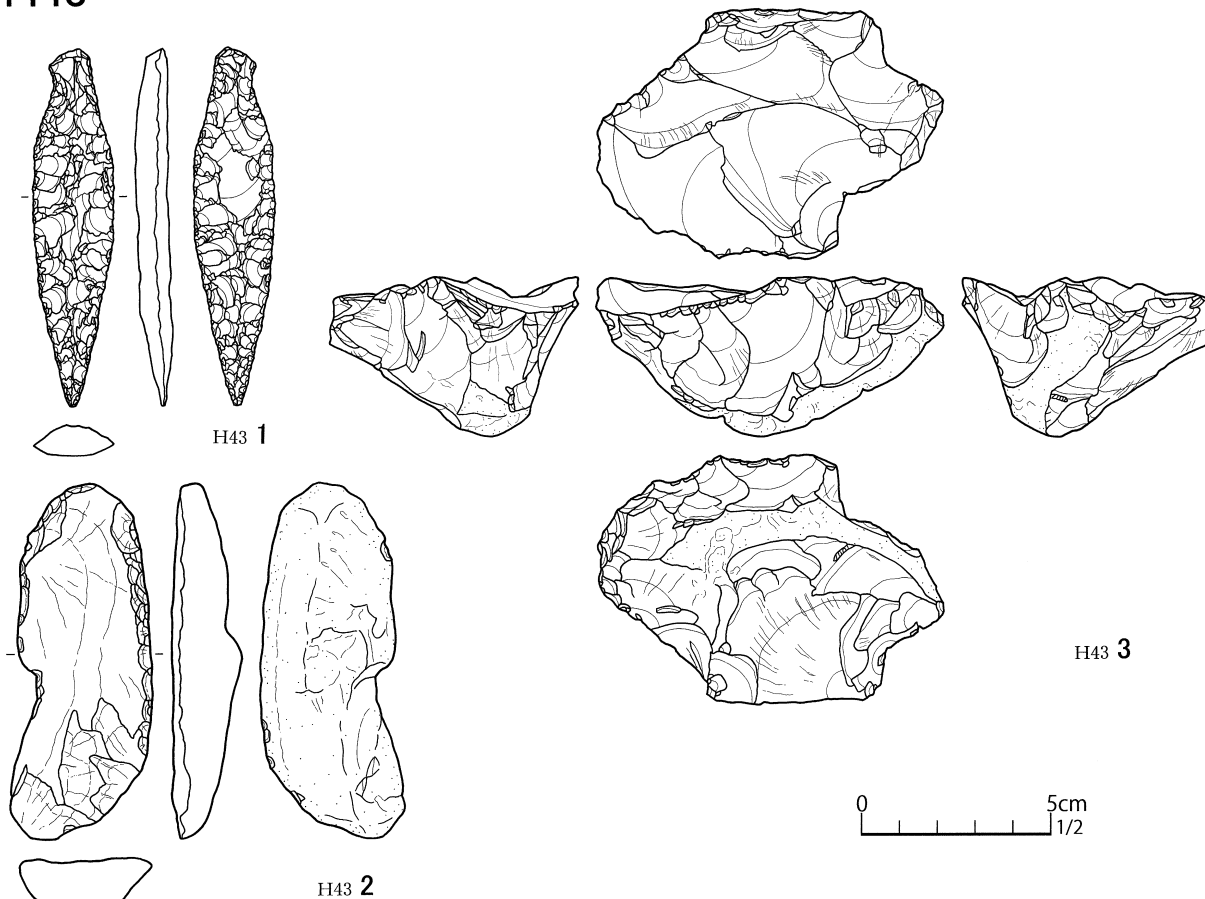
H51：1・2は覆土からの出土である。3～8は床面からの出土である。1は頁岩製の石槍又はナイフである。尖基で木の葉型である。調整は両面全面におよぶ。2は線刻礫片である。正面図に示したのは割れる前、礫の形状に対しての正中線を施した可能性を考える。裏面の擦痕は洗浄時のブラシ痕の可能性もある。もろい凝灰岩である。3・4は砂岩のたたき石である。礫の端部に叩き痕を持つ。3が上下端、4が下端である。5・6は扁平打製石器である。5は砂岩製で両側縁に叩打による成形がある。

H41

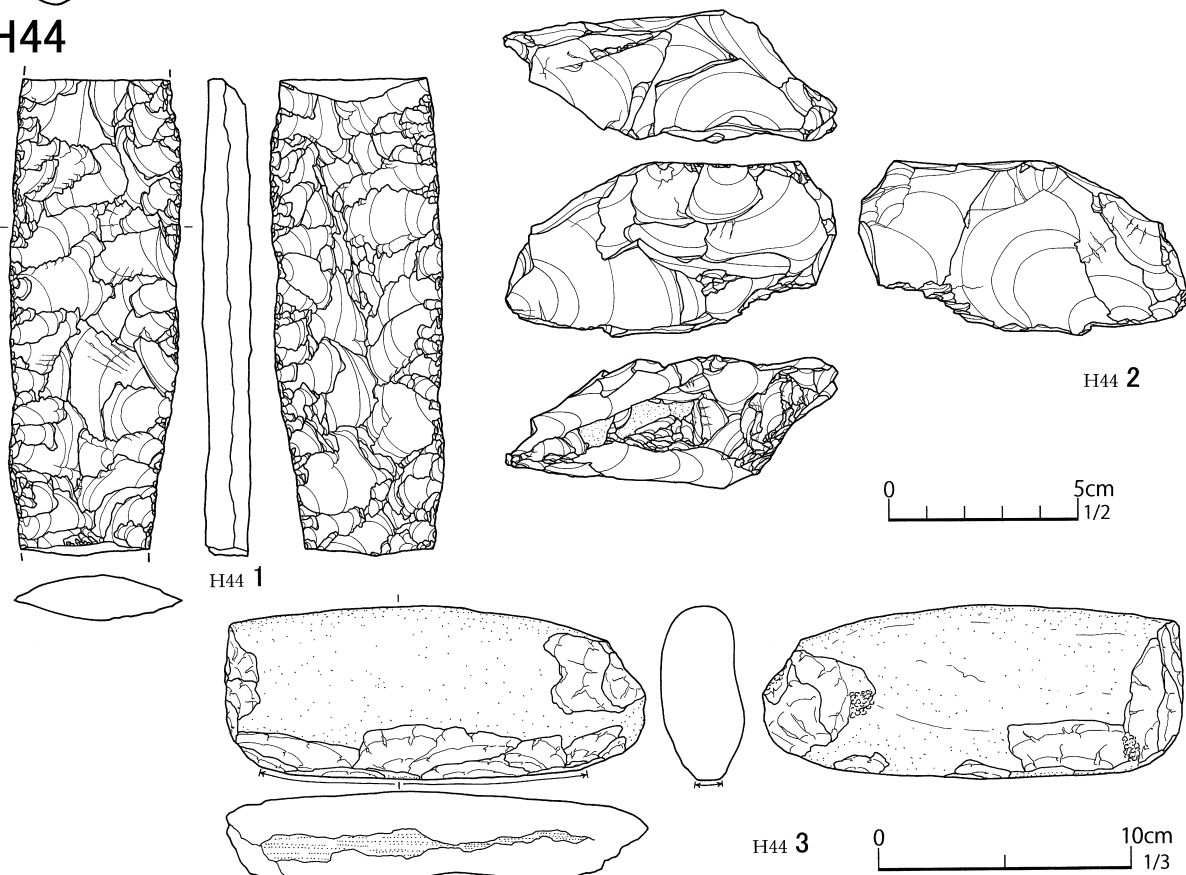


図Ⅲ-3-26 遺構出土石器 H41(1~7)

H43

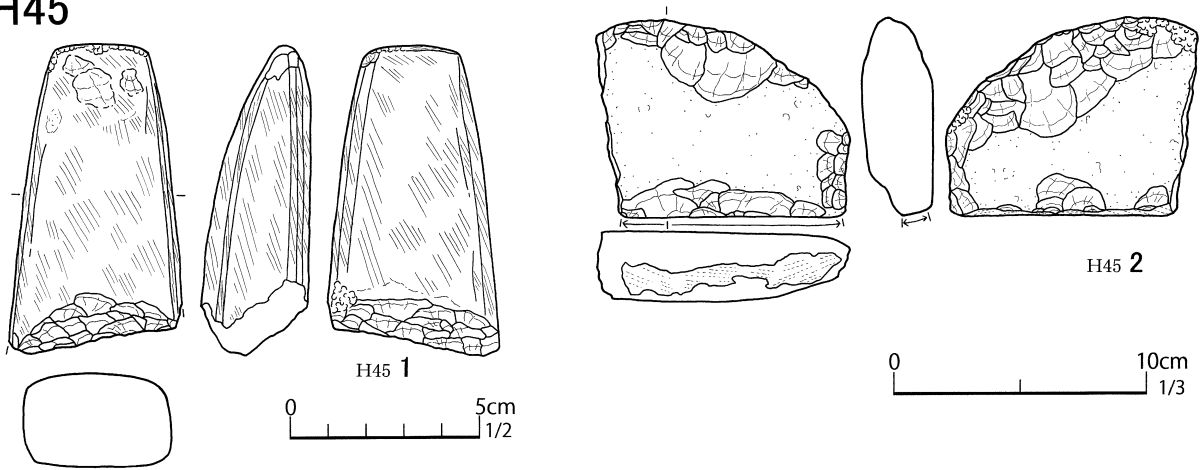


H44

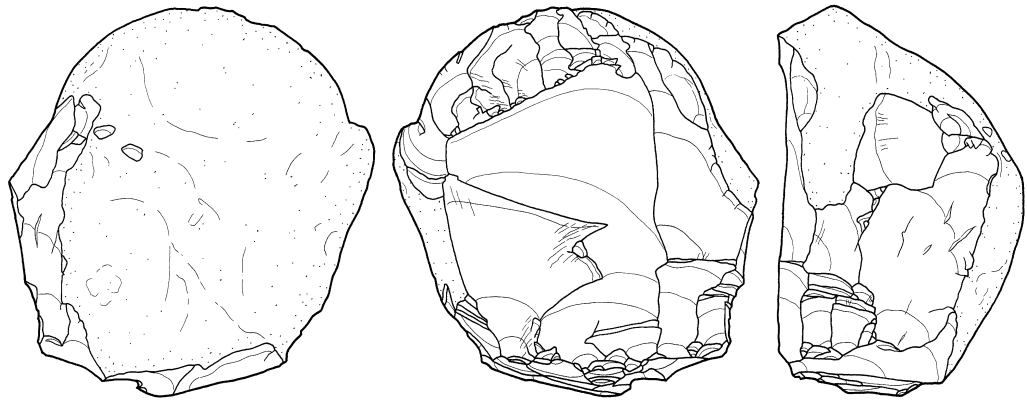


図Ⅲ-3-27 遺構出土石器 H43(1~3)・H44(1~3)

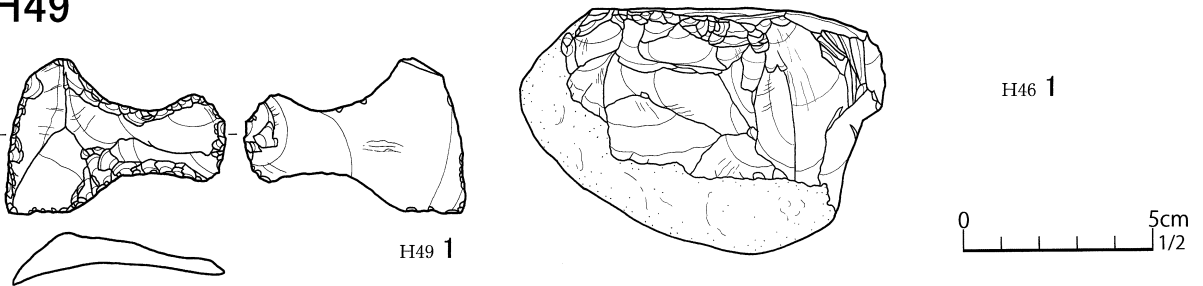
H45



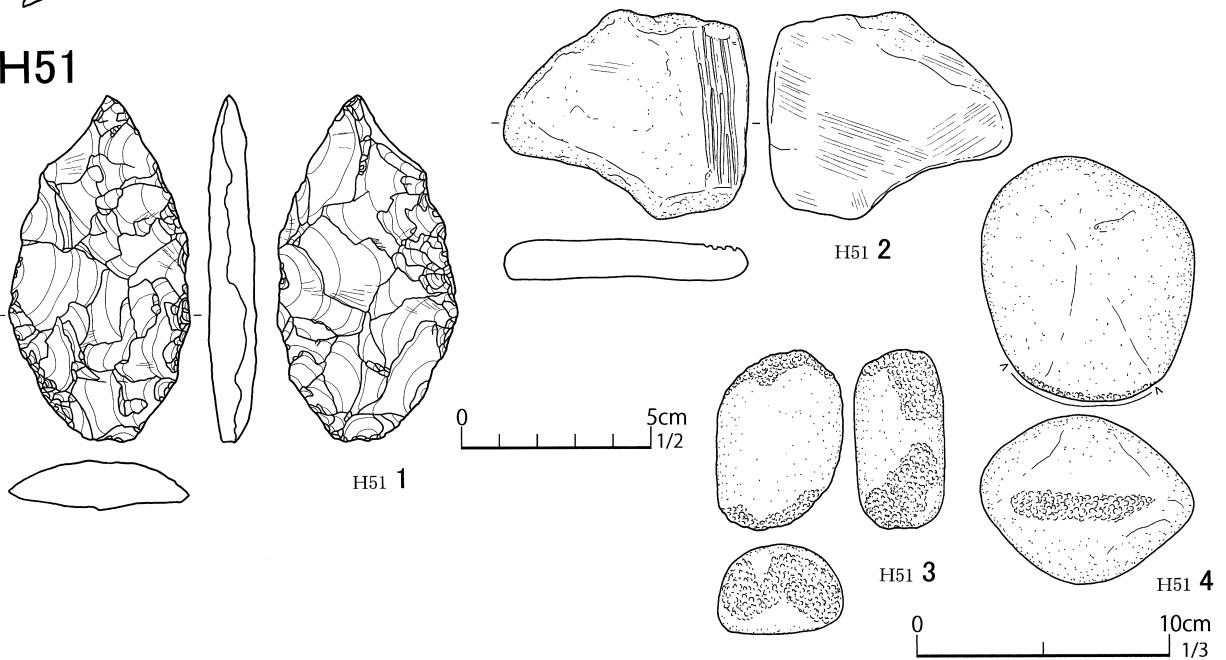
H46



H49

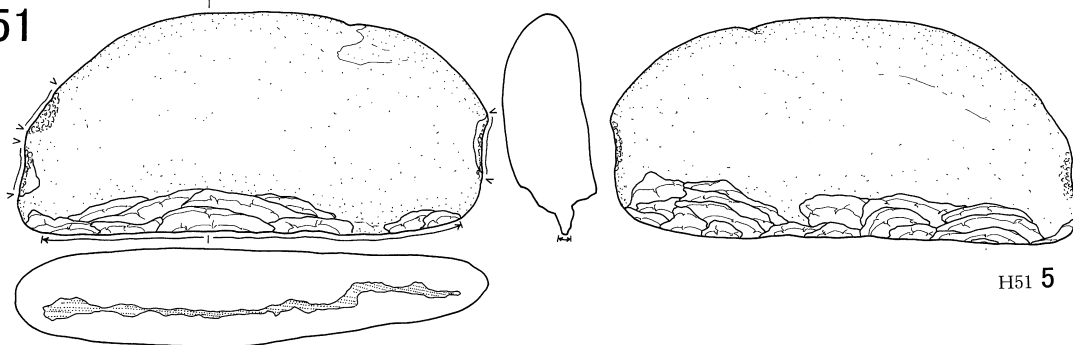


H51



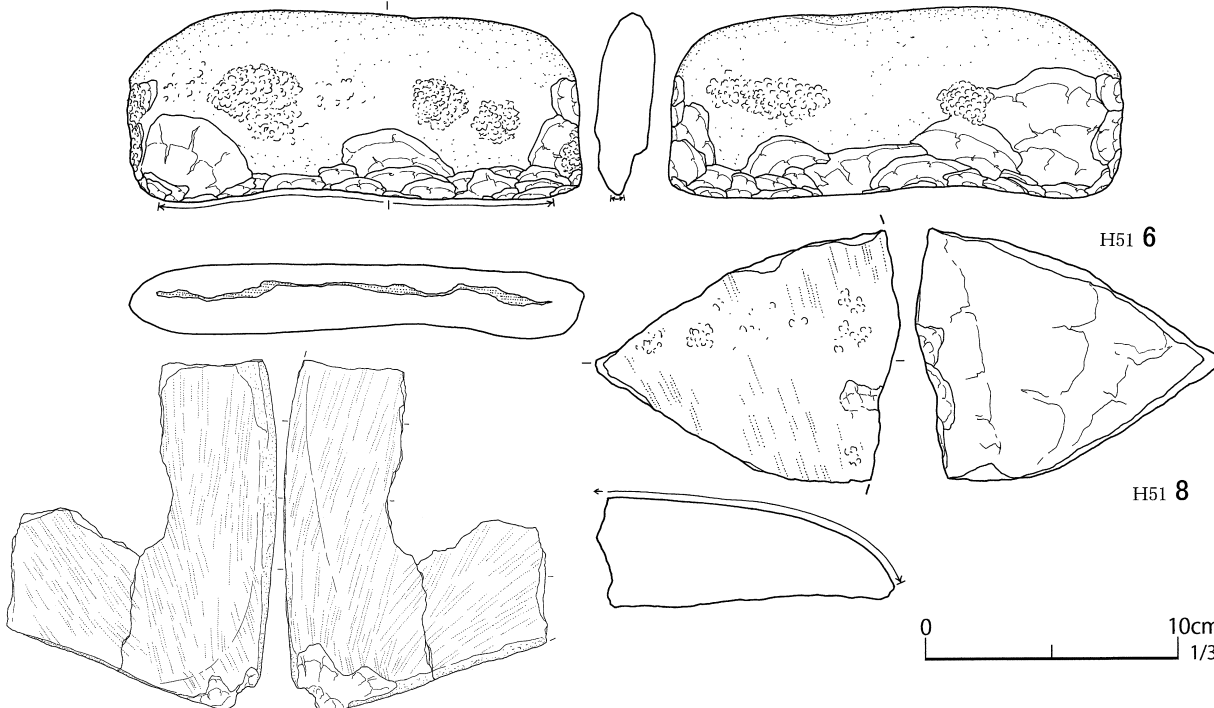
図Ⅲ-3-28 遺構出土石器 H45(1・2)・H46(1)・H49(1)・H51(1~4)

H51



H51 5

H51 6



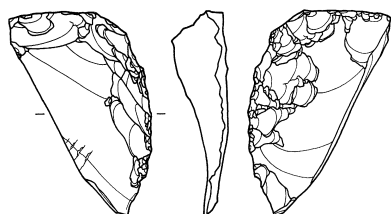
H51 8

0 10cm 1/3

H51 7

0 10cm 1/6

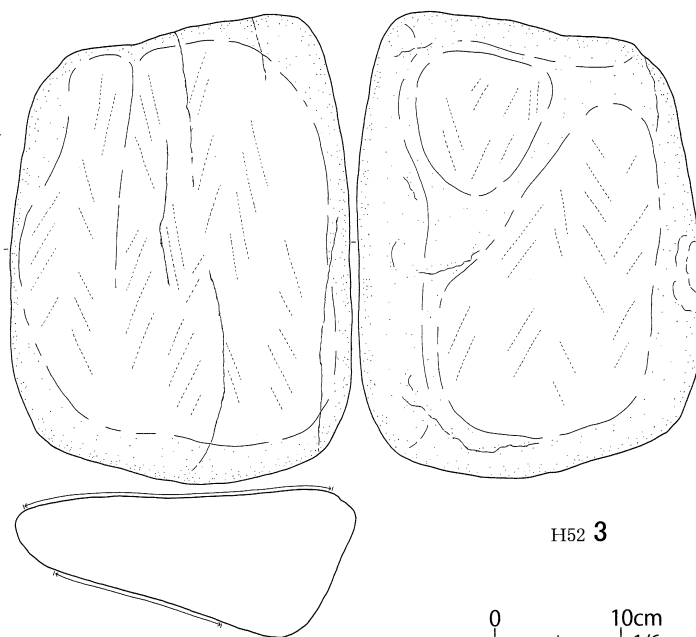
H52



H52 1

H52 2

0 5cm 1/2

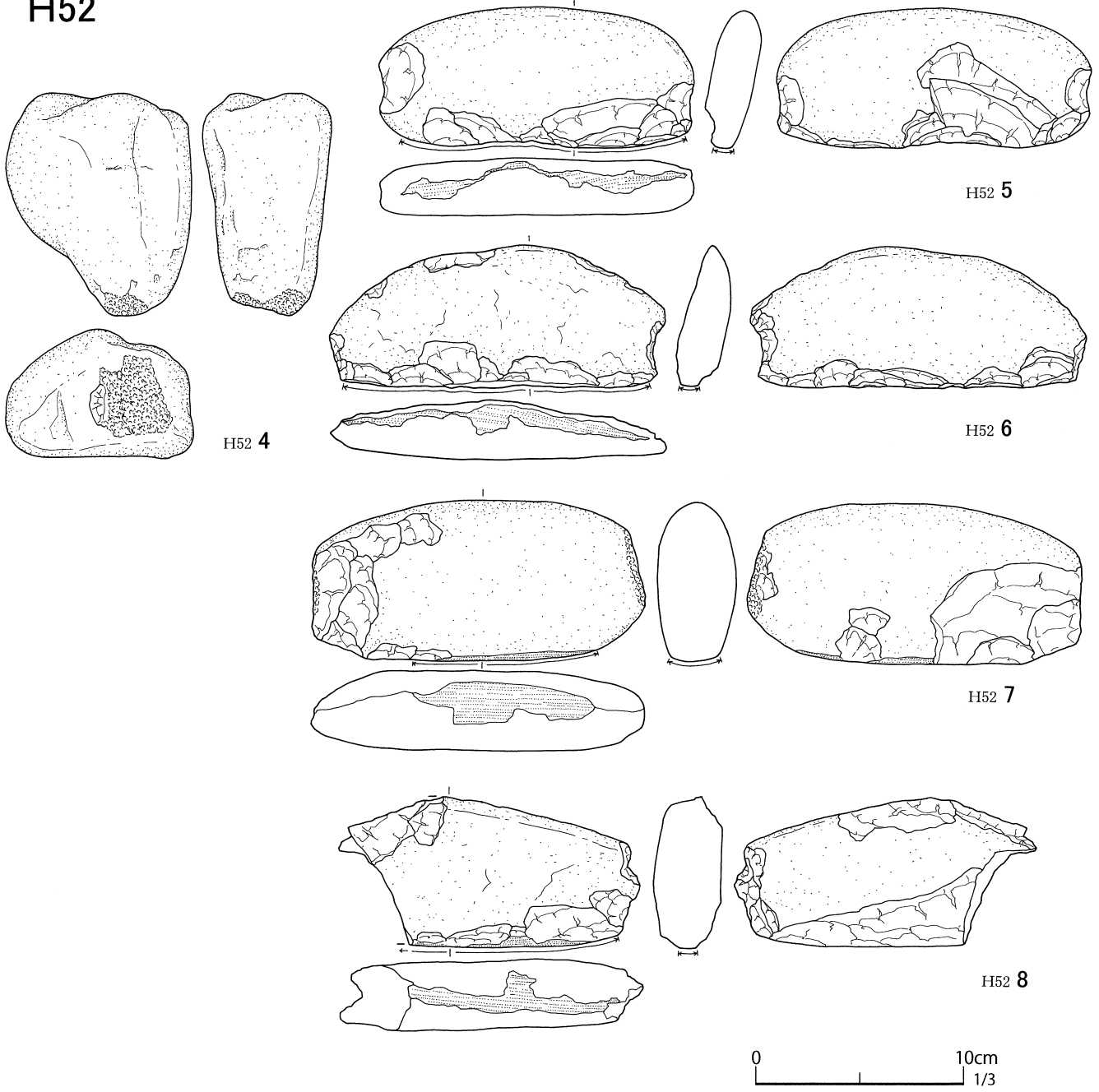


H52 3

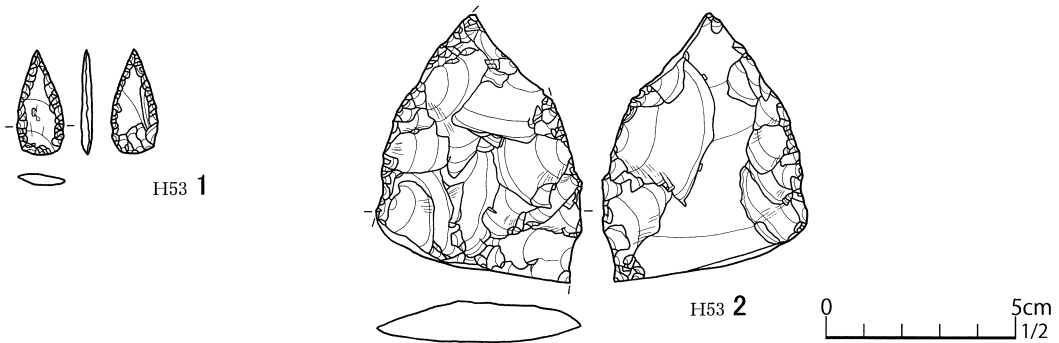
0 10cm 1/6

図Ⅲ-3-29 遺構出土石器 H51(5~8)・H52(1~3)

H52



H53



図Ⅲ-3-30 遺構出土石器 H52(4~8)・H53(1・2)

3 遺構出土の石器・石製品

6は凝灰岩製で両側縁に両面からの打ち欠き調整がある。表裏面に、ほぼ対応した敲打による凹みがある。7は安山岩製の石皿である。凹みのある皿面を両面に持つ。砥石的な使用も考えられる。8は砂岩の台石片である。縁辺の一方所に叩打痕がある。叩き石として破片を用いた可能性がある。

H52：1～8は床面からの出土である。1・2は頁岩製のスクレイパーである。1は両面調整、2は片面調整である。3は砂岩の台石である。表裏面に擦痕がある。4は砂岩のたたき石である。下端に叩打痕を持つ。5～8は扁平打製石器である。5～7は閃緑岩製で、両側縁に両面からの打ち欠きによる成形がある。8は砂岩製で、残存する側縁と頂部に両面からの打ち欠きによる成形がある。

H53：1は覆土1層、2は覆土2層からの出土である。1は頁岩製の石鏃である円～平基で先端を細く尖らせて作り出す。基部形態が不整であることから、尖基で同形の先端部を持つ型が典型的であるが、それに近いものとする。2は頁岩製の石槍又はナイフである。尖基で残存部から木葉形のものとする。

H54：1～3は覆土2層からの出土。4は床面からの出土、5はHF1覆土2層からの出土である。1は安山岩製の凹み石。表裏対応する凹みが礫の長軸上に並んで二対ある。2は安山岩の石皿である。楕円形をした溝状の凹みが表面に1条、裏面2条ある。表面には叩打による顕著な凹みが複数箇所観察できる。3は安山岩の台石である。表裏面に擦痕がある。4は断面五角形の棒状礫である。安山岩で、その形状から、礫選択時に石棒的意味合いを求めて持ってきた可能性がある。5は頁岩製の異形石器である。折損しているが、つまみが二対ついた形状を思わせる。

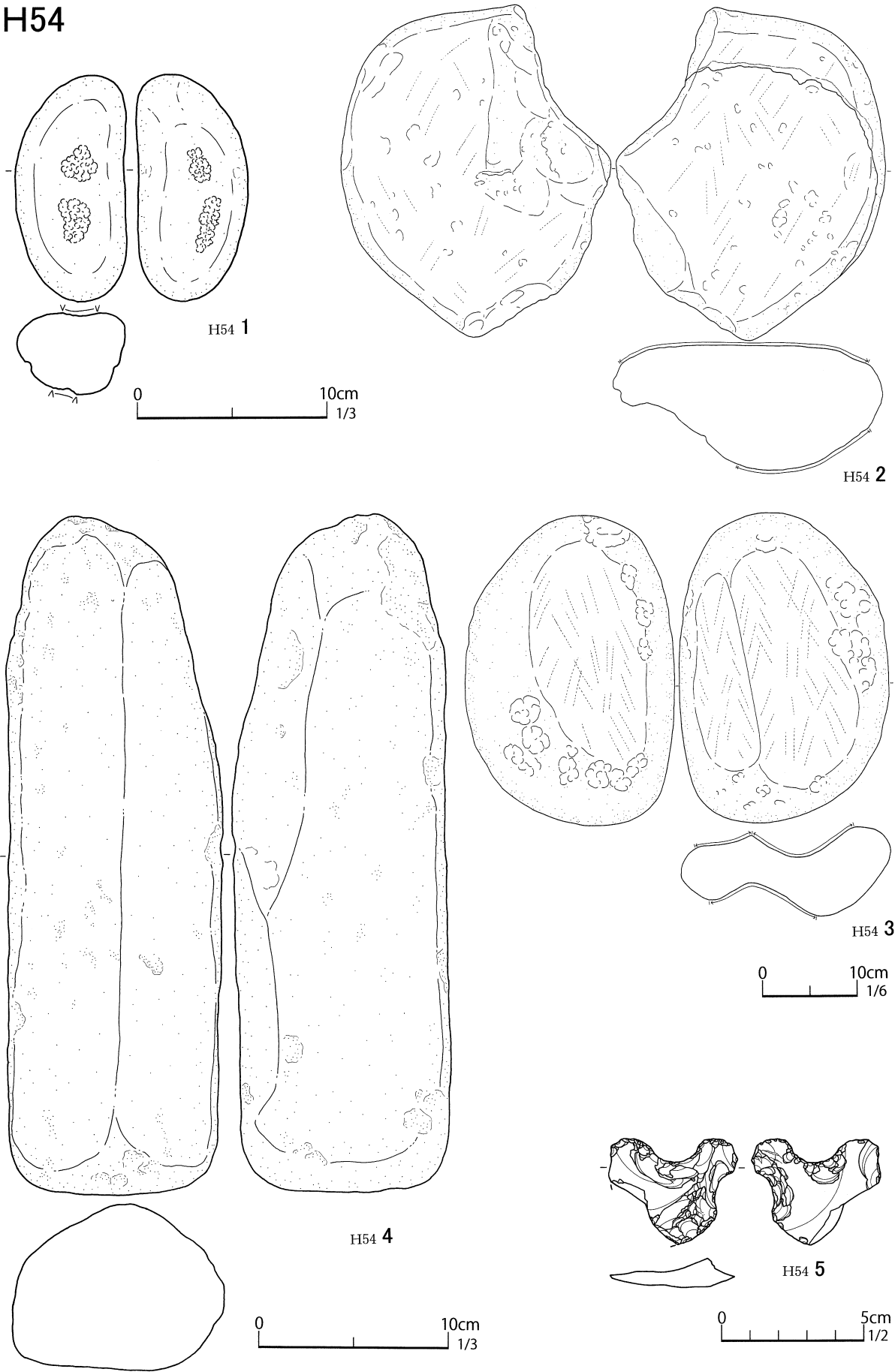
H55：1～5は覆土1層からの出土で扁平打製石器である。1・2は閃緑岩。3は安山岩、4・5は流紋岩である。1・2・4は両側縁に、3は両側縁の可能性があり、5は片側縁に両面調整の成形がある。3は幅の厚みが顕著である。

H56：1・2は覆土からの出土、3は床面からの出土である。1・2は安山岩製の台石である。1は両面に叩打痕がある。2は被熱によるものか割れている。3は頁岩製スクレイパーである。正面両側縁に片面調整の刃部がある。

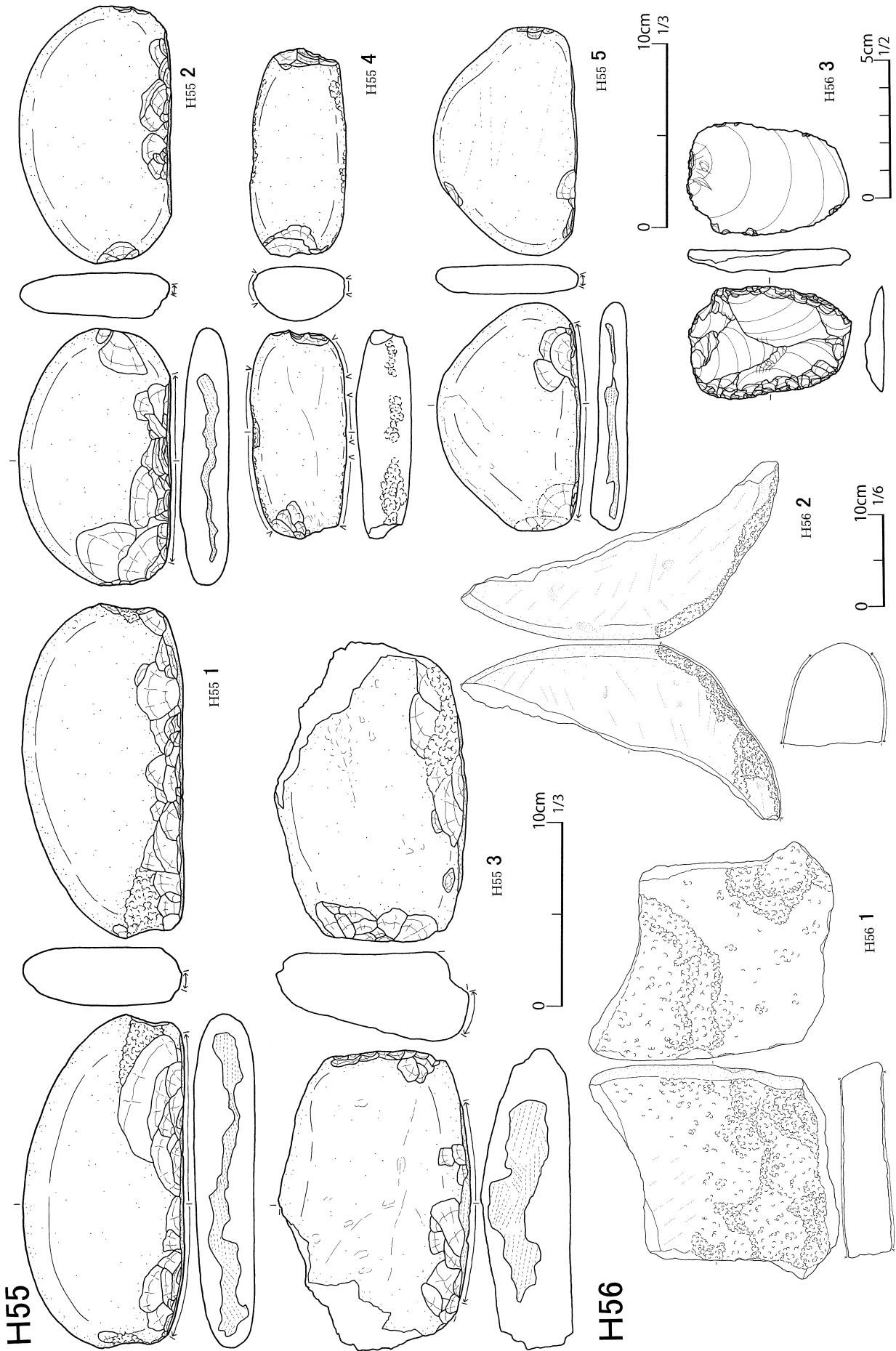
H57：1・2は床面、3は覆土からの出土である。1は安山岩の台石である。表面は平滑部分が顕著であり、裏面は被熱の為か赤色化している。2は安山岩製の石皿で両面の凹部が顕著である。3は滑石製の塊状耳飾りである。三角形のもので抉り部分から割れた片側である。

H58：1～3は覆土からの出土である。4・6・7は床面からの出土である。5はHP-1覆土4層からの出土である。1は軽石製石製品。北海道式石冠の模造品の可能性もあるが、浮子を思わせる形状でもある。2は頁岩製つまみ付きナイフ。横長で装着部の幅が広い。3は緑色泥岩製の石斧を転用したたたき石である。両端にたたき痕がある。刃部は折損後潰れている。4・5は北海道式石冠である。叩打調整が全面におよび、持ち手を形成する。4は安山岩製で機能部は平滑になるまで使いこまれている。5は閃緑岩製で、被熱により割れている。6・7は頁岩製スクレイパーである。刃部は浅い調整で、潰れている。

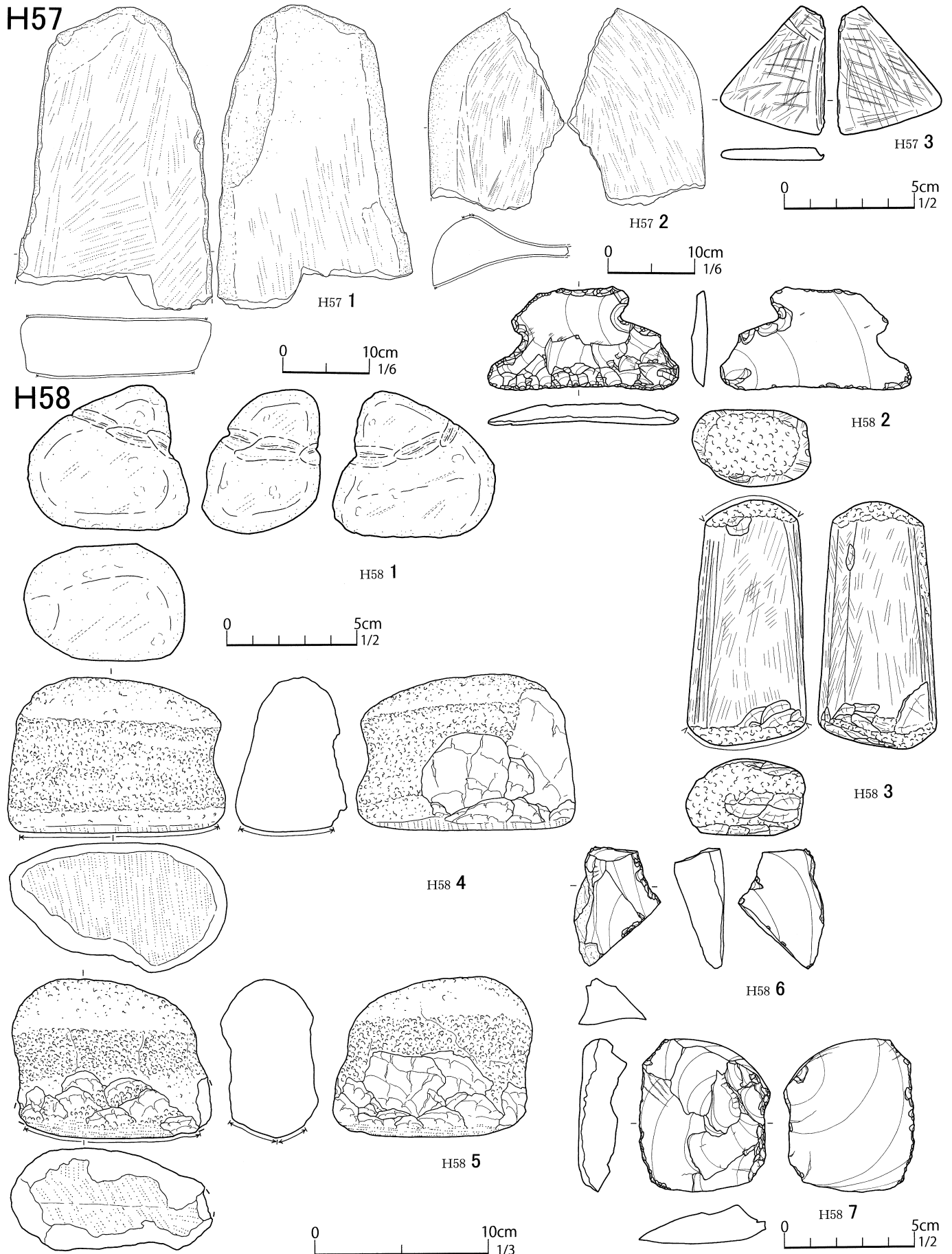
H54



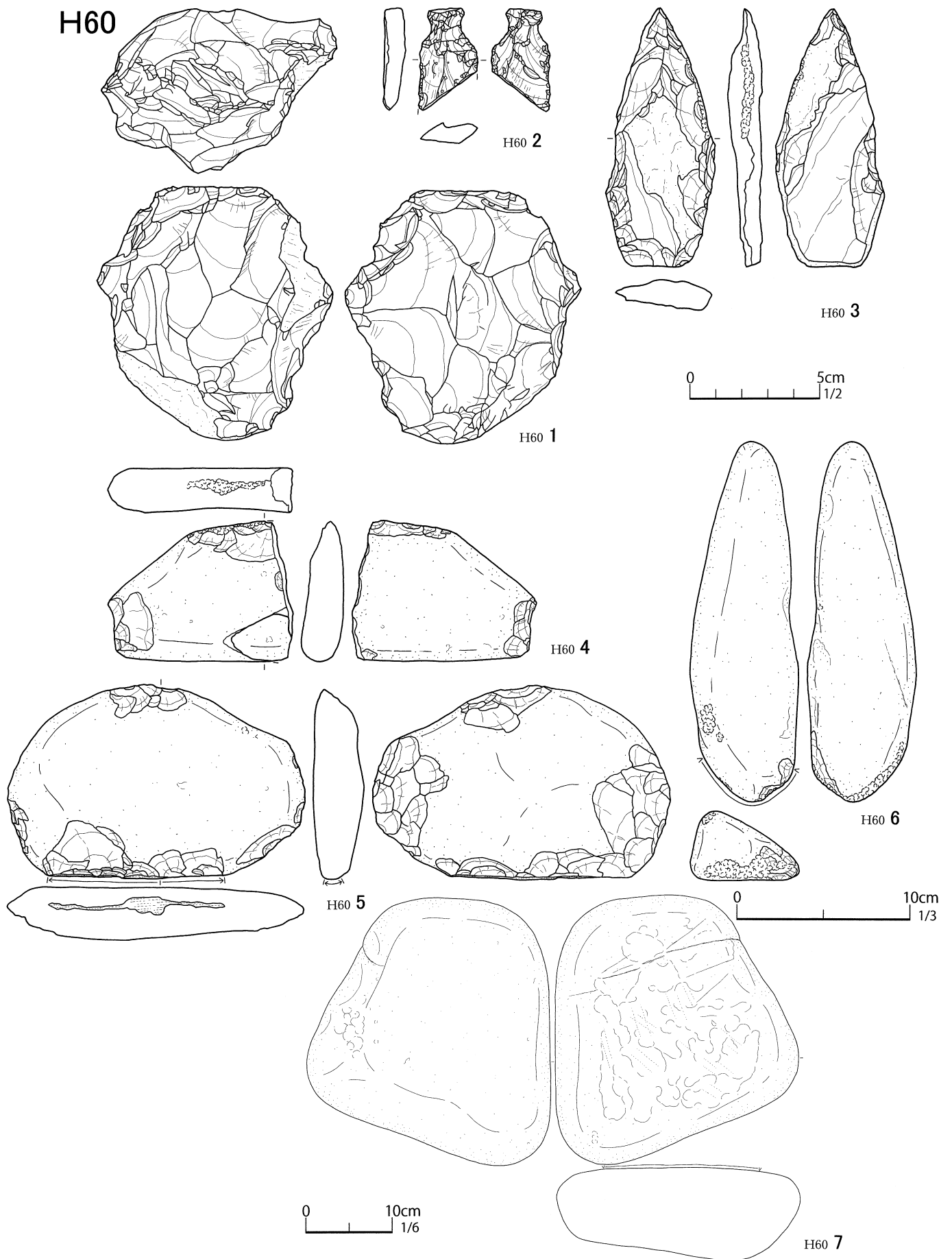
図Ⅲ-3-31 遺構出土石器 H54(1~5)



図Ⅲ-3-32 遺構出土石器 H55(1~5)・H56(1~3)



図III-3-33 遺構出土石器 H57(1~3)・H58(1~7)



図Ⅲ-3-34 遺構出土石器 H60(1~7)

H60：1・5・6は周溝からの出土、2・3は覆土からの出土、4は中央砂部分、7は床面からの出土である。1は頁岩の石核。二回ほど打面の転移が見受けられる。2は黒曜石製のつまみ付きナイフ。刃部の調整は浅く細かい。3は片岩製の石槍又はナイフである。平基無茎。両面に打ち欠きによる調整がある。4・5は扁平打製石器。4は流紋岩製で残存する側縁と上端に潰れ痕ができるほどの両面調整。下面に機能部を想定したが断面と連続する剥離がある。未使用と考える。5は流紋岩製。両側縁と上端に両面からの調整。6は砂岩のたたき石。長い礫の下端に潰れ痕がある。7は砂岩の台石である。叩打痕がある。

H62：1・2・4は覆土からの出土である。3は床面からの出土である。5はHP-4覆土からの出土である。

1は頁岩製の異形石器。翼形の張り出しが作出される。2は片岩製の石槍又はナイフ。凹基無茎で打ち欠き調整が両面に及ぶ。3は頁岩の石核である。打面を一か所持つ。4は黒曜石製のつまみ付きナイフである。刃部は微妙な潰れ痕があるのみで不明瞭である。

H63：1は床面からの出土で、安山岩製の石皿である。北海道式石冠によるものか、溝状の擦り面が両面全面に及ぶ。一か所両面からの溝底面が重なっている部分が、貫通して孔となっている。

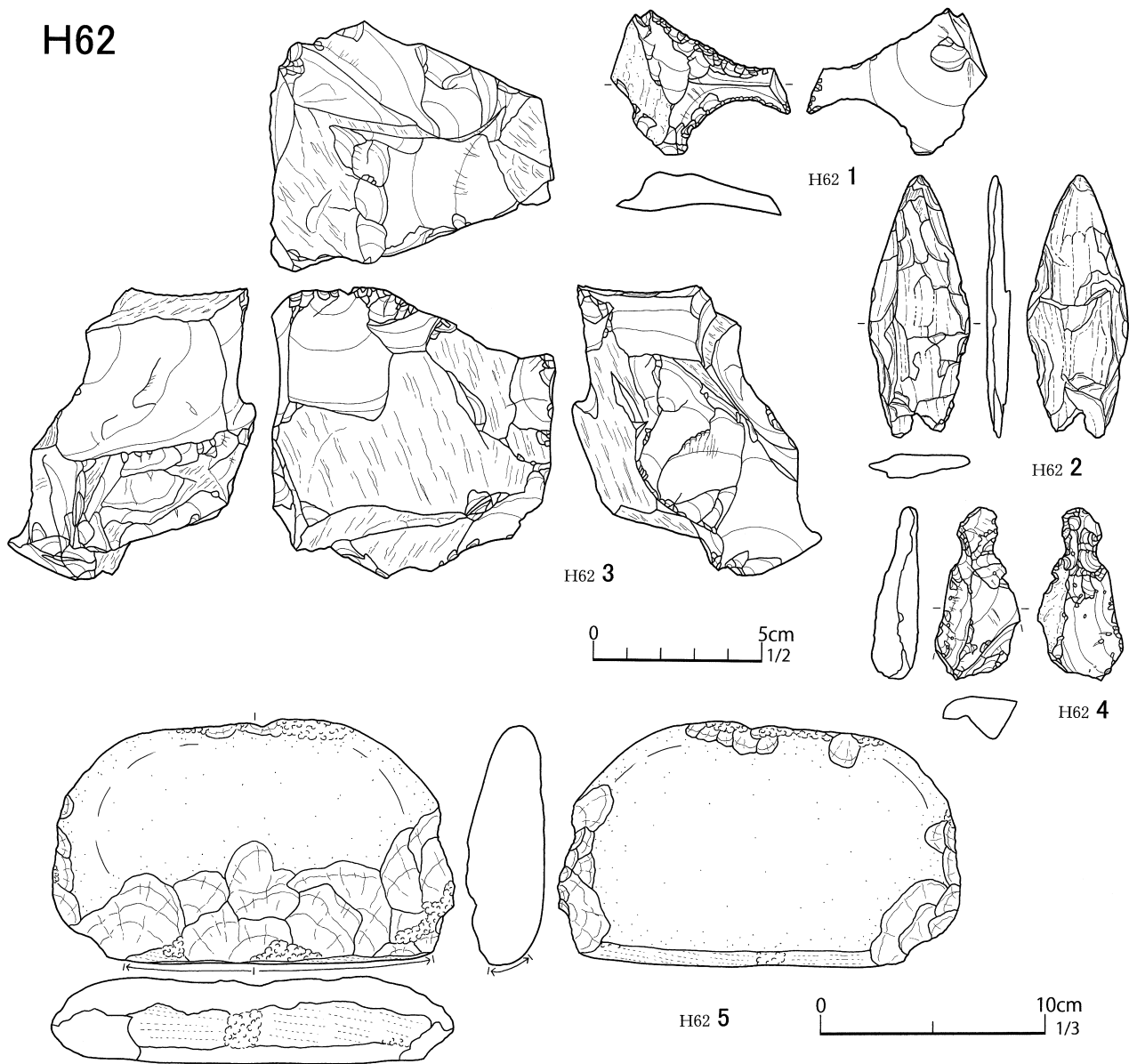
H64：1～3は床面からの出土である。4はHP-5覆土1層からの出土である。1・2は頁岩製スクレイパーである。1は一側縁に明瞭な片面調整の刃部を持つ。2は端部が搔器となっている。3は頁岩の石核である。4は安山岩で、両側縁と底面の調整痕と全体的な形状から北海道式石冠の未成品と考える。

H65：1は床面からの出土で、砂岩製扁平打製石器である。両側縁と頂部に両面調整の成形がある。

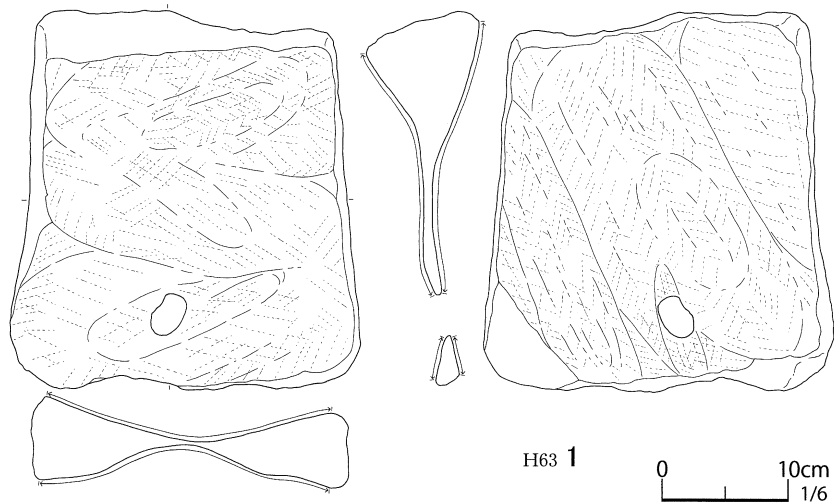
H66：1～5は床面からの出土である。1～3は頁岩製のスクレイパーである。1は片側縁に両面調整の刃部を持つ。2・3は両側縁に片面調整の刃部を持つ。1・2は刃部を持つ面について調整が全面に及ぶ。4は安山岩の台石である。片面に顕著な擦痕がある。5は砂岩の台石である。叩打痕がある。

H67：1～8・10・11は床面からの出土である。9はHF-1覆土1層からの出土である。1は頁岩製の石鋸である。石槍又はナイフの片側側縁に石鋸特有の擦り面を持つ。2・3は頁岩製スクレイパーである。いずれも短いながら両面調整の刃部を持つ。4は頁岩製つまみ付きナイフである。両側縁に刃部を持つが片側の剥離が長い。5は緑色泥岩製の石斧基部である。打ち欠きと研磨によって成形した痕跡がある。6は顕著な使用痕が表裏面にある安山岩である。どちらの面にも不規則に3条ほど幅広く楕円形の凹みが溝状にある。研磨の際砥石として用いたか、北海道式石冠ないしは扁平打製石器に対応する石皿として用いたものとする。7・8は砂岩の台石である。叩打痕がある。9は凝灰岩製の線刻礫である。片面にかすかだが正中線を意識した線の集中がある。10・11は扁平打製石器である。10は安山岩製である。残存する側縁に両面からの打ち欠き成形がある。11は砂岩である。上端に両面からの成形があるが、機能部は片面のみの成形で叩打痕は礫の下面全面にはおよばず縁辺のみである。

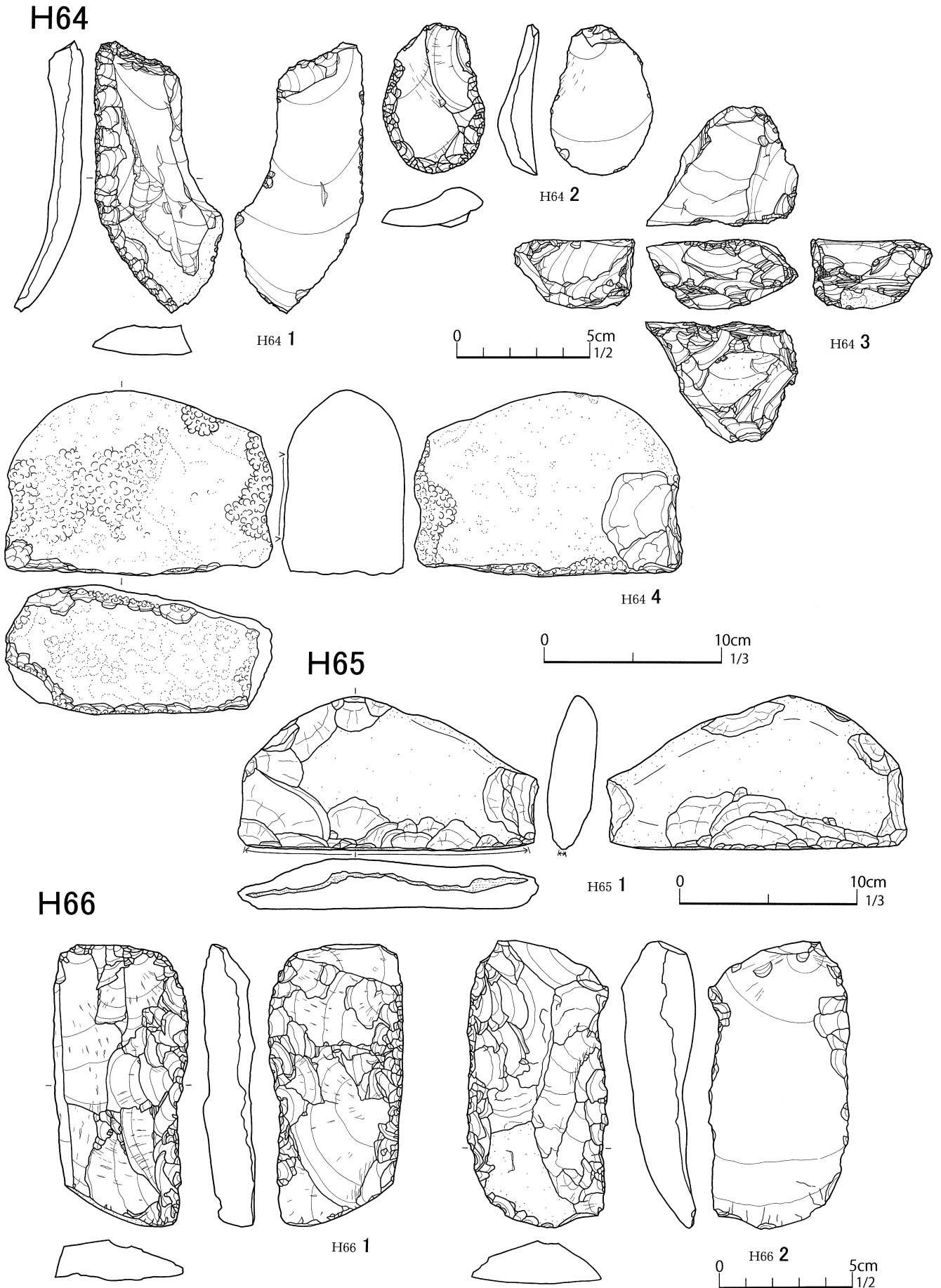
H62



H63

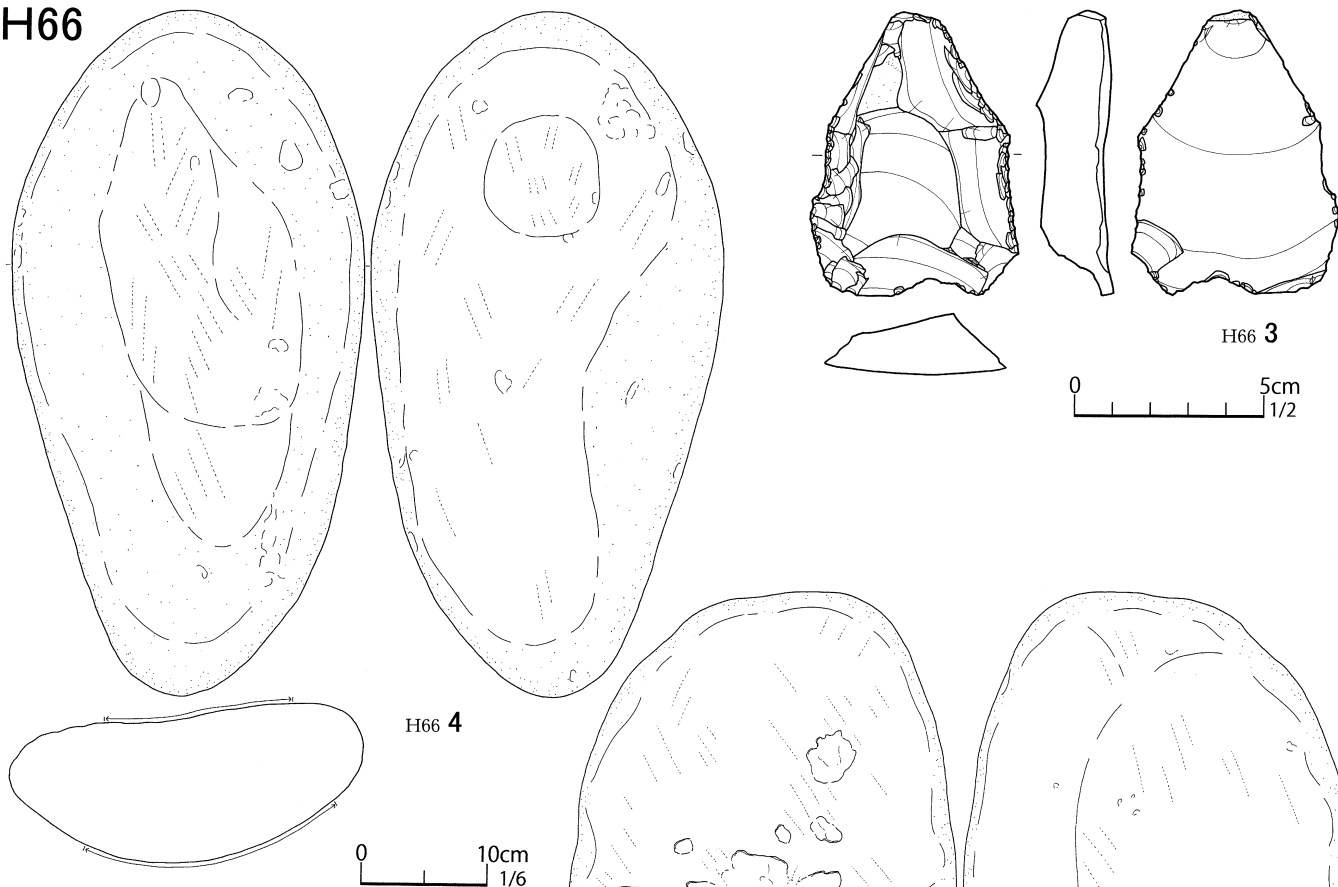


図Ⅲ-3-35 遺構出土石器 H62(1~5)・H63(1)

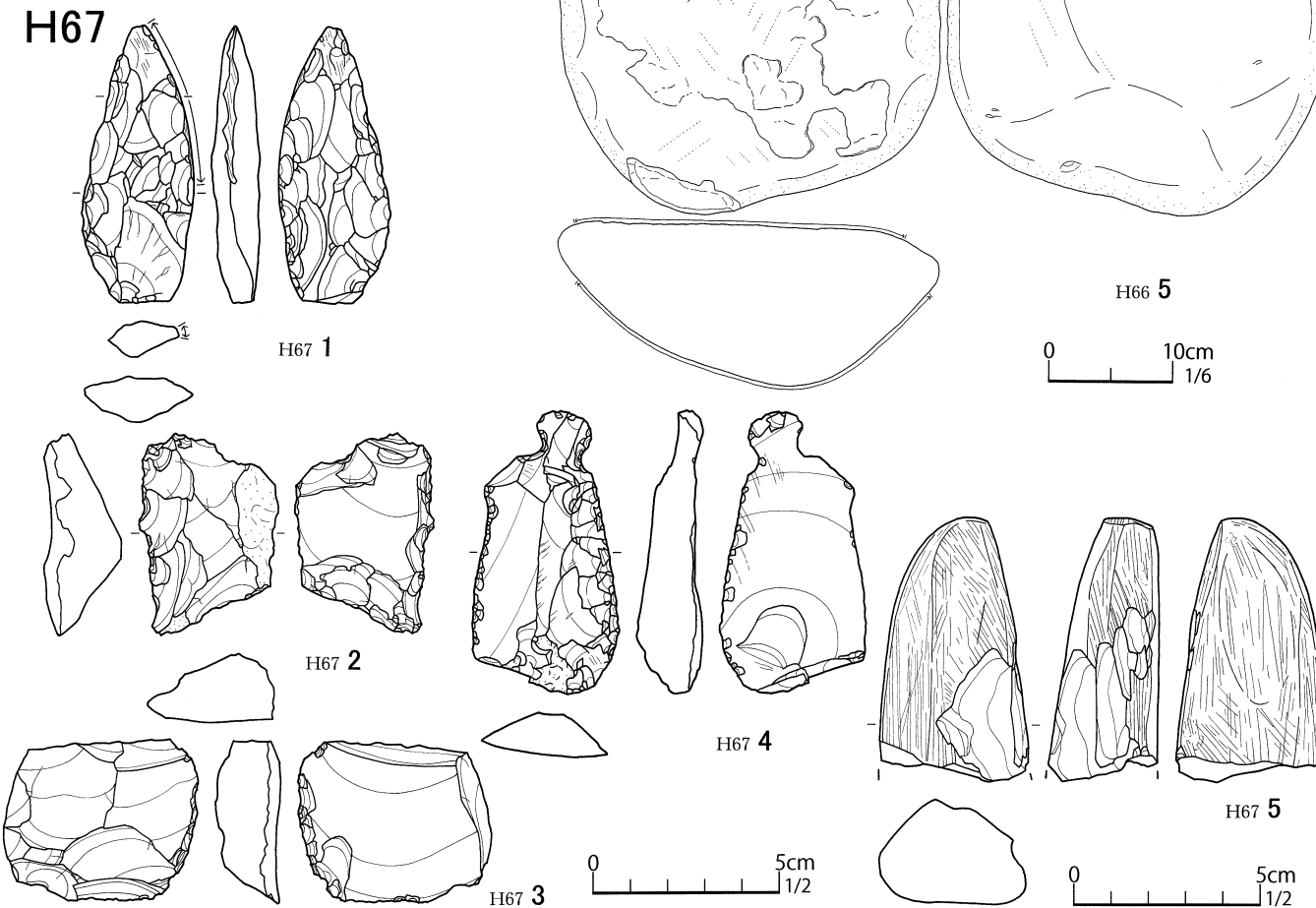


図Ⅲ-3-36 遺構出土石器 H64(1~4)・H65(1)・H66(1・2)

H66

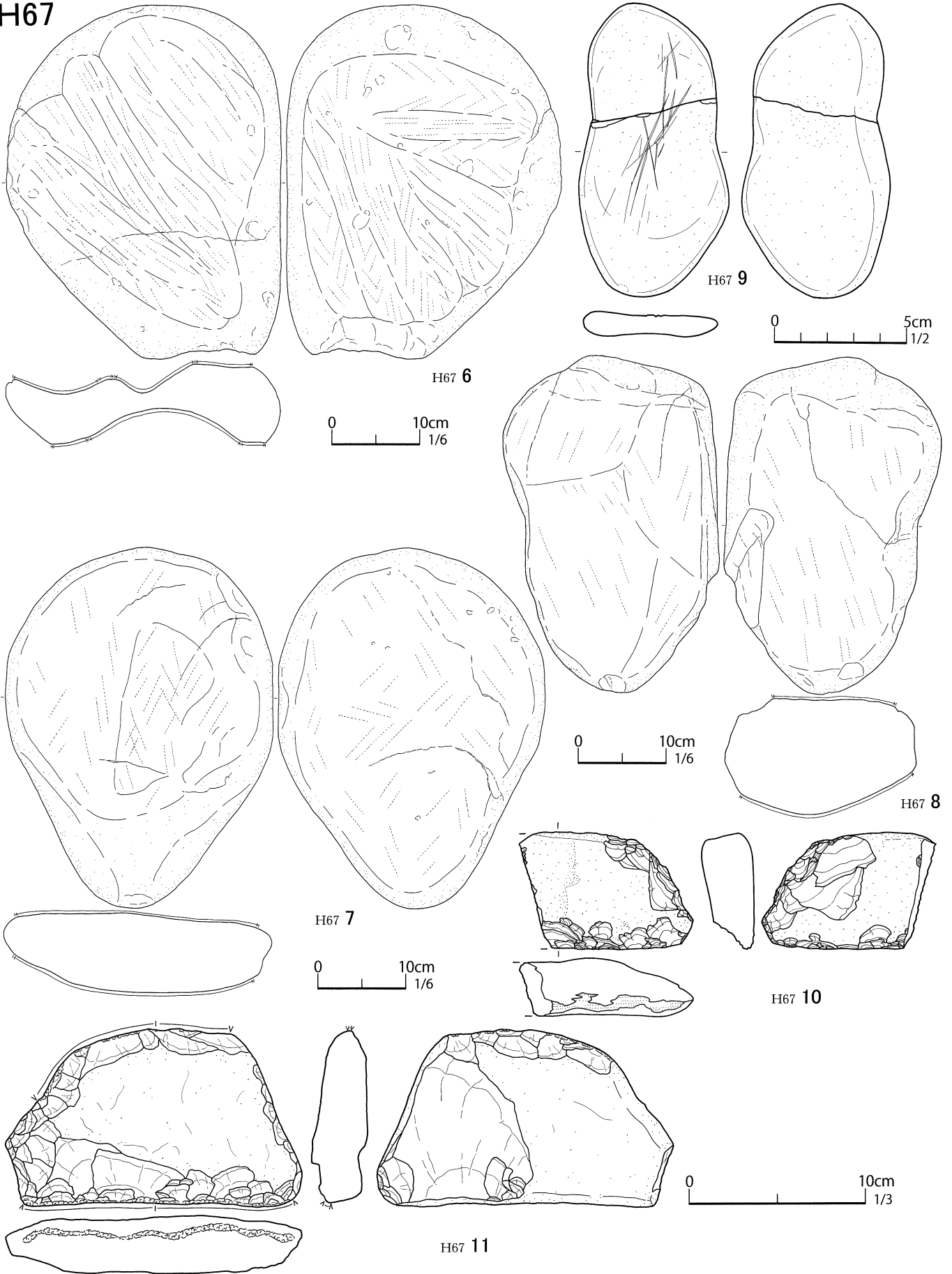


H67



図Ⅲ-3-37 遺構出土石器 H66(3~5)・H67(1~5)

H67



図III-3-38 遺構出土石器 H67(6~11)

(2) 土坑

P43：1～17はいずれも覆土2層下位出土の、頁岩製石鏃である。1・2が凸基有茎。1はあくが特に張り出す。ほかは尖基で先端を細長く作り出すものである。8・10・14は菱形に近い。

P51：1～3は覆土から出土した。1は頁岩製ドリルである。石鏃未成品からの転用か、凸基有茎を思わせる。上下端に錐部を持つ。2は緑色泥岩製の石斧である。全面に研磨がおよび片側のしのぎが顕著である。3は頁岩の異形石器である。不整な張り出し部を三か所持つ。

P55：1～4は土坑底面からの出土である。1は緑色泥岩製の石斧である。刃部は片面にしのぎが顕著で偏刃である。2は頁岩製の石槍又はナイフである。凸基有茎で先端はすどく線対称である。3・4は頁岩製つまみ付きナイフである。いずれも両側縁に刃部を持つ。4の剥離は長い。

P56：1～14は覆土出土、15～19は土坑底面からの出土である。1・2は石槍又はナイフである。1は頁岩製、2は片岩製である。1は凹基無茎であり、あくが非対称である。2は両面に打ち欠きがおよび線対称ではない。3は緑色泥岩製の石斧の刃部である。残存部全面研磨で成形され、刃部は叩打痕で潰れている。4は緑色泥岩の擦り切り残片である。数面に顕著な擦り切り痕跡が残る。5は頁岩の石製品である。全面に研磨がおよび面取りがなされている。6～11・16は扁平打製石器である。11・16が流紋岩で、側縁に打ち欠きによる成形を持つ。他は砂岩で縁辺に打ち欠きによる成形がある。11は機能部が想定できる部分に使用痕が無く未成品である。12・15はたたき石。12は砂岩で、側縁に複数の使用痕がある。15は珪岩で、端部に一か所使用痕がある。13は凝灰岩製の砥石片である。碎片なので石皿の可能性もある。凹んだ皿部の破片である。14は砂岩の砥石である。三面の砥石面を持つ。17は頁岩製のスクレイパーである。円形にめぐる刃部正面観を持つ。18と19は厚みのある長楕円礫、ないしは短い棒状礫である。いずれも石棒的意味合いを持つ可能性がある。18は安山岩、19は砂岩である。18は正面とした側の中央に叩打痕がある。

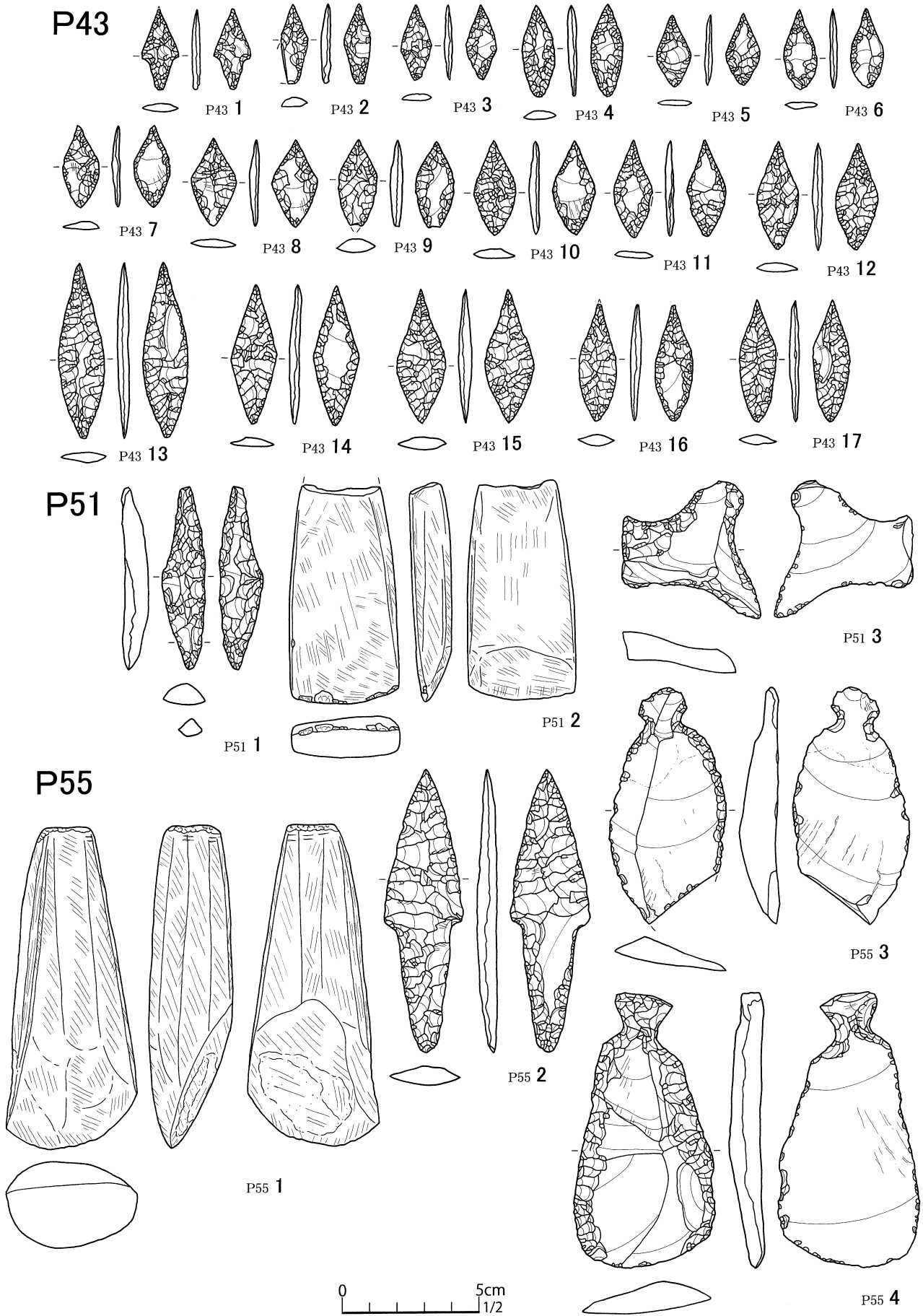
(3) Tピット

Tピットについて、抽出、図化した石器類は無い。

(4) 焼土

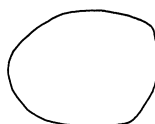
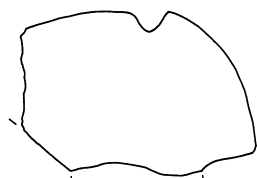
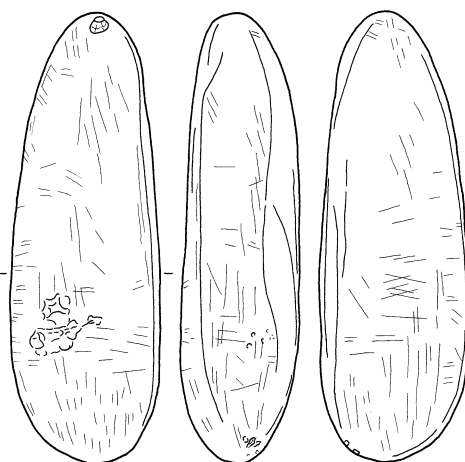
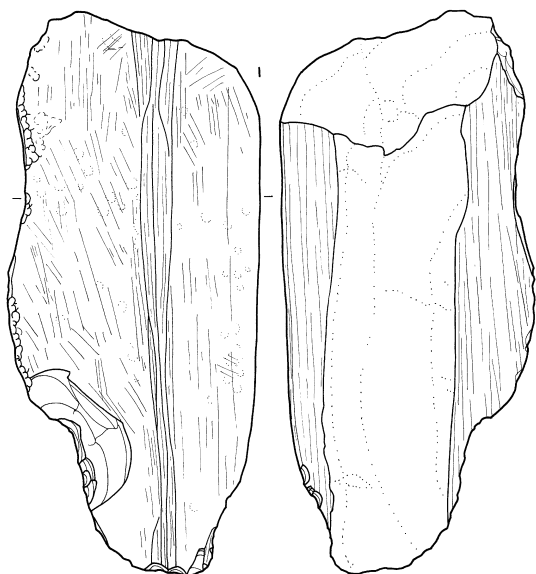
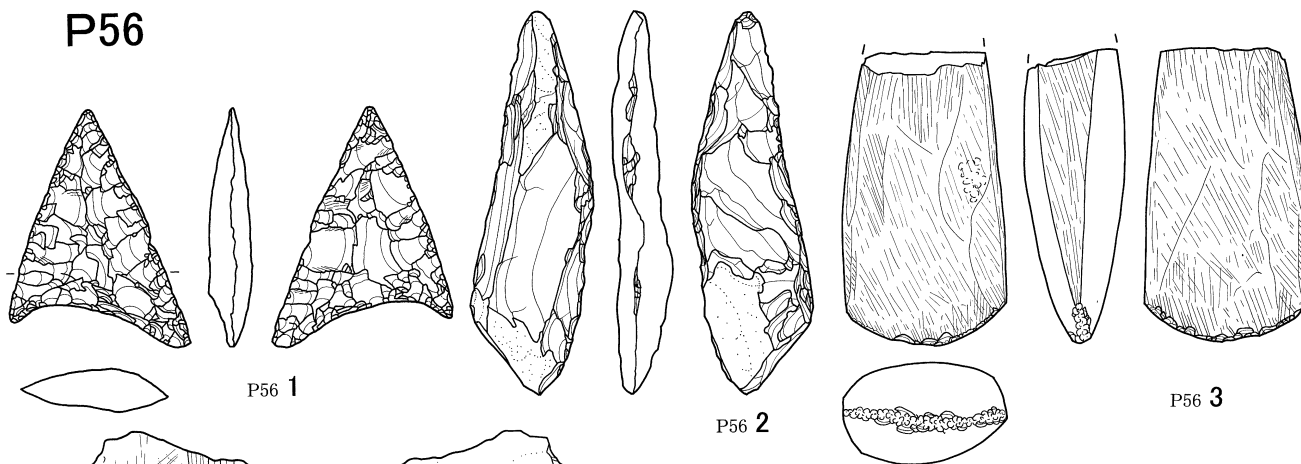
F79：1～3はF79と同一検出面であるH19覆土からの出土である。1は覆土1層、2・3は覆土3層からの出土である。1は安山岩で、底面そして頂部にかけて残る叩打調整と大きさから北海道式石冠の未成品と考える。2は閃緑岩製の北海道式石冠である。全面に叩打調整がおよび、平坦な頂部と溝状の持ち手を有する。3は砂岩のたたき石である。一端が叩打によって潰れる。

F82：1・2は沢1層、3は覆土1層からの出土である。1は流紋岩製の扁平打製石器である。縁辺を両面から成形し、比較的小型である。H57、H58付近から出土しているものを思わせる。2は安山岩製の北海道式石冠である。叩打による溝を頂部と持ち手に施す。3は凹み石である表裏対応する一対の凹みを持つ。

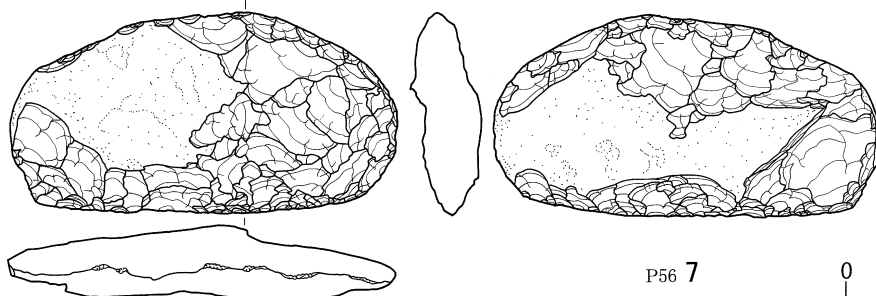
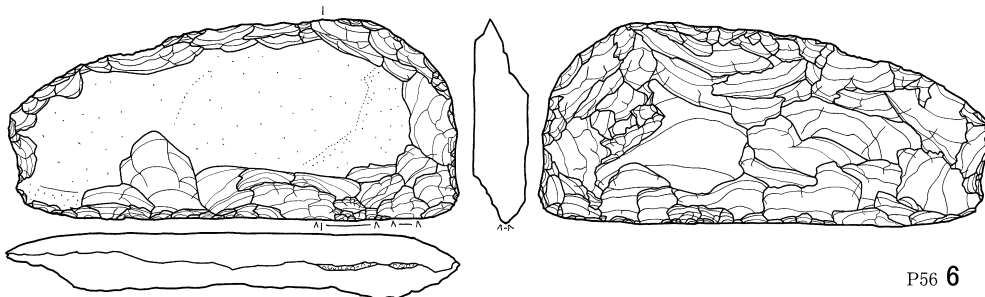


図III-3-39 遺構出土石器 P43(1~17)・P51(1~3)・P55(1~4)

P56

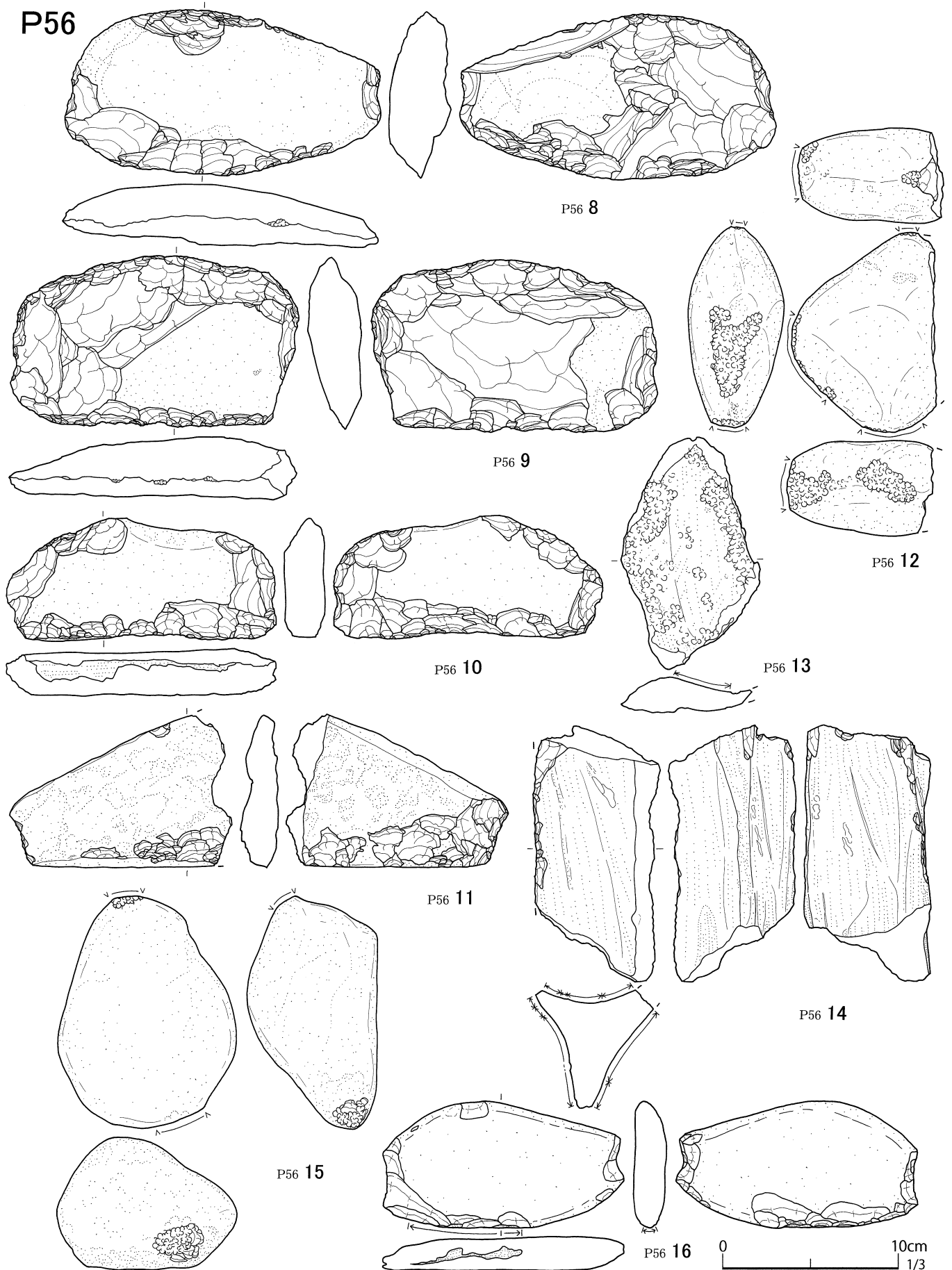


0 5cm 1/2



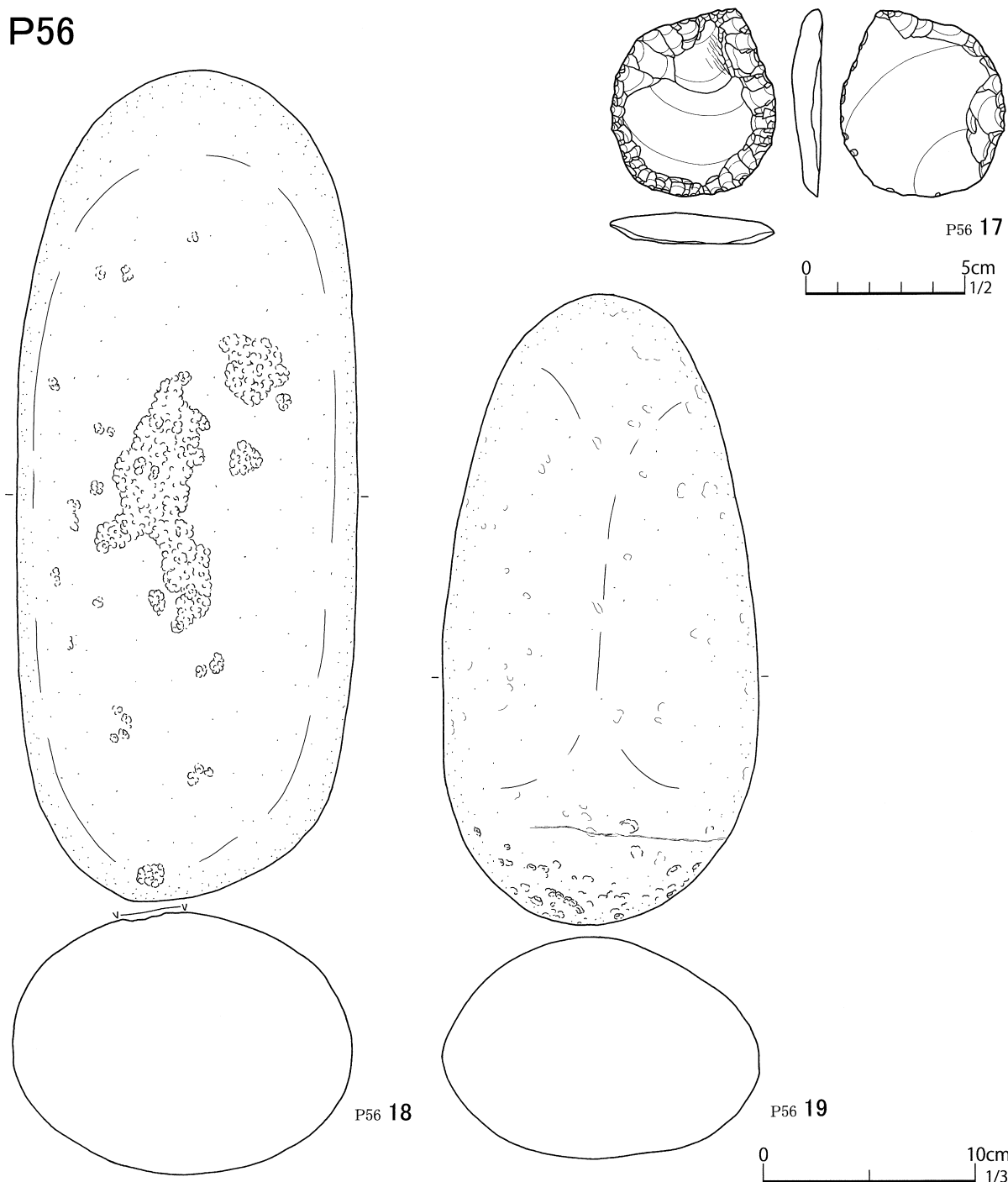
0 10cm 1/3

図Ⅲ-3-40 遺構出土石器 P56(1~7)



図III-3-41 遺構出土石器 P56(8~16)

P56



図Ⅲ-3-42 遺構出土石器 P56(17~19)

(5) 集石

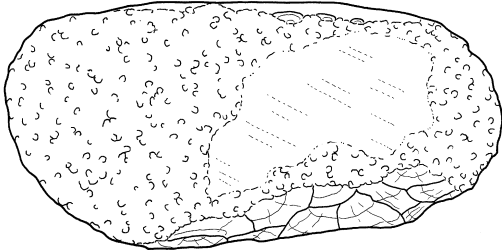
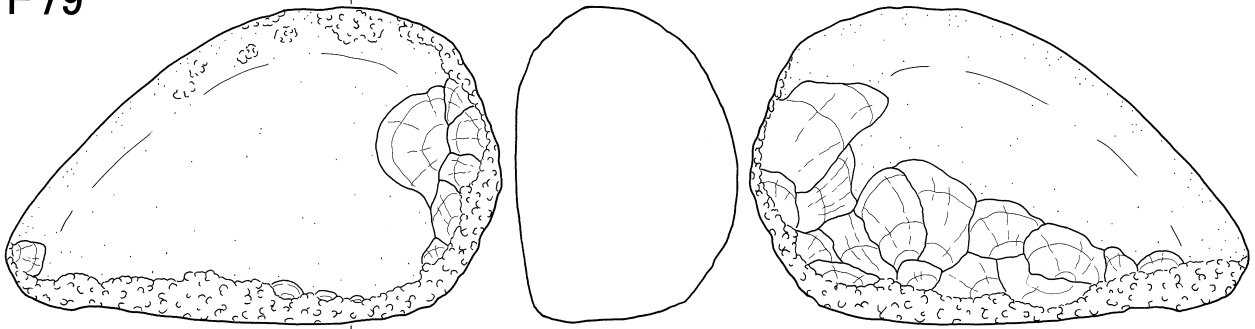
S5: 1は覆土1層からの出土で、砂岩の台石である。叩打痕がある。

(6) 遺物集中

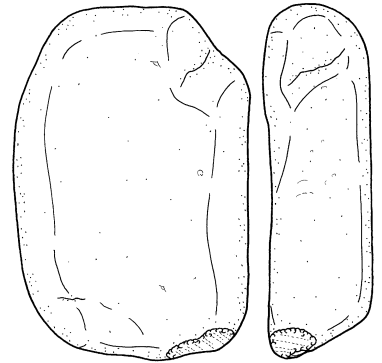
遺物集中について、抽出、図化した石器類は無い。

(大泰司)

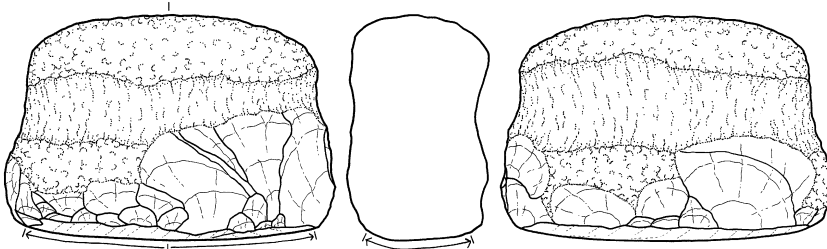
F79



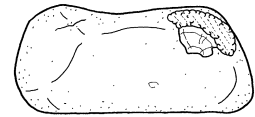
F79 1



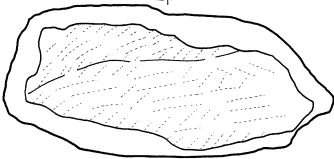
F79 3



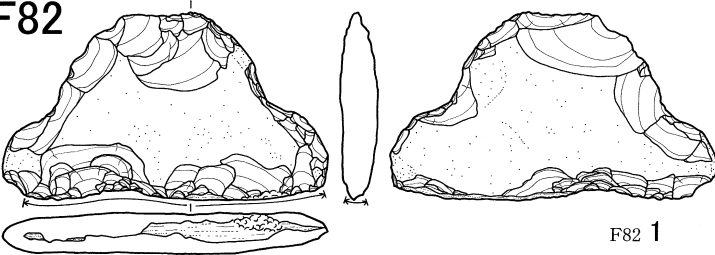
F79 2



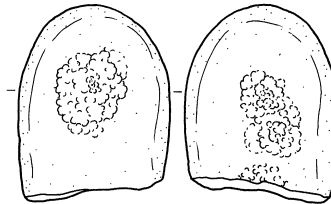
0 10cm
1/3



F82

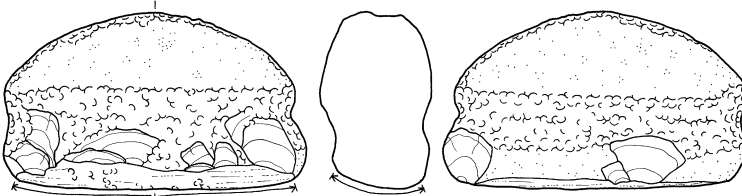


F82 1

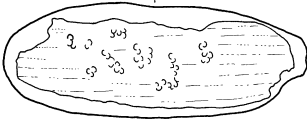


F82 3

0 10cm
1/3

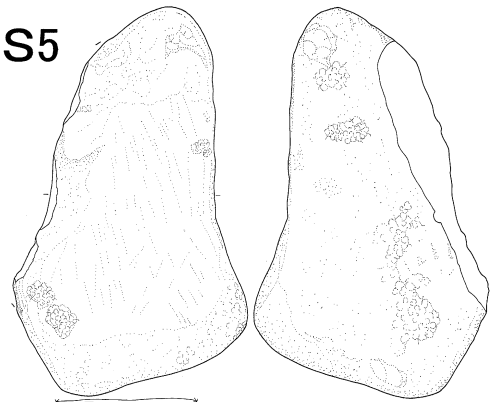


F82 2



0 10cm
1/3

S5



S5 1

0 10cm
1/6

図III-3-43 遺構出土石器 F79(1~3)・F82(1~3)・S5(1)

表Ⅲ-5 遺構出土掲載復元土器接合破片一覧

遺構名-掲載番号	復元番号	出土地点	取り上げ日	接合点数	同一個体か(未接合)	合計点数	区分	備考
H18-1	367	H18覆土1層1567	805	6		10	住居覆土	3670と接合
H18-1	367	H18覆土1層3670	831	4		10	住居覆土	1567と接合
H18-3	236	H18覆土1層1568	805	59	16	75	住居覆土	
H18-4	568	H18覆土1層4106	914	45		45	住居覆土	
H19-4	499	H19覆土2 392	828	112	12	125	住居覆土	
H19-4	499	H19覆土2 314	831	1		125	住居覆土	
H20-1	409	H20北トレンチ194	909	55	51	119	住居覆土	
H20-1	409	H20③覆土206	914	8		119	住居覆土	
H20-1	409	H20北トレンチ83	911	1		119	住居覆土	
H20-1	409	H20③覆土51	911		4	119	住居覆土	
H20-2	241	H20西ベルト覆土242	918	76	2	78	住居覆土	
H20-3	381	H20東ベルト覆土241	918	69	7	122	住居覆土	
H20-3	381	H20北トレンチ83	911	2	2	122	住居覆土	
H20-3	381	H20北トレンチ194	909	34	8	122	住居覆土	
H20-4	163	H20西ベルト覆土242	918	78	24	133	住居覆土	
H20-4	163	H20③覆土166	915	12		133	住居覆土	
H20-4	163	H20③覆土132	916	19		133	住居覆土	
H21-1	130	H21覆土7層上面南側159	911	51	11	62	住居覆土	
H21-2	116	H21覆土7層上面南側159	911	54	3	80	住居覆土	
H21-2	116	H21覆土東側壁際83	911	22	1	80	住居覆土	
H21-3	115	H21覆土7層上面北側297	911	26		26	住居覆土	
H21-4	111	H21覆土7層上面北側297	911	55		57	住居覆土	
H21-4	111	H21覆土東側下位113	911	2		57	住居覆土	
H21-5	112	H21覆土7層上面南側159	911	116	8	124	住居覆土	
H21-6	113	H21覆土7層31	915	165	98	263	住居覆土	
H21-7	114	H21覆土7層上面北側296	911	107	6	127	住居覆土	
H21-7	114	H21覆土東側下位113	911	8		127	住居覆土	
H21-7	114	H21覆土東側壁際82	911	3		127	住居覆土	
H21-7	114	H21HP11覆土312	930	2		127	住居付属遺構覆土	
H21-7	114	H21HP14覆土315	930	1		127	住居付属遺構覆土	
H21-8	271	H21覆土9層34	929	48	1	52	住居覆土	
H21-8	271	H21覆土下位ベルト部分35	925	3		52	住居覆土	
H21-9	284	H21覆土7層31	915	52	10	87	住居覆土	
H21-9	284	H21覆土上位ベルト部分37	925	4	1	87	住居覆土	
H21-9	284	H21覆土西側160	911	15		87	住居覆土	
H21-9	284	H21覆土西側161	911	4	1	87	住居覆土	
H21-10	110	H21覆土7層31	915	125	3	138	住居覆土	
H21-10	110	H21覆土東側下位113	911	7		138	住居覆土	
H21-10	110	H21覆土東側下位177	915	3		138	住居覆土	
H21-11	267	H21覆土東側上位163	911	2		100	住居覆土	
H21-11	267	H21覆土東側上位259	915	3		100	住居覆土	
H21-11	267	H21覆土7層上面北側297	911	4		100	住居覆土	
H21-11	267	H21覆土ベルト中位298	911	89	2	100	住居覆土	
H22-1	196	H22覆土5層2	911	122	43	206	住居覆土	
H22-1	196	H22トレンチ覆土44	806	27	14	206	住居覆土	
H22-2	252	H22覆土東側41	911	41		41	住居覆土	
H23-1	334	H23覆土256	908	26		26	住居覆土	
H23-2	372	H23覆土129	901	42	4	48	住居覆土	
H23-2	372	H23覆土1	821	2		48	住居覆土	
H23-3	375	H23覆土255	903	1		4	住居覆土	
H23-3	375	H23覆土227	821	1		4	住居覆土	
H23-3	375	H23トレンチ覆土87	818	1		4	住居覆土	
H23-3	375	H23トレンチ覆土72	819	1		4	住居覆土	
H23-4	210	H23覆土2	908	63	68	131	住居覆土	
H23-5	382	H23覆土3	908	64	4	68	住居覆土	
H23-6	365	H23覆土3	908	89		89	住居覆土	
H25-1	376	H25覆土1層112	903	69	39	108	住居覆土	
H26-1	496	M6-2 No.2(44Y) (実際はH26覆土2)	1028	148	120	268	盛土	
H26-2	467	M6-2 No.1(44Y) (実際はH26覆土2)	1028	238	49	287	盛土	
H26-3	508	H26床面7(実際は覆土2)	928	47	1	88	住居床面	
H26-3	508	H26床面1(実際は覆土2)	928	3	3	88	住居床面	
H26-3	508	H26床面3(実際は覆土2)	928	14		88	住居床面	
H26-3	508	H26床面4(実際は覆土2)	928	7		88	住居床面	
H26-3	508	H26床面5(実際は覆土2)	928	1		88	住居床面	
H26-3	508	H26床面6(実際は覆土2)	928	6		88	住居床面	

遺構名-掲載番号	復元番号	出土地点	取り上げ日	接合点数	同一個体か(未接合)	合計点数	区分	備考
H26-3	508	H26床面57(実際は覆土2)	928	1	6	88	住居床面	
H26-4	427	H26床面12(実際は覆土2)	928	105	7	115	住居床面	
H26-4	427	H26床面11(実際は覆土2)	928	1		115	住居床面	
H26-4	427	H26床面14(実際は覆土2)	928	2		115	住居床面	
H26-5	431	H26床面9(実際は覆土2)	928	117	69	186	住居床面	
H26-6	502	H26床面10(実際は覆土2)	928	23	10	38	住居床面	
H26-6	502	H26床面9(実際は覆土2)	928	5		38	住居床面	
H27-1	348	H27床面36	917	50			住居床面	
H27-2	358	H27覆土2層111	911	35		54	住居覆土	
H27-2	358	H27覆土2層160	907	13	4	54	住居覆土	
H27-2	358	H27覆土2層162	907	1	1	54	住居覆土	
H28-1	190	H28覆土3層 200	922	86	1	87	住居覆土	
H28-2	218	H28覆土1 129	922	27		39	住居覆土	
H28-2	218	H28覆土1 130	922	8		39	住居覆土	
H28-2	218	H28覆土2 137	922	4		39	住居覆土	
H29-1	30	H29覆土上位30	929	48	2	64	住居覆土	明らかに別個体の円筒下層d1式が共存した
H29-1	30	H29覆土上位135	928	9		64	住居覆土	
H29-1	30	H29覆土北側246	918	4		64	住居覆土	
H29-1	30	H29覆土南端88	929	1		64	住居覆土	
H29-2	28	H29覆土上位4	916	65	2	67	住居覆土	1点の円筒下層d1式別個体が共存した
H29-3	27	H29覆土上位1	916	72		72	住居覆土	
H29-4	26	H29覆土上位14	916	69		69	住居覆土	
H29-5	35	H29覆土上位9	916	11		212	住居覆土	
H29-5	35	H29覆土上位11	916	15	10	212	住居覆土	
H29-5	35	H29覆土上位12	916	47	74	212	住居覆土	
H29-5	35	H29覆土下位28	918	41	14	212	住居覆土	
H29-6	176	H29覆土上位5	916	40	8	54	住居覆土	
H29-6	176	H29覆土上位4	916	1		54	住居覆土	
H29-6	176	H29覆土上位158	916	1		54	住居覆土	
H29-6	176	H29覆土上位288	917		4	54	住居覆土	
H29-7	33	H29覆土上位5	916	64		68	住居覆土	
H29-7	33	H29覆土上位158	916		1	68	住居覆土	
H29-7	33	H29覆土上位285	917		1	68	住居覆土	
H29-7	33	H29覆土上位288	917		1	68	住居覆土	
H29-7	33	H29覆土北側246	918		1	68	住居覆土	
H29-8	282	H29覆土上位13	916	42		58	住居覆土	
H29-8	282	H29覆土上位9	916	11		58	住居覆土	
H29-8	282	H29覆土下位166	917	2		58	住居覆土	
H29-8	282	H29S ライントレンチ62S 243	908	1	2	58	住居覆土	
H29-9	354	H29覆土上位30	929	1		8	住居覆土	
H29-9	354	H29覆土ベルト西端87	929	3		8	住居覆土	
H29-9	354	H29覆土上位135	928	1		8	住居覆土	
H29-9	354	H29覆土上位168	929	1		8	住居覆土	
H29-9	354	H29覆土北側245	918	1		8	住居覆土	
H29-9	354	H29覆土北側246	918	1		8	住居覆土	
H29-10	88	H29覆土上位3	916	182	50	232	住居覆土	
H29-11	38	H29覆土上位2	916	190	27	217	住居覆土	
H29-12	323	H29覆土上位10	916	48		48	住居覆土	
H29-13	366	H29覆土上位6	916	14	4	36	住居覆土	
H29-13	366	H29覆土上位286	917	18		36	住居覆土	
H29-25	294	H29覆土下位18	918	28	3	81	住居覆土	
H29-25	294	M2-2 60Q62	922	47	2	81		
H29-26	295	H39覆土上位337	1013	1		33	住居覆土	
H29-26	298	H29覆土下位17	918	10	3	18	住居覆土	
H29-26	298	H29覆土上位158	916	3	1	18	住居覆土	
H29-26	298	H29覆土上位288	917	1		18	住居覆土	
H29-28	324	H29覆土下位15	918	18	3	24	住居覆土	
H29-28	324	H29覆土下位16	918	3		24	住居覆土	
H29-29	333	H29覆土下位20	918	91	35	135	住居覆土	
H29-29	333	H29覆土上位158	916	6	3	135	住居覆土	
H29-30	85	H29覆土下位19	918	123	41	164	住居覆土	
H29-31	246	H29覆土下位17	918	45	5	225	住居覆土	
H29-31	246	H29覆土下位19	918	44	131	225	住居覆土	
H29-32	119	H29覆土下位24	918	19	6	40	住居覆土	
H29-32	119	H29覆土上位158	916	15		40	住居覆土	
H29-33	98	H29覆土下位26	918	52	3	56	住居覆土	
H29-33	98	H29覆土下位27	918	1		56	住居覆土	
H29-34	171	H29覆土下位27	918	12	3	33	住居覆土	
H29-34	171	H29覆土下位29	918	3		33	住居覆土	
H29-34	171	H29覆土下位20	918	7		33	住居覆土	
H29-34	171	H29覆土下位169	929	4		33	住居覆土	
H29-34	171	H29HP12覆土359	1001	4		33	住居覆土	
H29-35	68	H29覆土下位22	918	110	42	152	盛土	
H29-36	29	H29覆土下位15	918	35	1	38	住居覆土	
H29-36	29	H29HP19覆土361	1001	2		38	住居付属遺構覆土	
H29-37	248	H29覆土最下位38	930	59	31	90	住居覆土	
H29-43	307	H29床面48	930	16	21	37	住居覆土	
H34-1	19	H34覆土2層7	910	71		71	住居覆土	

4 表

遺構名-掲載番号	復元番号	出土地点	取り上げ日	接合点数	同一個体か(未接合)	合計点数	区分	備考
H34-2	23	H34覆土2層1	909	73	3	77	住居覆土	50点ほど小碎片の同一個体
H34-2	23	H34南北トレンチ南側50	904	1		77	住居覆土	
H34-3	17	H34覆土2層8	910	95	95	95	住居覆土	
H35-1	20	H35床面6	1014	141	15	168	住居床面	
H35-1	20	H35覆土東側50	1013	3		168	住居覆土	
H35-1	20	H35覆土西側57	1007	7		168	住居覆土	
H35-1	20	M2-2 64S7	903	1		168	M2盛土	
H35-1	20	M2-2 64S8	904	1		168	M2盛土	
H35-2	31	H35床面6	1014	91		92	住居床面	
H35-2	31	H35覆土西側57	1007	1		92	住居覆土	
H36-1	157	H36覆土2層5	915	30	6	37	住居覆土	
H36-1	157	H36覆土2層4	915	1		37	住居覆土	
H36-2	360	H36覆土2層5	915	49		49	住居覆土	
H36-5	714	H36覆土2層6	915	6		32	住居覆土	
H36-5	714	M4-3 58R12	1001	2		32	盛土	
H36-5	714	M4-6 58R106	1016	22	2	32	盛土	
H36-6	726	H36覆土2層4	915	35	14	102	住居覆土	
H36-6	726	H36覆土西側58	916	33	10	102	住居覆土	
H36-6	726	M2-3 58U17	907	7	2	102	盛土	
H36-6	726	H36覆土東側57	922	1	1	102	住居覆土	
H38-2	16	H38ベルト覆土最上位62	1014	21		37	住居覆土	
H38-2	16	H38ベルト覆土最上位63	1014	16		37	住居覆土	
H38-4	18	H38覆土上位1	1005	70	13	83	住居覆土	
H38-5	134	H38覆土上位1	1005	22	3	31	住居覆土	H38覆土上部3にて一点台付きの台があるが、別個体だった。
H38-5	134	H38覆土下位東側77	1007	4		31	住居覆土	
H38-5	134	M2-2 63R26	902	1		31	盛土	
H38-5	134	M2-2 63R31	831	1		31	盛土	
H38-6	62	H38覆土上位7	1015	89		107	住居覆土	
H38-6	62	H38ベルト覆土上位59	1014	1		107	住居覆土	
H38-6	62	H38南北トレンチ106	915	9		107	住居覆土	
H38-6	62	M2-2 63Q2	911	8		107	盛土	
H38-7	100	H38覆土上位3	1005	1		69	住居覆土	
H38-7	100	H38覆土上位34	1005	1		69	住居覆土	
H38-7	100	H38覆土東側133	1013	9		69	住居覆土	
H38-7	100	H56覆土最上位50	1020	1		69	住居覆土	
H38-7	100	M2-2 62R5	827	5		69	盛土	
H38-7	100	M2-2 63R28	902	22	4	69	盛土	
H38-7	100	M2-2 63R31	831	16	2	69	盛土	
H38-7	100	M2-2 63R40	826	2		69	盛土	
H38-7	100	M2-2 62R45	902	4		69	盛土	
H38-7	100	M2-2下位 62R6	1019	1		69	盛土	
H38-7	100	M2-2下位 63R16	1013	1		69	盛土	
H38-9	394	H38覆土上位3	1005	4		28	住居覆土	
H38-9	394	H38ベルト覆土上位59	1014	2	1	28	住居覆土	
H38-9	394	H38東西トレンチ東側107	916	5		28	住居覆土	
H38-9	394	H38覆土下位東側170	1007	1		28	住居覆土	
H38-9	394	M2-2 63R26	902	10	3	28	盛土	
H38-9	394	M2-2 63Q5	902	1	1	28	盛土	
H38-13	439	H38ベルト覆土上位64	1014	56	20	100	住居覆土	
H38-13	439	H38ベルト覆土上位59	1014	9	11	100	住居覆土	
H39-2	392	H39覆土上位337	1013	37	5	392	住居覆土	
H39-2	392	H39東側覆土下位166	1014	1		392	住居覆土	
H39-2	392	H39ベルト覆土2層直下189	1014	10		392	住居覆土	
H39-2	392	H39覆土上位336	1013	17	1	392	住居覆土	
H39-2	392	H39覆土東側261	1014	1		392	住居覆土	
H39-3	71	H39覆土最上位22	1008	154	74	242	住居覆土	
H39-3	71	H39覆土上位337	1013	6		242	住居覆土	
H39-3	71	H39覆土上位365	1005	8		242	住居覆土	
H39-7	422	H39覆土上位7	918	21	15	40	住居覆土	
H39-7	422	H39覆土南側313	922	1	2	40	住居覆土	
H39-7	422	H39覆土上位337	1013	1		40	住居覆土	
H39-11	168	H39覆土上位2	918	117	37	154	住居覆土	
H39-15	399	H39覆土上位5	918	33	15	50	住居覆土	
H39-15	399	H39ベルト覆土上位155	1014	1		50	住居覆土	
H39-15	399	H39ベルト覆土上位150	1015	1		50	住居覆土	
H39-16	95	H39覆土上位16	1005	85	9	131	住居覆土	
H39-16	95	H39覆土上位105	1006	22	15	131	住居覆土	
H39-17	52	H39覆土最上位23	1008	128	17	145	住居覆土	
H39-18	429	H39覆土上位3	918	137	69	218	住居覆土	
H39-18	429	M1 62U3	826	10		218	盛土	
H39-18	429	M1 62U4	825	2		218	盛土	

遺構名-掲載番号	復元番号	出土地点	取り上げ日	接合点数	同一個体か(未接合)	合計点数	区分	備考
H39-19	295	H39覆土上位21	1005	8		33	住居覆土	
H39-19	295	H39覆土上位17	1005	14		33	住居覆土	
H39-19	295	H39覆土上位18	1005	6		33	住居覆土	
H39-19	295	H39覆土下位東側337	1013	1		33	住居覆土	
H39-19	295	H39覆土下位東側366	1005	8		33	住居覆土	
H39-20	481	H39覆土上位17	1005	1	6	348	住居覆土	
H39-20	481	H39覆土上位21	1005	32	57	348	住居覆土	
H39-20	481	H39ベルト覆土2層直下189	1014	61	191	348	住居覆土	
H39-21	108	H39覆土上位16	1005	135	13	160	住居覆土	
H39-21	108	H39覆土1層407	1005	13		160	住居覆土	
H39-22	401	H39覆土上位1	918	56	26	85	住居覆土	
H39-22	401	H39覆土北側上位339	918	1	1	85	住居覆土	
H39-22	401	H39覆土南側313	922	1	1	85	住居覆土	
H39-23	174	H39覆土上位11	918	93	40	144	住居覆土	
H39-23	174	H39覆土1層407	1005	9	9	144	住居覆土	
H39-23	174	H39覆土上位107	1006	1		144	住居覆土	
H39-23	174	M4-3 61R43	930	1		144	盛土	
H39-24	442	H39覆土上位9	918	10	4	101	住居覆土	
H39-24	442	H39覆土上位10	918	25	20	101	住居覆土	
H39-24	442	H39ベルト覆土上位260	1014	7	3	101	住居覆土	
H39-24	442	H39ベルト覆土最上位150	1015	1		101	住居覆土	
H39-24	442	H39ベルト覆土最上位262	1014	1		101	住居覆土	
H39-24	442	H39覆土南側313	922	2		101	住居覆土	
H39-24	442	H39覆土南側314	922	12	1	101	住居覆土	
H39-24	442	M1 62U3	826	1		101	盛土	
H39-24	442	M1 62U5	819	1		101	盛土	
H39-24	442	M2-2 62U2	831	9	2	101	盛土	
H39-24	442	H39覆土壁際288	1024	1		101	住居覆土	
H39-24	442	H39覆土東側106	1007	1		101	住居覆土	
H39-25	49	H39覆土北側上位12	918	120		128	住居覆土	
H39-25	49	H39覆土北側上位339	918	8		128	住居覆土	
H39-26	50	H39覆土2層直下25	1014	76	17	93	住居覆土	展開写真に下下とあるが下下(直下)の間違い
H39-27	317	H39覆土上位14	1005	56	8	75	住居覆土	
H39-27	317	H39覆土下位26	1014	3		75	住居覆土	
H39-27	317	H39覆土2層直下184	1014	3		75	住居覆土	
H39-27	317	H39ベルト覆土2層直下187	1014	1		75	住居覆土	
H39-27	317	H39覆土上位17	1005	2		75	住居覆土	
H39-28	121	H39覆土上位9	918	3		49	住居覆土	
H39-28	121	H39ベルト覆土上位126	1014	4		49	住居覆土	
H39-28	121	H39ベルト覆土最上位262	1014	6		49	住居覆土	
H39-28	121	H39覆土南側313	922	1		49	住居覆土	
H39-28	121	H39覆土南側314	922	11	1	49	住居覆土	
H39-28	121	H39東西トレンチ西側408	1005	1		49	住居覆土	
H39-28	121	M1 61U6	828	6		49	盛土	
H39-28	121	M1 61U13	819	1		49	盛土	
H39-28	121	M2-2 62U2	831	9	1	49	盛土	
H39-28	121	M1 62U3	826	3		49	盛土	
H39-28	121	M1 62U4	825	1		49	盛土	
H39-28	121	M2-2 63T3	821	1		49	盛土	
H39-29	59	H39覆土上位337	1013	35	4	39	住居覆土	
H39-31	400	H39覆土北側上位12	918	46	27	73	住居覆土	関連拓本あり
H39-32	126	H39覆土上位13	1005	23	45	123	住居覆土	
H39-32	126	H39ベルト覆土中位404	1015	14		123	住居覆土	
H39-32	126	H39覆土上位365	1005	17		123	住居覆土	
H39-32	126	H39覆土下位東側366	1005	7		123	住居覆土	
H39-32	126	H39覆土2層直下387	1015	11		123	住居覆土	
H39-32	126	H39覆土2層直下184	1014	6		123	住居覆土	
H39-33	423	H39覆土上位20	1005	48	11	59	住居覆土	
H39-34	416	H39ベルト覆土2層直下188	1014	65	18	85	住居覆土	
H39-34	416	H39覆土下位東側366	1005	1		85	住居覆土	
H39-34	416	H39覆土下位152	1015	1		85	住居覆土	
H39-35	255	H39ベルト覆土2層直下187	1014	56	13	110	住居覆土	
H39-35	255	H39覆土北側上位339	918	33		110	住居覆土	
H39-35	255	H39覆土上位365	1005	5		110	住居覆土	
H39-35	255	H39覆土上位14	1005	3		110	住居覆土	
H39-41	413	H39覆土2層直下186	1014	59	1	69	住居覆土	
H39-41	413	H39覆土上位107	1006	5	1	69	住居覆土	
H39-41	413	H39覆土南側313	922	3		69	住居覆土	
H39-42	122	H39覆土上位24	1014	7		37	住居覆土	
H39-42	122	H39覆土ベルト覆土下位157	1014	1		37	住居覆土	
H39-42	122	H39覆土ベルト覆土中位158	1016	1		37	住居覆土	
H39-42	122	H39南北トレンチ北側229	918	2		37	住居覆土	
H39-42	122	H39覆土東側261	1014	1		37	住居覆土	
H39-42	122	H39覆土上位338	1013	9	2	37	住居覆土	
H39-42	122	H39覆土上位406	1015	14		37	住居覆土	
H39-43	281	H39覆土上位19	1005	36	10	53	住居覆土	
H39-43	281	H39覆土上位107	1006	2	5	53	住居覆土	
H39-48	61	H39覆土上位15	1005	36		87	住居覆土	
H39-48	61	H39覆土上位365	1005	46	5	87	住居覆土	
H39-49	123	H39覆土下位35	1019	34	6	40	住居覆土	
H39-50	51	H39覆土下位31	1015	149	9	158	住居覆土	
H39-51	57	H39覆土中位32	1015	122	5	138	住居覆土	
H39-51	57	H39ベルト覆土上位405	1015	9		138	住居覆土	
H39-51	57	H39ベルト覆土下位108	1019	2		138	住居覆土	
H39-52	86	H39覆土下位26	918	125	143	268	住居覆土	
H39-53	179	H39覆土下位152	1015	1		153	住居覆土	
H39-53	179	H39覆土上位365	1005	2		153	住居覆土	

Ⅲ 遺構の調査と出土遺物

遺構名-掲載番号	復元番号	出土地点	取り上げ日	接合点数	同一個体か(未接合)	合計点数	区分	備考
H39-53	179	H39覆土下位33	1019	51	19	153	住居覆土	
H39-53	179	H39覆土下位27	1014	22	4	153	住居覆土	
H39-53	179	H39覆土下位35	1019	32	1	153	住居覆土	
H39-53	179	H21覆土7層上面中央157	911	1		153	住居覆土	
H39-53	179	H39覆土下位34	1019	17	2	153	住居覆土	
H39-53	179	H39覆土下位28	1014		1	153	住居覆土	
H39-55	482	H39覆土下位28	1014	13		15	住居覆土	
H39-55	482	H39覆土下位37	1019	2		15	住居覆土	
H39-56	257	H39覆土下位39	1019	69	8	82	住居覆土	
H39-56	257	H39覆土下位299	1020	3		82	住居覆土	
H39-56	257	M2-2 60T36	922	2		82	盛土	
H39-63	72	H39覆土最下位40	1020	77	16	95	住居覆土	
H39-63	72	H39覆土最下位41	1020	2		95	住居覆土	
H39-64	56	H39覆土最下位41	1020	112	9	122	住居覆土	
H39-64	56	H39覆土下位299	1020	1		122	住居覆土	
H39-65	309	H39覆土最下位42	1020	32	7	97	住居覆土	
H39-65	309	H39覆土下位38	1019	30		97	住居覆土	
H39-65	309	H39南北トレンチ北側229	918	12		97	住居覆土	
H39-65	309	H39覆土下位202	1019	2		97	住居覆土	
H39-65	309	H39覆土下位152	1015	8		97	住居覆土	
H39-65	309	H39ベルト覆土167	1016	1		97	住居覆土	
H39-65	309	H39覆土下位299	1020	5		97	住居覆土	
H41-1	362	H41ベルト覆土上位66	1020	100		100	盛土	
H41-2	434	H41トレンチ70	925	61	55	116	住居覆土	
H41-3	461	H41ベルト覆土上位68	1020	74	120	195	住居覆土	
H41-3	461	H41西トレンチ71	1005		1		住居覆土	
H41-3	462	M4-6 58S71	1007	27		27	盛土	
H41-4	390	H41ベルト覆土上位65	1020	98	192	290	住居覆土	
H41-5	373	H41ベルト覆土上位65	1020	29	14	43	住居覆土	
H41-6	444	H41ベルト覆土上位67	1020	55	6	64	住居覆土	
H41-6	444	H41覆土南側18	1005	2	1	64	住居覆土	
H41-7	374	H41ベルト覆土下位47	1021	95	42	137	住居覆土	
H46-1	118	H46覆土上位M4並行31	1024	58	1	99	住居覆土	
H46-1	118	H46覆土上位14	1024	38	1	99	住居覆土	
H46-1	118	H46覆土下位62	1026	1		99	住居覆土	
H46-2	359	H46覆土上位14	1024	24		35	住居覆土	
H46-2	359	H46覆土下位62	1026	8		35	住居覆土	
H46-2	359	H46覆土壁際63	1026	3		35	住居覆土	
H52-1	181	H52覆土2層55	1027	41	8	96	住居覆土	
H52-1	181	H52覆土1層56	1027	47		96	住居覆土	
H56-1	89	H56覆土最上位1	1020	50	7	57	住居覆土	
H56-2	92	H56覆土最上位4	1020	72	26	98	住居覆土	
H56-3	361	H56覆土最上位3	1020	55	33	116	住居覆土	
H56-3	361	H56覆土最上位50	1020	17	10	116	住居覆土	
H56-3	361	H56覆土最上位1	1020		1	116	住居覆土	
H56-5	93	H56覆土下位5	1020	43	1	44	住居覆土	
H56-6	91	H56覆土最上位2	1020	184	53	251	住居覆土	
H56-6	91	H29覆土北側246	918	14	251		住居覆土	
H57-4	11	H57HP3埋設土器13	1109	64	19	83	住居埋設土器	
H57-7	105	H57覆土下位89一括土器	1104	7	3	19	住居覆土	
H57-7	105	H57覆土85Q18	1020		1	19	住居覆土	
H57-7	105	H57覆土6	1110	5		19	住居覆土	
H57-7	105	Ⅲ 85P1	1019	2		19	包含層	
H57-7	105	Ⅲ 82Q3	1013		1	19	包含層	
H58-1	4	H58覆土83P121	1022	2		38	住居覆土	
H58-1	4	H58覆土上位83Q233一括土器⑩	1027	2		38	住居覆土	一括土器⑩
H58-1	4	H58覆土上位83Q235一括土器⑩	1027	29		38	住居覆土	一括土器⑩
H58-1	4	Ⅲ 83P3	1019	3		38	包含層	
H58-1	4	Ⅲ 83P4	1019	2		38	包含層	

遺構名-掲載番号	復元番号	出土地点	取り上げ日	接合点数	同一個体か(未接合)	合計点数	区分	備考
H58-2	22	H58覆土上位83Q232一括土器⑩	1027	4		34	住居覆土	一括土器⑩
H58-2	22	H58覆土上位83Q233一括土器⑩	1027	30		34	住居覆土	一括土器⑩
H58-3	9	H58覆土上位83Q240一括土器⑩	1027	26		42	住居覆土	一括土器⑩
H58-3	9	H58覆土上位83Q233一括土器⑩	1027	12		42	住居覆土	一括土器⑩
H58-3	9	H58覆土上位83Q127	1023	1		42	住居覆土	
H58-3	9	H58覆土上位83Q166	1024	2		42	住居覆土	
H58-3	9	H58覆土上位83Q239一括土器⑩	1027	1		42	住居覆土	一括土器⑩
H58-4	10	H58覆土中位84P168一括土器⑤	1028	43	11	62	住居覆土	一括土器⑤ 焼成粘土塊2点が共存
H58-4	10	H58覆土下位83Q12	1028	1		62	住居覆土	
H58-4	10	H58覆土上位83Q6一括土器⑬	1027	2		62	住居覆土	一括土器⑬
H58-4	10	H58覆土167一括土器⑤	1024	2		62	住居覆土	一括土器⑤
H58-4	10	H58覆土84P119	1026	3		62	住居覆土	
H58-5	109	H58覆土120一括土器⑦	1024	82	2	97	住居覆土	一括土器⑦
H58-5	109	H58覆土上位83Q234一括土器⑩	1027	5	2	97	住居覆土	一括土器⑩
H58-5	109	H58覆土上位83Q127	1023	2		97	住居覆土	
H58-5	109	Ⅲ 83P9	1007	2	1	97	包含層	
H58-5	109	Ⅲ 83Q5	1008		2	97	包含層	
H58-6	455	H58覆土165一括土器⑧	1024	131	95	238	住居覆土	一括土器⑧
H58-6	455	H58覆土238一括土器⑥	1024	12		238	住居覆土	一括土器⑥
H58-7	277	H58覆土238一括土器⑥	1024	20		25	住居覆土	一括土器⑥
H58-7	277	Ⅲ 83P15	1019	4	1	25	包含層	
H58-8	14	H58覆土167一括土器⑤	1024	47		47	住居覆土	一括土器⑤ 別個体の磨滅したⅢa土器が60点ほど共存した。
H58-9	12	H58覆土中位83Q237一括土器⑨	1027	56	4	60	住居覆土	一括土器⑨
H58-10	404	H58覆土上位83Q233一括土器⑩	1027	2		36	住居覆土	一括土器⑩
H58-10	404	Ⅲ 83P6	1019	1		36	包含層	
H58-10	404	Ⅲ 83P8	1006	4		36	包含層	
H58-10	404	Ⅲ 83P12	1016	16	2	36	包含層	
H58-10	404	Ⅲ 83P13	1016	2	2	36	包含層	
H58-10	404	Ⅲ 83P14	1019	1	1	36	包含層	
H58-10	404	Ⅲ 83Q2	1026	2		36	包含層	
H58-10	404	Ⅲ 83Q5	1008		3	36	包含層	
H58-11	497	H58覆土162一括土器③	1022	35	17	52	住居覆土	一括土器③
H58-12	37	H58覆土上位83Q232一括土器⑩	1027	1		73	住居覆土	一括土器⑩ 円筒下層d2式の最新または円筒上層a式古段階。上層とした。
H58-12	37	H58覆土上位83Q233一括土器⑩	1027	46	24	73	住居覆土	一括土器⑩ 円筒下層d2式の最新または円筒上層a式古段階。上層とした。
H58-12	37	H58覆土上位83Q235一括土器⑩	1027	2		73	住居覆土	一括土器⑩
H58-13	6	H58覆土84P163一括土器④	1022	28	3	31	住居覆土	一括土器④
H58-14	25	H58覆土中位83Q169一括土器⑩	1028	82	36	119	住居覆土	一括土器⑩ 当初⑩と間違えていた注記ミスか
H58-15	34	H58覆土84P119	1026	22		22	住居覆土	円筒下層d2式の最新または円筒上層a式古段階。上層とした。
H58-16	270	H58覆土上位83Q239一括土器⑩	1027	39	2	57	住居覆土	一括土器⑩
H58-16	270	H58覆土上位83Q240一括土器⑩	1027	6	9	57	住居覆土	一括土器⑩
H58-16	270	H58覆土上位83Q234一括土器⑩	1027	1		57	住居覆土	一括土器⑩
H58-17	7	H58覆土82P72	1102	37	3	40	住居覆土	
H58-18	32	H58覆土中位83Q7一括土器⑮	1028	36		36	住居覆土	円筒下層d2式の最新または円筒上層a式古段階の別個体破片3点が混っていた。一括土器⑮
H58-19	266	H58覆土84P163一括土器④	1022	11	1	29	住居覆土	一括土器④
H58-19	266	H58覆土84P161	1022	1		29	住居覆土	
H58-19	266	H58覆土2	1110	15		29	住居覆土	
H58-19	266	H58覆土84P119	1026	1		29	住居覆土	
H58-20	447	H58覆土上位83Q6一括土器⑬	1027	7		21	住居覆土	一括土器⑬
H58-20	447	H58覆土中位84Q9	1028	2	2	21	住居覆土	

4 表

遺構名-掲載番号	復元番号	出土地点	取り上げ日	接合点数	同一個体か(未接合)	合計点数	区分	備考
H58-20	447	H58覆土中位84P168一括土器⑤	1028	1		21	住居覆土	一括土器⑤
H58-20	447	H58覆土中位84Q10	1028	2	7	21	住居覆土	
H58-21	13	H58覆土上位83Q127	1023	44		61	住居覆土と包含層	
H58-21	13	H58覆土上位83Q166	1024	2		61	住居覆土と包含層	
H58-21	13	Ⅲ 83Q1	1023	1		61	住居覆土と包含層	
H58-21	13	Ⅲ 83Q5	1008	9		61	住居覆土と包含層	
H58-21	13	Ⅲ 83Q6	1008	1		61	住居覆土と包含層	
H58-21	13	Ⅲ 81Q7	1109	4		61	住居覆土と包含層	
H58-22	452	H58覆土上位83Q6一括土器⑬	1027	7		7	盛土	一括土器⑬
H58-23	260	H58覆土124一括土器②	1022	25	9	34	住居覆土	一括土器②
H60-3	287	M4-6 61Q2 (H60覆土49と接合)	1022	71	38	164	盛土	
H60-3	287	M4-6 61Q12	1026	2		164	盛土	
H60-3	287	M4-3 61Q13	1021	2	2	164	盛土	
H60-3	287	M4-6 61Q28	1022	17	18	164	盛土	
H60-3	287	H60覆土49	1026	13		164	住居覆土	
H67-1	519	H67床面66	1106	33	4	50	住居床面	
H67-1	519	H67床面65	1104	14	25	50	住居床面	
H67-1	519	H67HP1覆土1 67	1106	19	21	50	付属遺構	
P45-1	164	M2-2 63R28	902	8	2	37	盛土	
P45-1	164	M2-2 63R30	902	5		37	盛土	
P45-1	164	M2-2 63R33	831		1	37	盛土	
P45-1	164	M2-2 63R31	831	13		37	盛土	
P45-1	164	M2 62Q5	817	3		37	盛土	
P45-1	164	M1 62Q11	806	1		37	盛土	
P45-1	164	MT5 63S10	804	1		37	盛土	
P45-1	164	P45覆土2	904	1		37	土坑覆土	
P54-1	5	P54底面1	1109	127		133	土坑底面	土坑底面で潰れていた土器
P54-1	5	P54覆土3	1104	6		133	土坑覆土	取上げ時に底面のものが混じったものか
P55-1	342	P55底面6	1029	71	9	85	土坑底面	
P55-1	342	P55覆土7	1028	4	1	85	土坑覆土	
P56-1	371	P56底面9	1031	92	56	160	土坑底面	
P56-1	371	P56底面10	1031		7	160	土坑底面	
P56-1	371	P56覆土14	1031	5		160	土坑覆土	
TP7-2	443	TP7覆土1	1028	10	3	25	Tピット覆土	
TP7-2	443	TP7覆土4	1023	5	1	25	Tピット覆土	
TP7-2	443	H58覆土82P171	1022	4	2	25	住居覆土	
F65-1	269	Ⅲ 攪乱 76R4 (F65関連)	609	37	16	86	攪乱	
F65-1	269	Ⅲ 攪乱 76R5 (F65関連)	609	7	7	86	攪乱	
F65-1	269	Ⅲ 76R2	619	2	16	86	攪乱	
F65-1	269	Ⅲ 76R1	618		1	86	包含層	
F65-2	313	Ⅲ 76Q3 (F65関連)	624	23	5	28	包含層・黒色土入り込み。	
F82-1	330	F82覆土1層37	1102	2		10	焼土	
F82-1	330	サ1 45T61	1031	8		10	沢地形	
F82-2	352	F82覆土1層11	1102	25	11	36	焼土	
F82-3	350	F82覆土1層37	1102	10	1	23	焼土	点取り5.8.12と接合
F82-3	350	F82沢1層45T5	1102	2		23	焼土	
F82-3	350	F82覆土1層8	1102	1	1	23	焼土	
F82-3	350	F82沢1層45T12	1102	1		23	焼土	
F82-3	350	沢1層 45T61	1031	4	2	23	沢地形	
F82-3	350	沢1層 44S63	1031	1		23	沢地形	
F82-5	340	F82覆土2層36	1102	4		16	焼土	
F82-5	340	F82覆土1層37	1102	4		16	焼土	
F82-5	340	サ1 45T61	1031	8		16	沢地形	
F82-8	338	F82覆土2層36	1102	13		13	焼土	
F82-14	336	F82覆土1層37	1102	4		4	焼土	
F82-15	346	F82覆土2層38	1102	5		6	焼土	
F82-15	346	F82覆土1層37	1102	1		6	焼土	
F82-16	337	F82覆土1層37	1102	2		2	焼土	
F82-17	339	F82覆土2層36	1102	3		3	焼土	
F82-18	332	F82覆土2層36	1102	6		13	焼土	
F82-18	332	サ1 45T61	1031	7		13	沢地形	
F82-19	335	F82覆土2層36	1102	1		4	焼土	
F82-19	335	F82覆土1層37	1102	2	1	4	焼土	

遺構名-掲載番号	復元番号	出土地点	取り上げ日	接合点数	同一個体か(未接合)	合計点数	区分	備考
F82-20	347	F82沢1層46T1	1102	26		26	焼土	
F82-21	344	M4-3 58R100	1014	13	18	151	盛土	
F82-21	345	F82沢1層46T2	1102	7	3	10	焼土	
F82-22	356	F82沢1層45T5	1102	39	16	55	焼土	
F82-24	201	F82沢1層3	1102	29	1	30	焼土	
F82-25	202	F82沢1層6	1102	29		29	焼土	
F82-26	351	沢1層 45T61	1031	4		11	沢地形	
F82-26	351	F82覆土1層8	1102	1		11	焼土	
F82-26	351	F82覆土2層38	1102	3		11	焼土	
F82-26	351	沢1層 45S62	1031	3		11	沢地形	

表Ⅲ-6 遺構出土掲載土器破片拓影化一覧

図版番号	遺構番号	掲載番号	型式名称	拓本整理番号	分類(群と類を略)	層位	接合点数	同一個体か(未接合)	合計点数	区分	特徴
図Ⅲ-2-1	H18	2	円筒上層a式	H18-3	Ⅲa	H18覆土1層1569	57	44	101	住居覆土	28×28×10(口径×器高×底径cm)繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。磨滅著しく詳細不明。曲線的な隆帯によって口縁部を区画。口縁部区画内および口縁部文様帯直下にはL縄とR縄により矢羽根状の縄線曲線構成。いずれも幅5cm。地紋はLR縄横回転斜行縄文。胴部下半には無し。底部は微妙な上げ底で、底面はミガキにより無文。
図Ⅲ-2-1	H18	5	円筒下層d2式	H18-4	Ⅱb	H18覆土1層3311	1	0	1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はLR縄多輪絡糸体縦回転。再生土製品円形中央穿孔。
図Ⅲ-2-1	H18	6	円筒下層d2式	H18-2	Ⅱb	H18床面4207	22	29	51	住居床面	口径18cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁側は横。胴部は縦。肩部によって口縁部を区画。肩部と口唇にはLR縄側面圧痕が連続する。口縁部文様帯はLR縄線による直線構成の文様。幅4cm。区画直下には結束第二種の結束が巡る。幅1cm。地紋はLR縄多輪絡糸体縦回転。H18-1と同一個体か。
図Ⅲ-2-1	H18	7	円筒下層d2式	H18-1	Ⅱb	H18ベンチ上4243	11	9	20	住居ベンチ上	口径18cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁側は横。胴部は縦。肩部によって口縁部を区画。肩部と口唇にはLR縄側面圧痕が連続する。口縁部文様帯はLR縄線による直線構成の文様。幅4cm。区画直下には結束第二種の結束が巡る。幅1cm。地紋はLR縄多輪絡糸体縦回転。H18-2と同一個体か。
図Ⅲ-2-2	H19	1	円筒上層a式	H19-1	Ⅲa	H19覆土2層354	1	2	1	住居覆土	内面ミガキ 砂粒含む。海綿骨針少量含む。L縄線によって口縁部文様帯を加飾し、区画内にはへらによる刻突が並ぶ。
図Ⅲ-2-2	H19	2	円筒下層d式	H19-2	Ⅱb	H19覆土1層315	2	1	2	住居覆土	内面ミガキ 海綿骨針と繊維含む。地紋はサルボウ条痕を水平方向に施文したのちに、R縄で、自縄自巻を縦走。円形再生土製品の破片か。
図Ⅲ-2-2	H19	3	円筒下層b式	H19-5	Ⅱb	H19覆土2層355	1		1	住居覆土	内面ミガキ 海綿骨針と繊維、小石含む。RLR横回転斜行縄文。円形そして穿孔された再生土製品。
図Ⅲ-2-2	H19	5	円筒下層d2式	H19-3a	Ⅱb	H19覆土1層383	3	1	4	住居覆土	内面ミガキ 海綿骨針と繊維含む。肩部で口縁部文様帯を区画し、肩には半截竹管による連続刻突、口唇にはL縄側面圧痕が連続する。2本一組の結束が区画内を充填する。地紋はR縄多輪絡糸体縦回転。
図Ⅲ-2-2	H19	5		H19覆土2層328		1	住居覆土				
図Ⅲ-2-2	H19	6	円筒下層d2式古段階	H19-4	Ⅱb	H19床面79	16		16	住居床面	内面ミガキ 海綿骨針と繊維含む。肩部で口縁部文様帯を区画し、L縄線で区画内を充填する。区画直下には結束第一種羽状縄文を施す。幅はそれぞれ2.5cmと1.5cm。地紋はR縄多輪絡糸体縦回転。
図Ⅲ-2-4	H20	5	円筒下層d1式	H20-8	Ⅱb	H20西ベルト242	7	11	23	住居覆土	口径22cm。繊維含む。海綿骨針少量含む。内面ミガキ。口縁横方向。胴部縦方向。口縁部区画は磨滅により不明。幅1cm。胴部はR縄単輪絡糸体第1類を縦回転。
						H20南トレンチ66		4		住居覆土	
						H20北トレンチ194		1		住居覆土	
図Ⅲ-2-4	H20	6	円筒下層d1式	H20-16	Ⅱb	H20北側トレンチ194	26		26	住居覆土	口径16cm。内面ミガキ。口縁横方向。繊維・海綿骨針含む。口縁部にはL縄による単輪絡糸体側面圧痕4段。幅1.5cm。区画直下にはLとRの結束第一種。幅1.5cm。これは多段の帯状に3cm間隔で施す。地紋は、L縄で単輪絡糸体第1類を縦回転。
図Ⅲ-2-4	H20	7	円筒下層b2～c式	H20-10	Ⅱb	H20南トレンチ66	7	12	19	住居覆土	底径5cm。内面ミガキ。繊維・海綿骨針含む。地紋は、R縄で単輪絡糸体第1類縦回転。上げ底でミガキ無文。
図Ⅲ-2-4	H20	8	円筒下層c式	H20-15	Ⅱb	H20③区覆土51	1		1	住居覆土	口径18cm。内面ミガキ。口縁横方向。繊維・海綿骨針含む。L縄線で口縁部を区画。区画内にはサルボウ条痕その上に2本一組のL縄線。幅3cm。地紋は、L縄で単輪絡糸体第1類を縦回転。
図Ⅲ-2-4	H20	9	円筒下層d1式	H20-14	Ⅱb	H20③区覆土51	4	1	5	住居覆土	内面ミガキ。口縁横、胴部縦方向。繊維・海綿骨針含む。隆帯で口縁部を区画し、右へ引くへらによる連続刻突。幅4cm。地紋は、L縄で、擦りのたつた単輪絡糸体第1類を縦回転か、自縄自巻を縦走。
図Ⅲ-2-4	H20	10	円筒下層d1式	H20-12	Ⅱb	H20南トレンチ66	15		15	住居覆土	底径10cm。内面ミガキ。繊維・海綿骨針含む。地紋は、地紋はサルボウ条痕を水平方向に施文したのちに、R縄で、自縄自巻を縦走。上げ底で地紋と同一原体を縦回転。
図Ⅲ-2-4	H20	11	円筒下層b2～c式	H20-4	Ⅱb	H20③区覆土166	2		6	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁上横方向、その下縦方向。肩部に隆帯貼付。その上に右へ引き抜く押し引き。口縁部はLR縄縦回転横回転の上にL縄とR縄の組み合わせによる矢羽根状縄線。
						H20③区覆土51	4		住居覆土		
図Ⅲ-2-4	H20	12	円筒下層b2～c式	H20-11	Ⅱb	H20南ベルト覆土364	9	3	12	住居覆土	口径18cm。内面ミガキ。口縁横方向。胴部縦方向。繊維・海綿骨針含む。隆帯で口縁部を区画。隆帯上には縦線による連続刻突。地紋と同一原体が、区画内には胴部地紋と同じ縄文の上から、直前段反振りRLR縄線5段。幅4cm。地紋は、直前段反振りRLR縄縦回転。
図Ⅲ-2-4	H20	13	円筒下層b2～c式	H20-9	Ⅱb	H20南ベルト覆土364	12	13	25	住居覆土	底径5cm。内面ミガキ。繊維・海綿骨針含む。地紋は、RL縄で縦回転。微妙な上げ底でRL縄回転施文。
図Ⅲ-2-4	H20	14	円筒下層b2～c式	H20-13	Ⅱb	H20④区覆土266	21		30	住居覆土	繊維含む。海綿骨針少量含む。内面ミガキ。口径14cm。底径8cm。口縁横。胴は縦。肩部より口縁部を区画し、区画内には胴部地紋と同じ直前段反振りRLR縄文を縦回転させる。幅5cm。地紋は前述の縄文を模して施す。上げ底で底面はミガキにより無文。
図Ⅲ-2-5	H20	15	コッタロ～東鋸路Ⅳ式	H20-1	I b	H20①区覆土37	1		1	住居覆土	内面ミガキ 砂粒含む。地紋はR縄の組み紐状が微隆起線に伴って施される。
図Ⅲ-2-5	H20	16	東鋸路Ⅳ式	H20-3	I b	H20②区覆土296	1		1	住居覆土	内面ミガキ 砂粒含む。地紋は魚骨回転文ニシタイプ。
図Ⅲ-2-5	H20	17	東鋸路Ⅳ式	H20-2	I b	H20①区覆土117	1		1	住居覆土	内面ミガキ 砂粒含む。地紋はLR縄の単輪絡糸体回転。
図Ⅲ-2-5	H20	18	中茶路式	H20-17	I b	H20床上446②	1		1	住居覆土	内面ミガキ。横方向。砂含む。地紋は、RL縄横回転後微隆起線貼付。
図Ⅲ-2-5	H20	19	円筒下層b2～c式	H20-7	Ⅱb	H20③区床447	1	2	8	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はR縄単輪絡糸体第1類縦回転。
						H20③区覆土284	1	5		住居覆土	
図Ⅲ-2-5	H20	20	円筒下層b2～c式	H20-5	Ⅱb	H20床面8	2		2	住居床面	繊維・海綿骨針・砂含む。内面ミガキ。地紋はR縄単輪絡糸体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-5	H20	21	円筒下層b式	H20-6	Ⅱb	H20床面6	3		3	住居床面	繊維含む。海綿骨針少量含む。内面ミガキ。地紋はLRL縄横回転。底部際はR縄単輪絡糸体第1類縦回転。上げ底で無文。磨滅している。底径12cm。
図Ⅲ-2-9	H21	12	焼成粘土塊	H21-1	Ⅱb	H21覆土東側上半259	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。
図Ⅲ-2-9	H21	13	円筒下層d1式	H21-14	Ⅱb	H21覆土東側上半162	7		15	住居覆土	口径23cm。底径9cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁側は横、胴部側は縦。隆帯で口縁部を区画。その上にはへらによる右方向への押し引き。区画内にはL縄線2本一組を3段ほど。幅は2cm。R縄で、自縄自巻を縦走。
						H21覆土東側上半163	6	2		住居覆土	
図Ⅲ-2-9	H21	14	円筒下層d1式	H21-13	Ⅱb	H21覆土東側上半162	4		12	住居覆土	口径25cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁側横、胴部縦。L縄とR縄2本一組によって口縁部を区画。口唇にも施す。区画内には結束第一種羽状縄文。区画直下にも同様。幅は4cmと1.5cm。R縄で2本一組の単輪絡糸体第1類を縦回転。
						H21覆土東側上半163	8			住居覆土	
図Ⅲ-2-9	H21	15	円筒下層d1式	H21-8	Ⅱb	H21覆土東側壁82	1		18	住居覆土	口径16cm。繊維・砂含む。内面ミガキ。L縄とR縄2本一組によって口縁部を区画。区画内は2段の結節回転。幅は2cm。L縄で単輪絡糸体第1類を縦回転。
図Ⅲ-2-9	H21	16	円筒下層d1式	H21-17	Ⅱb	H21覆土上部東側158	6		6	住居覆土	底径10cm。繊維・砂含む。海綿骨針少量含む。内面ミガキ。地紋は、R縄で、自縄自巻を縦走。微妙な上げ底で、ミガキにより無文。
図Ⅲ-2-9	H21	17	円筒下層d1式	H21-11	Ⅱb	H21覆土東側上半162	7		8	住居覆土	口径23cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁側は横、胴部側は縦。口縁部区画内にはL縄線を6段。幅は3cm。R縄で、自縄自巻を縦走。区画直下および帯状に結束第一種羽状縄文を2段一組で施す。
						H21覆土東側上半163	1			住居覆土	
図Ⅲ-2-9	H21	18	円筒下層d1式	H21-4	Ⅱb	H21覆土東側壁83	2		2	住居覆土	口径19cm。繊維・海綿骨針・白色砂含む。内面ミガキ。磨滅著しい。L縄とR縄2本一組によって口縁部を区画し、同様の縄線は口唇部も施す。区画内には結束第一種羽状縄文。幅は3cm。区画直下にも同様。R縄で、自縄自巻を縦走。2対の補修孔を中央に有し、縁辺を方形に成形。再生土製品か。
図Ⅲ-2-9	H21	19	円筒下層c式	H21-3	Ⅱb	H21覆土東側壁83	4		4	住居覆土	口径19cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁側は横、胴部側は縦。肩部によって区画する。L縄とR縄2本一組によって直線構成の文様。幅は4.5cm。地紋はRLとRR縄による合巻。
図Ⅲ-2-9	H21	20	円筒下層d1式	H21-5	Ⅱb	H21覆土東側下位113	2		3	住居覆土	口径18cm。繊維含む。海綿骨針少量含む。内面ミガキ。口縁側は横、胴部側は縦。口縁部区画は磨滅して不明。幅は2cm。R縄で、自縄自巻を縦走。
						H21覆土東側上位163	1			住居覆土	
						H21覆土9層33	2			住居覆土	
						H21覆土上位ベルト37	2			住居覆土	
						H21覆土下位ベルト35	5			住居覆土	
						H21覆土東側下半113	33			住居覆土	
図Ⅲ-2-10	H21	21	円筒下層d1式	H21-22	Ⅱb	H21覆土7層30	14		61	住居覆土	口径20cm。砂含む。内面ミガキ。口縁側は横、胴部側は縦。肩部によって区画する。L縄とR縄2本一組の矢羽根状縄線を口縁部の区画と口唇に施す。区画内とその直下には結束第一種羽状縄文を施す。幅はそれぞれ2cm。地紋は、R縄で、自縄自巻を縦走。
						H21東西トレンチ西側136	3			住居覆土	
						H21覆土西側64	1			住居覆土	
										住居覆土	
図Ⅲ-2-10	H21	22/23/24/25	焼成粘土塊	H21-26	Ⅱb	H21覆土東側下半113	4		4	住居覆土	繊維・海綿骨針・白色砂含む。

4 表

図版番号	遺構番号	掲載番号	型式名称	拓本整理番号	分類(群と類を略)	層位	接合点数	同一個体か(未接合)	合計点数	区分	特徴
図Ⅲ-2-10	H21	26	円筒下層d1式	H21-16	Ⅱb	H21東西トレンチ東側270	11	4	54	住居覆土	口径20cm。繊維・砂含む。海綿骨針少量含む。内面縦ミガキ。口縁横、胴部縦方向。薄い肩部によって口縁部を区画。肩の直情には円形突起が連続する。区画内にはL縄線により菱形を基調とした直線構成の文様。所々縦方向の区画。幅は3cm。R縄単軸絡糸体第1類縦回転。
						H21覆土上部東側158	2	14	住居覆土		
						H21覆土31	2		住居覆土		
						H21覆土上部中央157		5	住居覆土		
						H21覆土上部東側162		8	住居覆土		
図Ⅲ-2-10	H21	27	円筒下層d1式	H21-15	Ⅱb	H21Aトレンチ269		8	住居覆土	繊維・砂含む。磨滅著しい。内面ミガキ。地紋はR縄単軸絡糸体第1類を縦回転。帯状に結束第一種羽状縄文が施される。肩部によって区切られた口縁部文様帯は磨滅により施文等不明。底部は上げ底でミガキにより無文。	
						H21覆土7層30	13	59	117		住居覆土
						H21覆土上位ベルト36	14	29	住居覆土		
図Ⅲ-2-10	H21	28	円筒下層d1式古段階古	H21-23	Ⅱb	H21覆土東側下位113		1	住居覆土	口径22cm。底径11cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁側は横。胴部はゆるい肩によって口縁部を区画する。口縁部区画内は直前段反撥りRRL縄文。地紋はLR縄単軸絡糸体第1類縦回転。微妙な上げ底でミガキにより無文。	
						H21覆土7層28		1	住居覆土		
図Ⅲ-2-11	H21	29	円筒下層b式	H21-25	Ⅱb	H21覆土下位ベルト35	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面縦ミガキ。R縄単軸絡糸体第1類縦回転。縁辺を調整。再生土製品。
図Ⅲ-2-11	H21	30	円筒下層b2～c式	H21-7	Ⅱb	H21覆土7層上部北側297	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面縦ミガキ。R単軸絡糸体第1類縦回転。ほぼ中央に穿孔。縁辺円形に打ち欠きと擦り切りによって成形。
図Ⅲ-2-11	H21	31	円筒下層d1式	H21-21	Ⅱb	H21覆土上部南側159	6		6	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面縦ミガキ。地紋は、自縄自巻を縦走。口縁部に結束第一種羽状縄文、幅3cm。
図Ⅲ-2-11	H21	32	円筒下層d1式	H21-2	Ⅱb	H21覆土下位ベルト35	4	8	58	住居覆土	口径21cm。底径11cm。砂含む。内面ミガキ。磨滅著しい。口縁部区画内はL縄とR縄の矢羽根状にした2本一組によって直線構成の文様。地紋はL縄単軸絡糸体第1類縦回転。微妙な上げ底でミガキにより無文。
						H21覆土9層32	18	19	住居覆土		
						H21覆土Aトレンチ269		9	住居覆土		
図Ⅲ-2-11	H21	33	円筒下層d1式	H21-27	Ⅱb	H21覆土7層上部中央157	42	138	180	住居覆土	口径15cm。底径12cm。器高33cm。繊維・白色砂含む。内面ミガキ。口縁側は横。胴部側は縦。口縁部区画内はL縄とR縄2本一組によって直線構成の文様。地紋はR縄単軸絡糸体第1類縦回転。微妙な上げ底でミガキにより無文。多段の帯状に結束第一種羽状縄文。
図Ⅲ-2-11	H21	34	円筒下層d1式	H21-24	Ⅱb	H21覆土上位ベルト178	3		3	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面縦ミガキ。R縄文を縦走。微妙な上げ底で、ミガキにより無文。
図Ⅲ-2-11	H21	35	円筒下層d1式	H21-18	Ⅱb	H21覆土上部南側159	5		5	住居覆土	胴回り36cm。繊維・海綿骨針含む。内面縦ミガキ。単軸絡糸体第1類縦回転。磨滅により擦りは不明。
図Ⅲ-2-12	H21	36	円筒下層b式	H21-9	Ⅱb	H21覆土9層28	4	10	33	住居覆土	口径20cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。隆帯によって口縁部を区画。区画内は胴部地紋と連続するLRL縄横回転。幅は5.5cm。
						H21覆土西側160	3	4	住居覆土		
						H21覆土9層29		12	住居覆土		
図Ⅲ-2-12	H21	37	円筒下層d1式	H21-19	Ⅱb	H21Aトレンチ269	2		2	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面縦ミガキ。R縄で、自縄自巻を縦走。帯状に結束第一種羽状縄文。
図Ⅲ-2-12	H21	38	円筒下層d1式	H21-10	Ⅱb	H21覆土西側156	14	14	28	住居覆土	口径20cm。繊維・海綿骨針・白色砂含む。内面ミガキ。磨滅。口縁部区画内は結束第一種羽状縄文を2段。幅は4cm。R縄で、自縄自巻を縦走。
図Ⅲ-2-12	H21	39	円筒下層d1式	H21-20	Ⅱb	H21Aトレンチ269	1		1	住居覆土	繊維・白色砂含む。内面ミガキ。R縄で、自縄自巻を縦走。上げ底で、ミガキにより無文。
図Ⅲ-2-12	H21	40	円筒下層c式	H21-6	Ⅱb	H21床面2	1	1	1	住居床面	口径17cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁側は横。口縁部の区画はLR縄線2本一組を多段。
図Ⅲ-2-13	H22	3	円筒下層b式	H22-1	Ⅱb	H22覆土6-8	1	1	4	住居覆土	RL単軸絡糸体第1類縦回転LR結節2段帯状
						H22覆土E10		2		住居覆土	
図Ⅲ-2-13	H22	4	円筒下層d1式	H22-3	Ⅱb	H22覆土W11	2		2	住居覆土	R縄で、自縄自巻を縦走。口縁部にはLとR縄で矢羽根状の単軸絡糸体を横回転。その直下に結束第一種羽状縄文。
図Ⅲ-2-13	H22	5	円筒下層b式	H22-2	Ⅱb	H22覆土W11	1		1	住居覆土	R縄単軸絡糸体第1類縦回転その上から単軸絡糸体第5類を帯状に施す。
図Ⅲ-2-13	H22	6	円筒下層d1式	H22-4	Ⅱb	H22HP-2覆土87	1		1	住居覆土	R縄で、自縄自巻を縦走。加えて結束第一種羽状縄文
図Ⅲ-2-15	H23	7	円筒下層d1式	H23-8	Ⅱb	H23覆土1	3		3	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁～胴上半横。下は縦。LとR縄による矢羽根状縄線2段を口縁部に施し直下にはL縄が結節を2段施す。幅はそれぞれ1cmと1.5cm。地紋は反撥りLRL縄を横回転。
図Ⅲ-2-15	H23	8	円筒下層d1式	H23-9	Ⅱb	H23覆土2	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁～胴上半横。下は縦。L縄線7段ほどを口縁部に施し、同一縄線で縦区画も施す。幅は1.5cmほど。地紋はR縄単軸絡糸体第1類を縦回転。
図Ⅲ-2-15	H23	9	円筒下層d1式	H23-2	Ⅱb	H23覆土3	3		3	住居覆土	内面ミガキ。繊維・海綿骨針含む。R縄で、自縄自巻を縦走。
図Ⅲ-2-15	H23	10	焼成粘土塊	H23-15	Ⅱb	H23覆土トレンチ87④	1		1	住居覆土	繊維・白色砂含む。
図Ⅲ-2-15	H23	11	円筒下層d1式	H23-12	Ⅱb	H23覆土1	3	7	28	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁～胴上部は横。胴下部は縦。結束第一種羽状縄文2段を口縁部に施す。幅は3cm。地紋はR縄で、自縄自巻を縦走。
						H23覆土2	4	3	住居覆土		
						H23覆土71		1	住居覆土		
						H23覆土トレンチ72		8	住居覆土		
						H23覆土227		1	住居覆土		
図Ⅲ-2-15	H23	12	円筒下層d2式	H23-1	Ⅱb	H23覆土3	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。小石少量含む。内面ミガキ。口縁～胴上半横。波頂部に対応して穿孔あり。L縄線で直線構成の文様を口縁部に施す。幅は3cmほど。地紋はL縄単軸絡糸体第1類を縦回転。
図Ⅲ-2-15	H23	13	円筒下層d2式	H23-3	Ⅱb	H23覆土3	5		5	住居覆土	底径8cm。内面ミガキ。縦方向。繊維・海綿骨針含む。L縄で、単軸絡糸体第4類を縦回転。微妙な上げ底でミガキにより無文。
図Ⅲ-2-15	H23	14	円筒下層d1式	H23-10	Ⅱb	H23覆土4	4		9	住居覆土	内面ミガキ。繊維・海綿骨針含む。R縄で、自縄自巻を縦走。
						H23覆土トレンチ72	1	1		住居覆土	
						H23覆土トレンチ86		3		住居覆土	
図Ⅲ-2-15	H23	15	円筒下層d1式	H23-5	Ⅱb	H23覆土228	2		2	住居覆土	口径20cm。内面ミガキ。口縁横、胴部縦方向。繊維含む。口縁にはL縄線3本を施す。区画直下にはR結節を回転。幅はそれぞれ1cmと1cm。地紋はR縄で、自縄自巻を縦走。下に羽状縄文か。
図Ⅲ-2-15	H23	16	円筒下層d1式	H23-11	Ⅱb	H23覆土4	14		16	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁横、胴は縦。L縄線による山形文を口縁部に施し直下にはL縄が結束第一種羽状縄文を施す。幅はそれぞれ3cmと1cm。山形文は双線の波頂部に対応する。地紋はR縄で、自縄自巻を縦走。
						H23覆土トレンチ86	2		住居覆土		
図Ⅲ-2-15	H23	17	コッタロ式なしし中茶路式	H23-7	I b	H23覆土229	1		1	住居覆土	砂粒含む。内面ミガキ。地紋はR縄圧痕を微隆起線の間に連続。
図Ⅲ-2-15	H23	18	円筒下層b式	H23-13	Ⅱb	H23覆土129	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はL縄で、単軸絡糸体第1類を縦回転。再生土製品。
図Ⅲ-2-15	H23	19	円筒下層d1式	H23-4	Ⅱb	H23覆土229	2		3	住居覆土	口径28cm。内面ミガキ。口縁横、胴部縦方向。繊維・海綿骨針・砂粒含む。隆帯で口縁部を区画し、口縁にはL縄線3本を施す。区画直下には結束第一種羽状縄文幅はそれぞれ2.5cmと1.5cm。地紋はL縄で、単軸絡糸体第1類を縦回転。4cm間隔で結束第一種羽状縄文。口唇にL縄文。結束と同一原材か。
						H23覆土255	1		住居覆土		
図Ⅲ-2-15	H23	20	円筒下層d1式	H23-6	Ⅱb	H23覆土256	11		12	住居覆土	底径10cm。内面ミガキ。口縁横、胴部縦方向。繊維・海綿骨針含む。地紋はL縄で、単軸絡糸体第1類を縦回転。微妙な上げ底で、ミガキにより無文。
						H23覆土227	1		住居覆土		
図Ⅲ-2-15	H23	21	円筒下層d1式	H23-14	Ⅱb	H23HP2覆土259	1		1	付属遺構覆土	繊維・海綿骨針・砂含む。内面ミガキ。R縄で、自縄自巻を縦走。結束第一種羽状縄文と組み合う。
図Ⅲ-2-16	H24	1	サイベ沢Ⅶ式	H24-5	Ⅲa	H24床面32	1		1	住居床面	内面ミガキ。口唇にL縄線。隆帯上にL縄線。突起の上面観三角形。
図Ⅲ-2-16	H24	2	サイベ沢Ⅶ式	H24-6	Ⅲa	H24覆土2層98	1		1	住居覆土	繊維・砂含む。隆帯上にL縄線。突起の上面観三角形。隆帯上に指頭状痕。LR縄結節あり。
図Ⅲ-2-16	H24	3	サイベ沢Ⅶ式	H24-7	Ⅲa	H24覆土2層98	1		1	住居覆土	海綿骨針含む。内面ミガキ。隆帯上にRL縄線。円形貼り付け。
図Ⅲ-2-16	H24	4	サイベ沢Ⅶ式	H24-9	Ⅲa	H24覆土2層98	2		2	住居覆土	海綿骨針・砂含む。内面ミガキ。RL縄結節あり。
図Ⅲ-2-16	H24	5	円筒下層d式	H24-4	Ⅱb	H24覆土1層176	1	1	3	住居覆土	砂含む。内面ミガキ。地紋はL縄で、隆帯上にL縄線。地紋はRL縄横回転。
図Ⅲ-2-16	H24	6	サイベ沢Ⅶ式	H24-8	Ⅲa	H24覆土2層148	1		1	住居覆土	
図Ⅲ-2-16	H24	6	サイベ沢Ⅶ式	H24-8	Ⅲa	H24覆土2層98	1		1	住居覆土	海綿骨針微量含む。内面ミガキ。沈線文。結束第二種羽状縄文地紋か。

Ⅲ 遺構の調査と出土遺物

図版番号	遺構番号	掲載番号	型式名称	拓本整理番号	分類(群と類を略)	層位	接合点数	同一個体か(未接合)	合計点数	区分	特徴
図Ⅲ-2-16	H24	7	大安在B式	H24-10	Ⅲb	H24覆土2層147	4	5	19	住居覆土	白色小石含む。内面ミガキ調整。LR縄文横走。沈線と刺突によって加飾。隆帯上、区画内に刺突列。
H24覆土2層134						2	4		住居覆土		
H24覆土1層176							4		住居覆土		
図Ⅲ-2-16	H24a	8	円筒下層d1式	H24-2	Ⅱb	H24覆土2層98	9		10	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。底径11cm。内面ミガキ。地紋はR縄で、自縄自巻を縦走。微妙な上げ底。ミガキにより無文。
図Ⅲ-2-16						H24覆土2層148	1		住居覆土		
図Ⅲ-2-16	H24	9	円筒下層d1式	H24-3	Ⅱb	H24覆土2層98	1		1	住居覆土	繊維・砂含む。海綿骨針少量含む。底径13cm。内面ミガキ。地紋はR縄で、自縄自巻を回転。上げ底。ミガキにより無文。
図Ⅲ-2-16	H24	10	円筒下層b式～下層c式	H24-11	Ⅱb	H24覆土2層98	1		1	住居覆土	海綿骨針・砂含む。内面ミガキ。底面地紋直前段反摺りLR縄。微妙な上げ底。
図Ⅲ-2-16						H24覆土2層98	2		3	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はL縄単軸絡糸体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-17	H25	2	円筒下層c式	H25-1	Ⅱb	H24床面34	1			住居床面	
						H25覆土2層86	5		6	住居覆土	口径36cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁側は横。胴部は縦。隆帯によって口縁部を区画。区画内にはL縄側面圧痕の連続により鋸歯状の文様が施される。幅5cm。地紋は直前段反摺りLR縄。
図Ⅲ-2-17	H25	3	円筒下層c式	H25-2	Ⅱb	H25覆土1層88	3		3	住居覆土	口径15cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁側は横。胴部によって口縁部を区画。区画内にはR縄側面圧痕により変形調整線構成の文様。幅4cm。地紋はL縄単軸絡糸体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-17						H25覆土1層89	2		2	住居覆土	口径24cm。繊維含む。海綿骨針少量含む。内面ミガキ。磨滅著しい。口縁部には直前段反摺りLR縄文を横走させる。その上にR縄とL縄2本一組による縄線施文。
図Ⅲ-2-17	H25	5	サイベ沢VII式	H25-9	Ⅲa	H25覆土1層85	1		1	住居覆土	砂含む。内面ミガキ。隆帯上にはR縄線。
図Ⅲ-2-17	H25	6	円筒下層c式	H25-4	Ⅱb	H25覆土2層86	21	6	27	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋は直前段反摺りLR縄文。H25-1と同一個体の可能性高い。
図Ⅲ-2-17											H25覆土2層87
図Ⅲ-2-17	H25	8	円筒下層b式	H25-6	Ⅱb	H25HP2覆土1層1	2		2	付風遺構覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はLR縄文縦走。再生土製品。ほぼ円形で中央に穿孔。
図Ⅲ-2-17	H25	9	円筒下層d1式又はⅢa類土器	H25-8	Ⅱb	H25HF-1覆土3層28	1		1	石囲い炉の石の掘り方	砂含む。磨滅著しい。Ⅱbとしたが形状から円筒下層d1式の特徴形状かⅢaの小型深鉢の可能性ある。底径6cmで平底無文。
図Ⅲ-2-17	H25	10	円筒下層d1式	H25-7	Ⅱb	H25床面18	1		1	住居床面	繊維含む。内面ミガキ。口縁部文様帯には3本のR縄線。口縁部直下にはR縄の結束回転。それぞれ幅1cm。R縄単軸絡糸体第1類縦回転。磨滅著しい。
図Ⅲ-2-21	H27	3	円筒上層a式	H27-5	Ⅲa	H27覆土2層111	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針・砂含む。内面ミガキ。L縄2本一組と草本の断面のようなへら先での刺突列で文様構成。
図Ⅲ-2-21	H27	4	円筒下層d1式最古(c式に近い)	H27-2	Ⅱb	H27覆土2層111	3		3	住居覆土	口径12cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。反り返る口縁で口縁上半横ミガキ。その下は縦ミガキ。隆帯によって口縁部を区画する。隆帯上には刺突列。隆帯直下および口唇部にL縄線。口唇には2本。区画内には結束第一種羽状縄文。その幅4cm。
図Ⅲ-2-21	H27	5	焼成粘土塊	H27-6	Ⅱb	H27覆土1層161	1		1	住居覆土	砂粒含む。
図Ⅲ-2-21	H27	6	円筒下層b2式新段階	H27-3	Ⅱb	H27覆土2層160	23		23	住居覆土	繊維と少量の海綿骨針含む。内面ミガキ。隆帯で、口縁部を区画し、隆帯上には円形刺突列。口縁部にはLR縄縦回転。幅6cm。胴部には細いR縄単軸絡糸体第1類を斜め回転。全体的に磨滅して不明瞭。
図Ⅲ-2-21	H27	7	円筒下層c式	H27-4	Ⅱb	H27覆土2層111	5		5	住居覆土	繊維と少量の海綿骨針含む。内面ミガキ。R縄で、自縄自巻を縦走。撚り切りにより割った可能性ある。全体的に磨滅して不明瞭。
図Ⅲ-2-21	H27	8	円筒下層d1式	H27-1	Ⅱb	H27覆土1層163	5		5	住居覆土	口径25cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。結束第一種羽状縄文2段で口縁部文様帯を構成。その幅2cm。多段の帯も同羽状縄文で、5cm間隔。地紋はL縄の単軸絡糸体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-22	H28	3	焼成粘土塊	H28-7	Ⅱb	H28覆土1層139	1		1	住居覆土	繊維・砂含む。
図Ⅲ-2-22	H28	4	円筒下層c式	H28-9	Ⅱb	H28床面80	17	7	26	住居床面	口径23cm。底径9cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁横方向、胴部縦方向、緩やかな肩部で口縁部を区画。区画内には直前段反摺りLR縄縦回転。幅2.5cm。地紋はR縄単軸絡糸体第1類縦回転。上げ底でミガキにより無文。
						H28床面94		2		住居床面	
図Ⅲ-2-22	H28	5	円筒下層b2式新段階	H28-6	Ⅱb	H28覆土1層129	13	1	19	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。LR縄縦走。微妙な上げ底でミガキ無文。
						H28覆土1層139	5			住居覆土	
図Ⅲ-2-22	H28	6	円筒下層b2式新段階	H28-5	Ⅱb	H28覆土1層129	8	1	13	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。R縄多軸絡糸体縦回転。微妙な上げ底でミガキ無文。
						H28覆土1層130	4			住居覆土	
図Ⅲ-2-22	H28	7	円筒下層d1式	H28-2	Ⅱb	H28覆土3層201	18		18	住居覆土	底径は18cm。繊維・白色砂含む。海綿骨針少量含む。内面縦方向にミガキ。L縄単軸絡糸体第1類縦回転。微妙な上げ底で、ミガキにより無文。
図Ⅲ-2-22	H28	8	東銅路IV式	H28-8	I b	H28覆土2層137	1		1	住居覆土	砂含む(輝石混じり)。内面ミガキ。L縄とR縄の回転と微隆起組み合わせる。
図Ⅲ-2-22	H28	9	円筒下層d1式	H28-4	Ⅱb	H28覆土3層161	1		1	住居覆土	繊維・砂含む。内面ミガキ。LR縄縦。円形連続刺突。
図Ⅲ-2-22	H28	10	円筒下層b式から下層c式	H28-3	Ⅱb	H28覆土1層129	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。微妙な上げ底で磨滅する。
図Ⅲ-2-22						H28覆土3層161	2	3	5	住居覆土	口径は22cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。肩部によって口縁部を区画。胴部には右に引き抜く連続刺突。区画内にはL縄3本。地紋はL縄で、単軸絡糸体第1類を斜め回転。
図Ⅲ-2-26	H29	14	円筒下層d1式古段階 新	H29-4	Ⅱb	H29覆土上位8	24	11	38	住居覆土	繊維含む。海綿骨針少量含む。内面ミガキ調整で、口縁部は横、胴部は縦である。口縁部文様帯はL縄6本による曲線構成の文様が施される。幅1.5cmである。地紋は、R縄で、自縄自巻を縦走。
						H29覆土下位21	1		1	住居覆土	
						H29覆土下位62S243	2		2	住居覆土	
図Ⅲ-2-26	H29	15	円筒下層d1式	H29-20	Ⅱb	H29覆土上位32	15	1	16	住居覆土	底径9cm。繊維・海綿骨針・白色砂含む。内面ミガキ。胴部にはR縄で自縄自巻を縦走。底面は微妙な上げ底で、ミガキにより無文。
図Ⅲ-2-26	H29	16	円筒下層d1式	H29-2	Ⅱb	H29覆土上位7	3	3	6	住居覆土	内面縦ミガキ。繊維・海綿骨針含む。R縄単軸絡糸体第一種縦回転。底部は上げ底で、胴部と同じ原体を回転。
図Ⅲ-2-27	H29	17	円筒下層d1式古段階 新	H29-3	Ⅱb	H29覆土上位9	12		12	住居覆土	H29南トレンチ63S242が一点同一個体か。繊維・海綿骨針含む。内面はミガキ調整口縁部上半は横ミガキ、下半は縦ミガキ。口縁部文様帯には、結束第一種羽状縄文を1cm幅で施す。区画直下には1cm幅で、結束第一種羽状縄文で口縁部と逆向き。R縄で、自縄自巻を縦走。結束第一種羽状縄文をよおよ4cm間隔で区画直下を含めて6段ほど帯状に施す。
図Ⅲ-2-27	H29	18	円筒下層d1式	H29-19	Ⅱb	H29覆土上位32	9	3	12	住居覆土	口径16cm。繊維・海綿骨針・白色砂含む。内面ミガキ。口縁横、胴部縦。L縄とR縄の羽状縄文で口縁部を区画。同縄を口唇部にも施す。区画内には結束第一種羽状縄文。その直下にも結束羽状縄文第一種を施す。それぞれ幅2cm。同羽状縄文により多段の帯を4cm間隔。胴部にはR縄で、自縄自巻を縦走。
図Ⅲ-2-27	H29	19	円筒下層d1式	H29-8	Ⅱb	MT3 63S7口縁部側	1		2	盛土	口径6cm。底径5cm。繊維・海綿骨針・砂粒含む。内面ミガキ。口縁～胴上部横、胴下部縦。一部に胴部と同じR縄単軸絡糸体第1類。LR縄縦で2～3本で口縁部文様帯。その幅0.7cm。口唇にはR縄側面圧痕。胴部にはR縄単軸絡糸体第1類縦回転。台付き上げ底。ミガキにより無文。
図Ⅲ-2-27	H29	20	円筒下層d1式	H29-7	Ⅱb	H29覆土上位62S242	2		2	住居覆土	口径14cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁横、胴部縦。R縄で口縁部を区画。同縄縦2～3本を区画に施す。その幅1.5cm。口唇にはR縄文回転。胴部にはR縄で、自縄自巻を縦走。
図Ⅲ-2-27	H29	21	円筒下層d1式	H29-12	Ⅱb	H29覆土338	8	8	16	住居覆土	口径22cm。繊維と微量の海綿骨針含む。内面ミガキ。L縄とR縄の羽状縄文で口縁部を区画。同縄縦2組を区画に施す。その幅2cm。胴部にはR縄で、自縄自巻を縦走。
図Ⅲ-2-27	H29	22	円筒下層d1式	H29-11	Ⅱb	H29覆土上位288	1		1	住居覆土	口径18cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁横、胴部縦。L縄とR縄の羽状縄文で口縁部を区画。同縄縦四組を区画に施す。その直下には結束羽状縄文第一種を施す。それぞれ幅1.5cm。同羽状縄文により多段の帯を4cm間隔。胴部にはR縄で、自縄自巻を縦走。
図Ⅲ-2-27	H29	23	円筒下層d1式	H29-13	Ⅱb	H29覆土上位135	10	9	19	住居覆土	口径23cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁横、胴部縦。L縄で口縁部を区画。同縄縦で変形と縦区画を基調とする直線構成の文様を施す。その直下には結束羽状縄文第一種を施す。それぞれ幅2.5cmと1.5cm。同羽状縄文により多段の帯を5cm間隔。胴部にはR縄で、自縄自巻を縦走。
図Ⅲ-2-27	H29	24	円筒下層d2式	H29-10	Ⅱb	H29覆土上位284	3		3	住居覆土	口径24cm。繊維・白色砂含む。内面ミガキ。肩部で口縁部を区画し、そこには円形刺突が連続する。R縄縦を区画に施す。その幅4cm。胴部にはR縄の多軸絡糸体縦回転。
図Ⅲ-2-28	H29	27	円筒下層d1式古段階 古	H29-1	Ⅱb	H29覆土下位16	2		5	住居覆土	H29-26(復元番号298)と共存。口径13cm。内面ミガキ。繊維・海綿骨針含む。R縄による直線構成の口縁部文様帯。幅1.3cm。区画直下には結束第一種羽状縄文。幅1.2cm。R縄単軸絡糸体第一種縦回転。帯状に結束第一種羽状縄文が3cm間隔で施される。
						H29覆土下位17	3		5	住居覆土	
図Ⅲ-2-31	H29	38	円筒下層d1式古段階 古	H29-6	Ⅱb	H29覆土下位20	17		18	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面調整は口縁部横ミガキ、胴部縦ミガキ。L縄により直線構成の文様。変形を基調とする。L縄縦3本により縦方向の区画を持つ。幅3cm。地紋はL縄単軸絡糸体第1類を縦回転。結束第一種羽状縄文を4cm間隔で6段施す。区画直下にはない。
					Ⅱb	H29覆土337		1		住居覆土	

4 表

図版番号	遺構番号	掲載番号	型式名称	拓本整理番号	分類(群と類を略)	層位	接合点数	同一個体か(未接合)	合計点数	区分	特徴
図Ⅲ-2-31	H29	39	円筒下層d1式	H29-15	Ⅱb	H29覆土上位31	1		24	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。胴部にはR縄の自縛自巻を縦走。帯状にRL縄の結節を2段横回転させる。
						H29覆土下位19		1		住居覆土	
						H29覆土最下位38		23		住居覆土	
図Ⅲ-2-31	H29	40	円筒下層d1式古段階	H29-16	Ⅱb	H29覆土下位23	18		25	住居覆土	口径28cm。繊維・海綿骨針・白色砂含む。内面ミガキ。口縁横、胴部縦。L縄とR縄の羽状縄縁で口縁部を区画。同縄を口唇部にも施す。区画には結束第一種羽状縄文。その直下にも結束羽状縄文第一種を施す。それぞれの幅2cm。同羽状縄文により多段の帯を4cm間隔。胴部にはR縄で、自縛自巻を縦走。
						H29覆土下位25	7			住居覆土	
図Ⅲ-2-31	H29	41	円筒下層d1式	H29-14	Ⅱb	H29覆土最下位39	7	3	10	住居覆土	底径10cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。下半には煤付着。L縄の単軸絡糸体第1類縦回転。微妙な上げ底でミガキにより無文。
図Ⅲ-2-31	H29	42	円筒下層d1式	H29-9	Ⅱb	H29HP-12覆土359	1		1	付属遺構覆土	繊維・海綿骨針と少量の小石含む。内面ミガキ。R縄で、自縛自巻を縦走。
図Ⅲ-2-31	H29	44	円筒下層d1式	H29-18	Ⅱb	H29覆土上位135	6		6	住居覆土	内面ミガキ。胴部縦方向。繊維・海綿骨針含む。胴部にはR縄の自縛自巻を縦走。縁辺は擦り切りにより短冊状に全体を成形する。被熱。4546のほか1に磨滅著しいが同じ遺物番号のものが5点接合し、同様のものとなった。
図Ⅲ-2-31	H29	45	円筒下層d1式	H29-17	Ⅱb	H29覆土上位158	2		2	住居覆土	内面ミガキ。口縁横、胴部縦方向。繊維・海綿骨針含む。口径は24cm。口縁部にはL縄とR縄で矢羽根状にした縄縁を4段施す。胴部にはR縄で、自縛自巻を縦走。縁辺は擦り切りにより短冊状に全体を成形する。被熱。
図Ⅲ-2-31	H29	46	円筒下層d1式	H29-21	Ⅱb	H29覆土上位135	1		1	住居覆土	内面ミガキ。胴部縦方向。繊維・海綿骨針含む。胴部にはR縄で、自縛自巻を縦走。縁辺は擦り切りにより短冊状に全体を成形する。被熱。
図Ⅲ-2-31	H29	47	円筒下層b式	H29-23	Ⅱb	H29覆土179	1		1	住居覆土	内面ミガキ。胴部縦方向。繊維・海綿骨針含む。R縄単軸絡糸体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-31	H29	48	円筒下層b式	H29-22	Ⅱb	H29覆土179	1		1	住居覆土	内面ミガキ。胴部縦方向。繊維・海綿骨針含む。R縄単軸絡糸体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-31	H29	49	円筒下層d1式	H29-24	Ⅱb	H29覆土179	1		1	住居覆土	内面ミガキ。胴部縦方向。繊維・海綿骨針含む。結束第一種羽状縄文とR縄で、自縛自巻を縦走。
図Ⅲ-2-31	H29	50	焼成粘土塊	H29-25	Ⅱb	H29覆土上158②	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。竹管曲面上による押し引きの痕跡あり。3.2×2.2×1.3cm
図Ⅲ-2-32	H30	1	円筒下層b式	H30-1	Ⅱb	H30床面40	1		1	住居床面	繊維・海綿骨針含む。磨滅著しい。内面ミガキ。R縄痕跡が表面に残る。縁辺を丸く打ち欠いてあり、再生土製品の可能性がある。
図Ⅲ-2-32	H31	1	円筒上層d式	H31-1	Ⅲa	H31覆土1層50	1	2	3	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。R縄文施後陸帯貼り付け。陸帯上R縄側面圧痕。
図Ⅲ-2-32	H31	2	円筒上層d式	H31-2	Ⅲa	H31覆土1層75	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針・白色砂含む。内面ミガキ。微妙な上げ底。網代の上からミガキか。
図Ⅲ-2-32	H31	3	円筒下層d2式	H31-5	Ⅱb	H31覆土1層75	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。R縄で、自縛自巻を縦走。
図Ⅲ-2-32	H31	4	円筒下層d1式	H31-3	Ⅱb	H31覆土1層75	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。L縄とR縄2本一組で複数段の縄縁を施す。
図Ⅲ-2-32	H31	5	円筒下層d1式	H31-4	Ⅱb	H31覆土1層75	6		6	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。R縄で、自縛自巻を縦走。結束第一種羽状縄文を帯状に施す。
図Ⅲ-2-32	H31	6	円筒下層b式	H31-6	Ⅱb	H31覆土1層42	1	3	4	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。RL縄文縦回転。上げ底で底面もRL縄文回転。
図Ⅲ-2-32	H31	7	円筒下層b式	H31-7	Ⅱb	H32床面17	3		3	住居覆土	繊維・海綿骨針・白色砂含む。内面ミガキ。RL縄文縦走。上げ底で底面もRL縄文回転。
図Ⅲ-2-32	H32	1	円筒下層b1式	H32-1	Ⅱb	H32床面6	1		1	住居床面	内面ミガキ。繊維・海綿骨針含む。直前段合攪RLR縄RLL縄横回転斜行。
図Ⅲ-2-32	H32	2	円筒下層b式	H32-2	Ⅱb	H32床面5	1		1	住居床面	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。RL縄文縦回転。
図Ⅲ-2-32	H32	3	円筒下層b式	H32-3	Ⅱb	H32HF-1覆土1層13	1		1	付属遺構覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。L縄単軸絡糸体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-32	H33	1	円筒下層b式	H33-1	Ⅱb	H33覆土1層50	2		2	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。RL縄文縦走。
図Ⅲ-2-32	H33	2	円筒下層b式	H33-2	Ⅱb	H33HF-1覆土3層28	1		1	付属遺構覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。表面磨滅により不明。器壁の薄さでミガキの丁寧さから下cの可能性あり。
図Ⅲ-2-32	H33	3	円筒下層b式	H33-3	Ⅱb	H33床面16	1		1	住居床面	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。上げ底。地紋はR縄単軸絡糸体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-33	H34	4	円筒下層d1式	H34-2	Ⅱb	H34覆土2層6	67	169	237	住居覆土	底径14cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。サルボウ条痕を横走させた後、L縄で、擦りのたつた単軸絡糸体第1類を縦回転か、自縛自巻を縦走。微妙な上げ底で、ミガキにより無文。
						H34覆土西側91		1		住居覆土	
図Ⅲ-2-33	H34	5	円筒下層d1式新段階	H34-1	Ⅱb	H34覆土2層1	6	69	153	住居覆土	口径34cm。底径20cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部横方向、胴部縦方向。口縁部文様帯を肩部で区画。サルボウによる水平方向の条痕施文。幅5cm。胴部にはRL縄で単軸絡糸体斜め回転。
						H34覆土2層2	16	36		住居覆土	
						H34覆土西側91	2	24		住居覆土	
図Ⅲ-2-34	H35	3	円筒下層b2～c式	H35-3	Ⅱb	H35床面2	1		1	住居床面	内面ミガキ。繊維・海綿骨針含む。地紋は、R単軸絡糸体第1類縦回転。再生土製品穿孔。
図Ⅲ-2-34	H35	4	円筒下層b式	H35-4	Ⅱb	H35覆土西側57	1		1	住居覆土	内面ミガキ。繊維・海綿骨針含む。地紋は、RL縄回転。再生土製品穿孔未完。
図Ⅲ-2-34	H35	5	円筒下層c式	H35-5	Ⅱb	H35覆土北側52	1		1	住居覆土	内面ミガキ。繊維・海綿骨針含む。地紋は、RL縄回転。上げ底で、LR縄回転。再生土製品穿孔未完。
図Ⅲ-2-34	H35	6	円筒下層b2～c式	H35-2	Ⅱb	H35覆土1層下位22	14		14	住居覆土	底径7.5cm。内面ミガキ。繊維・海綿骨針含む。地紋は、LR縄横回転。上げ底で、LR縄回転。
図Ⅲ-2-34	H35	7	円筒下層b2～c式	H35-1	Ⅱb	H35覆土1層下位18	4		6	住居覆土	底径6.5cm。内面ミガキ。繊維・海綿骨針含む。地紋は、RL縄で単軸絡糸体第1類を縦～斜め回転。上げ底で、LR縄回転。
						H35覆土西側57	2			住居覆土	
						H35覆土1層下20	7		25	住居覆土	
						H35覆土1層下19	9	2		住居覆土	
						H35覆土北側52	2			住居覆土	
図Ⅲ-2-34	H35	8	円筒下層b2～c式	H35-6	Ⅱb	M1 63S14			2	盛土	底径10cm。繊維含む。海綿骨針少量含む。内面ミガキ。胴部にはRLR縄を横走。斜行縄文。底面は上げ底で、胴部と同一原体を回転か。
						MT10 63S26			1	盛土	
						MT11 63S27			1	盛土	
						MT12 63S36			1	盛土	
図Ⅲ-2-35	H36	3	円筒下層b2～c式	H36-3	Ⅱb	H36覆土西側59	15	21	36	住居覆土	口径18cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部横方向、胴部縦方向。口縁部文様帯を肩部で区画。サルボウによる水平方向の条痕施文。幅5cm。胴部にはRL縄で単軸絡糸体斜め回転。
図Ⅲ-2-35	H36	4	円筒下層b2～c式	H36-1	Ⅱb	H36覆土4層西側106	15	3	21	住居覆土	繊維・砂含む。内面ミガキ。地紋はR縄の単軸絡糸体第1類を縦回転。穿孔あり。上げ底で底面にLR縄回転。
						H36覆土西側トレンチ151	1	2		住居覆土	
図Ⅲ-2-36	H36	7	円筒下層d1式	H36-7	Ⅱb	H36覆土東側57	5	13	18	住居覆土	底径10cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。胴部にはL縄で、擦りのたつた単軸絡糸体第1類を縦回転か、自縛自巻を縦走。多段の帯状にLR縄の結節を施すと思われる。底面は微妙な上げ底で、ミガキにより無文。
図Ⅲ-2-36	H36	8	円筒下層b2式	H36-6	Ⅱb	H36覆土西側76	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。胴部には直前段合攪RLR・RLL・RRR・RRL縄文。意図的に縁辺を成形した可能性あり。
図Ⅲ-2-36	H36	9	円筒下層b2式	H36-5	Ⅱb	H36覆土西側トレンチ151	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。胴部には反攪RRR縄文。意図的に縁辺を成形した可能性あり。
図Ⅲ-2-36	H36	10	円筒下層b2式	H36-4	Ⅱb	H36覆土西側105	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。胴部にはRLR縄文。意図的に縁辺を成形した可能性あり。
図Ⅲ-2-36	H36	11	円筒下層b2式	H36-2	Ⅱb	H36覆土4層西側106	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針・白色砂含む。内面ミガキ。地紋はRLR縄文を縦走。全面磨滅。再生土製品。
図Ⅲ-2-35	H36	12	円筒下層b2～c式	H36-8	Ⅱb	H36西側トレンチ151	2	1	34	住居覆土	口径24cm。底径13cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部横方向、胴部縦方向。口縁部文様帯を肩部で区画。RL縄文を縦回転と横回転することで羽状縄文により充填する。RL縄単軸絡糸体第1類縦回転地紋。上げ底で、ミガキにより無文とする。
						H36覆土西側トレンチ76	7	24		住居覆土	
図Ⅲ-2-37	H37	1	円筒下層b式	H37-1	Ⅱb	H37床面24	50	93	143	住居床面	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋上半はLR縄文横回転で斜行。下半はL縄単軸絡糸体第5類を縦回転。底面は微妙な上げ底で、RL縄とRR縄の合攪。
図Ⅲ-2-37	H37	2	円筒下層b2式	H37-2	Ⅱb	H37覆土1-124	1	1	8	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋上半はR多軸絡糸体縦回転。底部は上げ底で、胴部と同一原体を回転。
						H37覆土2-125	2	2		住居覆土	
						H37床面81			1	住居床面	
						H37床面83			1	住居床面	

III 遺構の調査と出土遺物

図版番号	遺構番号	掲載番号	型式名称	拓本整理番号	分類(群と類を略)	層位	接合点数	同一個体か(未接合)	合計点数	区分	特徴
図Ⅲ-2-38	H38	1	円筒下層d2式	H38-12	II b	H38ベルト覆土上位34	3	4	10	住居覆土	口径26cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁横方向、胴部縦方向。肩部で口縁部を区画。区画内はL縄とR縄2本一組で直線構成の文様構成。区画直下にはL縄の結節が2段。それぞれ幅5cmと3cm。地紋はL縄の多軸輪条体縦回転。
						H38ベルト覆土最上位60	2			住居覆土	
						H38ベルト覆土最上位65		1		住居覆土	
図Ⅲ-2-38	H38	3	円筒下層d2式	H38-11	II b	H38ベルト覆土最上位61	11	5	21	住居覆土	底径13cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はR縄の多軸輪条体縦回転。
						H38ベルト覆土最上位65	1	5		住居覆土	
図Ⅲ-2-39	H38	8	円筒下層d1式新段階	H38-13	II b	H38覆土上位3	7		9	住居覆土	口径24cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁から胴上半まで縦方向。肩で口縁部文様帯を区画。肩部に右に引く押し引き。区画内はL縄で直線構成の文様。区画直下には結束第一種羽状縄文。幅はそれぞれ2cm、1.5cm。地紋には条痕施文後に、R縄で、自縄自巻を縦走。
						H38覆土上位34	2			住居覆土	
図Ⅲ-2-40	H38	10	円筒下層d1式古段階	H38-1	II b	H38覆土上位5	29		29	住居覆土	口径32cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部と胴上部横方向、それより下は縦方向。口縁部文様帯をL縄で区画。口縁部区画内は結束第一種羽状縄文横回転と縄で充填。区画直下には結束第一種羽状縄文を横回転。幅それぞれ1cmずつ。地紋にはR縄で、自縄自巻を縦走。
図Ⅲ-2-40	H38	11	円筒下層d1式	H38-8	II b	H38覆土上位6 MT13 63S28	55	14	70	住居覆土 盛土	胴回り径約20cm。繊維含む。海綿骨針・白色砂少量含む。内面ミガキ。胴部にはR縄で、自縄自巻を縦走。多段の帯状にL縄の結節を4cm間隔で施す。
図Ⅲ-2-40	H38	12	円筒下層d1式	H38-9	II b	H38覆土上位4	7	47	55	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はR縄で、自縄自巻を回転。
						H38覆土下位東側77		1		住居覆土	
図Ⅲ-2-41	H38	14	円筒下層d1式古段階	H38-2	II b	H38床面9	6		10	住居床面	口径28cm。繊維・海綿骨針・砂含む。内面ミガキ。口縁部と胴上部横方向、それより下は縦方向。口縁部文様帯をL縄で区画。口縁部区画内は結束第一種羽状縄文横回転と縄で充填。区画直下には結束第一種羽状縄文を横回転。幅それぞれ1.5cm。地紋はR縄で、自縄自巻を縦走。
						H38覆土東側79	3			住居覆土	
						H38ベルト覆土上位59		1		住居覆土	
図Ⅲ-2-41	H38	15	円筒下層d1式古段階	H38-3	II b	H38覆土下位東側77	6		11	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部横方向、胴部縦方向。口縁部文様帯をL縄で区画。L縄による直線構成の文様。区画直下にはL縄の結節が2段。それぞれ幅3cm、1cm。サルボウによる水平方向の条痕施文後、胴部にはR縄で、自縄自巻を縦走。摺り切りによって意図的に割った可能性が高い。
						H38ベルト覆土上位59	3			住居覆土	
図Ⅲ-2-41	H38	16	円筒下層d1式古段階	H38-4	II b	H38覆土下位東側77	1	1	1	住居覆土	1と同一個体か。摺り切りによって意図的に割った可能性が高い。
図Ⅲ-2-41	H38	17	円筒下層d1式古段階	H38-5	II b	H38ベルト覆土下位西側171	1	1	1	住居覆土	1と地紋が似る。摺り切りによって意図的に割った可能性が高い。
図Ⅲ-2-41	H38	18	円筒下層d1式	H38-6	II b	H38南北トレンチ106	1	1	1	住居覆土	1と地紋が似る。摺り切りによって意図的に割った可能性が高い。
図Ⅲ-2-41	H38	19	円筒下層b式	H38-10	II b	H38覆土下位西側168	1	1	1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。表面は磨滅し、地紋は不明。穿孔されており再生土製品。
図Ⅲ-2-41	H38	20	円筒下層d1式	H38-7	II b	H38覆土上位34	1	1	1	住居覆土	繊維・砂含む。地紋にはL縄単軸輪条体第1類を縦回転。帯状にL縄の結節を横回転。摺り切りによって意図的に円形に成形した可能性が高い。
図Ⅲ-2-42	H39	1	円筒下層d2式	H39-26	II b	H39覆土最上部22	10	34	44	住居覆土	口径14cm。底径6cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部は横、胴部は縦。肩によって口縁部を区画する。区画内はL縄による直線構成の文様。区画直下には結束第一種羽状縄文。幅はそれぞれ3cmと1.5cm。後者は多段の帯状となる。地紋はR縄で、自縄自巻を回転。
図Ⅲ-2-42	H39	4	円筒下層d2式	H39-24	II b	H39ベルト覆土最上位262	3	3	10	住居覆土	砂含む。内面ミガキ。地紋はR縄により単軸輪条体第4類縦回転。
						H39ベルト覆土最上位150	1	1		住居覆土	
						H39覆土南側314	1			住居覆土	
						M2-2 62U2	1			盛土	
						H39覆土上位8	5	4	43	住居覆土	
						H39覆土南側314	5	6		住居覆土	
						H39覆土南側313	1			住居覆土	
						M1 62U3	2			盛土	
						H39ベルト覆土最上位262		4		住居覆土	
						H39ベルト覆土上位260		1		住居覆土	
図Ⅲ-2-42	H39	5	円筒下層d2式	H39-1	II b	M1 62U5	4		4	盛土	口径18cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部は横、胴部は縦。肩によって口縁部を区画する。肩部にはL縄側面圧痕による側面圧痕を連続。区画内はL縄とL縄輪条体側面圧痕による直線構成の文様。幅は6cm。地紋はL縄の単軸輪条体第1類を縦回転。波頂部に対応して四つの穿孔。
						H39ベルト覆土上位126	1			住居覆土	
						H62南北トレンチ覆土54	1			住居覆土	
						Ⅲ60V6	1			包含層	
						M1 60U13	1			盛土	
						M2-2 62U2	7			盛土	
						H39覆土上位18	10	1	15	住居覆土	
						H39覆土最上位337		4		住居覆土	
図Ⅲ-2-43	H39	6	円筒下層d1式新段階	H39-2	II b	H39覆土上位18	10	1	15	住居覆土	口径33cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部は横、胴部は縦。肩によって口縁部を区画する。区画内はL縄による直線構成の文様。区画直下には結束第一種羽状縄文。幅はそれぞれ3cmと1.5cm。後者は多段の帯状となる。地紋はR縄で、自縄自巻を回転。
図Ⅲ-2-43	H39	8	円筒下層d2式	H39-13	II b	H39ベルト覆土上位260	1	1	1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はR縄の多軸輪条体回転。意図的に円形に成形した可能性が高い。
図Ⅲ-2-43	H39	9	円筒下層d2式	H39-23	II b	H39覆土上位8	2		2	住居覆土	口径26cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。肩部で口縁部を区画。肩部はL縄側面圧痕で連続刺突。区画内はL縄4条。区画直下にはL縄の結節を横回転2段。地紋は多軸輪条体縦回転。R縄によるものか。
図Ⅲ-2-43	H39	10	焼成粘土塊	H39-3	II b	H39覆土上位13②	1	1	1	住居覆土	繊維・砂含む。
図Ⅲ-2-43	H39	12	円筒下層d2式	H39-6	II b	H39覆土上位2	2		2	住居覆土	底径8cm。内面ミガキ。繊維・海綿骨針含む。地紋はL縄で、多軸輪条体縦回転。微妙な上げ底で、ミガキにより無文。
図Ⅲ-2-43	H39	13	円筒下層d2式	H39-22	II b	H39南北トレンチ北側229	3		8	住居覆土	口径22cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。RとL縄側面圧痕2条で口縁部を区画。区画内もRとL縄側面圧痕で直線構成の文様構成。地紋はL縄の多軸輪条体縦回転。
						H39覆土上位107		1		住居覆土	
						H39覆土1層407		2		住居覆土	
						M2 62T13	1			盛土	
図Ⅲ-2-43	H39	14	円筒下層d2式	H39-15	II b	M2 62T14		1		盛土	繊維・砂含む。内面ミガキ。地紋はR縄の縦回転。微妙な上げ底で底面はミガキにより無文。
						H39覆土上位6	28	61	89	住居覆土	
図Ⅲ-2-47	H39	30	円筒下層d2式	H39-27	II b	H39覆土北側上位12	8		8	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。肩によって口縁部を区画する。区画直下には結束第二種羽状縄文。地紋はL縄による単軸輪条体第1類縦回転。H39-31(復元番号400)と共存。
図Ⅲ-2-48	H39	36	円筒下層d1式	H39-9	II b	H39覆土南側313	1		1	住居覆土	繊維含む。内面ミガキ。地紋はR縄で、自縄自巻を縦走。摺り切りによって意図的に割った可能性が高い。
図Ⅲ-2-48	H39	37	円筒下層d1式	H39-10	II b	H39覆土南側313	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はR縄で、単軸輪条体第1類を回転。摺り切りによって意図的に割った可能性が高い。
図Ⅲ-2-48	H39	38	円筒下層d1式	H39-12	II b	H39覆土上位15	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部文様帯をL縄で区画。L縄を3本。地紋はR縄で、自縄自巻を縦走。摺り切りによって意図的に割った可能性が高い。
図Ⅲ-2-48	H39	39	円筒下層d1式	H39-11	II b	H39覆土1層407	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はL縄で、単軸輪条体第1類を回転。摺り切りによって意図的に割った可能性が高い。
図Ⅲ-2-48	H39	40	円筒下層d1式新段階	H39-4	II b	H39覆土上位13	14	111	135	住居覆土	内面ミガキ。繊維・砂含む。口縁部は肩部で区画する。区画内はL縄により変形基調の直線構成の文様。縦区画に二つ組の円形刺突。区画直下には結束第二種羽状縄文。多段の帯状にも用いる。幅はそれぞれ3cm、1cm。地紋はL縄の単軸輪条体第1類縦回転。
						H39覆土下位東側366		10		住居覆土	
図Ⅲ-2-49	H39	44	円筒下層c式	H39-7	II b	H39覆土南側313	4		6	住居覆土	口径20cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部横方向、胴部縦方向。口縁部文様帯を直前段反摺りRとL縄で区画。直前段反摺りRとL縄を横走させる。幅6cm。
図Ⅲ-2-49	H39	45	円筒下層c式	H39-8	II b	H39覆土南側313	4		4	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。縦方向。口縁部文様帯をLとR縄で区画しR縄で充填。地紋はL縄単軸輪条体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-49	H39	46	円筒下層d1式最古(c式に近い)	H39-5	II b	H39覆土上位18	8		17	住居覆土	底径8cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。胴部にはR縄の自縄自巻を縦走。多段の帯状にL縄の結節を4cm間隔で施す。底面は上げ底で、ミガキにより無文。
						H39覆土上位17	4			住居覆土	
						H39覆土上位21	5			住居覆土	

4 表

図版番号	遺構番号	掲載番号	型式名称	拓本整理番号	分類(群と類を略)	層位	接合点数	同一個体か(未接合)	合計点数	区分	特徴
図Ⅲ-2-49	H39	47	円筒下層c式	H39-14	Ⅱb	H39覆土上位24	6		33	住居覆土	口径22cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。磨滅著しい。口縁横、胴部縦方向。直前段反撥りRRL縄線によって口縁部を区画する。区画内には直前段反撥りRRL縄を回転、横走させる。幅は6cm。地紋はR縄単輪絡糸体第1類縦回転。
						H39覆土下位東側366	1		住居覆土		
						H39ベルト覆土最上位150	1		住居覆土		
						H29覆土下位19	1		住居覆土		
						H39覆土151	1		住居覆土		
						H39ベルト覆土2層直下189	1		住居覆土		
						H39覆土東側261	2		住居覆土		
						M2 62T8	2		盛土		
						H39覆土東側106	11		住居覆土		
						H39覆土上位21	2		住居覆土		
H39覆土下位152	4		住居覆土								
H39覆土201	1		住居覆土								
図Ⅲ-2-51	H39	54	円筒下層d1式	H39-16	Ⅱb	H39覆土下位152	8		11	住居覆土	底径10cm。繊維含む。海綿骨針少量含む。内面ミガキ。地紋はL縄の単輪絡糸体縦回転。微妙な上げ底。ミガキ無文。
						H39覆土下位41	3		住居覆土		
図Ⅲ-2-52	H39	57	円筒下層c式	H39-25	Ⅱb	H39覆土下位30	26	2	28	住居覆土	口径24cm。器高40cm。底径13cm。繊維・海綿骨針含む。小石少量含む。内面ミガキ。口縁側は横。胴部は縦方向。薄い隆帯で口縁部を区画し、隆帯上には左側への押し引きが連続する。幅が5cmの口縁部文様帯には、胴部から連続するR縄単輪絡糸体第1類縦～斜め回転。加えて結束第一種羽状縄文。区画の3cm下に2cm幅で、結束第一種羽状縄文施文。地紋は、R縄単輪絡糸体第1類縦～斜め回転。底部は微妙な上げ底で、ミガキにより無文。
図Ⅲ-2-52	H39	58	円筒下層c式	H39-18	Ⅱb	H39覆土下位東側366	1		1	住居覆土	口径16cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。R縄線2段で口縁部を区画。2本段の間には円形の施文具を右へ引く押し引きが連続。区画内にはR縄結節が3段。地紋は単輪絡糸体第6A類縦回転。R縄か。
図Ⅲ-2-52	H39	59	円筒下層c式	H39-20	Ⅱb	H39覆土下位156	3		3	住居覆土	口径20cm。繊維・海綿骨針含む。小石少量含む。内面ミガキ。口縁横方向。胴部縦方向。R縄線2本で口縁部を区画。区画内にはL縄文横回転。幅4cm。地紋はR縄単輪絡糸体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-52	H39	60	円筒下層d1式最古(c式に近い)	H39-19	Ⅱb	H39覆土東側261	1		1	住居覆土	口径17cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ口縁上横方向。下は縦方向。L縄線2段一組で口縁部区画内を施文。
図Ⅲ-2-52	H39	61	円筒下層c式	H39-17	Ⅱb	H39覆土東側261	1		1	住居覆土	口径20cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。R縄単輪絡糸体側面圧痕2段で口縁部を区画。区画内は同一一体によって直線構成の文様。菱形基調。地紋は直前段反撥りRRL縄を縦回転か。
図Ⅲ-2-52	H39	62	円筒下層c式	H39-21	Ⅱb	H39覆土上位18	1		4	住居覆土	口径15cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁横方向。胴部縦方向。なだらかな肩部で口縁部を区画。区画内には直前段反撥りLRL縄文横回転。幅4cm。地紋は直前段反撥りRRL縄文縦回転。
						H39覆土上位338	2		住居覆土		
						H39覆土下位東側366	1	1	住居覆土		
図Ⅲ-2-53	H40	1	円筒下層b式	H40-1	Ⅱb	H40覆土1層6	1		3	住居覆土	繊維・砂含む。海綿骨針少量含む。内外面とも磨滅著しく調整等不明。
						H40覆土2層7	2		住居覆土		
図Ⅲ-2-53	H40	2	円筒下層b式	H40-2	Ⅱb	H40床面3	2		2	住居床面	繊維・砂含む。海綿骨針少量含む。内外面とも磨滅著しく調整等不明。
図Ⅲ-2-55	H41	8	円筒下層b2式	H41-4	Ⅱb	H41トレンチ70	5		5	住居覆土	繊維・海綿骨針・砂含む。内面ミガキ。口縁横方向。胴部縦方向。口縁部区画はR単輪絡糸体第1類縦回転。胴部は同じものの縦回転の可能性がある。口縁部区画内はR縄線もしくは前述のものより太い単輪絡糸体の斜め回転。
図Ⅲ-2-55	H41	9	円筒下層b2式新段階	H41-6	Ⅱb	H41覆土南側18	10	9	87	住居覆土	口径20cm。底径9cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁側は横。胴部側は縦。隆帯によって口縁部を区画する。隆帯上形刺突が連続。区画内にはL縄文。幅は5cm。地紋はR縄単輪絡糸体第1類縦回転。微妙な上げ底でミガキにより無文。
						H41ベルト覆土下位46	6		住居覆土		
						H41ベルト覆土下位47	2	60	住居覆土		
図Ⅲ-2-55	H41	10	円筒下層b2式	H41-3	Ⅱb	H41トレンチ70	1	2	3	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。小石少量含む。内面ミガキ。口縁部区画はR単輪絡糸体第1類の側面圧痕2条による。区画内はL縄結節2段。胴部はR縄単輪絡糸体第5類斜め回転。
図Ⅲ-2-55	H41	11	円筒下層b2式	H41-2	Ⅱb	H41トレンチ70	25	2	27	住居覆土	底径9cm。内面ミガキ。繊維含む。海綿骨針少量含む。地紋は、R縄で単輪絡糸体第1類を斜め回転。底部際には同一一体で横方向に帯状の施文。幅4cm。上げ底で、胴部と同一一体で施文。
図Ⅲ-2-55	H41	12	円筒下層b2式	H41-1	Ⅱb	H41トレンチ70	23		23	住居覆土	底径10cm。内面ミガキ。繊維・海綿骨針含む。地紋はR縄で単輪絡糸体第1類を縦回転。底部際には同一一体で横方向に帯状の施文。幅4cm。上げ底で、胴部と同一一体で施文。
図Ⅲ-2-55	H41	13	東銅路Ⅳ式	H41-5	Ⅰb	H41西トレンチ71	1		1	住居覆土	内面ミガキ。砂粒含む。地紋は魚骨回転文ニシタタイプ。一部にRRL縄回転。
図Ⅲ-2-56	H42	1	円筒下層b2式	H42-1	Ⅱb	H42覆土8	9	15	25	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁上は横。口縁下は横から胴部にかけては縦方向。地紋は口縁から胴部へと連続するR縄縦回転。
						H42覆土4-7	1		住居覆土		
						H42覆土8	5	23	47	住居覆土	
図Ⅲ-2-56	H42	2	円筒下層d2式	H42-2	Ⅱb	H42覆土2-1	1	11		住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁から胴部上半は横、胴部下半にかけては縦方向。肩部で口縁部文様帯を区画。幅4cm。R縄側面圧痕を口唇に連続。区画内には、L縄縄線による直線構成の文様。区画直下には幅2cmで、結束第二種羽状縄文2段。地紋はR縄で、自縄自巻を縦走。
						H42覆土2-2	9		住居覆土		
						H42覆土2-3	7	1	住居覆土		
						Ⅲ 59V6	2		包含層		
						H43覆土2層27	3		住居覆土		
図Ⅲ-2-56	H43	2	円筒下層b式	H43-2	Ⅱb	H43覆土1層26	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部を隆帯で区画し、L縄文横回転。
図Ⅲ-2-56	H43	3	円筒下層b2式	H43-3	Ⅱb	H43床面6	1		1	住居床面	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。再生土製品。縁辺楕円形に成形。中央穿孔。
図Ⅲ-2-56	H44	1	円筒下層b式	H44-1	Ⅱb	H44床面25	1		1	住居床面	繊維・小石含む。内面ミガキ。R縄単輪絡糸体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-56	H44	2	円筒下層b式	H44-2	Ⅱb	H44床面16	1		1	住居床面	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。R縄文縦回転。上げ底。網目がある。R縄か。底径12cm。
図Ⅲ-2-56	H45	1	円筒下層b式	H45-1	Ⅱb	H45周溝覆土1層11	1		1	付属遺構覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。R縄単輪絡糸体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-56	H45	2	円筒下層b式	H45-2	Ⅱb	H45HF-1覆土2層18	1		1	付属遺構覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。表面磨滅により不明。
図Ⅲ-2-57	H46	3	円筒下層b2～c式	H46-4	Ⅱb	H46覆土1層22	3	2	6	住居覆土	口径25cm。繊維・海綿骨針・白色砂含む。内面ミガキ。口縁部は横。胴部は縦。指頭圧痕による口縁部区画。口縁部・地紋ともにR縄単輪絡糸体第1類縦～斜め回転。口縁部区画幅7cm。
						H46覆土壁63	1		29	住居覆土	
						H46覆土39	1	1	29	住居覆土	
図Ⅲ-2-57	H46	4	円筒下層b2式	H46-1	Ⅱb	M4-3 61T37	1	21		盛土	口径21cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部は横。胴部は縦。隆帯による口縁部区画。口縁部・地紋ともにR縄文。口縁部区画幅6cm。
						M4-3 61T38	2		盛土		
						M4-3 61R37	3		盛土		
						H46覆土32	3		4	住居覆土	
図Ⅲ-2-57	H46	5	円筒下層b2式	H46-5	Ⅱb	M4-3 61S89	1			盛土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はR縄単輪絡糸体第5類縦回転。
						H46覆土壁63	2		10	住居覆土	
						H46覆土下位62	1	4		住居覆土	
図Ⅲ-2-57	H46	6	円筒下層b2式	H46-3	Ⅱb	H46HP-7覆土82	2			付属遺構覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はLRL縄文縦走。
						H46HP-7覆土上位70	1			付属遺構覆土	
						H46床面3	6	3	11	住居床面	
図Ⅲ-2-57	H46	7	円筒下層b2式	H46-6	Ⅱb	H46床面7	2		2	住居床面	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。煤着付。地紋はR縄単輪絡糸体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-57	H46	8	円筒下層b2式	H46-2	Ⅱb	H46覆土上位30	3		3	盛土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はR縄による単輪絡糸体第1類縦に近い斜め回転。縁辺を打ち欠いて成形。再生土製品。
図Ⅲ-2-57	H46	9	円筒下層b2式	H46-7	Ⅱb	H46HP-5覆土74	1		1	付属遺構覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はR縄第1類縦回転。底部は上げ底で、ミガキにより無文。
図Ⅲ-2-58	H47	1	円筒下層b式	H47-1	Ⅱb	H47覆土1	1		1	住居覆土	口縁L縄結節を施文。繊維・海綿骨針・小石を含む。
図Ⅲ-2-58	H47	2	円筒下層b式	H47-2	Ⅱb	H47覆土1	1		1	住居覆土	底部上げ底でLRL縄文を施文。繊維・海綿骨針含む。
図Ⅲ-2-58	H48	1	円筒下層b式	H48-1	Ⅱb	H48床面1	1		1	住居床面	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋は斜め回転か。
図Ⅲ-2-58	H48	2	円筒下層b式	H48-2	Ⅱb	H48HP-2覆土16	1		1	付属遺構覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋は結束回転か。
図Ⅲ-2-58	H49	1	円筒下層b式	H49-1	Ⅱb	H49覆土1層1	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。RRL縄文横回転。上げ底で、底面にも地紋と同じ施文。
図Ⅲ-2-58	H50	1	円筒下層b式	H50-1	Ⅱb	H50覆土4	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。LRL縄文縦回転。
図Ⅲ-2-58	H51	1	円筒下層c式	H51-2	Ⅱb	H51覆土西側28	6		6	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁横。胴は縦。隆帯により口縁部を区画し、区画内にはL縄による単輪絡糸体側面圧痕により直線構成の文様を施文。幅は5cm。地紋は直前段反撥りLRL縄文を縦走。
図Ⅲ-2-58	H51	2	円筒下層b2～c式	H51-5	Ⅱb	H51覆土東側29	12	19	31	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁横。胴は縦。隆帯により口縁部を区画し、区画内にはL縄による単輪絡糸体第4類回転。幅は6cm。隆帯上に円形刺突。その直上直下に単輪絡糸体側面圧痕。地紋は直前段反撥りRRL縄を横回転。

III 遺構の調査と出土遺物

図版番号	遺構番号	掲載番号	型式名称	拓本整理番号	分類(群と類を略)	層位	接合点数	同一個体か(未接合)	合計点数	区分	特徴
図Ⅲ-2-58	H51	3	円筒下層c式	H51-3	Ⅱb	H51覆土西側28	19	7	26	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口径28cm、底径12cm。口縁横。胴は縦。頸部により口縁部を区画し、区画には直前段反振りRRL縄文を横走させる。区画直下には結束第一種羽状縄文。幅はそれぞれ5cm、2cm。地紋は直前段反振りRRL縄文を縦走させる。上げ底で底面は磨滅。
図Ⅲ-2-58	H51	4	円筒下層c式	H51-1	Ⅱb	H51ベルト覆土33	1	2	3	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁横。胴は縦。地紋を無文にすることにより口縁部を区画し、区画にはR縄網糸体側面圧痕で直線構成の文様を施す。地紋は直前段反振りLRL縄網を縦回転。
図Ⅲ-2-58	H51	5	円筒下層c式	H51-4	Ⅱb	H51ベルト覆土33	5	9	14	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口径15cm、底径13cm。口縁横。胴は縦。頸部により口縁部を区画し、区画には胸部地紋と連続して直前段反振りLRL縄文を横回転させる。幅はそれぞれ3cm。上げ底で底面は磨滅。
図Ⅲ-2-58	H51	6	焼成粘土塊	H51-8	Ⅱb	H51覆土西側28②	1		1	住居覆土	繊維含む。
図Ⅲ-2-58	H51	7	円筒下層b2式	H51-7	Ⅱb	H51床面13	1		1	住居床面	繊維・海綿骨針・砂粒含む。内面ミガキ。地紋はL縄網による単軸絡糸体第5類縦回転。
図Ⅲ-2-58	H51	8	円筒下層b2式	H51-6	Ⅱb	H51HP-5覆土81	1		1	住居付風道襖覆土	繊維含む。内面ミガキ。地紋はR縄網による単軸絡糸体第5類縦回転。
図Ⅲ-2-59	H52	2	円筒下層c式	H52-1	Ⅱb	H52覆土1層56	14	21	35	住居覆土	口径17cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁横。胴は縦。胸部は縦。口縁部文様帯はLRL縄網に3本施される。幅3cm。地紋はLRL縄網単軸絡糸体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-59	H53	1	円筒下層b2式	H53-3	Ⅱb	H53覆土1-21	10		10	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はR縄網単軸絡糸体第1類縦回転。底面にも同様の文様を施し、上げ底。
図Ⅲ-2-59	H53	2	円筒下層b2式古段階	H53-2	Ⅱb	H53覆土1-22	13	21	34	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁横。胴は縦。隆帯により口縁部を区画し、区画にはL縄網を2段ほど回転させる。区画直下にも同様の施文。幅はそれぞれ3.5cmと2.5cm。地紋はR縄網単軸絡糸体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-59	H53	3	コッタ口式	H53-1	I b	H53覆土1-22	2		2	住居覆土	角閃石含む。内面ミガキ。微隆起線を持つ。地紋はR縄とL縄を交互に横回転、又は紐の圧痕を連続する。
図Ⅲ-2-59	H54	1	円筒下層b1式	H54-2	Ⅱb	H54覆土2-43	6		6	住居覆土	内面ミガキ 繊維・海綿骨針含む。微妙な上げ底で、R縄文縦走。
図Ⅲ-2-59	H54	2	円筒下層b1式	H54-1	Ⅱb	H54覆土2-43	4	3	7	住居覆土	内面ミガキ 繊維・海綿骨針含む。隆帯を区画帯としての上に縄網によるものか連続刺突がある。区画内、胴部にもLRL縄網の縦走。区画の幅5cm
図Ⅲ-2-59	H54	3	円筒下層b2式古段階	H54-3	Ⅱb	H54床面-7	1		1	住居床面	内面ミガキ 繊維・海綿骨針含む。L縄網単軸絡糸体を縦回転。
図Ⅲ-2-59	H55	1	円筒下層b2～c式	H55-1	Ⅱb	H55覆土1-16	1		1	住居覆土	内面ミガキ 繊維・海綿骨針含む。R縄多軸絡糸体
図Ⅲ-2-59	H55	2	円筒下層b2式	H55-2	Ⅱb	H55覆土1-16	3		3	住居覆土	内面ミガキ 繊維・海綿骨針含む。L縄網単軸絡糸体5類
図Ⅲ-2-59	H55	3	円筒下層d1式	H55-3	Ⅱb	H55覆土1-16	2		2	住居覆土	内面ミガキ 繊維・海綿骨針含む。結束第一種羽状縄文とR縄網単軸絡糸体1類。
図Ⅲ-2-60	H56	4	円筒下層c式	H56-1	Ⅱb	H56覆土最上位3	5		5	住居覆土	口径16cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁横。胴部縦。肩部で口縁部を区画。右に引き抜く連続刺突。区画には直前段反振りRRL縄文を横走。R縄とL縄を羽状に組み合わせた単軸絡糸体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-62	H57	1,2	焼成粘土塊	H57-3	Ⅲa	H57覆土中位18 H57覆土85P区49	12 2	20	34	住居覆土 住居覆土	3aは17.5×4×1.3cm、3bは7×2.5×1cm。胎土には海綿骨針と繊維を含む。3bはaの表面が剥落したもの。胎土からaと判断した。
図Ⅲ-2-62	H57	3	円筒上層a式	H57-4	Ⅲa	H57覆土1 H57覆土2 Ⅲ85P1	1 1 3	1	6	住居覆土 住居覆土 包含層	胎土には繊維、砂を含む。内面は横ミガキ。口縁部文様帯全体が肥厚。口唇にR縄単軸絡糸体側面圧痕が連続。口縁には同様の原体により縄網線に7段の線を施す。四単位の波頂部からは浪打ながら垂下する隆帯があらわれ末端はボタン状である。隆帯上にもR縄単軸絡糸体側面圧痕。胴部にはLRL縄網縦走。
図Ⅲ-2-62	H57	5	円筒下層b2式	H57-2	Ⅱb	H57覆土86P区17	5		5	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。隆帯で口縁部を区画。隆帯上には爪型刺突が連続。口唇には磨滅して不明瞭だがへう先によるものか、連続圧痕が残る。幅4cm。口縁部から胴部LRL縄網。縄文施文後隆帯貼付。斧型風再生土製品。被熱。
図Ⅲ-2-62	H57	6	円筒上層a式	H57-1	Ⅲa	H57覆土86P区17	6		6	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。肥厚部で口縁部を区画。区画にはR縄網側面圧痕。幅6cm。胴部LRL縄網。斧型風再生土製品。被熱。
図Ⅲ-2-68	H59	1	円筒下層b2式	H59-1	Ⅱb	H59覆土1	1		1	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。R縄網単軸絡糸体第1類縦回転。底部際は帯状に横回転。底径10cm。
図Ⅲ-2-69	H60	1	円筒下層b2式古段階	H60-4	Ⅱb	H60覆土49 M4-3 62R21	1 5		6	住居覆土 盛土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁部はR縄網単軸絡糸体第1類横回転。幅2cm以上。地紋はR縄網単軸絡糸体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-69	H60	2	円筒下層b2式古段階	H60-3	Ⅱb	H60覆土49 M2-2 62R45 M2-2下位 62R6	1 10 1	3	15	住居覆土 盛土 盛土	繊維含む。海綿骨針少量含む。内面ミガキ。磨滅著しい。隆帯による口縁部区画。口縁部はR縄網単軸絡糸体第1類斜め回転。幅5cm。地紋はR縄網単軸絡糸体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-69	H60	4	円筒下層b2式古段階	H60-2	Ⅱb	H60覆土49 M2 62R43	1 8	1	19	住居覆土 盛土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はR縄網第1類縦回転を主とするが、下部はR縄網第5類縦回転。
図Ⅲ-2-69	H60	5	円筒下層b2式古段階	H60-6	Ⅱb	H60覆土43	8		8	住居覆土	繊維含む。海綿骨針少量含む。内面磨滅。地紋はL縄網単軸絡糸体第1類縦回転。底部は上げ底で、地紋と同一原体にて回転施文。
図Ⅲ-2-69	H60	6	円筒下層b2式古段階	H60-5	Ⅱb	M4-6 61Q1 H60覆土49	5 6		11	盛土 住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。磨滅著しい。隆帯による口縁部区画。口縁部直下にはL縄網の結節が数段巡る。
図Ⅲ-2-69	H60	7	円筒下層b2式古段階	H60-1	Ⅱb	H60床面26	1		1	住居床面	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はR縄網単軸絡糸体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-70	H62	1	円筒下層d2式	H62-6	Ⅱb	H62北トレンチ覆土54 H62覆土37 Ⅲ 61V1 Ⅲ 61V2 Ⅲ 61V3 Ⅲ 60R175 Ⅲ 61V5 M1 61Q20 M1 60R177 M1 61U13 M1 61U20	1 3 4 4 1 1 1 1 2 2	4 3 3 1 6 1 1 2 2	33 6 3 4 1 6 1 1 2 2	住居覆土 住居覆土 包含層 包含層 包含層 包含層 包含層 盛土 盛土 盛土 盛土	口径26cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁横。隆帯によって口縁部を区画する。区画内はL縄網とR縄網による文様。四単位の波頂部と2段口縁風の文様構成が考えられる。半割竹管による連続刺突が、隆帯上と縄網間、および口唇に連続する。地紋は上半分が結束第一種羽状縄文。下半分はL縄網による多軸絡糸体。
図Ⅲ-2-70	H62	2	円筒下層d2式	H62-7	Ⅱb	H62覆土37 H62 南北トレンチ覆土54 M2-2 61U11 M2-2 61U18 Ⅲ61V1 Ⅲ61U16 Ⅲ61V6 Ⅲ61V5	1 11 1 1 2 2 1 7	6 24 1 1 3 1 1 7	61 24 1 1 3 1 1 7	住居覆土 住居覆土 盛土 盛土 包含層 包含層 包含層 包含層	口径20cm。底径7.5cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁横。胴部縦。胴部縦。肩によって口縁部を区画する。肩部には結束第二種羽状縄文。口唇にはL縄網側面圧痕による側面圧痕を連続。区画内はLRL縄網による直線構成の文様。幅は3cm。地紋はR縄網の多軸絡糸体を縦回転。上げ底でミガキにより無文。
図Ⅲ-2-70	H62	3	円筒下層b2式古段階	H62-1	Ⅱb	H62覆土113	6		6	住居覆土	繊維・海綿骨針・砂含む。内面ミガキ。隆帯によって口縁部を区画する。区画内および地紋はR縄網単軸絡糸体第一種縦回転。
図Ⅲ-2-70	H62	4	円筒下層d2式	H62-2	Ⅱb	H62覆土55 M4-3 61S7	6 6	3	15	住居覆土 盛土	繊維・海綿骨針・砂含む。内面ミガキ。肩によって口縁部を区画する。区画内にはLRL縄網6本。および焼成前の穿孔あり。地紋はR縄網多軸絡糸体縦回転。
図Ⅲ-2-70	H62	5	円筒下層b2式古段階	H62-5	Ⅱb	H62床面19	7		7	住居床面	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋の上半はLRL縄網横回転。下半は直前段反振り前々段捻り。RRLとLRL縄網とRRRとRRL縄網を擦る。
図Ⅲ-2-70	H62	6	円筒下層b2式古段階	H62-3	Ⅱb	H62床面16	1		1	住居床面	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。隆帯によって口縁部を区画する。隆帯上には指頭圧痕の連続。区画直下にはLRL縄網結節が幅2cm。地紋はLRL縄網縦回転。
図Ⅲ-2-70	H62	7	円筒下層b2式古段階	H62-4	Ⅱb	H62床面23	2		2	住居床面	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋はR縄網単軸絡糸体第1類縦回転。上げ底でLRL縄網縦回転。
図Ⅲ-2-70	H63	1	円筒下層b2式	H63-1	Ⅱb	H63床面27	1		1	住居床面	内面ミガキ 繊維・海綿骨針・砂含む。R縄網単軸絡糸体1類縦回転。
図Ⅲ-2-70	H63	2	円筒下層b2式	H63-2	Ⅱb	H63床面13	1		1	住居床面	内面指頭圧痕調整 繊維・海綿骨針含む。微妙な上げ底でR縄網単軸絡糸体1類縦回転。
図Ⅲ-2-71	H64	1	円筒下層b2式	H64-3	Ⅱb	H64床面50	2		2	住居床面	内面ミガキ 繊維・海綿骨針含む。R縄網単軸絡糸体1類。上げ底ミガキ無文。

4 表

図版番号	遺構番号	掲載番号	型式名称	拓本整理番号	分類(群と類を略)	層位	接合点数	同一個体か(未接合)	合計点数	区分	特徴
図Ⅲ-2-71	H64	2	円筒下層b2式	H64-1	Ⅱb	H64覆土1-86	6	6	12	住居覆土	内面ミガキ 繊維・海綿骨針含む。R縄単軸絡糸1類。上げ底ミガキ無文。
図Ⅲ-2-71	H64	3	円筒下層b2式	H64-2	Ⅱb	H64床面63	1	1	1	住居床面	内面ミガキ 繊維・海綿骨針含む。R縄単軸絡糸1類。口縁R縄結節3段
図Ⅲ-2-71	H65	1	円筒下層b2式	H65-1	Ⅱb	H65床面9	8	8	8	住居床面	内面ミガキ 繊維・海綿骨針含む。R縄多軸絡糸体縦回転。
図Ⅲ-2-71	H65	2	円筒下層c式	H65-3	Ⅱb	H65覆土1-21	1	1	2	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁側は横方向。口縁部区画内にはR縄線を3本以上。
図Ⅲ-2-71	H65	3左	円筒下層d1式	H65-2a	Ⅱb	H65覆土1-21	3	3	3	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁側は横、胴部側は縦。微妙な肩によって口縁部を区画する。2本一組のL縄とR縄で肩部直上と口唇部直下に施文し、間にへら刺突列を施す。区画直下には結束第一種羽状縄文を施す。区画とその直下の文幅幅はそれぞれ3cmと2cm。地紋はL縄の単軸絡糸体を縦回転。
図Ⅲ-2-71	H65	3右	円筒下層d1式	H65-2b		M6-2 42W2	1	1	1	盛土	
図Ⅲ-2-71	H66	1	円筒下層d1式	H66-1	Ⅱb	H66床面7	1	1	1	住居床面	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁側は横、胴部側は縦。微妙な肩によって口縁部を区画する。2本一組のL縄とR縄で肩部直上と口唇部直下に施文し、間にへら刺突列を施す。区画直下には結束第一種羽状縄文を施す。区画とその直下の文幅幅はそれぞれ3cmと2cm。地紋はL縄の単軸絡糸体を縦回転。
図Ⅲ-2-71	H66	2	円筒下層b2式	H66-2	Ⅱb	H66HP-1覆土2-58	1	1	1	住居付属遺構覆土	繊維・海綿骨針・白色砂含む。内面縦ミガキ。RLR縄横回転。
図Ⅲ-2-72	P45	2	円筒下層d2式	P45-1	Ⅱb	P45覆土中位2	2	2	36	遺構覆土	口径22cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁側は横、胴部側は縦。隆帯によって口縁部を区画する。隆帯上にはLR側面圧痕が連続。区画内にはL縄線とR縄線による直線構成の文様。幅は5cm。地紋はL縄の第4類単軸絡糸体を縦回転。
						M2 63T1	2			盛土	
						M2 63T2	1	1		盛土	
						M2 62Q6	1	1		盛土	
						M2 63Q11	6	4		盛土	
						H39覆土南側313	1			住居覆土	
						M2 63S34	4			盛土	
						M2 63S3	2			盛土	
						M2 62Q5	5			盛土	
						M1 62Q11	1			盛土	
図Ⅲ-2-72	P47	1	円筒上層d式	P47-1	Ⅲa	P47覆土2 1	4	4	39	住居覆土	繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。地紋は結束第一種羽状縄文か。底部は微妙な上げ底で、ミガキにより無文だが、かすかに網代のような痕跡がうかがえる。細い無文の隆帯で胴部上半から口縁にかけて加飾。波頂部に対応した突起をもつ。
						P47覆土2 2	2			住居覆土	
						P47覆土2 3	2	1		住居覆土	
						P47覆土2 4	1			住居覆土	
						P47覆土2 5	2	1		住居覆土	
						P47覆土2 6	1			住居覆土	
						P47覆土2 7	1			住居覆土	
						P47覆土2 8	1			住居覆土	
						P47覆土2 9	1	3		住居覆土	
						P47覆土2 10	1	2		住居覆土	
P47覆土2 11	1			住居覆土							
P47覆土2 14	5			住居覆土							
P47覆土2 15	1			住居覆土							
P47覆土2 17	2			住居覆土							
P47覆土2 18	4			住居覆土							
P47覆土2 19	3			住居覆土							
P47覆土2 20	1			住居覆土							
図Ⅲ-2-73	P56	1	円筒下層b2～c式	P56-1	Ⅱb	P56覆土14	5	5	5	土坑覆土	繊維・海綿骨針含む。砂少量含む。内面ミガキ。口縁側は横、胴部側は縦。隆帯によって口縁部を区画する。区画内にはLR縄線がめぐるほか、隆帯上と区画内には円形刺突が連続する。幅は5cm。地紋はR縄単軸絡糸体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-73	P56	2	円筒下層b2～c式	P56-2	Ⅱb	P56底面10	8	46	83	土坑底面	口径15cm。繊維・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁側は横、胴部側は縦。隆帯によって口縁部を区画する。区画内にはサルボウ条痕を横走させる。幅は4cm。地紋はR縄単軸絡糸体第1類縦回転。
図Ⅲ-2-73	P56	3	円筒下層b2～c式	P56-3	Ⅱb	P56底面9	4	5	5	土坑底面	口径17cm。繊維・海綿骨針含む。砂少量含む。内面ミガキ。磨滅著しい。肩部によって口縁部を区画する。区画内には結束第一種羽状縄文を横走させる。幅は6cm。地紋は結束第一種羽状縄文か。磨滅著しい。
図Ⅲ-2-73	P56	4	円筒下層b2～c式	P56-4	Ⅱb	P56底面9	13	13	13	土坑底面	繊維・海綿骨針含む。砂少量含む。内面ミガキ。磨滅著しい。地紋はR縄の多軸絡糸体。磨滅著しい。遺物番号6の注記を持つ土器が接合しているが、9の関連。
図Ⅲ-2-74	P60	1	円筒上層a式	P60-1	Ⅲa	P60覆土1	4	4	32	土坑覆土	口径24cm。白色小石・海綿骨針含む。内面ミガキ。口縁側は横、胴部側は縦。双頭の波頂部は四単位と考えられる。LR縄横回転。
						Ⅲ81P5	13			包含層	
						Ⅲ81P1	3	3		包含層	
						Ⅲ81P4	2			包含層	
						Ⅲ81Q5	4			包含層	
Ⅲ81Q6	5			包含層							
図Ⅲ-2-74	TP	7	円筒上層a式	TP7-1	Ⅲa	TP7覆土5	4	7	7	遺構覆土	口径30cm。砂含む。内面ミガキ。口縁側は横、胴部側は斜め。隆帯によって口縁部を区画する。区画内にはLR縄線を2～3本一組として文様施す。幅は8cm。地紋は結束第一種羽状縄文。
図Ⅲ-2-74	TP	7	円筒上層a式	TP7-2	Ⅱb	TP7覆土4	3	6	6	遺構覆土	砂含む。内面ミガキ。地紋はRLR縄文。LR結節縦回転。
図Ⅲ-2-74	S5	1	円筒上層d式	S5-1	Ⅲa	S5覆土1層7	1	1	1	集石掘りかた	砂、海綿骨針含む。内面横ミガキ。口径26cm。細い隆帯で加飾後、LR縄文回転。
図Ⅲ-2-75	F65	1	円筒下層b2～c式	269b	Ⅱb	Ⅲ攪乱76R4	1	1	1	包含層	269の肩部。円形刺突がある。269b
図Ⅲ-2-75	F65	1	円筒下層b2～c式	269c	Ⅱb	Ⅲ76R2	1	1	1	包含層	269の肩部。円形刺突がある。269c
図Ⅲ-2-76	F82	4	サイベ沢Ⅶ式	F82 14	Ⅲa	F82 覆土1 37	4	6	6	F82	内面ミガキ 繊維・海綿骨針・砂粒含む。地紋はL縄を回転。口唇にはRL縄側面連続圧痕。円形貼り付け。
図Ⅲ-2-76	F82	6	サイベ沢Ⅶ式	F82 15	Ⅲa	F82 覆土1 11	14	57	71	F82	口径20cm。底径7.5cm。内面ミガキ 砂粒含む。地紋はL縄とR縄をそれぞれ結節を回転。口唇にはL縄側面連続圧痕。胴部までおよび文様帯は隆帯と沈線で施文される。隆帯上には爪型文様。高台による上げ底でミガキにより無文。
図Ⅲ-2-76	F82	7	サイベ沢Ⅶ式	F82 16	Ⅲa	F82 覆土1 10	21	82	103	F82	内面ミガキ 海綿骨針・砂粒含む。地紋はLR縄とR縄をそれぞれ結節を回転。L縄が主体。口唇にはLR縄側面連続圧痕。微妙な上げ底でミガキにより無文。
図Ⅲ-2-76	F82	9	サイベ沢Ⅶ式	F82 3	Ⅲa	F82 覆土1 12	17	56	73	F82	内面ミガキ 砂粒含む。地紋LR縄文横回転。口唇には隆帯LR縄線。
図Ⅲ-2-77	F82	10	サイベ沢Ⅶ式	F82-12	Ⅲa	F82 覆土1 8	2	7	7	F82	内面ミガキ 砂粒含む。地紋LR縄とR縄の結束第一種羽状縄文横回転。口唇には隆帯RL縄側面連続圧痕。
						F82 覆土1 37	1	3		F82	
図Ⅲ-2-77	F82	11	サイベ沢Ⅶ式	F82-2	Ⅲa	F82 覆土1 6	3	66	66	F82	内面ミガキ 砂粒含む。地紋L無節縄文横回転とその端端回転。口唇には隆帯L縄側面連続圧痕。
図Ⅲ-2-77	F82	12	円筒上層d式	F82-4	Ⅲa	F82 覆土1 10	6	57	57	F82	内面ミガキ 砂粒含む。地紋結束第二種羽状縄文。隆帯上L縄線。
図Ⅲ-2-77	F82	13	サイベ沢Ⅶ式	F82-13	Ⅲa	F82 覆土1 8	11	11	11	F82	内面ミガキ 砂粒含む。地紋LR縄とR縄の結束第一種羽状縄文横回転。口唇には隆帯RL縄側面連続圧痕。
図Ⅲ-2-78	F82	23	サイベ沢Ⅶ式	F82-1	Ⅲa	F82 覆土1 37	5	8	13	F82	内面ミガキ 砂粒含む。地紋結束第一種羽状縄文。口唇には隆帯L縄側面連続圧痕。突起貼付と穿孔。ミガキにより無文の平度。
図Ⅲ-2-79	F82	27	サイベ沢Ⅶ式	F82-7	Ⅲa	沢1層 45T61	17	71	88	沢地形F82周辺	内面ミガキ 砂粒含む。地紋結束第一種羽状縄文。口唇には隆帯L縄側面連続圧痕。突起貼付と穿孔。ミガキにより無文の平度。
図Ⅲ-2-79	F82	28	サイベ沢Ⅶ式	F82-8	Ⅲa	沢1層 45T61	2	2	2	沢地形F82周辺	内面ミガキ 砂粒・海綿骨針含む。隆帯上無文。縁辺キザミ。
図Ⅲ-2-79	F82	29	サイベ沢Ⅶ式	F82-5	Ⅲa	沢1層 45T61	1	1	1	沢地形F82周辺	内面ミガキ 砂粒・海綿骨針含む。隆帯上L縄線。
図Ⅲ-2-79	F82	30	サイベ沢Ⅶ式	F82-6	Ⅲa	沢1層 45T61	1	4	5	沢地形F82周辺	内面ミガキ 砂粒・繊維・海綿骨針含む。地紋LR縄回転施文。隆帯上L縄回転施文。
図Ⅲ-2-79	F82	31	サイベ沢Ⅶ式	F82-9	Ⅲa	沢1層 45T61	2	3	5	沢地形F82周辺	内面ミガキ 砂粒含む。地紋LR縄縦回転施文。隆帯上無文。
図Ⅲ-2-79	F82	32	サイベ沢Ⅶ式	F82-11	Ⅲa	沢1層 45T61	1	1	1	沢地形F82周辺	内面ミガキ 海綿骨針含む。隆帯上円形刺突連続。L縄文地紋。
図Ⅲ-2-79	F82	33	焼成粘土塊	F82-10	Ⅲa	沢1層 47V60	1	1	1	沢地形F82周辺	内面ミガキ 繊維・海綿骨針含む。L縄による地紋か。再生土製品。円形。中央穿孔。海綿骨針含む。

表Ⅲ-7 遺構出土石器一覧

図版番号	遺構番号	掲載 番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-1	H18	1	覆土3層	石核	頁岩	4169	5.80	6.80	6.60	260.00
図Ⅲ-3-1	H18	2	覆土2層	石斧未成品	砂岩	2956	19.60	6.90	4.65	750.50
図Ⅲ-3-1	H18	3	覆土49Vトレンチ	石製品	異形石器 頁岩	4459	6.29	5.10	0.52	10.40
図Ⅲ-3-1	H18	4	覆土1層	扁平打製石器	流紋岩	1155	5.60	7.80	2.00	114.70
図Ⅲ-3-1	H18	5	覆土1層	北海道式石冠	小型 安山岩	1043	7.25	8.00	4.70	398.60
図Ⅲ-3-1	H18	6	覆土3層	扁平打製石器	砂岩	4229	8.90	14.90	3.95	542.70
図Ⅲ-3-2	H18	7	覆土1層	石製品	石棒 凝灰岩	438	5.60	16.60	5.05	538.10
図Ⅲ-3-2	H18	7	覆土1層	石製品	石棒 凝灰岩	407	同上	同上	同上	同上
図Ⅲ-3-2	H18	7	覆土1層	石製品	石棒 凝灰岩	408	同上	同上	同上	同上
図Ⅲ-3-2	H18	8	床	石皿片	安山岩	4304	(17.00)	(13.30)	(3.60)	(1340.00)
図Ⅲ-3-2	H18	9	HP-5覆土	扁平打製石器	閃緑岩	4385	7.60	16.30	2.90	597.70
図Ⅲ-3-2	H18	10	床	北海道式石冠	被熱 砂岩	4306	10.90	13.50	5.20	1090.30
図Ⅲ-3-2	H18	11	HP11覆土	たたき石	流紋岩	4418	11.60	7.60	2.60	312.50
図Ⅲ-3-2	H18	12	HP8覆土	たたき石	砂岩	4412	11.80	8.50	4.60	620.70
図Ⅲ-3-3	H18ホリアゲ土	1	ホリアゲ土-49V	ドリル	頁岩	167	4.80	1.60	0.60	3.00
図Ⅲ-3-3	H18ホリアゲ土	2	ホリアゲ土-52S	ドリル	頁岩	34①	9.80	3.30	1.15	28.90
図Ⅲ-3-3	H18ホリアゲ土	3	ホリアゲ土-52S	ドリル	頁岩	34②	8.50	3.84	1.13	31.40
図Ⅲ-3-3	H18ホリアゲ土	4	ホリアゲ土	石製品	打ち欠きあり 頁岩	100	10.95	2.45	1.25	34.00
図Ⅲ-3-3	H18ホリアゲ土	5	ホリアゲ土-53T	石製品	凝灰岩	131	(9.95)	(4.25)	(3.80)	(173.00)
図Ⅲ-3-3	H18ホリアゲ土	6	ホリアゲ土-52R	石製品	軽石	19⑤	2.30	3.15	1.33	1.50
図Ⅲ-3-4	H19	1	覆土2層	石鏃	頁岩	346	3.24	1.40	0.32	1.40
図Ⅲ-3-4	H19	2	覆土2層	石鏃未成品	頁岩	347	3.28	1.23	0.28	1.10
図Ⅲ-3-4	H19	3	覆土2層	石製品	異形石器 頁岩	398	4.70	6.90	0.98	18.70
図Ⅲ-3-4	H19	4	覆土2層	石鏃	砂岩	370	(8.25)	(10.70)	1.65	(171.00)
図Ⅲ-3-4	H19	5	床面	ドリル	頁岩	146	4.45	2.90	0.50	6.00
図Ⅲ-3-4	H19	6	床面	ドリル	頁岩	94	3.20	1.50	0.30	1.40
図Ⅲ-3-4	H19	7	周溝覆土1層	つまみ付きナイフ	頁岩	182	5.55	3.20	0.80	11.70
図Ⅲ-3-4	H19	8	床面	スクレイパー	頁岩	96	4.80	4.20	1.10	15.60
図Ⅲ-3-4	H19	9	床面	スクレイパー	頁岩	92	8.50	6.20	1.55	43.70
図Ⅲ-3-4	H19	10	床面	スクレイパー	頁岩	84	10.90	4.70	2.40	120.80
図Ⅲ-3-4	H19	11	床面	スクレイパー	頁岩	93	5.50	6.30	1.35	35.30
図Ⅲ-3-4	H19	12	HP15覆土1層	スクレイパー	頁岩	143	13.30	6.40	2.40	179.70
図Ⅲ-3-4	H19	13	床面	両面調整石器	頁岩	26	8.70	8.00	2.40	165.80
図Ⅲ-3-5	H19	14	床面	北海道式石冠	安山岩	67	(11.60)	(9.50)	7.80	1041.90
図Ⅲ-3-5	H19	15	床面	北海道式石冠片	閃緑岩	16	(5.90)	(4.60)	(5.50)	(116.80)
図Ⅲ-3-5	H19	16	HP18覆土1層	石鏃	砂岩	240	7.40	9.35	1.55	139.30
図Ⅲ-3-5	H19	17	床面	たたき石	砂岩	66	12.50	6.50	3.95	527.90
図Ⅲ-3-5	H19	18	床面	たたき石	緑色泥岩	18	10.90	5.63	1.15	101.00
図Ⅲ-3-5	H20	1	床面	つまみ付きナイフ	頁岩	11	8.50	2.20	1.10	16.40
図Ⅲ-3-5	H20	2	床面	扁平打製石器	本州的北海道式石冠 砂岩	4	8.90	13.45	5.10	951.00
図Ⅲ-3-5	H20	3	床面	石皿	安山岩	12	16.80	29.50	8.60	4200.00
図Ⅲ-2-5	H20-2-土器H20の17へ	土器へ添付	床上	再生土製品→土器H20の17へ	I群b類土器 中茶路式	446②	6.10	6.55	0.67	30.50

4 表

図版番号	遺構番号	掲載 番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-6	H21	1	覆土	石錘	凝灰岩	276	4.21	7.55	0.85	28.10
図Ⅲ-3-6	H21	2	覆土西側	石製品	異形石器 頁岩	68	3.40	5.30	1.00	15.70
図Ⅲ-3-6	H21	3	覆土東側下位	石製品	軽石	113⑤	4.00	4.85	2.20	7.40
図Ⅲ-3-6	H21	4	床面	スクレイパー	頁岩	1	(6.20)	2.50	0.65	6.80
図Ⅲ-3-6	H21	5	HP-11覆土	台石	砂岩	327	34.10	26.00	16.70	17500.00
図Ⅲ-3-6	H21	6	床面	砥石	砂質凝灰岩	11	(7.70)	(5.50)	1.35	66.20
図Ⅲ-3-6	H21	7	床面	石皿	安山岩	27	34.80	(27.40)	7.50	6000.00
図Ⅲ-3-6	H23	1	覆土	石製品	安山岩	61	7.10	11.80	5.00	586.90
図Ⅲ-3-7	H23	2	覆土	石鏃	頁岩	97	3.84	1.39	0.35	1.40
図Ⅲ-3-7	H23	3	覆土	両面調整石器	頁岩	76	9.80	5.35	2.15	72.20
図Ⅲ-3-7	H23	4	覆土	たたき石	凹み石 安山岩	176	11.60	5.60	5.30	388.70
図Ⅲ-3-7	H23	5	覆土	石製品	棒状礫 安山岩	213	23.50	6.50	4.65	861.10
図Ⅲ-3-7	H23	6	床面	両面調整石器	頁岩	20	(6.60)	3.40	1.70	38.60
図Ⅲ-3-7	H23	7	床面	スクレイパー	頁岩	39	(6.90)	3.80	1.45	30.50
図Ⅲ-3-7	H23	8	床面	スクレイパー	頁岩	44	(6.00)	2.60	1.70	19.70
図Ⅲ-3-7	H23	9	床面	扁平打製石器	砂岩	51	9.30	(15.30)	4.00	850.60
図Ⅲ-3-7	H23	10	床面	石鏃	安山岩	30	3.90	13.00	0.95	74.60
図Ⅲ-3-8	H24	1	床面	ドリル	頁岩	82	4.65	3.05	0.70	10.80
図Ⅲ-3-8	H24	2	床面	スクレイパー	頁岩	65	(5.30)	2.60	0.70	12.20
図Ⅲ-3-8	H24	3	床面	スクレイパー	頁岩	17	7.40	4.60	1.15	37.70
図Ⅲ-3-8	H24	4	覆土2層	石製品	凝灰岩	126	(8.10)	(5.60)	(2.35)	(109.90)
図Ⅲ-3-8	H25	1	覆土2層	石斧未成品	緑色泥岩	140	7.05	5.50	3.10	144.00
図Ⅲ-3-8	H25	2	覆土2層	石斧未成品	緑色泥岩	111	10.10	7.20	5.20	402.40
図Ⅲ-3-8	H25	3	覆土1層	石製品	凝灰岩	75	10.50	4.60	2.60	110.90
図Ⅲ-3-8	H25	4	覆土2層	北海道式石冠未成品	安山岩	138	10.40	9.60	6.60	1005.00
図Ⅲ-3-9	H25	5	床面	石槍又はナイフ	頁岩	24	(6.10)	5.10	1.60	34.10
図Ⅲ-3-9	H25	6	床面	スクレイパー	頁岩	9	8.45	4.90	1.85	55.20
図Ⅲ-3-9	H25	7	床面	石皿	砂岩	21	19.80	13.80	4.10	1320.00
図Ⅲ-3-9	H26	1	床面	石鏃	頁岩	47	2.80	1.40	0.40	1.00
図Ⅲ-3-9	H26	2	床面	つまみ付きナイフ	頁岩	55	7.55	4.70	1.30	29.60
図Ⅲ-3-9	H26	3	HP-16覆土1層	石核	頁岩	68	8.60	8.50	3.70	266.00
図Ⅲ-3-9	H26	4	床面	石斧	緑色泥岩	50	8.00	4.70	1.65	93.50
図Ⅲ-3-9	H26	5	床面	石斧	緑色泥岩	21	8.60	4.80	2.85	191.60
図Ⅲ-3-10	H26	6	床面	扁平打製石器未成品	安山岩	43	7.30	11.20	2.20	205.70
図Ⅲ-3-10	H26	7	床面	扁平打製石器	安山岩	31	7.00	(8.65)	2.70	215.20
図Ⅲ-3-10	H26	8	HP-4覆土1層	たたき石	砂岩	69	8.40	7.00	5.60	389.00
図Ⅲ-3-10	H26	9	床面	石皿	安山岩	13	45.90	27.80	8.60	19500.00
図Ⅲ-3-10	H27	1	覆土2層	たたき石	凹み石 安山岩	156	8.30	7.80	4.95	395.80
図Ⅲ-3-10	H27	2	床面	石槍又はナイフ	頁岩	9	10.00	3.40	1.00	27.80
図Ⅲ-3-10	H27	3	周溝覆土1層	スクレイパー	頁岩	39	(5.10)	(4.60)	(0.80)	15.10
図Ⅲ-3-10	H27	4	床面	石斧	緑色泥岩	32	(11.90)	(5.10)	(3.00)	314.70
図Ⅲ-3-10	H27	5	HP-1覆土1層	扁平打製石器	砂岩	47	(9.00)	(9.70)	3.20	458.20
図Ⅲ-3-11	H27	6	床面	扁平打製石器	砂岩	6	15.70	19.90	5.30	2090.00

図版番号	遺構番号	掲載番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-11	H27	7	床面	扁平打製石器	安山岩	5	8.00	13.80	3.90	675.00
図Ⅲ-3-11	H27	8	床面	台石	砂岩	21	(27.00)	(25.20)	5.40	3298.00
図Ⅲ-3-11	H28	1	覆土2層	石核	頁岩	123	17.50	5.85	5.55	613.40
図Ⅲ-3-11	H28	2	覆土1層	石製品	球状耳飾 滑石	170	2.90	2.60	0.50	5.70
図Ⅲ-3-12	H28	3	覆土3層	石製品	軽石	187	11.10	13.50	6.70	260.50
図Ⅲ-3-12	H28	4	覆土2層	石製品	軽石	153	7.90	6.40	5.60	90.70
図Ⅲ-3-12	H28	5	覆土2層	石製品	軽石	141①	2.90	3.90	1.20	3.70
図Ⅲ-3-12	H28	6	覆土2層	石製品	軽石	141②	1.60	1.87	0.50	0.40
図Ⅲ-3-12	H28	7	覆土3層	たたき石	凹み石 安山岩	158	7.20	5.90	4.50	219.90
図Ⅲ-3-12	H28	8	床面	石鏃	頁岩	111	2.70	1.05	0.40	0.70
図Ⅲ-3-12	H28	9	床面	つまみ付きナイフ+ドリル	頁岩	91	8.70	2.05	1.00	11.80
図Ⅲ-3-12	H28	10	床面	両面調整石器	頁岩	84	9.55	6.50	3.50	196.80
図Ⅲ-3-12	H28	11	床面	石製品	異形石器 頁岩	66	6.40	6.50	1.20	22.10
図Ⅲ-3-13	H28	12	周溝覆土1層	北海道式石冠未成品	砂岩	34	9.70	15.30	5.50	1240.00
図Ⅲ-3-13	H28	13	周溝覆土1層	扁平打製石器	砂岩	26	11.40	17.40	4.10	885.00
図Ⅲ-3-13	H28	14	床面	たたき石	砂岩	75	12.00	8.30	5.40	566.20
図Ⅲ-3-13	H28	15	HP6覆土1層	台石	砂岩	106	26.40	26.00	10.50	10500.00
図Ⅲ-3-14	H29	1	覆土上位	石鏃	頁岩	152	4.30	1.55	0.40	2.20
図Ⅲ-3-14	H29	2	覆土下位	石鏃	頁岩	161	4.15	1.60	0.45	2.40
図Ⅲ-3-14	H29	3	覆土北側	石槍又はナイフ	頁岩	253	10.15	3.90	1.85	66.50
図Ⅲ-3-14	H29	4	覆土	つまみ付きナイフ	線対称 頁岩	297	6.45	3.05	0.85	15.20
図Ⅲ-3-14	H29	5	覆土上位	つまみ付きナイフ	線対称 頁岩	148	7.50	3.40	1.25	26.50
図Ⅲ-3-14	H29	6	覆土	石斧	両端潰れる 緑色泥岩	299	7.90	3.70	3.20	158.20
図Ⅲ-3-14	H29	7	覆土南端	石製品	環 凝灰岩	117	4.70	5.50	0.65	22.10
図Ⅲ-3-14	H29	8	覆土北トレンチ	石製品	軽石	186	9.00	4.30	4.00	134.40
図Ⅲ-3-14	H29	9	床面	石鏃	安山岩	37	(10.75)	(10.60)	(2.65)	(353.80)
図Ⅲ-3-14	H29	10	床面	扁平打製石器	閃緑岩	40	8.30	16.55	3.45	800.70
図Ⅲ-3-14	H29	11	床面	扁平打製石器	閃緑岩	46	6.40	13.00	2.30	306.10
図Ⅲ-3-15	H29	12	HP-29覆土	つまみ付きナイフ	頁岩	385	9.95	2.50	0.80	20.80
図Ⅲ-3-15	H29	13	HP-21覆土	たたき石	砂岩	375	14.70	8.25	2.70	480.20
図Ⅲ-3-15	H29	14	床面	たたき石	砂岩	55	10.80	8.70	4.65	585.00
図Ⅲ-3-15	H29	15	床面	台石	凝灰岩	49	41.70	34.50	5.20	5500.00
図Ⅲ-3-15	H29	16	床面	石皿	輝石安山岩	50	(30.80)	30.90	14.00	16000.00
図Ⅲ-3-16	H30	1	床面	スクレイパー	頁岩	33	3.50	3.50	0.85	9.20
図Ⅲ-3-16	H30	2	床面	扁平打製石器	安山岩	28と29	8.00	16.80	3.70	548.50
図Ⅲ-3-16	H30	3	床面	扁平打製石器	砂岩	1	8.15	13.90	2.95	458.40
図Ⅲ-3-16	H30	4	床面	たたき石	砂岩	27	(11.40)	7.20	6.00	680.10
図Ⅲ-3-16	H30	5	床面	たたき石	砂岩	35	(13.10)	6.70	4.40	442.70
図Ⅲ-3-16	H30	6	床面	たたき石	砂岩	36と37	14.90	8.90	3.30	591.50
図Ⅲ-3-16	H30	7	床面	台石	砂岩	19	40.10	25.00	12.20	21000.00
図Ⅲ-3-16	H30	8	床面	台石	安山岩	25	39.90	34.20	10.80	22000.00
図Ⅲ-3-17	H31	1	覆土1層	両面調整石器	頁岩	92	14.10	4.60	2.40	139.90
図Ⅲ-3-17	H31	2	覆土1層	たたき石	頁岩	45	14.70	4.90	5.15	470.30

4 表

図版番号	遺構番号	掲載 番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-17	H31	3	床面	スクレイパー	頁岩	26	7.10	3.90	1.30	19.00
図Ⅲ-3-17	H31	4	床面	石槍又はナイフ	片岩	5	11.90	3.40	0.75	41.00
図Ⅲ-3-17	H31	5	周溝覆土1層	石核	頁岩	38	7.50	15.10	7.80	703.20
図Ⅲ-3-18	H31	6	周溝覆土1層	扁平打製石器	閃緑岩	37	9.30	15.40	3.10	706.70
図Ⅲ-3-18	H31	7	周溝覆土1層	北海道式石冠未成品	安山岩	39	11.60	20.40	7.35	2155.00
図Ⅲ-3-18	H31	8	床面	砥石	砂岩	4	(18.75)	(11.10)	4.20	920.00
図Ⅲ-3-18	H31	8	床面	砥石	砂岩	31	同上	同上	同上	同上
図Ⅲ-3-18	H31	9	床面	たたき石	砂岩	7	(17.90)	(12.00)	6.00	1450.00
図Ⅲ-3-18	H31	10	床面	たたき石	砂岩	32	11.70	9.20	5.70	733.80
図Ⅲ-3-18	H32	1	床面	扁平打製石器片	安山岩	4	(6.20)	(9.45)	1.20	90.40
図Ⅲ-3-19	H33	1	床面	スクレイパー	頁岩	49	5.80	2.30	0.90	8.80
図Ⅲ-3-19	H33	2	床面	スクレイパー	頁岩	48	5.50	4.50	0.80	19.50
図Ⅲ-3-19	H33	3	床面	石斧	緑色泥岩	7	(5.50)	(4.40)	(1.10)	(47.90)
図Ⅲ-3-19	H33	4	覆土1層	石斧	緑色泥岩	53	9.00	5.30	3.10	253.70
図Ⅲ-3-19	H33	5	床面	たたき石	メノウ	12	9.00	8.10	4.10	481.70
図Ⅲ-3-19	H33	6	床面	たたき石	砂岩	17	11.10	5.80	3.20	274.00
図Ⅲ-3-19	H33	7	床面	砥石	砂岩	20	(18.20)	(18.20)	(5.20)	1710.00
図Ⅲ-3-20	H34	1	覆土4層	石鏃	頁岩	20	2.70	1.20	0.40	0.90
図Ⅲ-3-20	H34	2	覆土東側	両面調整石器	頁岩	67②	8.10	3.40	1.50	41.10
図Ⅲ-3-20	H34	3	覆土東側	両面調整石器	頁岩	67①	10.70	4.00	1.50	63.00
図Ⅲ-3-20	H34	4	覆土4層	スクレイパー	頁岩	12	(5.40)	5.40	1.10	27.10
図Ⅲ-3-20	H34	5	覆土西側	扁平打製石器	北海道式石冠的 安山岩	78	9.50	15.40	4.85	780.90
図Ⅲ-3-20	H34	6	覆土4層	たたき石	砂岩	9	13.80	8.00	3.60	561.10
図Ⅲ-3-20	H35	1	覆土1層下位	石皿	安山岩	25	36.00	21.70	7.60	5500.00
図Ⅲ-3-20	H35	2	覆土1層下位	石皿	砂岩	24	38.90	22.40	15.60	17500.00
図Ⅲ-3-21	H35	3	覆土1層下位	台石	安山岩	23	34.80	27.90	11.80	13500.00
図Ⅲ-3-21	H36	1	覆土西側	石槍又はナイフ	頁岩	111	8.50	2.70	0.80	16.50
図Ⅲ-3-21	H36	2	覆土東側	石斧片	油ぬって焼 緑色泥岩	40	(7.70)	2.95	2.30	80.70
図Ⅲ-3-21	H36	3	覆土4層	石皿	安山岩	15	30.00	29.40	10.50	8000.00
図Ⅲ-3-21	H37	1	覆土1層	ドリル	石鏃転用 頁岩	131	5.75	1.60	0.60	4.80
図Ⅲ-3-21	H37	2	覆土2層	砥石	砂岩	141	12.90	8.70	1.90	130.00
図Ⅲ-3-21	H37	3	覆土2層	たたき石	凹み石 頁岩	143	11.25	5.30	2.95	207.90
図Ⅲ-3-21	H37	4	周溝覆土1層	石鏃	頁岩	114②	1.90	1.20	0.40	0.80
図Ⅲ-3-21	H37	5	床面	ドリル	頁岩	76	7.50	3.50	1.70	31.50
図Ⅲ-3-21	H37	6	床面	スクレイパー	頁岩	119	5.95	4.00	1.20	23.40
図Ⅲ-3-22	H37	7	周溝覆土1層	スクレイパー	搔器 頁岩	118	6.70	5.75	1.55	67.50
図Ⅲ-3-22	H37	8	床面	両面調整石器	頁岩	25	9.05	4.50	1.90	78.10
図Ⅲ-3-22	H37	9	床面	両面調整石器	頁岩	44	10.80	5.80	2.40	115.90
図Ⅲ-3-22	H37	10	覆土2層	扁平打製石器	安山岩	142	7.00	8.00	2.90	219.20
図Ⅲ-3-22	H37	11	床面	扁平打製石器	凝灰岩	62	6.70	14.40	3.00	289.80
図Ⅲ-3-22	H37	12	周溝覆土1層	たたき石	砂岩	117	8.90	8.15	5.85	555.10
図Ⅲ-3-22	H37	13	周溝覆土1層	たたき石	砂岩	115	10.30	7.70	5.25	496.00
図Ⅲ-3-22	H37	14	周溝覆土1層	たたき石	砂岩	121	6.50	5.50	6.10	313.10

図版番号	遺構番号	掲載番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-22	H38	1	床面	北海道式石冠	閃緑岩	16	10.90	(14.40)	7.50	1729.00
図Ⅲ-3-23	H38	2	床面	石鏃	頁岩	19②	(2.50)	1.65	0.30	1.10
図Ⅲ-3-23	H38	3	覆土南北トレンチ	ドリル	つまみ付き 頁岩	109	7.80	1.90	0.80	9.40
図Ⅲ-3-23	H38	4	覆土最下位	石のこ	砂岩	140	12.60	18.90	5.70	1230.00
図Ⅲ-3-23	H38	5	覆土上位	石皿	安山岩	2	(22.20)	(19.80)	10.10	4900.00
図Ⅲ-3-23	H39	1	床面	石鏃未成品	頁岩	43	3.13	1.90	0.40	2.00
図Ⅲ-3-23	H39	2	覆土下部	石鏃	頁岩	393	(1.12)	1.76	0.48	2.70
図Ⅲ-3-23	H39	3	覆土東側	石鏃	頁岩	90	2.90	1.40	0.40	1.50
図Ⅲ-3-23	H39	4	覆土東西トレンチ西側	石鏃	頁岩	413	4.90	1.25	5.50	3.00
図Ⅲ-3-23	H39	5	覆土上部ベルト	つまみ付きナイフ片	黒曜石	249	(1.60)	(1.10)	(0.37)	(0.60)
図Ⅲ-3-23	H39	6	覆土南側	ドリル	頁岩	345	5.75	0.90	0.30	2.20
図Ⅲ-3-23	H39	7	覆土壁際	石槍又はナイフ	片岩	291	13.10	3.80	1.00	55.40
図Ⅲ-3-23	H39	8	覆土東側	石槍又はナイフ	頁岩 無茎	241	6.90	3.60	1.30	16.60
図Ⅲ-3-23	H39	9	ベルト覆土下位	両面調整石器	打製石斧風 頁岩	147	15.00	4.90	3.10	229.80
図Ⅲ-3-23	H39	10	覆土南側	スクレイパー	頁岩	344③	7.40	3.20	2.30	44.70
図Ⅲ-3-23	H39	11	覆土南側	スクレイパー	頁岩	344⑤	4.90	3.85	1.15	28.30
図Ⅲ-3-23	H39	12	覆土南側	スクレイパー	頁岩	344⑥	(4.40)	3.20	1.10	11.70
図Ⅲ-3-24	H39	13	覆土南側	スクレイパー	頁岩	344①	8.80	3.90	2.05	50.80
図Ⅲ-3-24	H39	14	覆土南側	スクレイパー	頁岩	344②	8.40	4.70	1.30	41.10
図Ⅲ-3-24	H39	15	覆土南側	スクレイパー	頁岩	344④	7.00	3.10	1.20	21.20
図Ⅲ-3-24	H39	16	覆土南側	石核	頁岩	351	9.80	15.80	15.30	3040.00
図Ⅲ-3-25	H39	17	覆土南北トレンチ北側	スクレイパー	頁岩	224	13.00	6.40	3.30	221.70
図Ⅲ-3-25	H39	18	覆土壁際ベルト	石鏃	扁平打製石器転用 安山岩	386	9.60	14.50	1.65	265.40
図Ⅲ-3-25	H39	19	覆土下位	扁平打製石器	安山岩	307	8.70	15.00	2.00	297.70
図Ⅲ-3-25	H39	20	覆土ベルト下位	扁平打製石器	粘板岩	255	5.85	12.20	1.00	84.30
図Ⅲ-3-25	H40	1	覆土南側	石製品	頁岩	28	3.40	8.05	0.65	10.30
図Ⅲ-3-26	H41	1	覆土西トレンチ	スクレイパー	頁岩	86①	12.20	3.80	1.90	78.60
図Ⅲ-3-26	H41	2	覆土西トレンチ	スクレイパー	頁岩	86②	8.40	3.60	1.05	22.50
図Ⅲ-3-26	H41	3	覆土南側	Rフレイク	つまみ付きナイフを作ったものが 黒曜石	61	3.60	1.90	0.80	3.50
図Ⅲ-3-26	H41	4	覆土ベルト	石核	頁岩	41①	5.95	7.60	3.60	98.90
図Ⅲ-3-26	H41	5	覆土ベルト	石核	頁岩	41②	7.28	6.57	2.41	75.30
図Ⅲ-3-26	H41	6	床面	両面調整石器	頁岩	1	(11.80)	7.30	4.70	295.50
図Ⅲ-3-26	H41	7	床面	石皿	安山岩	5	16.20	10.20	8.00	2010.00
図Ⅲ-3-27	H43	1	床面	ドリル+つまみ付きナイフ	頁岩	2	9.40	2.20	0.90	18.10
図Ⅲ-3-27	H43	2	床面	スクレイパー	珪岩	20	9.40	3.80	1.85	55.90
図Ⅲ-3-27	H43	3	床面	石核	頁岩	14	4.20	9.70	6.55	186.30
図Ⅲ-3-27	H44	1	床面	石槍又はナイフ	頁岩	11	(12.60)	4.60	1.30	90.10
図Ⅲ-3-27	H44	2	床面	石核	頁岩	15②	4.60	8.80	3.50	133.20
図Ⅲ-3-27	H44	3	床面	扁平打製石器	砂岩	18	6.80	16.60	3.40	599.20
図Ⅲ-3-28	H45	1	HF-1覆土2層	石斧	緑色泥岩	20	(8.20)	(4.60)	(2.80)	(166.60)
図Ⅲ-3-28	H45	2	HF-1覆土2層	扁平打製石器	安山岩	21	7.85	10.00	2.80	287.40
図Ⅲ-3-28	H46	1	床面	石核	頁岩	12	10.30	9.70	6.50	794.00
図Ⅲ-3-28	H49	1	覆土1層	石製品	頁岩	6	4.10	5.85	0.92	14.50

4 表

図版番号	遺構番号	掲載 番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-28	H51	1	覆土東側	石槍又はナイフ	頁岩	61①	9.15	4.80	1.25	54.60
図Ⅲ-3-28	H51	2	覆土ベルト	石製品	線刻礫 凝灰岩クサレ	33④	5.50	6.40	1.05	17.30
図Ⅲ-3-28	H51	3	床面	たたき石	砂岩	9	7.10	5.00	3.60	183.90
図Ⅲ-3-28	H51	4	床面	たたき石	砂岩	11	9.80	8.50	6.70	608.40
図Ⅲ-3-29	H51	5	床面	扁平打製石器	砂岩	8	8.80	18.60	3.80	783.60
図Ⅲ-3-29	H51	6	床面	扁平打製石器	凝灰岩	4	7.50	18.00	2.70	494.70
図Ⅲ-3-29	H51	7	床面	石皿	安山岩	16	27.20	20.70	5.10	2020.00
図Ⅲ-3-29	H51	7	床面	石皿	安山岩	17	27.20	20.70	5.10	2020.00
図Ⅲ-3-29	H51	8	床面	台石片	砂岩	7	10.00	12.10	4.30	560.20
図Ⅲ-3-29	H52	1	床面	スクレイパー	頁岩	44	3.90	4.00	1.10	12.80
図Ⅲ-3-29	H52	2	床面	スクレイパー	頁岩	19	5.50	3.80	1.45	18.80
図Ⅲ-3-29	H52	3	床面	台石	砂岩	38	36.80	27.00	11.40	17500.00
図Ⅲ-3-30	H52	4	床面	たたき石	砂岩	28	10.75	8.90	6.20	749.40
図Ⅲ-3-30	H52	5	床面	扁平打製石器	閃緑岩	33	6.75	15.10	2.75	407.30
図Ⅲ-3-30	H52	6	床面	扁平打製石器	閃緑岩	37	6.90	16.10	2.90	365.80
図Ⅲ-3-30	H52	7	床面	扁平打製石器	閃緑岩	34	7.70	16.00	3.80	685.40
図Ⅲ-3-30	H52	8	床面	扁平打製石器	砂岩	26	7.20	14.50	3.30	454.40
図Ⅲ-3-30	H53	1	覆土1層	石鏃	頁岩	13	2.77	1.22	0.27	0.90
図Ⅲ-3-30	H53	2	覆土2層	石槍又はナイフ片	頁岩	27	(7.10)	(5.45)	(1.05)	(39.70)
図Ⅲ-3-31	H54	1	覆土2層	たたき石	凹み石 安山岩	54	11.95	5.85	4.15	377.30
図Ⅲ-3-31	H54	2	覆土2層	台石	安山岩	42	34.80	28.30	13.00	15000.00
図Ⅲ-3-31	H54	3	覆土2層	石皿	安山岩	21	32.50	22.00	8.10	7500.00
図Ⅲ-3-31	H54	4	床面	礫	石棒的 安山岩	1	35.60	11.40	9.40	5500.00
図Ⅲ-3-31	H54	5	HF-1覆土2層	石製品	異形石器 頁岩	14	(3.75)	(4.55)	1.05	13.70
図Ⅲ-3-32	H55	1	覆土1層	扁平打製石器	閃緑岩	9①	8.75	18.15	3.30	835.70
図Ⅲ-3-32	H55	2	覆土1層	扁平打製石器	閃緑岩	9②	8.25	13.95	2.62	462.80
図Ⅲ-3-32	H55	3	覆土1層	扁平打製石器	安山岩	12①	(10.50)	(16.35)	(4.85)	(1065.00)
図Ⅲ-3-32	H55	4	覆土1層	扁平打製石器	流紋岩	12③	5.25	11.30	3.00	233.60
図Ⅲ-3-32	H55	5	覆土1層	扁平打製石器	流紋岩	12②	7.80	12.40	1.85	228.90
図Ⅲ-3-32	H56	1	覆土西側	台石	安山岩	17	26.90	23.40	5.10	3730.00
図Ⅲ-3-32	H56	2	覆土西側	台石片	安山岩	19	(34.50)	(19.20)	(10.90)	5000.00
図Ⅲ-3-32	H56	3	床面	スクレイパー	頁岩	16	5.90	4.10	0.85	21.80
図Ⅲ-3-33	H57	1	床面	台石	安山岩	9	34.90	22.50	6.50	7880.00
図Ⅲ-3-33	H57	2	床面 HP11	石皿	安山岩	10	(22.90)	(15.60)	6.20	2563.00
図Ⅲ-3-33	H57	3	覆土-85P	石製品	球状耳飾 滑石	39	(4.92)	(4.00)	(0.47)	(12.20)
図Ⅲ-3-33	H58	1	覆土中位-84Q	石製品	北海道式石冠風 軽石	81	5.60	6.20	4.50	45.30
図Ⅲ-3-33	H58	2	覆土-83Q	つまみ付きナイフ	頁岩	130	4.00	7.32	0.78	20.40
図Ⅲ-3-33	H58	3	覆土-83Q	石斧	両端潰れる 緑色泥岩	133	9.45	4.55	2.95	248.50
図Ⅲ-3-33	H58	4	床面	北海道式石冠	安山岩	1	9.00	12.60	7.40	1062.10
図Ⅲ-3-33	H58	5	HP-1覆土4	北海道式石冠	閃緑岩	274	9.20	11.60	5.75	830.10
図Ⅲ-3-33	H58	6	床面	スクレイパー	頁岩	5②	4.60	3.30	2.00	21.00
図Ⅲ-3-33	H58	7	床面	スクレイパー	頁岩	5①	5.90	5.10	1.80	46.80
図Ⅲ-3-34	H60	1	周溝	石核	頁岩	18	9.80	9.10	6.30	505.20

図版番号	遺構番号	掲載 番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-34	H60	2	覆土	つまみ付きナイフ	黒曜石	30	(3.95)	(2.30)	0.80	(6.10)
図Ⅲ-3-34	H60	3	覆土	石槍又はナイフ	片岩	31	9.95	4.20	1.35	47.60
図Ⅲ-3-34	H60	4	中央砂部分	扁平打製石器片	流紋岩	59	(8.10)	(10.65)	(2.50)	(279.40)
図Ⅲ-3-34	H60	5	周溝	扁平打製石器	流紋岩	24	11.25	17.10	3.00	689.40
図Ⅲ-3-34	H60	6	周溝	たたき石	砂岩	14	20.70	6.30	4.00	559.10
図Ⅲ-3-34	H60	7	床面	台石	砂岩	4	30.90	28.10	10.50	13000.00
図Ⅲ-3-35	H62	1	覆土-南北トレンチ	石製品	異形石器 頁岩	60	4.30	5.35	1.10	14.90
図Ⅲ-3-35	H62	2	覆土	石槍又はナイフ	磨製 片岩	51	7.80	3.00	0.69	14.90
図Ⅲ-3-35	H62	3	床面	石核	頁岩	26	8.65	8.45	7.20	447.50
図Ⅲ-3-35	H62	4	覆土	つまみ付きナイフ	黒曜石	112	(5.15)	(2.55)	(1.20)	(10.60)
図Ⅲ-3-35	H62	5	HP-4覆土	扁平打製石器	安山岩	103	10.90	17.90	3.85	1015.00
図Ⅲ-3-35	H63	1	床面	石皿	安山岩	33	30.00	27.70	8.60	6500.00
図Ⅲ-3-36	H64	1	床面	スクレイパー	頁岩	43	10.20	4.80	1.10	55.70
図Ⅲ-3-36	H64	2	床面	スクレイパー	搔器 頁岩	1②	5.65	3.83	1.45	18.80
図Ⅲ-3-36	H64	3	床面	石核	頁岩	20	2.60	5.70	4.50	68.20
図Ⅲ-3-36	H64	4	HP-5覆土1層	北海道式石冠未成品	安山岩	75	10.40	15.10	6.90	1380.00
図Ⅲ-3-36	H65	1	床面	扁平打製石器	砂岩	10	8.70	16.90	2.80	496.80
図Ⅲ-3-36	H66	1	床面	スクレイパー	頁岩	8	10.65	5.10	1.80	116.90
図Ⅲ-3-36	H66	2	床面	スクレイパー	頁岩	15	10.85	5.30	2.75	142.10
図Ⅲ-3-37	H66	3	床面	スクレイパー	頁岩	39	7.50	5.50	2.00	64.50
図Ⅲ-3-37	H66	4	床面	台石	安山岩	45	53.80	27.80	11.60	26500.00
図Ⅲ-3-37	H66	5	床面	台石	砂岩	46	42.30	30.60	12.70	23000.00
図Ⅲ-3-37	H67	1	床面	石槍又はナイフ	頁岩	23	7.45	3.00	1.30	24.10
図Ⅲ-3-37	H67	2	床面	スクレイパー	頁岩	32	5.40	3.70	2.00	32.00
図Ⅲ-3-37	H67	3	床面	スクレイパー	頁岩	57	4.30	5.20	1.70	38.40
図Ⅲ-3-37	H67	4	床面	つまみ付きナイフ	頁岩	25	7.60	3.95	1.75	37.90
図Ⅲ-3-37	H67	5	床面	石斧片	緑色泥岩	75	(7.10)	(4.00)	(3.00)	(113.80)
図Ⅲ-3-38	H67	6	床面	砥石	安山岩	62	39.90	31.10	8.40	12500.00
図Ⅲ-3-38	H67	7	床面	台石	砂岩	64	40.70	30.30	8.90	16500.00
図Ⅲ-3-38	H67	8	床面	台石	砂岩	58	38.00	24.50	13.00	17000.00
図Ⅲ-3-38	H67	9	HF-1覆土1	石製品	線刻礫 凝灰岩	68	11.10	5.70	1.00	87.20
図Ⅲ-3-38	H67	10	床面	扁平打製石器	安山岩	18	6.60	(9.80)	3.00	(248.30)
図Ⅲ-3-38	H67	11	床面	扁平打製石器	砂岩	28	10.10	16.80	3.25	656.10
図Ⅲ-3-39	P43	1	覆土2層	石鏃	頁岩	15	(2.95)	1.33	0.30	(0.90)
図Ⅲ-3-39	P43	2	覆土2層	石鏃	頁岩	25	2.90	(0.95)	0.34	(0.90)
図Ⅲ-3-39	P43	3	覆土2層	石鏃	頁岩	28	2.72	1.11	0.28	0.60
図Ⅲ-3-39	P43	4	覆土2層	石鏃	頁岩	23	3.35	1.18	0.32	1.20
図Ⅲ-3-39	P43	5	覆土2層	石鏃	頁岩	27	2.60	1.23	0.23	0.60
図Ⅲ-3-39	P43	6	覆土2層	石鏃	頁岩	26	2.91	1.19	0.23	0.70
図Ⅲ-3-39	P43	7	覆土2層	石鏃	頁岩	17	2.98	1.30	0.28	0.90
図Ⅲ-3-39	P43	8	覆土2層	石鏃	頁岩	18	3.20	1.62	0.31	1.10
図Ⅲ-3-39	P43	9	覆土2層	石鏃	頁岩	21	(3.14)	1.40	0.46	(1.70)
図Ⅲ-3-39	P43	10	覆土2層	石鏃	頁岩	22	3.42	1.52	0.35	1.50

4 表

図版番号	遺構番号	掲載 番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-39	P43	11	覆土2層	石鏃	頁岩	13	3.53	(1.40)	0.31	(1.10)
図Ⅲ-3-39	P43	12	覆土2層	石鏃	頁岩	19	3.90	1.53	0.33	1.50
図Ⅲ-3-39	P43	13	覆土2層	石鏃	頁岩	24	6.38	1.66	0.42	3.50
図Ⅲ-3-39	P43	14	覆土2層	石鏃	頁岩	14	5.10	1.62	0.33	2.20
図Ⅲ-3-39	P43	15	覆土2層	石鏃	頁岩	16	4.85	2.75	0.50	2.70
図Ⅲ-3-39	P43	16	覆土2層	石鏃	頁岩	20	(4.26)	1.40	0.40	(1.70)
図Ⅲ-3-39	P43	17	覆土2層	石鏃	頁岩	12	4.43	(1.34)	0.35	(1.50)
図Ⅲ-3-39	P51	1	覆土	ドリル	頁岩	5	6.70	1.60	0.85	8.20
図Ⅲ-3-39	P51	2	覆土	石斧	緑色泥岩	7	(8.05)	4.00	1.45	(91.20)
図Ⅲ-3-39	P51	3	覆土	石製品	異形石器 頁岩	6	5.00	5.10	1.05	20.10
図Ⅲ-3-39	P55	1	底面	石斧	緑色泥岩	1	11.80	4.80	3.10	232.00
図Ⅲ-3-39	P55	2	底面	石槍又はナイフ	頁岩	4	10.35	2.90	0.75	15.70
図Ⅲ-3-39	P55	3	底面	つまみ付きナイフ	頁岩	2	(8.65)	4.30	0.85	(27.40)
図Ⅲ-3-39	P55	4	底面	つまみ付きナイフ	頁岩	3	10.10	5.20	1.10	42.70
図Ⅲ-3-40	P56	1	覆土	石槍又はナイフ	頁岩	34	6.34	4.80	1.13	19.00
図Ⅲ-3-40	P56	2	覆土	石斧未成品	片岩	28	10.10	3.30	1.40	42.70
図Ⅲ-3-40	P56	3	覆土	石斧	緑色泥岩	30	(7.70)	4.30	2.70	(154.40)
図Ⅲ-3-40	P56	4	覆土	石斧未成品	緑色泥岩	29	(14.90)	(6.70)	(4.30)	(552.90)
図Ⅲ-3-40	P56	5	覆土	石製品	頁岩	42	11.95	4.00	3.15	201.10
図Ⅲ-3-40	P56	6	覆土	扁平打製石器	砂岩	38	7.90	17.90	2.20	436.90
図Ⅲ-3-40	P56	7	覆土	扁平打製石器	砂岩	39	7.90	15.40	2.40	168.20
図Ⅲ-3-41	P56	8	覆土	扁平打製石器	砂岩	20①	9.40	17.90	3.50	679.40
図Ⅲ-3-41	P56	9	覆土	扁平打製石器	砂岩	20②	9.70	16.40	3.10	694.80
図Ⅲ-3-41	P56	10	覆土	扁平打製石器	砂岩	20③	6.90	15.40	2.30	404.60
図Ⅲ-3-41	P56	11	覆土	扁平打製石器未成品	流紋岩	21	(8.60)	(12.70)	2.10	(272.60)
図Ⅲ-3-41	P56	12	覆土	たたき石	砂岩	41	11.30	(8.30)	5.40	(618.10)
図Ⅲ-3-41	P56	13	覆土	砥石	凝灰岩	40	(13.10)	(7.90)	(2.00)	(195.80)
図Ⅲ-3-41	P56	14	覆土	砥石	砂岩	19	(14.50)	(7.20)	(7.20)	(540.80)
図Ⅲ-3-41	P56	15	底面	たたき石	珪岩	3	13.20	10.20	7.50	1190.00
図Ⅲ-3-41	P56	16	底面	扁平打製石器	流紋岩	8	13.70	7.20	1.90	249.30
図Ⅲ-3-42	P56	17	底面	スクレイパー	頁岩	4	5.90	5.20	0.98	34.40
図Ⅲ-3-42	P56	18	底面	コウ打痕のある礫	石製品か 安山岩	1	39.10	16.00	12.30	12500.00
図Ⅲ-3-42	P56	19	底面	コウ打痕のある礫	石製品か 砂岩	2	29.70	14.90	10.50	6500.00
図Ⅲ-3-43	F79	1	(H19内)H19覆土1層	台石片	北海道式石冠未成品か 安山岩	H19-300	12.50	19.70	9.70	2900.00
図Ⅲ-3-43	F79	2	(H19内)H19覆土3層	北海道式石冠	閃緑岩	H19-303	8.90	13.10	6.00	1080.00
図Ⅲ-3-43	F79	3	(H19内)H19覆土3層	たたき石	砂岩	H19-294	14.00	9.40	4.30	925.60
図Ⅲ-3-43	F82	1	沢1層(45S)	扁平打製石器	流紋岩	73	7.40	12.80	1.60	172.10
図Ⅲ-3-43	F82	2	沢1層(44S)	北海道式石冠	安山岩	94	7.00	11.90	4.50	439.00
図Ⅲ-3-43	F82	3	覆土1層	たたき石	凹み石 砂岩	24	7.80	6.05	4.05	232.00
図Ⅲ-3-43	S5	1	覆土1層	台石	砂岩	6	30.90	(18.50)	9.90	(7117.80)

公益財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第327集

北斗市

館野6遺跡(2) 補償道路地区

－高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書－

平成28年9月30日

編集・発行 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685番地1
TEL (011)386-3231(代表) FAX (011)386-3238

印刷 柏楊印刷株式会社
〒007-0802 札幌市東区東苗穂2条3丁目4番48号
TEL (011)789-2377 FAX (011)789-2376
E-mail : info@hakuyo-print.jp <http://hakuyo-print.jp/>
